

令和3年度
「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」

冬季ATツアー造成事業②

報告書

令和4年2月15日

目次

1. 事業概要	2
(1) 事業目的	3
(2) 事業の位置づけ	3
(3) 実施体制	4
(4) スケジュール	5
(5) 成果目標と成果指数	5
(6) 感染症対策	6
2. 業務内容	7
(1) 冬季ATツアー造成	8
① ワークショップの開催	8
② スルーガイド研修及び対応手順作成	56
③ AT資料の英語化	74
④ 海外AT旅行会社へのヒアリング	82
(2) モニターツアーによる検証	83
① 実施内容	83
② コンテンツの評価	90
③ スルーガイドの評価	98
④ ツアーの評価	102
(3) 販売体制の構築	107
① 当面の販売体制及び今後の目指すべき体制	107
3. 資料編	108
(1) MIC(Minimum Information to Customers)	109
(2) スルーガイド対応手順	159
4. 総括	206

1. 事業概要

(1) 事業の目的

北海道は欧米豪市場で人気の旅行形態であるアドベンチャートラベル（以降、「AT」という）の要素である「自然との関連性」「異文化交流」「身体的活動（アクティビティ）」を全て備えており、滞在期間が長く、地元への経済波及効果も高いAT旅行者を獲得するため、AT領域最大の協会であるアドベンチャートラベルトレードアソシエーション（以降、「ATTA」という）の世界的な商談会・イベントであるアドベンチャートラベルワールドサミット（以降、「ATWS」という）の2021年大会を招致した。

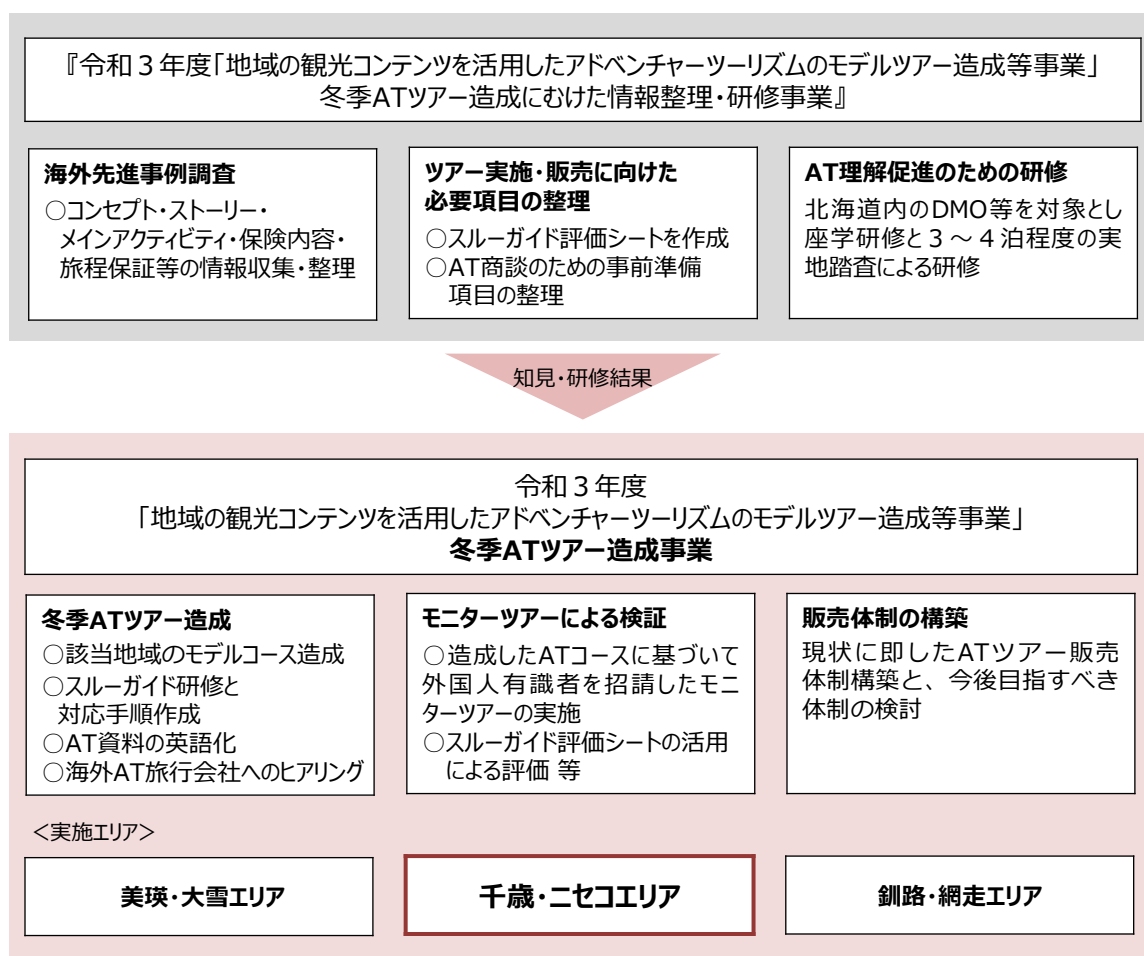
2021年大会は新型コロナウイルス感染症拡大による入出国制限等の影響によりオンラインでの開催となったが、本来であればサミット前に2～4日の行程で実施されるエクスカッションであるプレサミットアドベンチャー（以降、「PSA」という）、サミット初日に日帰りで実施されるデイオブアドベンチャー（以降、「DOA」という）が実施される予定であり、北海道においてはPSA、DOAに合わせたATツアーの造成及び磨き上げを実施してきた。そのためATツアーの開催可能時期が「グリーン期」に集中している状況にあり、冬季を含めた通年での安定したATツアーの提供が求められている。

そこで通年でのAT顧客の誘客をはかるために、北海道内の日本版DMO等と連携し、コンセプト・ストーリーを持った冬季のATツアーの造成を本事業にて実施する。

なお、本事業にて連携するDMOは（一社）千歳観光連盟、（一社）ニセコプロモーションボードとする。

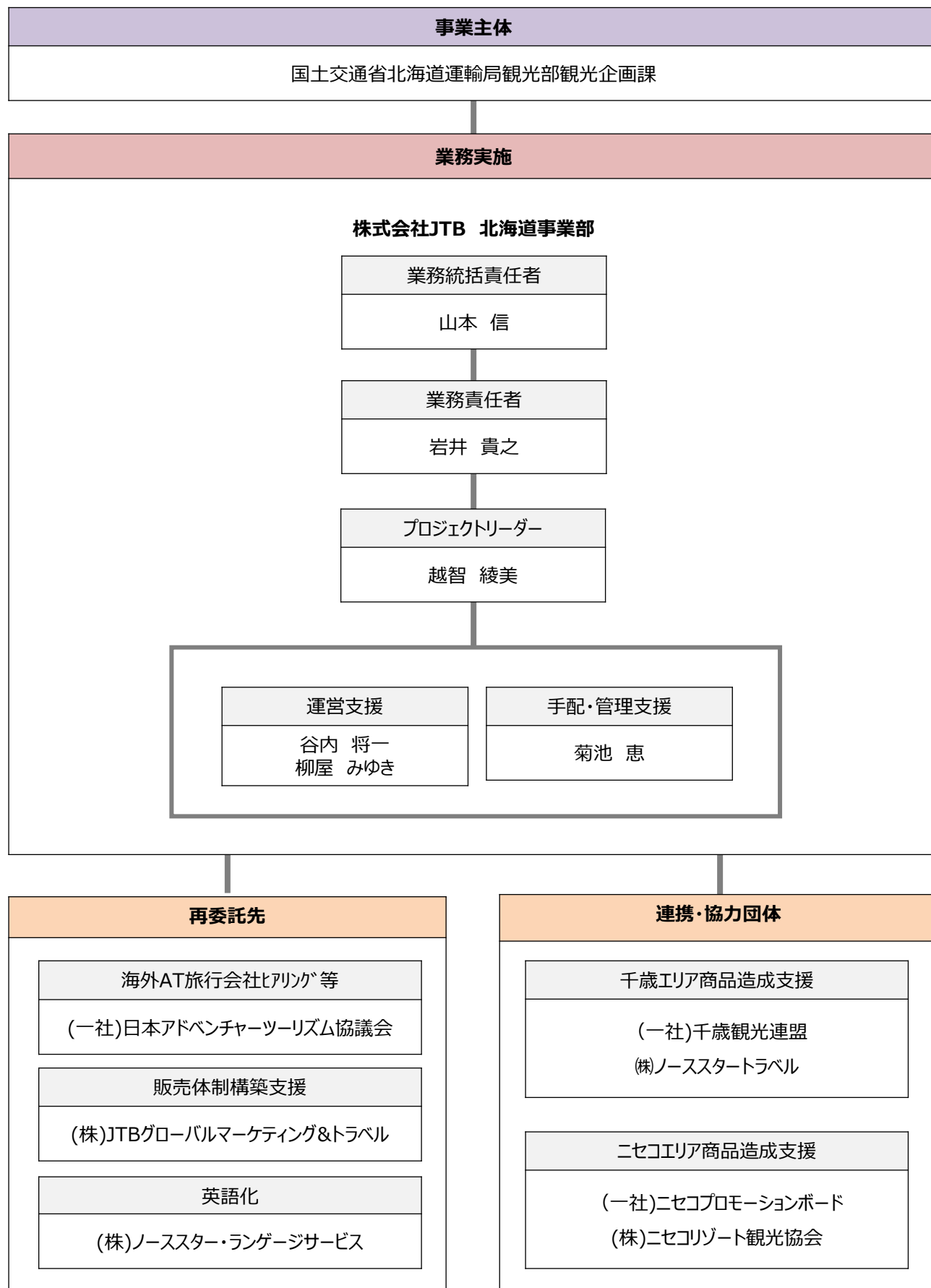
(2) 事業の位置づけ

本事業は、北海道内の日本版DMO等と連携し、コンセプト・ストーリーを持った冬季のATツアーを造成し販売を行うための情報整理・研修実施を目的として実施された『令和3年度「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」冬季ATツアー造成にむけた情報整理・研修事業』から導き出された知見や研修結果等を踏まえて実施した。



—— 本事業は、千歳・ニセコエリアをAT商品造成対象地域として実施した。——

(3) 実施体制



(4) スケジュール

※WS=ワークショップ

事業内容	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
(1) 冬季ツアー造成			●10/7 WSの開催 商品造成の検討 スルーガイド資料作成	●11/9 WSの開催 商品造成の決定／調整 スルーガイド研修 ●11/30 座学 ●12/15-17 実踏			●2/8 WSの開催 海外AT旅行会社 へのヒアリング
(2) モニターツアーによる 検証				被招請者人選・手配		モニターツアーの実施 (1/18~23)	
(3) 販売体制の構築				販売体制構築のため検討・協議		方向性の確認	
(4) 感染症対策							

(5) 成果目標と成果指数

1～3泊のATツアー造成数	2件以上	(株)ニセコリゾート観光協会：雪をストーリーの柱に据えた3泊4日のツアーを造成 (一社)千歳観光連盟：水をストーリーの柱に据えた3泊4日のツアー造成
4～6泊のATモデルコース造成数	1件以上	ニセコ及び千歳をストーリーで繋ぐ5泊6日のモデルコースを造成
販売体制の構築	2件以上	各連携先において販売体制を構築するとともに、海外エージェントとのコネクション 及び情報発信力に関して、日本国内有数の規模を誇るツアーオペレーターが継続的に支援を行うことを確認

(6) 感染症対策

感染症対策の基本は、接触感染・飛沫感染を抑えることであり、そのために3つの密（密閉、密集、密接）の回避、消毒、手洗い・マスク着用、体調管理を徹底することが重要である。本事業において関係者が遵守すべき感染防止の基本方針を以下に定めた。

感染症対策基本方針	
項目	内容
3 密の回避 ソーシャルディスタンス確保	感染防止には、「換気の悪い密閉空間」、「多数が集まる密集場所」、「間近で発声や会話をする密接場面」を避けることが重要であり、関係者にもこれらの状況の発生を回避することを基本とする。関係者同士は最低1メートル以上の距離を確保する。
会場入場時の検温及び 消毒液の利用	ワークショップ等、開催会場への入場口に検温器と手指消毒液を設置。参加者への検温、消毒の協力をお願いする。
会場の換気	施設内では、定期的に窓やドアを開放（30分間に1回以上、数分程度）する。また、換気設備等による換気を行うとともに、複数の窓やドア等がある場合は二方向開放するなどして、密閉空間を作らないよう徹底させるようにする。
マスク着用	すべての関係者がマスクを着用することを原則とする。
手指消毒	手指消毒を徹底する。入室時、歓談中等、いつでも手指消毒ができるように、また触れた箇所をふき取れるように、消毒液・消毒シートを設置する。
体調管理	発熱ないし普段より体温が高い、あるいは咳・咽頭痛等の症状がある場合、来場を自粛いただく。 受付時の検温で37.5度以上の場合は、参加をお断りする。
PCR検査 ※モニターツアー参加者	モニターツアー参加者全員（事務局・被招請者）はPCR検査を受けて陰性を確認した上で現地へ赴く。
特記事項	<感染リスク回避行動のお願い> 感染リスク回避行動への協力を随時アナウンスする。 ○手指消毒のご協力 ○参加時はマスクの着用 <感染拡大防止の対応> 北海道内において新型コロナウイルスの感染が拡大した場合は、実施企画のオンライン開催への変更や企画の延期・中止も想定する。

2. 業務内容

(1) 冬季ATツアー造成

①ワークショップの開催

第1回アドベンチャートラベル研修会及びワークショップ

実施概要

目 的	① A T の概要及びコーディネーターとスルーガイドの役割を理解する ② 冬季における千歳市・ニセコエリアの1泊～3泊の旅の骨子となるコンセプトをつくる
名 称	令和3年度 「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」 冬季ATツアー造成事業② 第1回アドベンチャートラベル研修会及びワークショップ
実施日	2021年10月7日（木）13：30～18：30
会 場	千歳商工会議所3階 簿記研修室（千歳市東雲町3-2-6）
感染症対策	本事業の感染症対策基本方針（P6 参照）に基づいた感染症対策を施して実施した。 □ 3密の回避ソーシャルディスタンス確保 関係者同士は最低1メートル以上の距離を確保する。 □ 会場入場時の検温及び消毒液の利用 会場への入場口に検温器と手指消毒液を設置。参加者に検温、消毒の協力をお願いする。 □ 会場の換気 定期的に窓やドアを開放（30分間に1回以上、数分程度）する。また、換気設備等による換気を行うとともに、複数の窓やドア等がある場合は二方向開放するなどして、密閉空間を作らないよう徹底させるようにする。 □ マスク着用 すべての関係者がマスクを着用することを原則とする □ 手指消毒 手指消毒を徹底する。入室時、歓談中等、いつでも手指消毒ができるように、また触れた箇所をふき取れるように、消毒液・消毒シートを設置する。 □ 体調管理 発熱ないし普段より体温が高い、あるいは咳・咽頭痛等の症状がある場合、来場を自粛いただく。また、受付時の検温で37.5度以上の場合は、参加をお断りする。 <感染リスク回避行動のお願い> 感染リスク回避行動への協力を随時アナウンスする。 ○手指消毒のご協力 ○参加時はマスクの着用

参加者 (敬称略・順不同)

氏 名	所 属	役 職
小野寺 美佳	(株)ニセコリゾート観光協会	旅行グループ マネージャー
川内 俊一郎	(株)ニセコリゾート観光協会	
大宮 裕輔	(一社) 千歳観光連盟	観光課長
小柳 桃	(一社) 千歳観光連盟	観光コンシェルジュ
及川 伸一	(株)ノーススタートラベル	部長
飛ヶ谷 園子	全国通訳案内士 (英語・ドイツ語)	
芹澤 健一	アルパインツアーサービス(株)	代表取締役社長
辻村 肇子※	(株)JTBグローバルマーケティング&トラベル	富裕層戦略プロデューサー
玉井 賢治※	(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会	事務局
加藤 菊緒※	(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会	事務局
高田 健右※	(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会	Global Marketing Director

※ = オンライン参加

●事務局

菊池 織絵	北海道運輸局 観光部観光企画課	観光企画係長
田中 大輔	北海道運輸局 観光部観光企画課	外客受入推進係長 (アドベンチャートラベル担当)
谷内 将一	株式会社JTB 北海道事業部	営業第四課 グループリーダー

<有識者の紹介> ※芹澤氏はP12で紹介

辻村 肇子 氏 プロフィール

大阪生まれ。青山学院大学卒。総合商社勤務を経て、英語通訳案内士資格を取得後、2007年JTB GMTに入社。サンライズ事業部でのマーケティング、開発、販売担当の後、WTTC Global Summit事務局勤務、FIT事業部欧米豪FIT営業課長を経て、2014年より2019年まで欧米富裕層専門部署であるBOUQUETTE JTB営業課課長。現在は富裕層戦略プロデューサーとして欧米豪富裕層向けBtoBセールス、自治体やDMO、JNTOと連携した地域プロモーション、セミナー、コンテンツ開発等を実施。



次 第

(1) 趣旨・AT概要の説明	13:30～13:55
(2) 講演	13:55～14:45
(3) ワークショップ①	14:55～16:35
(4) ワークショップ②	16:45～18:15
(5) 次回ワークショップの概要	18:15～18:30
(6) 今後の案内・事務連絡等	
(7) 閉会	

(1) 趣旨・AT概要の説明

趣旨

目的	通年でのAT顧客の誘客をはかるために、北海道内の日本版DMO等と連携し、コンセプト・ストーリーを持った冬季のAT ツアーの造成を実施する。
本日の目的	① A T の概要及びコーディネーターとスループガイドの役割を理解する ② 冬季における千歳エリア・ニセコエリアの1泊～3泊の旅の骨子となるコンセプトをつくる

AT概要

アドベンチャーツーリズムの基本的な考え方

●世界のアドベンチャーツーリズム市場規模

平均成長率は13.3%と推測されており、世界的にツーリズム産業の成長をけん引していくと考えられている。

●アドベンチャーツーリズムの定義

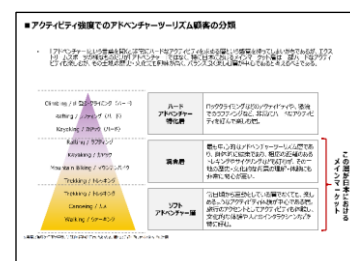
「自然とのふれあい」「フィジカルなアクティビティ」「文化交流」の3要素のうち、2つ以上が主目的である旅行とされる（ATTAの定義より）。また、アクティビティをすること自体が目的というよりも、アクティビティを通じて地域の文化に触れたり、地域の方と交流したり、自然と触れ合ったりするための手段としてのアクティビティという位置づけで考えている。その上で、地域の中小事業者と地域住民に、経済・社会的な観点でのサステナブルな効果を残せること、自然や文化の保護・活性化に貢献することが重要な旅行形態である。

●アドベンチャーツーリズム旅行商品の特徴

半日や1～2時間程度のものでなく、1～2週間程度地域に滞在して経済効果をもたらす旅行商品である。

●アクティビティ強度でのアドベンチャーツーリズム顧客の分類

アクティビティの強度は3つに分類される。まず「ハードアドベンチャー特化層」。ロッククライミングなどのアクティビティや、激流でのラフティングなど、非常にハードなアクティビティを好んで楽しむ層と定義する。二つ目は「混合層」。最も中心的なアドベンチャーツーリズム層であり、身体的に健康であり、相応の距離のあるトレッキングやサイクリングなども好むが、その土地の歴史・文化的な背景の理解・体験にも非常に関心が高いとされている。そして、「ソフトアドベンチャー層」。常日頃から運動をしている層でなくても、楽しめるようなアクティビティ体験が中心である層。旅行のアクセントとしてアクティビティも体験し、文化的な体験や人とのインタラクションなどを特に好む。



ハードアドベンチャー特化層は、個人旅行ですでに経験しているケースが多いので、ツアー旅行商品としてはなかなか体験しないところがある。今回はソフトアドベンチャー層や混合層を対象とした商品造成で、現地の海外旅行会社を通じてランドオペレーター、地域のDMOに手配が来るようなイメージで考えている。

●ATの定義から考える「旅の経験価値」

地域の「自然」「文化」「アクティビティ」を通じて、「いままでにないユニークな体験」「自己変革」「挑戦」「健康であること」「ローインパクト」といったことを旅行者に提供するものである。

●AT旅行者層がアドベンチャートラベルを行う動機

大部分を占めているのが、トランスフォーメーションである。地域の文化、自然など、今まで経験したことがない土地で経験することで自己変革につながる旅をしたいというニーズが非常に大きい。（ATTA調査より）



●ATの旅行商品の消費額

一般的な旅行に比べて、1.7～2.5倍程度大きいと言われている。地域への経済効果が高い旅行である。

●アドベンチャーツーリズムにて狙うべきターゲット

ATは主に北米、欧州で成長している。北米、欧州を見据えた商品造成を考えることが得策である。日本と海外における体験ツアーの価格比較をみると、総じて海外のほうが時間が長く、単価が高い傾向があり、地域への経済効果のある商品造成が可能になる。

高付加価値なAT商品におけるストーリー／コンセプトの考え方

●ストーリーとコンセプト

AT顧客が満足する体験を提供するためには、一貫した「ストーリー」、「コンセプト」が重要である。ストーリーとは、ある体験や物事がもつ歴史的背景や関係者の思いなども含んだ「物語」であり、ある体験をする上での、物事の「前後関係」や「流れ」を指すものである。コンセプトとは、あるツアーを構成するときに、任意の体験や物事に特化したり、するときに設定するもので、そのツアーを作った意図や目的と言える。

●ATツアーを企画する上で重要なポイント

なぜその地域で、このコースを組んだのかという理由を説明できることが重要。「なぜここに来てもらうのか?」「その意義と理由は何か?」「なぜ今提供しているアクティビティは特別な体験といえるのか?」など、旅行者が時間と費用をかけて、その地域ならではのものを体験に来る理由を語る必要がある。

【参考】ATにおける「ストーリー」と「コンセプト」(テーマ)の定義の違い

	「ストーリー」	「コンセプト」
定義	特定の体験や物事がもつ歴史的背景や関係者の思いなども含んだ「物語」であり、ある体験をする上での、物事の「前後関係」や「流れ」を指すものである。	ある体験や物事に特化したり、するときに設定するもので、そのツアーを作った意図や目的と言える。
構成要素	特定の体験や物事がもつ歴史的背景や関係者の思いなども含んだ「物語」であり、ある体験をする上での、物事の「前後関係」や「流れ」を指すものである。	ある体験や物事に特化したり、するときに設定するもので、そのツアーを作った意図や目的と言える。
役割	特定の体験や物事がもつ歴史的背景や関係者の思いなども含んだ「物語」であり、ある体験をする上での、物事の「前後関係」や「流れ」を指すものである。	ある体験や物事に特化したり、するときに設定するもので、そのツアーを作った意図や目的と言える。

※「ストーリー」と「コンセプト」は、必ずしも一致するものではない。また、同じ「ストーリー」でも、異なる「コンセプト」を設定することで、異なる体験を提供することができる。

●コンテンツ／ツアー造成時のストーリー構成例

顧客にとって体験価値の高い体験を「ピーク部（ハイライト）」として、最後の「エピソード」の手前に持ってきて体験価値を最高潮に上げて最後はリラックスして終わるといった顧客満足度の観点で重要。

コンテンツ／ツアー造成時のストーリー構成例

	オープニング・序章	展開部	ピーク部	エピソード・終章
目的	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。
構成要素	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。
役割	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。	特定の体験や物事を紹介し、その魅力を伝える。

ATが目指すサステナブルツーリズム

●ATが目指す「量」から「質」への転換

1万ドルを生み出すためにマストツーリズム（クルーズ等）では100人が必要だが、AT顧客は4人の来訪で達成できる。それだけ地域に与える経済的効果がある。またAT顧客は消費額の65%が目的地で消費されるが、マストツーリズムではわずか14%にとどまり雇用創出効果もAT顧客の方が高い。

●サステナビリティを重視したATTAの理念

ATTAでは、「効果的かつ持続的なマネジメントの実行」、「地域社会に対する社会的および経済的利益を最大化し、悪影響を最小化する」、「文化遺産への利益を最大化し、悪影響を最小化する」、「環境への利益を最大化し、悪影響を最小化する」の4点を理念としている。商品造成にもこの点を反映させて検討する。

●ATが目指す“四方よし”の姿

北海道運輸局が策定した北海道のAT推進マーケティング戦略で掲げている。「観光事業者」、「観光客」、「地域」に、「環境」を加え四方よしの旅行形態であることを示している。

＜参考資料＞

北海道のATをどのように推進していくか「北海道AT推進・マーケティング戦略」（北海道運輸局）を参照した。AT理念、ATビジョン、AT戦略を提示し、ターゲットは「精神的満足を求める地域探検家」「向上心溢れる何でも挑戦者」「自然文化探究者」の3つのクラスターに整理されている。

(2) 講演

「ATツアーにおけるコーディネーターとスルーガイドの役割とは」 講師：芹澤 健一 氏

芹澤 健一 氏 プロフィール

(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会理事／アルパインツアーサービス(株)代表取締役社長
2011年4代目社長に就任。環境保護への意識教育からガイドの教育体制、地域振興の観点から多くのトレッキング・ハイキングコースの総合的プロデュースを行う。特にNZのトレッキングコースに関しては第一人者として、『ニュージーランド・ハイキング案内』（1998年山と溪谷社刊）に執筆協力をした。また、カナディアン・ロッキー、アラスカ、ネパール・ヒマラヤなどでは自然環境に配慮したロッジのプロデュース全般に関わる。



ソフトアドベンチャーで未体験ゾーンの扉を開ける

ATの一番大きなマーケットは、ソフトアドベンチャー。
(ハードなものではなく) 体験型でエンジョイしようという商品が圧倒的に多い。広大な北海道ならではのアクティビティ、アイヌなどの歴史・文化、北海道の豊かな食、美しい景観や四季を体験するイメージ。世界的にみると四季に恵まれた日本へのあこがれは強く、再訪意欲を喚起する素材のひとつとなっている。北海道においてもそれは大きなアドバンテージと言える。

旅行者は、知らない世界を覗く。そこで新たな出会いがあって体験があって、学んだり知ったりする。知らない世界の扉の向こうで、学びや自己啓発や、旅行者が自分の旅のストーリー性を実感する。未体験ゾーンの扉を開けることがまさに“アドベンチャー”と言える。

ストーリーの考え方

阿寒のコンセプトマップを紹介する。『豊かな水の循環を体験する旅』という「水」をコンセプトの軸に設定している。そのコンセプトに、様々な地域の素材を紐づけて、ストーリー展開している。ストーリーにはこちらが提供するストーリーだけでなく、参加者がその旅を体験して感じるストーリーの両面ある。十人十色のストーリーがあっていいという解釈がいいと思う。

ATのフィールドで求められる4つの力

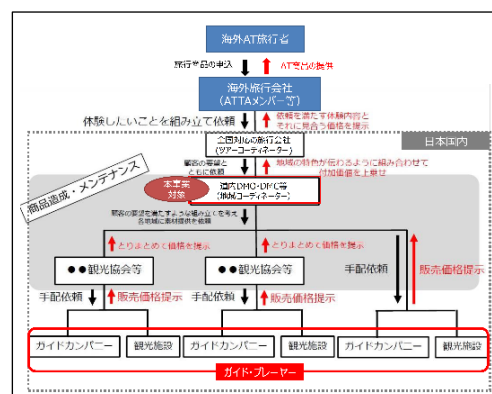
ATのフィールドで活躍する人たちには、1.ガイディング(案内力) 2.インタープリテーション(解説力) 3.トランスレーション(通訳力) 4.コーディネーション(管理・調整力) が求められる。なかでもコーディネーションについては、日程の管理やアクティビティ等すべての内容をコーディネートするスルーガイドの役割のほか、DMOや地域のツアーオペレーターとして全体を管理するなど、いろんな立場で活躍する人がいて、それぞれが少しずつ重なっているイメージがある。



多様なニーズに滞在の可能性を提供

ツアーの造成・販売・手配に関わる全体の相関図からみると、海外のAT旅行者は海外の旅行会社にAT商品の提供を求める。海外の旅行会社は日本の旅行会社にコンタクトする。地域のオペレーター等に直接コンタクトする場合もある。日本での滞在をどうするか、どこに行くか、何をするか、体験の組み立てを依頼するが、ここで地域の「推し」や魅力が凝縮された商品をいかにアピールできるかがポイントになる。地域をとりまとめるDMO、オペレーター、ガイド、各観光事業者は連携を図ること。ベーシックなプラン以外にセカンドプランも用意し多様化するニーズに的確に対応することも重要だ。

北海道は国内でも先行してAT事業に取り組んでいる。北海道のAT事業が日本のAT事業のモデルになるように存在感を発揮してほしい。



ATツアーの関係者の位置づけと役割

関係者をツアー全体で見ると、ツアー全体の行程管理をするコーディネーター、全行程を同行して管理する全行程スルーガイド、対象地域の管理を担うローカルスルーガイド、訪問地におけるガイド役のローカルガイド(スポットガイド)等に分類される。しかし、これは顧客の要望によって形や内容は変わってくる。パッケージで売るということではなく、顧客のオーダーに合わせて役割分担をすることになる。最初に現地(ローカル)にコンタクトが入りそれから全体のまとめ役を選定する逆のパターンもある。そういう意味で、地域のツアーオペレーターや国内をまとめる旅行会社の連携は欠かせない。(次ページにつづく)

(前ページ **ATツアーの関係者の位置づけと役割** のつづき)

ATはフィールドが中心。箱型リゾートへの送客とはちがう。観光だけでプログラムされた行程ではなく、天候やアクシデントの対処もある。ガイドだけでなく、地域のオペレーターは情報を共有しながら代替案も含めて対応することもある。

スポットガイドは、その日だけのガイド。プレゼンテーションとエンターテインメントを持ち合わせたガイドが必要なプログラムもある。スポットガイドが説明したものを、スルーガイドが通訳をして解説する。アクティビティよりも文化的要素（歴史だとか伝統）を解説するほうが難しいかもしれない。スルーガイドはなおかつ地域での行程全体を案内することになるので、管理調整能力が求められる。

今後マニュアルを作ることも必要になると思う。地域のDMOは、素材ができるとそれを外国語でどう案内するか、どのように解説するかが課題だ。

ガイドのパフォーマンスとは

ツアー後の感想の中で、体験や素材、景観も素晴らしかったけど、やっぱりガイドが良かったからという声をよく聞き、印象に残っている。そうすると、手配する側は、次も同じガイドに頼みたいと思い、経験を重ねることでスキルも上がり、新たな人材育成のきっかけにもなる。良いガイドを地域で育て、ツアーのオペレーションの中でスキルを高めることでクオリティも上がっていく。ATの場合は、顧客に発信力があるので評判が広がる。

通訳力は、要領よくわかりやすく、手短に、が大切。また、地域を知っている、こよなく愛している人こそATでは欠かせないスルーガイドであり、スポットガイドであるというのが理想。地域を知っている、こよなく愛している人こそ最高の案内人だと実感する。

外国のATガイドは、「この地が好きだから。ここが一番いい所だ」と言う。そういう人に案内してもらおうと気分も良くなる。顧客はどんどん質問してくる。彼らは誰が案内してくれるかに興味があって、その人物を通してその土地を理解する。その意味で、地域の素材を伝えたい、パッションのある人材を育てていけるかが大事なところである。

それからスタイリッシュであること。いい印象が一番大事。地域の伝統や文化を伝えるにしてもアクティビティにしても、スタイリッシュにカッコよくこなす。そういうトレーニングをする事業も必要ではないか。そのうえで北海道モデルを築き上げて、他地域との交流をすとか。あるいは雪のない他県との交流、デモプログラムなど。日本の中で人材やプログラムの質を高めていくには、交流してプログラムを磨き上げていくのがいいと思う。

地域の素材を活かすために必要なこと

地域には自然、文化、歴史、民族、伝統、芸術などの素材が多くある。そこにどのような物語が生まれるか、それをどのように構成するか、ハイライトは何か、配分をどうするか。そして現地を知り、現地をこよなく愛する水先案内人、スポットガイドとスルーガイドがどのような関わりをするか。また、体験するというのは、見る、学ぶ、触れる、食べる、泊まるすべてが体験で、それをどのように引き出せるか。

ツアー全体を見るプロデューサーが地域のDMOや地域のツアーオペレーターであり、それをコーディネートするのがスルーガイドである。

緊急時対応

フィールドに出るということで、特に冬季の造成ということになると、天候の急激な変化や飛行機の遅延等でスケジュールに影響を及ぼすなどのリスクがある。その意味で、緊急時対応というのがたくさんあると想定される。様々なアクシデントに備えて、地域のDMO、スルーガイド、スポットガイドに至るまで、連絡網を整備することや、病院のリスト等も共有することが必要になる。緊急時対応のトレーニングも必要だ。特に冬は足場が悪いので注意がいる。関係者が情報を共有する勉強会も必要だ。

また、外国人がどういう風に保険を担保しているのかを共有する必要がある。外国人は保険に未加入のケースが多い。外国ではウェイバー（権利放棄、責任を負わない書面）を書かされる。保険の担保をどうするかについては、今後の課題になると思う。

コーディネーターの役割

催行前は、コンセプトに沿ったツアー造成を行い、催行中は、ツアーがスムーズに運営できるようにスルーガイドとして行程の管理に携わる。

催行前の準備として、参加者の情報の把握のための事前ヒアリングも重要である。参加者はどのような年代層で、どのようなプロフィールのメンバーで、このツアーに何を求めているか、アレルギー等の情報はるか等、できるだけ細かくヒアリングしておく、ツアーがスムーズになる。そのうえでツアーに必要な装備等の確認、緊急時対応の情報の共有を徹底する。そしてファイナルドキュメント作って、準備が完了していることを現地の旅行会社を介して顧客に伝えるところまでの作業となる。

(以上)



(3) ワークショップ① テーマ：千歳市・ニセコエリアのポジショニングの検討

＜グループディスカッションの進め方＞

まず、「ニーズ、顧客の気持ちを考える」という視点で、「AT顧客の欲求・ニーズ、千歳・ニセコエリア来訪時の気持ちを考える」をファーストステップとした。次に「エリアが持つ、ATに資する魅力を考える」。3つ目が「競合地の魅力を考える」。最後に、それらを総括して「エリアのATにおけるポジショニングを考える」。ニセコ、千歳はどういうリソースで、どういうコンテンツを基軸に考えていくと、より欧米のAT顧客が納得できるかという視点でまとめることとした。

＜グループディスカッションの前提＞

ATツアーの造成は、ツアーコンセプトに従いながら、適切なコンテンツを組み合わせ、ストーリーを意識して組み合わせて行くものである。そのために、AT顧客のニーズに合致し、競合エリアには無い自エリアのコンテンツ・リソースを見だし（一人勝ち領域）、商品を作るうえでの土台となるポジショニングを考えていくこととした。

1. AT顧客の欲求・ニーズ、千歳・ニセコエリア来訪時の気持ちを考える

STEP 1

「旅行者は旅の中で何をしたいのか、顧客の視点に立って考える」

AT顧客のニーズ・欲求を書き出す（5分）／個人ワーク

AT顧客が持っている欲求や、旅の中で望む体験、求めている気持ちなどについてそれぞれに考えて書き出した。
（付箋：黄色）



STEP 2

「旅行者が千歳エリアやニセコエリアに来たら何に期待するか、顧客の視点に立って考える」

AT顧客が千歳市・ニセコに来たときの気持ち（5分）／個人ワーク

AT顧客が千歳市やニセコ（自分のエリア）に来訪したときの気持ちや期待として考えられるものを書き出した。
（付箋：赤色）



STEP 3

「旅行者の旅に対する欲求と、千歳、ニセコに来た時の期待で、類似するもの同士をグループ化する」

チーム内での共有とグループ化（10分）／グループワーク

STEP 1、STEP 2で各自が検討した内容を模造紙に貼付け、重複や類似したもののグループ化を行った。



●グループ化した内容

千歳エリア

雪を感じたい！	アクティビティ したい！	食べたい	現地の人と 交流したい	温泉に入りたい	知りたい 学びたい
雪の像？ みたいなのを 見てみたい	支笏湖で キャンプをしたい	地元産の食を 食べたい	地元の人と 話したい	温泉に 入りたい	地域の歴史を 知りたい
広大な 雪景色を 見てみたい	雪の アクティビティを してみたい	海鮮 食べたい	地元の人と 交流したい	温泉に 入りたい	歴史について 知りたい
冬の動物を 見たい	自分達で とったものを 食べたい	和食を 食べたい	現地の人の 暮らしを 見てみたい	リフレッシュ したい	日本語を 学びたい
雪を触って みたい	山に登りたい	和食を 作ってみたい	現地の人に 早く案内して もらいたい		伝統文化を 学びたい
冬は寒い	酪農体験 してみたい	おなかすいた	ドキドキしたい		着物を着て 歩きたい
雪がキレイ	サイクリングで 街を めぐりたい				
寒い					
これから 楽しくなりそう 景色・自然に 感動する とにかく 感動したい					

ニセコリア

食べたい

地元の
おいしい物が
食べたい

地元のお酒が
のみたい

食べ物が
合わなかったら
...

日本人が
どんなものを
食べているか
知りたい

ニセコならではの
美味しい
食事を
食べたい！

日本の食事
は合うだろうか
...

見たい

日本？
北海道？
どんなところ？
知りたい

景色を
楽しみたい

ニセコらしい
風景を
見たい！

北海道の
空気を
味わいたい

見たことのない
動物に
会えるだろうか

冬のニセコで
何ができるの
か知りたい

体験したい

非日常の
体験をしたい

自然の中で
リラックスしたい

山で遊びたい

ニセコでしか
体験できない
アクティビティを
行ってみたい

今まで体験
したことがない
事をやって
みたい
(知りたい)

温泉には
ちゃんと
入れるだろうか

スキー・雪を
楽しみに
している

体にあまり
負荷のかから
ない自然を満
喫したアクティ
ビティをしたい

リラックスしたい
(自然の中で)

知りたい
学びたい

地元の人の
生活が知りたい
(生産者等)

有名リゾート
なので
何があるか
(何が人気か)
楽しみ

その他

色々なものの
値段が高いと
聞いた(不安)

外国人ばかり
と聞いたが日
本人はいるの
か？接触する
機会はある？

寒くないだろ
うか...

宿は快適
だろうか...

混んでいるか
不安？

都会を離れて
仕事からも
離れて
解放されたい

2. エリアが持つ、ATに資する魅力を考える

STEP 1

「千歳エリア、ニセコエリアにある“知られざる魅力”を抽出する」

リソース・コンテンツを書き出す（5分）／個人ワーク

エリアが持つ隠れた魅力や多くの観光客がまだ気づいていない・訪れていないエリアの魅力あるリソースやコンテンツを書き出した。

STEP 2

「“知られざる魅力”を共有する」

リソース・コンテンツの共有（10分）／グループワーク

STEP1で各自が検討した内容を模造紙に貼付け、共有化を行った。



●共有した内容

千歳エリア

シマエナガ

千歳の卵

ジェラート

千歳の
野菜市場美笛
キャンプ場

冬のキャンプ

ゴルフ場の
冬の
アクティビティ

千歳の卵

千歳川
カヌー田んぼ
農家キウス
遺跡

氷濤まつり

七条大滝
氷濤バード
ウォッチング

ニセコエリア

蔵人衆

ニセコビール
(地ビール)POWER
(オーガニック
エナジーバー)

きれいな水

パウダー
スノー7泉質ある
温泉羊蹄山
ビュースポット
みらいの森
(星空が抜群)ICOR
(羊蹄山の
水を使った
化粧水)

ニセコ蒸留所

小湯沼
(秘湯)個性豊かな
ペンション
ロッジ相互扶助
まちづくり高気密
高断熱

SDGs

GSTC

個性豊かな
移住者
(住民)Green
Destination
TOP 100

3. 競合地の魅力を考える

STEP 1

「競合と想定する地域の魅力は何か考える」

競合地の魅力を書き出す（10分）／グループワーク

競合地が持っている強みや、AT顧客に訴求する具体的なリソースやコンテンツを想定して書き出した。



●抽出した内容は以下の通り。

千歳市エリア

イタリア
歴史

イタリア
美術・アート
ファッション

イタリア
ワイン
料理

バイカル湖
田沢湖

阿寒の
アクティビティ

アメリカ
大きい
国立公園

受入環境

道東の
大自然

ユングフラウ
マッターホルン
モンブラン

オーストラリア
動物とふれあ
える施設

オーストラリア
海

ニセコエリア

AT発地からの
距離
(北米・欧州)

空港からの
アクセス
(九州・福岡)

首都圏からの
アクセス
(長野)

自然の
スケール
(豪・米)

海
(豪・クイーン
ズランド)

温暖な気候
(豪州)

価格
(国内他エリア)

ナイトライフ

豊富な
ローカルフード
(九州)

国としての
ブランド

歴史
(長野・九州)

温泉に
入っている猿
(長野)

英語
(北米・豪州)

フレンドリーな
人柄
(豪州)

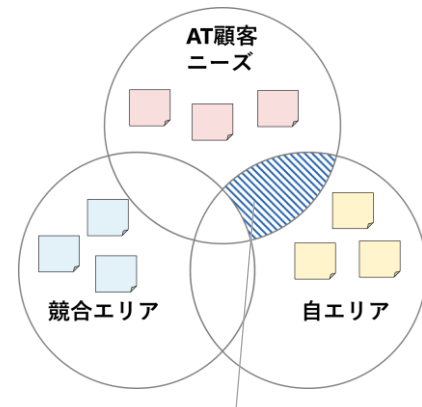
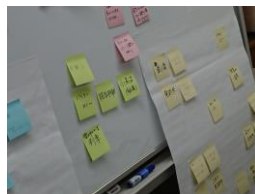
4. エリアのATにおけるポジショニングを考える

STEP 1

「エリア固有のポジショニングを考える」

ポジショニングを考える（15分）／グループワーク

1.2.3で整理した情報をもとに顧客ニーズを紐解き、競合エリアには同じものがない、自エリアの付箋の組み合わせを見つけ出し、中央のエリアに貼り出した。



顧客ニーズがあり、競合エリアはカバーできていない領域で、価値を提供できるリソースがある領域。この訴求点を見出して顧客に訴求していくことで、競争を避けながら来訪者を伸ばしていくことが可能となる。

STEP 2

「まとめた方向性を発表する」

グループ発表（5分）

ニセコエリア

専門家のアドバイスもあり「写真」という視点が、これまで着目していなかったポイントとして出てきた。「小湯沼」という秘湯がアンヌプリ（イワオヌプリ）にあり、ニセコのエリアで出されているフリーペーパーの表紙になったり、とてもフォトジェニックな場所である。それからニセコのシンボルでもある「羊蹄山」。冬季は雪に包まれ、富士山のように大変美しいスポット。これまで写真家も多く来ているが、羊蹄山の独特のフォルムは欧米には珍しくインパクトがあると思う。また「雪の中を走る列車」は、ローカル線の風情を感じることができ、撮影スポットもいくつかある。



千歳エリア

「支笏湖」の広大な景色と、そこから湧き出るきれいな「水」をからめてストーリーを作り、冬季のアクティビティや食と組み合わせられないかと考えている。「千歳川」もきれいで、ダウンリバーができたりとか、支笏湖ではレイククリーンダイビング、アイスウォーク、カヌーのほか、養殖されているヒメマス料理など多くのコンテンツを組み合わせることができる。また千歳市には野鳥観察ができるので「バードウォッチングカフェ」も活用できる



(4) ワークショップ② テーマ：モデルコースのコンセプトの検討

<グループディスカッションの進め方>

ここでは、ターゲットユーザーを理解し、ストーリー性を意識して旅のコンセプトを考えることとした。まず「ターゲットユーザーを考える」。より細かく想定される顧客のペルソナ像を考えることからスタートした。次に各地域の「強みや特徴を考える」内容を整理し、そのうえで、コピーライティング的な作業を踏まえた「旅のコンセプトを考える」こととした。

<モデルコース内容（前提）>

モデルコースは以下の内容を前提に検討した。

○エリア：千歳市／ニセコ ○日 数：1泊～3泊

○本数：千歳市×1／ニセコ×1 ○人数：10名程度のグループツアー

1. ターゲットユーザーを考える

STEP
1

「ターゲットとなるべき旅行者をイメージする」

ターゲットユーザーを考える（10分）／グループワーク

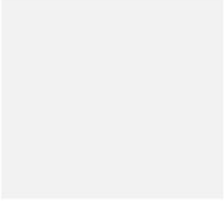
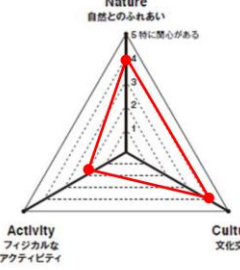
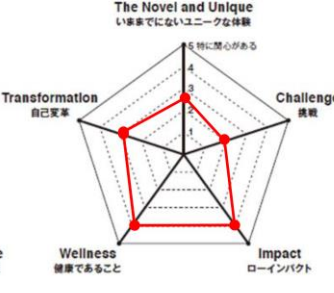
「ターゲットペルソナ」シートを使って、千歳エリア、ニセコエリアのATツアーに参加するターゲットユーザーを検討した。

千歳エリア

Target Persona		選んだターゲットクラスターの種類		チーム名
		精神的満足を求める地域探検家 その土地の自然・伝統・文化をバランス良く楽しむ		千歳
基本情報		ライフスタイル		
ペルソナイメージ		平日の過ごし方 普段接するメディア 趣味 休日の過ごし方 好きな映画		
名前		ATへの関心		
年齢		関心度合いーATの外的要素／内的要素 そもそもATに興味を持ったきっかけ・理由		
住んでいる国		45～55歳 Nature 自然とのふれあい 5 特に関心がある Activity フィジカルなアクティビティ 2 Culture 文化交流 4 The Novel and Unique いままでにないユニークな体験 5 特に関心がある Transformation 自己変革 4 Wellness 健康であること 5 Challenge 挑戦 2 Impact ローインパクト 3		
職業		訪問エリアに関心をもったきっかけ		
家族構成		このペルソナがどんなアクティビティに興味を持ちそうか、いつまでも思いつく限り書いてみて(大きい)		
小学生以上の子どもがいる夫婦(アクティビティに参加してもらうため)				
世帯年収				

選んだターゲットクラスターの種類	「精神的満足を求める地域探検家」 その土地の自然・伝統・文化をバランス良く楽しむ
年齢	45～55歳
住んでいる国	スペイン、イタリア、フランス（クラスター3の中でも食に興味がありそう）
家族構成	小学生以上の子どもがいる夫婦(アクティビティに参加してもらうため)
ATへの関心（外的要素）	Nature 4点／Activity 2点／Culture 4点
ATへの関心（内的要素）	いままでにないユニークな体験 3点／自己変革 4点／健康であること 5点／ローインパクト 3点／挑戦 2点

ニセコエリア

Target Persona		選んだターゲットクラスターの種類 【 精神的満足を求める地域探検家 】	チーム名【 ニセコ 】
基本情報 パルソナイメージ 		ライフスタイル 平日の過ごし方 仕事・育児・家事 朝はジム、たまにパブでビール 普段接するメディア BBC、ナショナルジオグラフィック 休日の過ごし方 掃除しながらクリケット観戦 好きな映画 	
ATへの関心 関心度合いーATの外的要素／内的要素  Nature 自然とのふれあい 5 特に関心がある Activity フィジカルなアクティビティ 2 Culture 文化交流 4  The Novel and Unique いままでにないユニークな体験 2.5 特に関心がある Transformation 自己変革 3 Wellness 健康であること 4 Impact ローインパクト 4 Challenge 挑戦 2		そもそもATに関心を持ったきっかけ・理由 ・ ・ ・ ・ ・ 訪問エリアに関心をもったきっかけ ・ ・ ・ ・ ・	
名前 年齢 45 歳 住んでいる国 イギリス（北米） 職業 歯科医 家族構成 妻+子3人 世帯年収		このパルソナがどんなアクティビティに興味を持そうか、いくつでも思いつく限り書いてください	

選んだターゲットクラスターの種類	「精神的満足を求める地域探検家」 その土地の自然・伝統・文化をバランス良く楽しむ
年齢	45歳
住んでいる国	イギリス（北米）
職業	歯科医
家族構成	妻+子3人
平日の過ごし方	仕事・育児・家事 朝はジム、たまにパブでビール
普段接するメディア	BBC、ナショナルジオグラフィック
休日の過ごし方	掃除しながらクリケット観戦
ATへの関心（外的要素）	Nature 4点／Activity 2点／Culture 4点
ATへの関心（内的要素）	いままでにないユニークな体験 2.5点／自己変革 3点／健康であること 4点／ローインパクト 4点／挑戦 2点

STEP
2

「ターゲットユーザーが、旅で何を期待し、何を叶えたいか考える」

ターゲットユーザーを考える（5分）／グループワーク

STEP 1で設定したターゲットユーザーがATツアーで「期待しているであろうこと・叶えたいであろうこと」を書き出した。



● 検討した内容は以下の通り。

千歳エリア

文化、和食を
学びたい

皆が知らない
ところに行きたい

静かなところで
ゆっくりしたい

きれいな
雪景色が
みたい

客室露天なら
入りたい

プライベートで
温泉に入りたい

ニセコエリア

記念のものを作りたい
（陶芸 等）

せっかく日本に来たから
日本っぽい文化体験
できないか

ゆっくりと
空を見上げたい

せっかく北海道に来た
から雪に触れ合いしたい

子どもが地域と
触れ合うことで
広げてほしい

ローカルの
食・お酒を
楽しみたい

家族サービスしたい

子ども、妻と
ゆったりした休日を
ビールとウイスキーととも
に・・・

子どもを預けて
夫婦でディナー

家族で
アクティビティを
楽しみたい

記憶に残る体験を
家族でしたい

家族で楽しみたい
思い出をつくりたい

日本やその土地の
食が食べたい

夫婦の時間も
大切にしたい

美味しい和食も
食べたい
たまにはフィッシュ＆
チップスも

自然にいやされたい

2. 千歳市、ニセコの強みや特徴を考える

STEP 1

「地域のストロングポイントを考える」

千歳エリア、ニセコエリアの強みや特徴を考える（10分）／個人ワーク

1－②で書き出したターゲットの「気持ち」に沿って、ターゲットが興味ありそうなもの・こと・場所、独自性のあるモノ・コト・場所などから千歳市、ニセコ独自の特徴や強みを考えた。（付箋：黄色）

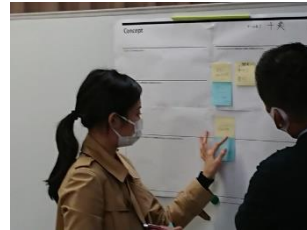


STEP 2

「ストロングポイントの何が面白い、興味深いかを掘り下げる」

面白いと思った理由を考える（10分）／個人ワーク

2－①で考えたものをコンセプトシートの所定の位置に貼付し、特筆すべきものに印をつけ、なぜそれが面白そうで興味深いのかの理由を記入した。（付箋：青）



● 整理した内容

千歳市エリア

静寂な支笏湖の
自然と水

雪まつりではなく
あえて静かな雪を見る

(支笏湖ブルー)
氷濤まつり

カルデラ

スノーシュー等
冬のアクティビティ

ゼロカーボン

「水」
工場見学

チップを使った
料理体験

支笏湖の水で
育ったからおいしい

カヌー
支笏湖

千歳川
ダウンリバーカヌー

水のストーリーに
つながる
変化のある風景

地元の飲食店

地元の食材
(野菜)
+
千歳川へのつながり

ニセコエリア

スノーラフト

スノーモービル

アドベンチャー
パーク

スノーシュー

清流下り
(ラフティング)

ニセコ蒸留所

見せる蒸留所
スチールポットと一体と
なった空間
燕三条カトラリー 等

バラエティ豊かな食
(地産地消、ピザ、ジ
ンギスカン、海鮮、カ
フェ飯、フレンチ、ハン
バーガー 等)

空手

雪が降る中で入る
露天風呂

日本のイメージに合致

恵まれた自然・水を
活かして美味

神楽

託児サービスのある
スキーリゾート

雪
↑
山

ガラス細工
刀を振る体験

3. 旅のコンセプトを考える

STEP 1

「訴求ポイントを抽出し、旅のコンセプトを考える」

旅のコンセプトを考える（10分）／個人ワーク

1、2で整理した情報をコンセプトシートに集約し、共通点や面白いポイントから訴求ポイントを抽出し、旅のコンセプト考えた。



STEP 2

「旅のコンセプトをグループで議論し、発表する」

旅のコンセプトを考える（10分）／グループワーク

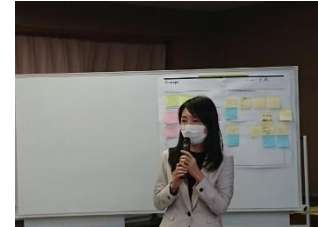
STEP 1の内容をグループで議論した。
その後まとめられたコンセプトについて、それぞれのチームから発表を行った。



●コンセプトの内容

千歳市エリア

「水」をコンセプトの軸に据えた。歴史的に地域を支えてきた資源である「支笏湖」、「千歳川」を軸にストーリー展開する方向でまとめた。



水で知る
千歳の暮らし

世界ふしぎ発見！
千歳・支笏湖の
水のミステリー

川が支える
千歳の暮らし

(ポイント)
神秘性、カルデラ
日本で二番目に深い湖

Concept

チーム名【 千歳市 】

◆コンセプト（コンセプトを記入してください）

水で知る
千歳の暮らし

世界ふしぎ発見！
千歳・支笏湖の
水のミステリー

川が支える
千歳の暮らし

(ポイント)
神秘性、カルデラ
日本で二番目に
深い湖

◆コンセプトの元になったターゲットの重要な気持ち（付箋を貼り付けてください）

文化、和食を
学びたい

皆が知らない
ところに行きたい

静かなところで
ゆっくりしたい

きれいな
雪景色が
みたい

客室露天なら
入りたい

プライベートで
温泉に入りたい

◆コンセプトの元になった自エリアの特徴・強み/その理由（付箋を貼り付けてください）

静寂な支笏湖の
自然と水

(支笏湖ブルー)
氷溜まつり

カルデラ

スノーシュー等
冬のアクティビティ

雪まつりではなく
あえて静かな雪を
見る

ゼロカーボン

「水」
工場見学

カヌー
支笏湖

千歳川
ダウンリバーカヌー

地元の飲食店

水のストーリーに
つながる
変化のある風景

地元の食材
(野菜)
+
千歳川への
つながり

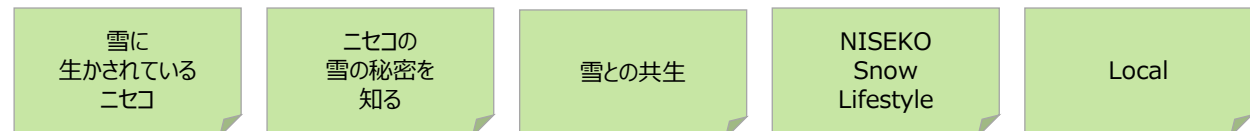
チップを使った
料理体験

支笏湖の水で
育ったからおいしい

コンセプトから考えたアクティビティと旅のハイライト（付箋を貼り付けてください。ハイライトに○をつけてください。）

ニセコエリア

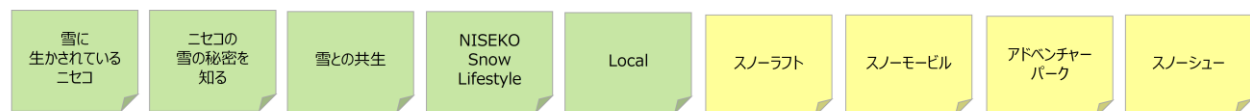
「雪」をメインのコンテンツとして展開することとした。ニセコの雪がどこから来て、どのような形で生活に影響を及ぼしているのか、世界的リゾート地ニセコという視点ではなく、雪とともに暮らすローカルな生活スタイルをアピールの軸にした。
NISEKO Snow Lifestyle というところからテーマを絞りながら、中身を精査している。



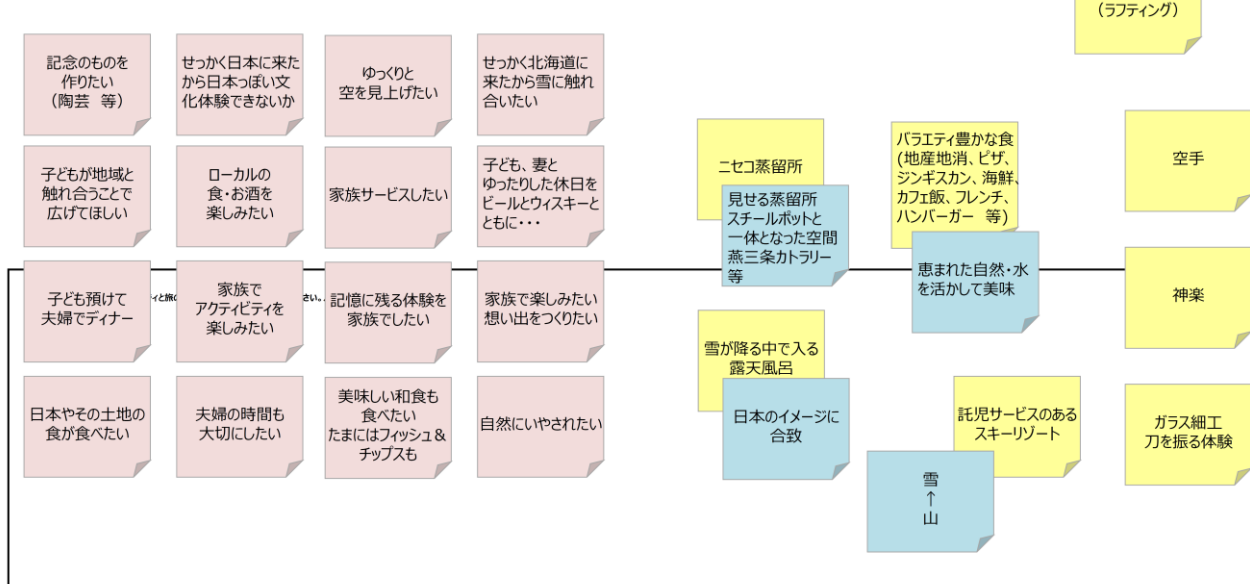
Concept

チーム名【 ニセコ 】

◆コンセプト（コンセプトを記入してください）



◆コンセプトの元になったターゲットの重要な気持ち（付箋を貼り付けてください）



(5) 次回ワークショップの概要

1	今回まとめたコンセプトに沿って、アクティビティを考えツアーの概要をまとめていく。
2	旅をどのような順番で、どこで何をするのかを検討しアクティビティを決めていく。
3	ATツアーの展開（プロローグ～中盤～エピローグ）のそれぞれの場面で、どのようなアクティビティが考えられるか具体的に検討する。
4	現実的なオペレーションを想像できるか、環境に配慮されているか、地域経済への貢献はどうか、アクティビティの強度のバランスはどうかなども合わせて検討する。
5	ATツアーでは、地域を楽しむ目的を達成するための手段としてアクティビティが存在する。何のためにアクティビティをするのか、その「意図」を考えてから具体的な内容に落とし込んでいく。
6	最終的なアウトプットは、「Travel Plan」として1枚のシートにまとめる。

①ワークショップの開催

第2回アドベンチャートラベル研修会及びワークショップ

実施概要

目 的	①旅の展開に沿ったアクティビティを選び、ツアーをつくる ②ATツアーに必要な資料を理解する
名 称	令和3年度 「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」 冬季ATツアー造成事業② 第2回アドベンチャートラベル研修会及びワークショップ
実施日	2021年11月9日（火）9：30～15：00
会 場	ニセコ中央倉庫 1号倉庫 （虻田郡ニセコ町中央通60-2）
感染症対策	本事業の感染症対策基本方針（P6 参照）に基づいた感染症対策を施して実施した。 □ 3密の回避ソーシャルディスタンス確保 関係者同士は最低1メートル以上の距離を確保する。 □ 会場入場時の検温及び消毒液の利用 会場への入場口に検温器と手指消毒液を設置。参加者に検温、消毒の協力をお願いする。 □ 会場の換気 定期的に窓やドアを開放（30分間に1回以上、数分程度）する。また、換気設備等による換気を行うとともに、複数の窓やドア等がある場合は二方向開放するなどして、密閉空間を作らないよう徹底させるようにする。 □ マスク着用 すべての関係者がマスクを着用することを原則とする □ 手指消毒 手指消毒を徹底する。入室時、歓談中等、いつでも手指消毒ができるように、また触れた箇所をふき取れるように、消毒液・消毒シートを設置する。 □ 体調管理 発熱ないし普段より体温が高い、あるいは咳・咽頭痛等の症状がある場合、来場を自粛いただく。また、受付時の検温で37.5度以上の場合は、参加をお断りする。 <感染リスク回避行動のお願い> 感染リスク回避行動への協力を随時アナウンスする。 ○手指消毒のご協力 ○参加時はマスクの着用

参加者 (敬称略・順不同)

氏 名	所 属	役 職
下田 伸一	(株)ニセコリゾート観光協会	代表取締役
小野寺 美佳	(株)ニセコリゾート観光協会	旅行グループ マネージャー
川内 俊一郎	(株)ニセコリゾート観光協会	
大宮 裕輔	(一社) 千歳観光連盟	観光課長
小柳 桃	(一社) 千歳観光連盟	観光コンシェルジュ
飛ヶ谷 園子	全国通訳案内士 (英語・ドイツ語)	
辻村 肇子※	(株)JTBグローバルマーケティング&トラベル	富裕層戦略プロデューサー
玉井 賢治※	(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会	事務局
加藤 菊緒※	(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会	事務局
高田 健右	(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会	Global Marketing Director

●事務局

菊池 織絵	北海道運輸局 観光部観光企画課	観光企画係長
田中 大輔	北海道運輸局 観光部観光企画課	外客受入推進係長 (アドベンチャートラベル担当)
門間 俊也※	北海道運輸局 観光部国際観光課	課長補佐
藤野 夕貴※	北海道運輸局 観光部国際観光課	調査係
谷内 将一	株式会社JTB 北海道事業部	営業第四課 グループリーダー
越智 綾美	株式会社JTB 北海道事業部	営業第四課

※ = オンライン参加

次 第

(1) 開会・前回の振り返り	9:30～ 9:50
(2) ワークショップ① テーマ：旅の展開に沿ったアクティビティの検討とツアーの組み立て	9:50～12:10
休憩	12:10～13:10
(3) ワークショップ② テーマ：千歳・ニセコ2エリアでのツアーの組み立て	13:10～14:20
(4) ATツアーに必要な資料に関して	14:20～14:45
(5) Q&Aセッション・まとめ	14:20～15:00
(6) 今後の案内・事務連絡等	
(7) 閉会	

(1) 開会・前回の振り返り

前回の振り返り

前回は、ATの概要と、コーディネーターやスルーガイドの役割を確認したうえで、地域内における冬季1～3泊の旅の骨子となるコンセプトを考えた。その際まとめたポジショニング、ターゲットイメージ、コンセプトの資料を本で行われるワークの指針として活用することとした。

有識者の紹介

有識者として高田 健右氏と、辻村 肇子氏（オンライン）を紹介した。プロフィールは以下の通り。

高田 健右 氏 プロフィール

<一般社団法人日本アドベンチャーツーリズム協議会 Global Marketing Director/ATTA Ambassador>

北海道阿寒湖温泉出身。15歳の時にオーストラリア・メルボルンに留学、約7年間同国で過ごす。2010年にHolmesglen Technical and Further Education Chadstone校にて国際ビジネス学位を取得し帰国。翻訳業務や通訳業務及び職場での外国人客対応や、大小の会合、会議での英語を用いた司会プレゼンテーションなどを行う。2020年5月からATTAのAmbassadorに就任。



辻村 肇子 氏 プロフィール

大阪生まれ。青山学院大学卒。総合商社勤務を経て、英語通訳案内士資格を取得後、2007年JTB GMTに入社。サンライズ事業部でのマーケティング、開発、販売担当の後、WTTC Global Summit事務局勤務、FIT事業部欧米豪FIT営業課長を経て、2014年より2019年まで欧米富裕層専門部署であるBOUTIQUE JTB営業課課長。現在は富裕層戦略プロデューサーとして欧米豪富裕層向けBtoBセールス、自治体やDMO、JNTOと連携した地域プロモーション、セミナー、コンテンツ開発等を実施。



高田氏から前回作られたコンセプトについてコメントがあった。

—— 両地域とも「水」が大きなテーマになっている。世界で水道水が飲める国は15か国に過ぎない状況の中、日本は清流も多く、インフラの整備や水を守る取組も万全で、安心して自然を楽しむアクティビティに繋げることができる。「水」を軸にしたアクティビティには大きなアドバンテージがあるが、一方、どの地域でも取り組むことができる。その意味で、付加価値をどのようにつけていくかが重要であり、今回のワークショップで皆さんと議論をしていきたいポイントである。



(2) ワークショップ① テーマ：旅の展開に沿ったアクティビティの検討とツアーの組み立て

<本日の目的>

①旅の展開に沿ったアクティビティを選び、ツアーをつくる

旅の展開は大きく6つ（1. 誘われる 2. 関わりが始まる 3. 旅を深める 4. 挑戦する 5. 達成感を味わう 6. 余韻に浸る）あり、それぞれの展開に沿ったアクティビティを選び、ツアーをつくる。

②ATツアーに必要な資料を理解する

AT旅行者は、一般のツアー旅行者と比較すると、より詳細な情報を求める傾向にあるため、AT旅行者に提供するMIC（Minimum Information to Customers）の作り方を理解する。そのうえで、本事業では地域別（千歳エリア、ニセコエリア）と、両エリア合わせたものの、合計3種類制作する。

<旅の展開に沿ったアクティビティの考え方>

○ATツアーの造成にあたっては、旅の展開を知ること、そしてその展開を日程に落としとしていく、さらにハイライトを考え、アクティビティに繋げていくフローになる。

○前回検討したターゲットのイメージやコンセプトをベースに、旅をどんな順番で、どこで何をするのかを検討しアクティビティを決めていく。

○旅は、「序盤・プロローグ」、「中盤」、「終盤・エピローグ」の場面で、それぞれに構成されるアクティビティは6展開ある。「序盤・プロローグ」では「誘われる」から「関わり始める」ことを、「中盤」では「旅を深める」から「挑戦する」、「達成感を味わう」。そして「終盤・エピローグ」では「余韻に浸る」。

旅人は、誘われ、地域と関わっていくことからスタートして、旅を深めたり、自分自身に挑戦していくような内容が中盤に、そして旅自体に思いを馳せるという展開が終盤となる。

1. 誘われる／旅人が非日常に誘われて期待や想像が膨らむ最初の体験になる。
2. 関わり始める／コンセプトと関わりが始まり、旅人に旅の全体像の把握、期待感が高まる体験を用意する。
3. 旅を深める／旅がメインとなってくところ。旅人がATの3要素（自然・文化・アクティビティ）を楽しみながらコンセプトへの理解を深めていく体験にする。
4. 挑戦する／次のステップ（達成感を味わう）に繋げていくため、難易度が高いアクティビティに挑戦する。旅人の気持ちの変化を意識して設計していく。
5. 達成感を味わう／前項の挑戦から達成感を存分に味わえるような演出を用意する。
6. 余韻に浸る／旅の疲れを癒しながら日常へシフトしていくように繋げていく。記憶に残りやすい、リラックスできるような体験を組んでいく。

1. アクティビティを考える

STEP 1

「コンテンツごとに、その意図を整理する」

「コンテンツ棚卸しシート」のアクティビティと意図を整理する（15分）

事前課題である「コンテンツ棚卸しシート」を使いながら、なぜそのアクティビティを行うのか、コンテンツごとに意図を整理した。



STEP 2

「議論してアクティビティを追加する」

メンバーでディスカッションしながらアクティビティを追加する（15分）

旅の展開を意識しながらアクティビティと意図を整理した。「コンテンツ棚卸しシート」にないアクティビティについてもグループで議論しながら追加した。



次のワークの前にATツアーの販売の現状について、オンラインで参加している(株)JT Bグローバルマーケティング&トラベルの辻村氏にうかがった。

—— 北海道の場合ファミリー層が多く、子どもから高齢者までいるので、長い移動は耐えられないという点も考慮する必要がある。移動時間は事前に明確にして、計画性のあるプランづくりが求められる。また、ATは身体を動かすアクティビティのイメージがあるが、日本ならではの文化体験も人気がある。例えば午前中に自然の中でのアクティビティをやって午後文化体験をするなど、一日の中でバランスを考えて組み立てることも大切だ。



2. アクティビティを選んで旅をつくる

STEP 1

「旅の展開にあわせてアクティビティを当てはめる」

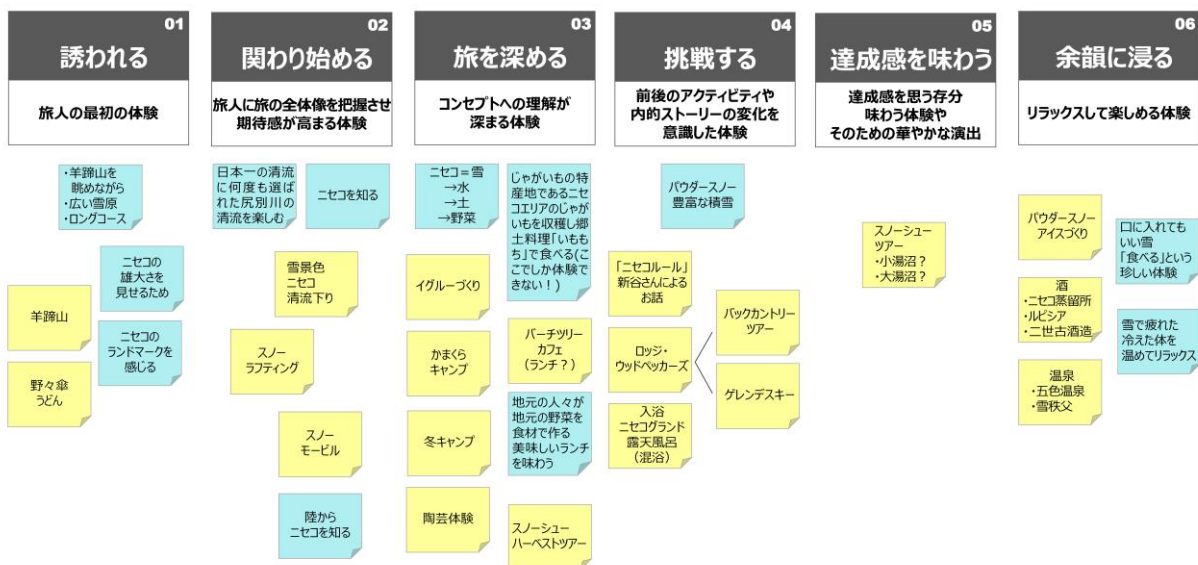
アクティビティの意図から整理する（30分）

「6つの旅の展開」それぞれのカテゴリーの意図を整理しながら、アクティビティを当てはめていった。ハイライトにしたいものから考えて意図を繋いでいくという方法や、ATの3要素や移動時間のバランス、環境に配慮しているか、地域経済への貢献、アクティビティの強度のバランスなどオペレーションも考えながら組み立てた。

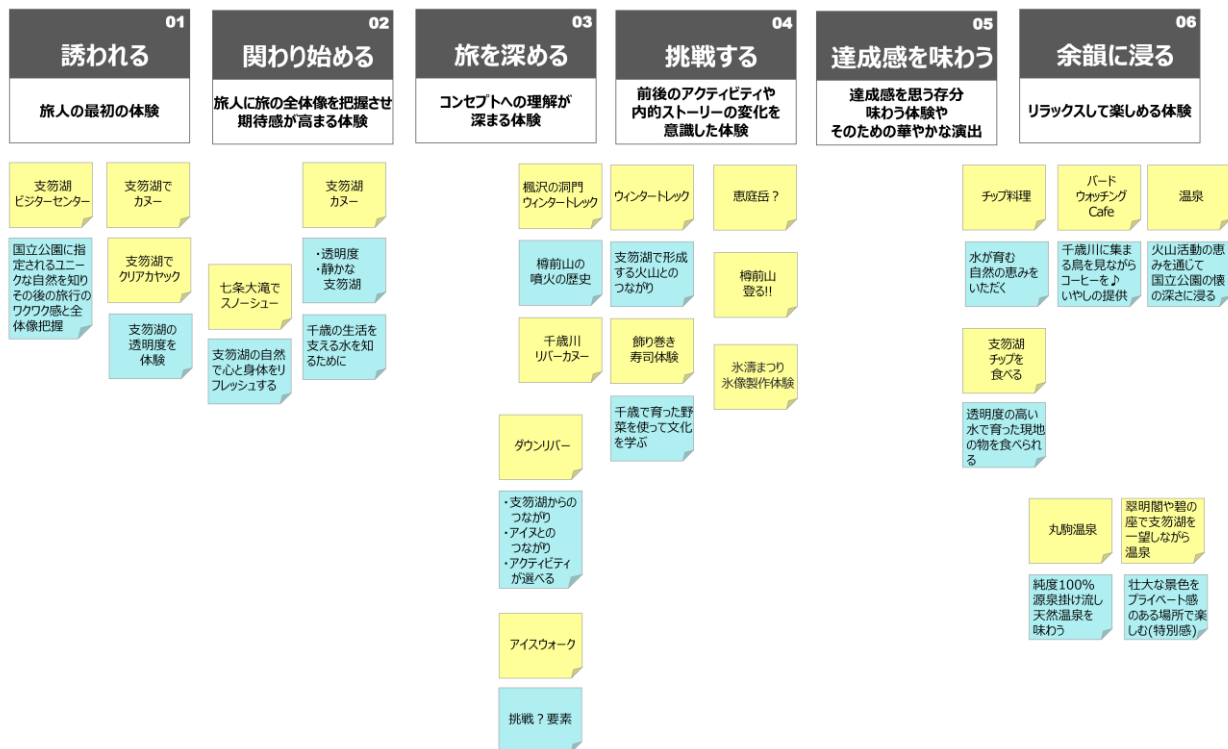


● 組み立てたアクティビティ

ニセコエリア



千歳エリア



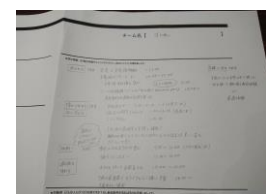
3. 旅の概要をまとめてみる

STEP
1

「トラベルプランシートに旅の概要をまとめる」

トラベルプランシートに記入する(15分)

ワークCで整理した意図とアクティビティをもとに、旅の概要として「トラベルプランシート」に記入した。それぞれの旅の展開ごとにどのような意図でどのようなアクティビティを行うのかを中心にまとめた。また、このシートは完成後アイテナリーを作るうえでのベースになることを確認した。



4. 発表タイム

STEP 1

「まとめたプランを発表する」

発表タイム（10分）

<ニセコ>

1日目／千歳空港から京極・野々傘の名水うどん、ふきだし公園の湧水を体験後、尻別川の清流下り。清流下りの中でふきだし公園の湧水を利用したコーヒーを提供する。ニセコのシンボル・羊蹄山と水を体感することで誘いと関わり始めの一日にした。

2日目／旅を深める・挑戦をテーマに、午前はハーベストツアー。雪中いもほりやいもちづくりを体験。昼食はバーチツリーカフェで地元の野菜を使った料理を楽しむ。午後は検討中。夕方、ニセコグランドホテルで露天風呂体験の後、バックカントリースキーのルール「ニセコルール」の生みの親・新谷氏が経営するロッジ「ウッドベッカーズ」にチェックイン。夜通し酒を酌み交わしながら、「ニセコルール」やニセコの雪について語り合う。

3日目／新谷氏とともにバックカントリースキーまたはゲレンデスキーを体験。終日スキーを満喫し、夜は温泉を楽しむ。

4日目／スノーシューや小湯沼などで、旅の達成感や余韻に浸る企画を検討中。



<千歳市>

1日目／午後支笏湖に移動。支笏湖ビジターセンターで支笏湖についての理解を深める。その後、しこつ湖鶴雅リゾートスパ水の調でウエルカムパーティへ。

2日目／支笏湖でカヌー体験（1時間半）のあと、楓沢の洞門ウインタートレック（4時間）。樽前山の噴火でできた沢の地形にできた苔を見にスノーシューを目指す。

3日目／早朝から樽前山日の出登山。その後ランチ、千歳川リバーカヌーを体験。カヌーはハードなものではなく、千歳の景色の移り変わりを体感する内容。夕食はリバーカヌーのガイドとともに千歳市の居酒屋へ。

4日目／飾り巻き寿司や千歳の水でご飯を炊き、茶道体験など。文化体験で癒しの時間を演出する。



各プランについて高田氏の講評

—— ニセコは、「ニセコルール」を開発された方との交流はとても面白そうだと感じた。翌日に響かない程度のもので対応いただきたい。ニセコの雪を体験したバランスのいいツアーに仕上がると思う。

千歳は、樽前山登山とリバーカヌーの間に、ホテルで休憩する時間が必要だと思う。登山で汗を掻いたあとカヌーで風に当たるので風邪予防のための着替えやお風呂の時間としたい。また登山やカヌー体験時に水をくんでおいて、文化体験ではその水を使ったお米を炊いたり、お茶を点てることで、水でつながる体験としてツアーに一本のラインができて感じた。ニセコと千歳にプランを繋げても面白いものになると思う。



ツアーを組み立てる場合、ストーリーありきで作るやり方もあるが、その場合は相当ATに対して熟練された状況にないといけない形にはならない。北海道はATをこれから始動する時期であるので、アクティビティを先に決めていって周辺地域の情報やストーリーを巻き込んでいく、つまり骨格を決めてから肉付けしていくという方法で取組むことが重要だ。

(3) ワークショップ② テーマ：千歳・ニセコ2エリアでのツアーの組み立て

千歳、ニセコの両エリアを組み合わせる旅の展開を整理することとした。JATOからのアドバイスもあり、前半を千歳エリア、後半をニセコエリアとして進めた。

以下、高田氏より補足説明があった。

—— 空港の立地や、エリア内に国立公園があり北海道の自然環境を適切に理解できることからスタートできる場所として、まず千歳エリアを前半に考え、ニセコエリアは北海道の奥行きの深さや、アクティビティも強度をつけやすいイメージもあり、挑戦、達成感という点も考慮して後半にした。

1. アクティビティを考える

STEP 1

「2エリアのアクティビティを整理する」

2エリアの要素を整理する（15分）

両エリアを繋げるうえで、旅の展開におけるアクティビティと意図を整理した。



2. アクティビティを選んで旅をつくる

STEP 1

「方向性を定めるために議論する」

全体を考えて意図やアクティビティを議論する（20分）

展開に沿っているか、意図が旅全体で繋がっているか、コンセプトが表現できているかなど、旅の方向性の議論を深めた。



STEP 1

「アクティビティを決定する」

アクティビティを選択する（15分）

意図と展開にふさわしいアクティビティか、ATの3要素のバランスはどうか、移動時間は適切か等を検討してアクティビティを選択した。



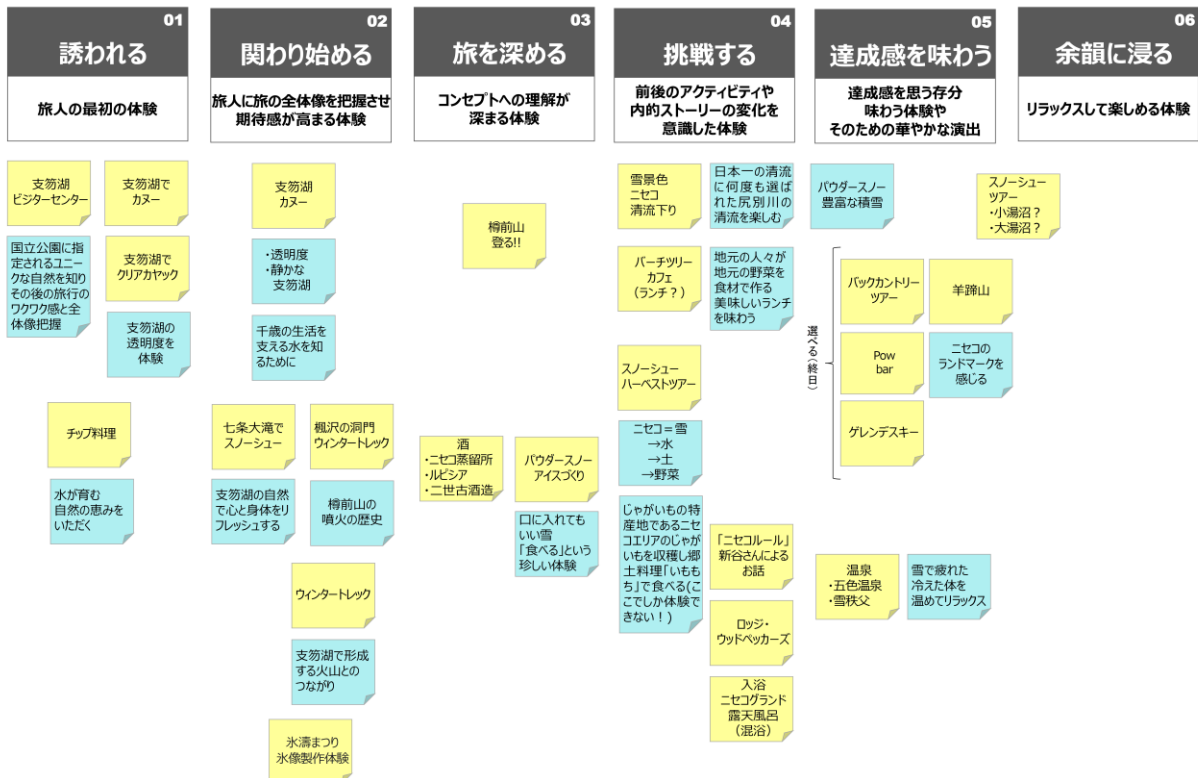
プランの方向性について高田氏の総括

—— 初日は、支笏湖で北海道の自然を理解するところからスタート。2日目は、カヌー体験、氷濤まつり見学などでゆったりとした体験。3日目は、早朝から樽前山登山と結構ヘビーなアクティビティ。午後ニセコに移動。ニセコの地酒やパウダースノーを楽しんでもらう。4日目は、日本一の清流でラフティング。ラフティングは子どもも対象にできる程度のもの。食事には特産のじゃがいもの活用など。夜は「ニセコルール」の新谷氏と語り合いの時間のあとゆっくり休んでもらって翌日に備える。5日目は、達成感を味わうためにバックカントリースキーやグレンデスキー。その後温泉にという流れ。

秘湯・小湯沼は、最初にインパクトのある雑誌の表紙を飾った写真を見せておき、最終日に現地を見せるなど、伏線を張って仕掛けるというやり方も検討できる。

● 組み合わせたアクティビティ

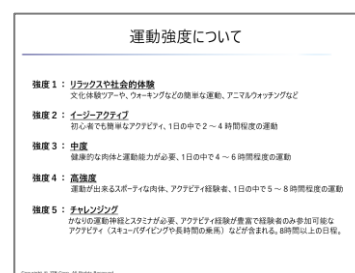
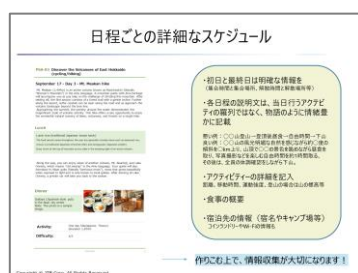
ニセコ・千歳エリア組み合わせ



(4) ATツアーに必要な資料に関して

ATトラベラーにむけて、ツアー内容を案内する資料MIC(Minimum Information to Customers)の作り方について、千歳、ニセコそれぞれの役割を確認し、MICの掲載項目、内容について記載ポイントを説明した。

①作業の役割	千歳、ニセコ、それぞれの「トラベルプランシート」をもとに、MICの原文（日本語）を作成。両エリアを繋げていくツアーに関しては、両エリアから情報をいただき、JATOの意見を取り入れながら事務局（JTB北海道事業部）で作成する。
②旅行のタイトル	英語で約55字以内。端的で魅力のあるタイトル付けを心掛ける。イメージに寄り過ぎると何をやるかわからなくなるので、シンプルで魅力を感じるようなものが望ましい。
③旅行の大まかな概要	英語で150ワード、日本語で270～300語程度。
④旅行のハイライト／催行人数／料金	トラベルプランシートからピックアップして記載する。
⑤日程ごとの詳細なスケジュール	旅行者の計画作りに影響する初日と最終日は、明確な情報を記載する。各日程の説明文は情報の網羅だけではなく、情景が浮かんでくるような文章が好ましい。その他、アクティビティの詳細、食事の概要、宿泊先の情報。イメージを伝えるために写真の掲載も必要。
⑥運動強度について	ATTAが設定している強度（1～5）にならない記載する。
⑦旅行に含まれるもの／含まれないもの	持参が必要なもの、提供されるものを詳細に記載する。持ってくるのが常識という考えはNG。日用品やあると便利なものの情報も記載する。
⑧キャンセルポリシー	キャンセル料の規定を記載する。



MIC作成にあたって、販売の現場の状況を辻村氏にうかがった。

—— ATツアーの販売には詳細な説明が必要。海外のエージェントは日本に対しての知識が乏しい。北海道に対しても札幌ならまだしも、他の地域になるとどうやって売ったらいいのか、アクティビティはどのあたりでやるのか、日本全土の地図、北海道の地図、エリアの地図などを掲載したうえで、どのような行程なのか詳しく説明する必要がある。また気候の特徴についてや、それによって何が必要なのか細かい情報も求められる。

販売対象には、海外のツアーオペレーターがありその先にエージェントがあるなど、旅行者に情報が届くまでに少なくとも3社程度コミュニケーションの相手が存在する。時差等も含めるとやりとりで相当時間を要する。その意味で、すぐに対応できる詳細な情報ツールが販売に結びつく鍵といえる。

また海外の旅行会社は、予約やキャンセルの規定にはイレギュラーを認めず、厳格に対応している。適切な情報を正しく提供し、旅行者が円滑に申し込める体制を整えておくことも大切だ。

(5) Q&Aセッション・まとめ

★伏線を作るという点で、仕込みの実例があれば知りたい。

(回答：高田氏) —— 屋久島の実例。翌日登山に行くことになり、行く前にどういう山か知ってもらふこと、知る前にどういった山なのか感じて欲しいという提案をした。通常であればビジターセンターを通じて山の地形資料等を紹介するところを、「牛床詣所」という山の神を祀っている祠を案内した。翌日の登山の安全祈願として、日本式の独特の祈願スタイルを紹介した。このような特別なことをやると、登山に対して体験したことのない違った目線で楽しめることになり、いい意味で登山へのハードルが上がった。

★WOWファクターについて、何がWOWなのか実例があれば知りたい。

(回答：高田氏) —— 阿寒湖のスキーシュー。スキー板を事前に凍った湖のほとりに用意しておく。旅行者は山の神社をお参りして、森の中を歩いて湖に出る。正面に雄阿寒岳。ここで見たことがない絶景が広がるというWOWファクターを与えた。しかもそこに、これから使うスキー板が用意されている。そこでガイドが童話「小人の靴屋」の話。阿寒湖にはコロポックルというアイヌの伝承に登場する小人がいてその人たちが用意してくれたのかもしないと繋げる。ここでファンタジー感があふれる展開になった。ポイントは見せ方とタイミング。簡単な仕掛けでできるのですまはやってみることだと思う。

①ワークショップの開催

第3回アドベンチャートラベル研修会及びワークショップ

実施概要

目 的	①造成商品に対する海外有識者の助言を共有する ②造成商品、販売体制の今後の方向性を確認する
名 称	令和3年度 「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」 冬季ATツアー造成事業② 第3回アドベンチャートラベル研修会及びワークショップ
実施日	2022年2月8日（火） 9：15～13：30
会 場	かでの2.7 620会議室 （札幌市中央区北2条西7丁目 道民活動センタービル）
感染症対策	本事業の感染症対策基本方針（P6 参照）に基づいた感染症対策を施して実施した。 □ 3密の回避ソーシャルディスタンス確保 関係者同士は最低1メートル以上の距離を確保する。 □ 会場入場時の検温及び消毒液の利用 会場への入場口に検温器と手指消毒液を設置。参加者に検温、消毒の協力をお願いする。 □ 会場の換気 定期的に窓やドアを開放（30分間に1回以上、数分程度）する。また、換気設備等による換気を行うとともに、複数の窓やドア等がある場合は二方向開放するなどして、密閉空間を作らないよう徹底させるようにする。 □ マスク着用 すべての関係者がマスクを着用することを原則とする □ 手指消毒 手指消毒を徹底する。入室時、歓談中等、いつでも手指消毒ができるように、また触れた箇所をふき取れるように、消毒液・消毒シートを設置する。 □ 体調管理 発熱ないし普段より体温が高い、あるいは咳・咽頭痛等の症状がある場合、来場を自粛いただく。また、受付時の検温で37.5度以上の場合は、参加をお断りする。 <感染リスク回避行動のお願い> 感染リスク回避行動への協力を随時アナウンスする。 ○手指消毒のご協力 ○参加時はマスクの着用

参加者 (敬称略・順不同)

氏 名	所 属	役 職
小野寺 美佳※	(株)ニセコリゾート観光協会	旅行グループ マネージャー
川内 俊一郎※	(株)ニセコリゾート観光協会	
大宮 裕輔	(一社) 千歳観光連盟	観光課長
小柳 桃	(一社) 千歳観光連盟	観光コンシェルジュ
及川 伸一	(株)ノーススタートラベル	部長
飛ヶ谷 園子	全国通訳案内士 (英語・ドイツ語)	
辻村 肇子※	(株)JTBグローバルマーケティング&トラベル	富裕層戦略プロデューサー
高田 健右※	(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会	Global Marketing Director
加藤 菊緒※	(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会	事務局

※ = オンライン参加

●事務局

菊池 織絵	北海道運輸局 観光部観光企画課	観光企画係長
田中 大輔※	北海道運輸局 観光部観光企画課	外客受入推進係長 (アドベンチャートラベル担当)
門間 俊也	北海道運輸局 観光部国際観光課	課長補佐
藤野 夕貴	北海道運輸局 観光部国際観光課	調査係
越智 綾美	株式会社JTB 北海道事業部	営業第四課
古櫛 文崇	株式会社JTB 北海道事業部	営業第四課
東田 至彌	株式会社JTB 北海道事業部	営業第四課 観光開発プロデューサー

次 第

(1) モニターツアーの結果報告	9:20 ~ 9:30
(2) 海外AT旅行会社からのコメントと質疑応答 Adventure Travel Trade Association社 モーリン・シーリィ氏 ※以下2名はJATOからヒアリング内容を報告 【True Adventure社】: ジェイク・フィニブロック博士 【Action Culture社】: グレン・マリー・プライオア氏	9:30 ~ 11:40
休憩	11:40 ~ 11:50
(3) 今後に向けたツアー内容のプレスト (海外AT旅行会社からのコメントを受けて)	11:50 ~ 12:30
(4) 当面の販売体制及び今後の目指すべき体制について	12:30 ~ 13:00
(5) 本事業の振り返り	13:00 ~ 13:30
(6) 閉会	

(1) モニターツアーの結果報告

1月18日（火）～23日（日）に実施したモニターツアーの結果について報告。モニターツアーに同行した有識者は2名（ロバート・トムソン氏、ミカエラ ナシメント・ダコスタ氏）。これまでのワークショップで検討した内容をベースに行程を組み、新千歳空港をスタート地点として千歳エリア、ニセコエリアを周った。

1日目 (1/18)	●千歳神社／旅のスタートとして安全祈願を行ったが、有識者からは、今回のテーマである、水と雪を考えると、ここからのスタートはとても面白いと評価があった。 ●支笏湖ビジターセンター／全体を俯瞰する意味合いで、映像とジオラマで学芸員から説明を受けた。 ●氷濤祭り 氷像制作見学／千歳観光連盟・大宮氏のガイドングで実施した。 ●ウェルカムパーティ／夕食。コロナ禍のため関係者のみで懐石料理をいただいた。
2日目 (1/19)	●七条大滝スノーシュー・昼食／滝の絶景はとても魅力的だと評価があった。昼食はハンバーガーだったが、欧米人に食べ慣れたものが出てくるのは安心感につながるの良かったとコメントがあった。 ●千歳川・支笏湖クリアSUP／トムソン氏は自ら飛び込み支笏湖を満喫していた。また、ダコスタ氏は最後になってしまったが、ガイドが近くに来てくれて安心したと話していた。
3日目 (1/20)	●イチャンコッペ山 登山／時間内に全員で頂上まで行くのは難しく、支笏湖の景色が楽しめるスポットで折り返した。頂上までいけないことが想定される場合は、実際の行程表の書き方を工夫しなければいけないという課題が見つかった。
4日目 (1/21)	●湧水の里 真狩豆腐工房／千歳からニセコへ、旅のシーンの切り替えという視点で湧き水を試飲した。水を汲みにきた地元の人に熱心に話を聞いていた。 ●昼食・魚一心／入口から出迎える形で大きなカウンターがあり、そこで食べると写真が撮れるので欧米人はとても喜ぶとアドバイスをいただいた。 ●スノーシュー・ハーベストツアー／スノーシューを体験し、その後雪中いも掘りといももち作りを行った。 ●かまくらBBQ／羊蹄山周辺で捕獲した鹿肉、手作りソーセージ、豊浦湾ホタテ等、周辺で取れた食材を満喫した。
5日目 (1/22)	●リフトアクセスバックカントリースキー・スノーボード／旅のハイライト。トムソン氏がリフトアクセスバックカントリー、ダコスタ氏がゲレンデでスノーボードを体験した。
6日目 (1/23)	●昼食 パーチツリーカフェ／本来はレイトチェックアウト後温泉などを楽しむ行程だが、今回はツアーの振り返りのための意見交換会を実施して昼食をとった。

※モニターツアー詳細はP82～P105参照



(2) 海外AT旅行会社から造成商品に対するコメントと質疑応答

本事業で実施したワークショップを通じて造成した千歳、ニセコ、両エリア組み合わせの3つの商品案について、モーリン・シーリィ氏（Adventure Travel Trade Association）よりコメントをいただいた。なお、通訳・ファシリテーターは日本アドベンチャーツーリズム協議会の高田氏が担った。また、引き続き、ジェイク・フィニブロック博士（True Adventure社）と、グレン・マリー・プライオア氏（Action Culture社）からいただいているコメントについて高田氏が紹介した。

<商品案についてコメントをいただいた3氏>

モーリン・シーリィ氏はワークショップにオンラインで出席され、直接助言をいただいた。



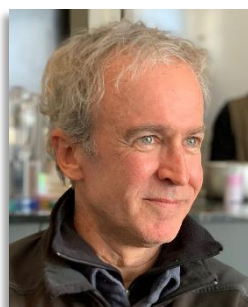
モーリン・シーリィ 氏
【Adventure Travel Trade Association】

アメリカ合衆国、シアトル在住。
元レクリエーショナル・イクイップメント・インコーポレイテッド（Recreational Equipment, Inc.）、略称REI（アール・イー・アイ）アメリカ合衆国のアウトドア（主に登山・キャンプ）用品店で12年のキャリアを経て、2016年よりATTAのイベントアドベンチャーマネージャーとして勤務。2019年度のATWSスウェーデンにも運営の中核として出席するなど、ATTAが認めるATツアーの基準製作や、ツアーの磨き上げ・アドバイスなどをツアー制作者目線で行える重要なキーパーソンの一人。



ジェイク・フィニブロック博士
【Tru Adventure社】

アメリカ合衆国、アリゾナ州在住。
出身地であるアラスカを主なデスティネーションとするツアーオペレーター経営者であると同時に、心理学・教育学等の学位をカリフォルニアと英国で修了した研究者。現在ATTAのアジアエリア総括部長として、日本を含むアジアにおけるATの潜在的デスティネーションを見出し、世界のアドベンチャー旅行者とアジアをつなぐこと、またアジアと欧米のAT業界関係者間のネットワークを構築・強化し、そのことが世界の環境問題や社会課題等の解決につながることを望んでいる。ATWS2021のPSA制作の際に実際にコースをジャッジしたメイン担当者でもある。



グレン・マリー・プライオア 氏
【Action Culture社】

オーストラリア出身、現在スイス在住。
高校卒業後からすぐに旅行を始め、AJ Hackett Bungyと共同で世界中でバンジージャンプ事業を確立し運営。2004年にスイスに移住し、EF Educational Travelのエグゼクティブとして8年間勤務。2016年には、世界中の目的地への最高のアドベンチャーホリデー、アウトドアコース、エクスペディションの開発と販売を専門とするオンライン旅行代理店としてAction Cultureを設立。北海道でのツアー視察の経験もあり、スイスというウィンターATの本場仕込みの目で、ツアーの評価を行う。

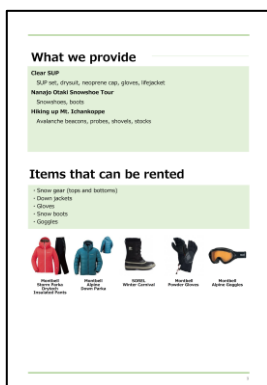
＜モーリーン・シーリィ氏のコメント＞

● What we provide : 登山の部分でAvalanche beaconsはアクティビティガイドが使うものなので記載する必要はない。ここはお客様に提供するものという認識である。

※MICより一部抜粋

Information and Requirements Dietary Restrictions If you have dietary restrictions, an allergy to nuts or seafood, or need vegetarian, vegan, or gluten-free meals, please let us know in advance and we will provide your alternatives to the best of our abilities. Emergency Response Plan There is mobile phone reception at all accommodation facilities. In the event of an accident, your guide will respond promptly in cooperation with local medical personnel. In the event of problems such as broken gear or minor mechanical problems, please rest assured that we will assist you. Weather The Chitose and Niseko areas are located in central Hokkaido, and January is the coldest month of the year. The area averages low of -19°C and high of -2°C. Have the items comfortable in this cold weather if you bring gear such as a down coat or ski gear, thermal underwear, a fleece jacket, a knitted hat, gloves and snow boots. ※MICより一部抜粋	●What to bring：パッケージリストはパッキングしやすいよう、一つにまとめられている方がよい。その日に必要なものは前日ガイドから情報提供すること。スキーギアは、1日のスキー体験のため持ってくることは考えられないので、レンタルすることを明記する。サングラスとかウインドブレーカーなどはオプションではなく必ず持参するものとして記載してほしい。 ●Emergency Response Plan：お客様に見せるものではない。緊急事態があった時にスムーズに対応できるようにプラン化しておくことは必要だ。 ●Weather：パッキングリストと一緒にページに載せておくとし便性が高まる。 <ジェイク・フィンフロック博士と、グレン・マリー・プライオア氏のコメント> ●タイトルはアクティビティを入れたタイトルにしたほうがいい。わかりやすさを優先させたい。 ●Highlights：LearnというワードはATでは適さない。Learnをexperienceに変更するなど、自分から体験して学ぶというニュアンスにするとより良い。 ●移動は何を使うのか、どのぐらい時間がかかるのか、トイレ休憩はあるのかなどのロジスティクスの記載も日々のアイテナリー部分に書いて欲しい。モーリーンさんと若干違う意見ではあるが、こういう意見もあるということで共有。 ●食事の記載には、ワクワク感を表現してほしい。食べ方、食材の面白さ、外国人にとっての不思議な体験という視点も大切だ。 ●Day3：アイヌ語の説明が突然出てくるが、Highlightsの部分でアイヌ民族の情報を加えておくとし文化の要素をクローズアップできるので、より深みのあるツアーとして表現できる。 ●Day5：もう少し食事のことを書いてほしい。懐石料理はどういうものなのか、特別感があるのかなどを表現したい。 ●Day6：ランチはどこで食べるのか詳細に書いてほしい。
---	---

A story told by water: Explore Lake Shikotsu and the Chitose area with a local guide! (千歳商品案)



※MICより一部抜粋

<モーリン・シーリー氏のコメント>

- タイトル：こういったアクティビティが入るのがわかるようにするとお良い。
- Highlights：もう少し短く、端的に説明できるといい。全部のアクティビティをここで紹介するのがベストだ。
- Day3:ランチについてももう少し具体的に説明するほうがいい。
- Day4:ランチの前にアクティビティを加えられないだろうか。水族館はなるべく短くしたい。ATからすると、水族館がアクティビティではない見学施設として受け止めている。時間を取り過ぎず、端的に終わらせることが必要だ。
- その他：ホテルについてはリンクと写真を載せること、アクティビティのパッキングリストも可能であれば一枚にまとめてもらいたい。オプションのリストは確実に持ってきてもらうものも含まれているのでチェックしてほしい。

<ジェイク・フィンフロック博士と、グレン・マリー・プライオア氏のコメント>

- 全体的にいい仕上がりになっている。
- 水族館：なぜ水族館に行くべきか、見ることにとどまらない価値を記載する必要がある。
- 食事の情報が少ない。
- 移動方法、時間、食事の情報、この3つに対するコメントが多かった。
- 天候の情報とパッキングリストの情報を一緒にするといい。

<質疑応答>

○支笏湖ビジターセンターの部分で、情報は最小限にということだったが、アイテナリーについてのことか、それともビジターセンターにいる時に一度にたくさん情報を与え過ぎないことなのか。(飛ヶ谷氏)

—— ビジターセンターにいる時に一度にたくさん情報を与え過ぎないということで理解してもらいたい。(高田氏)

○水族館は時間をかけないでという話があったが、レジャーだけではなくアイヌ文化や自然保護を意識した施設だが、水族館ということで評価が低いのか。(大宮氏)

—— 水族館という言葉に対してATでは拒否反応を示している。水族館を入れるということはマイナスからのスタートだと思ったほうがいい。施設を見せればわかるのだが、紙に書くという評価になる。実際に案内した際はガイドの腕にかかってくると思う。(高田氏)

○Learnという言葉を選ばなかったほうがいいということだが、ツアー中のブリーフィングの時なども使わないほうがいいのか。(飛ヶ谷氏)

—— 避けた方がいい。相手になぜ学ばなければいけないというイメージは与えず、別の言葉を使うほうがいい。Listenなど。(高田氏)

＜モーリーン・シーリィ氏のコメント＞

●Day4：アクティビティが少なく感じる。いも餅づくりをランチと一緒にするなどの工夫も必要だ。

＜ジェイク・フィニフロック博士と、グレン・マリー・プライオア氏のコメント＞

●懐石料理：初日には入れないで、もう少し軽い感じのものにしてほしいという感想があった。

※MICより一部抜粋

〈質疑応答〉

—— レッスンとは初心者向けのものではなく、スキーマのスキルを上げるためにガイド付きでトレーニングするという意味である。米国ではビギナー以外でもレッスンするのは普通のことだ。レッスン次第でバックカントリーかゲレンデかというジャッジもできる。（モーリーン氏）

○バックアップランチは、小さな飲食店のため365日必ず提供できるものではないということから代案として記載したのだが。（小野寺氏）

—— バックアップという言葉があまりいい印象がない。レベルが下がったというイメージを持たれるので、詳細を書かずにメニューは当日のお楽しみというニュアンスなど柔軟性のある書き方であれば問題ない。(モーリーン氏)

(3) 今後に向けたツアー内容のプレスト（海外AT旅行会社からのコメントを受けて）

海外AT旅行会社からのコメントを受けて、本事業で実施したワークショップを通じて造成した千歳、ニセコ、両エリア組み合わせの、3つの商品案についてあらためて意見交換を行った。

<千歳・ニセコ組み合わせ商品案>

- 千歳の登山の時の携行食が難しいと思った。指摘されたことも理解できるが、携行食（甘いものやエナジーバーなど）を事前に用意しておくのはどうか。ニセコのいもちについては期待以上に評価されていたので良かった。しかし、いもちだけをランチにするというのは物足りないので、いもちに加えて別のものも食べるか、あるいはいもちをおやつとして提供するなどが現実的か。（飛ヶ谷氏）
- いもち量は量を調整する方向で考えていきたい。登山の携行食は地域（千歳）で用意するというのは可能か。（事務局・越智）
- 時間に余裕があればスーパーマーケットに立ち寄ることも考えられるが、ある程度こちら（地域）で用意してあげるのが現実的か。（大宮氏）
- 登山の行動食は軽く持っていけるようなもの。簡単に言うとスニッカーズ。（高田氏）
- モニターツアーの千歳の昼食では、ラーメンやちまき、千歳バーガーを食べてもらったがそれらに対するフィードバックはあったか。（小柳氏）
—— モニターツアーでは、美味しかったという評価があった。ベジタリアンには喜ばれるという意見があった一方、ツアーで考えた時に、ちまきは沖縄から来たものということでツアーの構成上唐突感があったこと、ラーメンとセットで出ると量的に厳しいということで出す分量やタイミングは検討が必要だという意見があった。（事務局・越智）
- いもちのいもをかまくらBBQに持ち込むという案もあったが、いもち作りというアクティビティに対する評価が高いので、分量を調整したうえで行程に組み込むように考えている。（事務局・越智）
- 懐石料理は、モニターツアーでも残す料理が目立ったので、初日ビュッフェで2日目懐石でもいいのではないかと感じた。（小柳氏）
- ウェルカムパーティの本来の形ではどういうメニューが想定されているのか。（飛ヶ谷氏）
—— 懐石料理、ビュッフェ等スタイルは様々考えられる。（事務局・越智）
—— そういうことであれば懐石料理を2日目以降にまわすということでもいいかなと思う。初日の夜をソーシャライジングな面に重点を置いて、食事は軽めにとれるビュッフェ形式などでガイドとの交流を楽しむということはすごくいいと思う。（飛ヶ谷氏）
—— 海外ではビュッフェについてネガティブなイメージも多いということだが、今回のツアーで利用する施設の雰囲気が高く、出される料理の質も高いので問題ないと判断した。アイテナリーにはウェルカムパーティの場としてビュッフェを調整していきたいと思っている。（事務局・越智）



＜千歳商品案＞

●最終日に千歳水族館に行くことで、ツアーで体験する千歳川のこと、サケのこと等を含めてコンテンツの充実が図れると思う。（小柳氏）

●最終日に市内中心部で楽しむとなると千歳川のカヌー。事業者の協力が得られればいいが、氷濤まつりの製作で難しい時期なので悩みどころである。身体を動かすことということであれば、青葉公園でスノーシューができる。アクティビティというよりも街を散策するというレベルで、スルーガイドが同行して楽しむというイメージ。（大宮氏）

●地域として無理をせず、今できることをやるのがベスト。評価はあとからついてくるもので、今回のコメントはあくまでもサゼスチョンと捉えてもらうほうがいい。（高田氏）

●水族館への拒否反応があるとのことだが、千歳川、支笏湖の水のテーマでやってきて、水族館からガラス越しに千歳川の水の中が見れるという点をアピールポイントとすると印象が変わるのかなと感じた。（飛ヶ谷氏）

●それまで千歳川でアクティビティをやっていたらつながりが出ると思うが、マイナスからスタートするという点は変わらない。（高田氏）



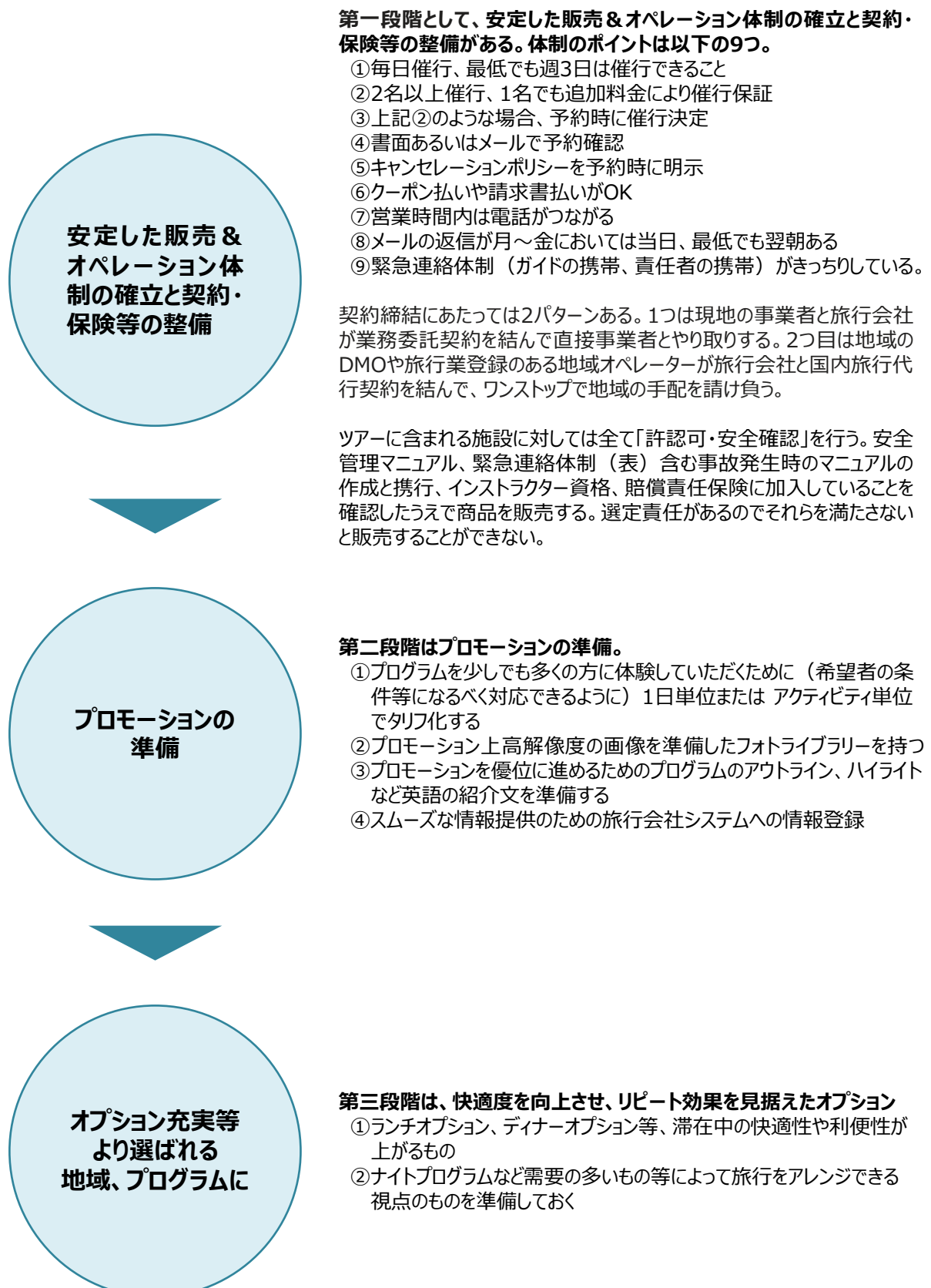
＜ニセコ商品案＞

スキー中心で考えてはいなかった。バックカントリーを前提にレッスンは新たな発見だった。初日は、着いて身体を動かしたいからスノーシュー、2日目、3日目にスキー、4日目はハーベストツアーとシーニックフロートといういただいたサゼスチョンも腑に落ちた。スキーの2日分のレンタルとレッスンガイドの経費も加えるとコストもかなり上がると思っている。（小野寺氏）



(4) 当面の販売体制及び今後の目指すべき体制について

今後、造成した商品をB2Bビジネスでどのように販売していくべきか、JTBグローバルマーケティング&トラベルの辻村氏より説明があった。



②スルーガイド研修及び対応手順作成

＜スルーガイド研修・座学編＞

実施概要

目 的	1. コーディネーターとスルーガイドの実際の業務内容を理解する 2. 現場実踏にむけて、準備事項の整理を行う
実施日時	2021年11月30日（火）10：00～12：00
講 師	芹澤 健一氏 （一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会理事 アルパインツアーサービス(株)代表取締役社長
実施方法	オンライン形式

参加者（敬称略・順不同）

氏 名	所 属	役 職
飛ヶ谷 園子	全国通訳案内士（英語・ドイツ語）	
小柳 桃	（一社）千歳観光連盟	観光コンシェルジュ
加藤 菊緒	（一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会	事務局
常井 玄	（株）北海道宝島旅行社	観光地域づくり事業部

●事務局

菊池 織絵	北海道運輸局観光部観光企画課	観光企画係長
田中 大輔	北海道運輸局観光部観光企画課	外客受入推進係長（アドベンチャートラベル担当）
谷内 将一	株式会社JTB 北海道事業部 営業第四課	グループリーダー
越智 綾美	株式会社JTB 北海道事業部 営業第四課	

講演テーマ／講師

1. スルーガイドのプロファイル
2. スルーガイド及びコーディネーター（ツアーオペレーター）の役割
3. スルーガイドの実際

芹澤 健一氏 プロフィール

（一社）日本アドベンチャーツーリズム協議会理事／アルパインツアーサービス(株)代表取締役社長
2011年4代目社長に就任。環境保護への意識教育からガイドの教育体制、地域振興の観点から多くのトレッキング・ハイキングコースの総合的プロデュースを行う。特にNZのトレッキングコースに関しては第一人者として、『ニュージーランド・ハイキング案内』（1998年山と溪谷社刊）に執筆協力をした。また、カナディアン・ロッキー、アラスカ、ネパール・ヒマラヤなどでは自然環境に配慮したロッジのプロデュース全般に関わる。



講演内容

1. スルーガイドのプロファイル

アウトバウンドからインバウンドへ ――

日本の観光産業は、1960年代後半から本格的にスタートした。パスポートを所有した「海外旅行」が一つの軸として確立し、その後50年あまりに渡って、「アウトバウンド」主体で取組んできた。

21世紀を迎え、日本は高齢化社会が進み、就労人口の減少、労働生産性の低下という環境の中、経済効果を高めた取組として、「インバウンド」の重要性を認識し、積極的に推進しているところである。

北海道の魅力をいかに引き出すか ――

北海道には、四季折々の美しい大自然や食、歴史文化要素など海外に引けを取らない魅力がたくさんあり、まさにアドベンチャートラベルの事業展開に相応しい環境が整っている。今回、冬季のアドベンチャートラベル造成事業として滞在型の企画を作り上げていくが、その中心的な役割を担うスルーガイドへの期待が高まっている。

本事業のスルーガイド・飛ヶ谷氏が実感するスルーガイドのイメージ①

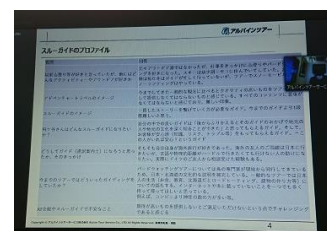
“ハードルの高さ”

―― 一般的な観光ガイドは、「景色を楽しむ」、「食べて楽しむ」、「買い物を楽しむ」など、それぞれに対して情報を提供すればいいが、アドベンチャートラベルでは提供する側として、強いメッセージを打ち出すというイメージを持っている。旅行者にわかりやすく説明し、感動を提供するためにはスキルの向上が欠かせないと思う。その点で、スルーガイドは、ハードルの高い、難しい業務の印象がある。

一般のガイドの経験を活かした取組と考えていい。スルーガイドは、個々のアクティビティを担うローカルガイドと連携して全体的な演出、管理調整が中心となる。ローカルガイドが演出するプログラムを楽しんでもらうスタンスで安全管理、行程調整管理を行うというイメージだ。

伝えるメッセージという点では、旅のテーマやストーリーを一方向的に強要することではない。旅行者の興味は多様で、テーマから派生して話題の方向は様々に変化する。その多岐に渡る興味を広げてあげるという視点で考えること。

旅行会社、ツアーオペレーターが作った企画には、ストーリーがあって、そこに含まれる体験プログラムがあって、それを実際に帯同して演出していくのがスルーガイドであるという理解でいい。どういう内容でどういう意図があってこの日程が作られたのかということは事前に把握しておくこと。逆に旅行会社、ツアーオペレーター側がその内容をスルーガイドに的確に伝えておくことが重要で、それによってスルーガイドが本領を発揮することになる。



本事業のスルーガイド・飛ヶ谷氏が実感するスルーガイドのイメージ② “理想像”

——「スルーガイドはこういうものである」という確固たるものがあって、それに追従するという認識でいる。一般の旅行は、個人個人がネット予約してガイドをつけずに旅行できる環境にある。一方アドベンチャートラベルでは、あえてガイドを起用するという意味合いを感じてもらったり、旅の安心感や、地元の人にしかわからないコトやモノを実感できる経験を提供する役割が大切だと考えている。

一般ガイドで培ったものに加えて、スタイリッシュで健康で、運動ができるなど、体力面でフィールドにマッチする努力と、いろいろなアクティビティに興味を持って、自ら楽しみながらアクティビティに参加するということも必要だ。

2. スルーガイド及びコーディネーター（ツアーオペレーター）の役割

スルーガイドの位置づけ

- コーディネーター（旅行会社、ツアーオペレーター）から行程管理を委託されている
- 添乗員という役割に最も近い
- 旅程管理主任者という資格者である
- 責任を一任されることもあるが、旅行会社との信頼関係が必要
- 旅行会社、ツアーオペレーターは旅行がどういうコンセプトでどういう手配になっているかをしっかり伝え、スルーガイドはそれを理解して仕事を請け負う



ローカルスルーガイドとは（本事業対象）

欧米の旅行者は10日～2、3週間程度滞在することが一般的で、滞在日数が長い。その中で北海道に何日割り振るのかということになり、全行程の中でその北海道部分を請け負うのが北海道のスルーガイド（ローカルスルーガイド）の役割になる。

旅行形態は色々あり、「来日から全体を担当してくれ」というオーダーもあれば、「添乗員がついてくるのでローカルスルーガイドだけでいい」、「手配はわかっているからアクティビティのガイドだけでいい」、あるいは「スルーガイドのローカル部分は北海道だけでいい」など様々なオーダーがある。

アドベンチャートラベルに関しては、出来合いのパッケージツアーを売るのではなくて、先方の旅行者のオーダーによってカスタムメイドするという要素が多い。カスタムメイドするのは旅行会社、ツアーオペレーターが行い、スルーガイドの連携が大事になってくる。

スルーガイドは行程を通して旅行者とのコミュニケーションを図ることで、相手を理解し、ニーズや嗜好を把握していく。それは最終的には旅行者の満足度につながることになる。来日から担当エリア初日までの行程で、旅行者があまりいい思い（天候や行程内容について）をしていないと、モチベーションの点でスタートは難しくなる。旅行者のコンディションの影響を受けやすいと言える。

コーディネーターから旅行者の情報（滞在中に起こったことや、嗜好に関する情報）が入ってくるかどうか、細かい部分だが、ローカルスルーガイドとしては知っているか否かで大きな違いになる。コーディネーターとの関係性がいかに大事かというものにはそういう面も含まれる。

天気情報は不可欠。野外のアクティビティのウエイトが高ければ、天候によってプログラムが左右されることもある。その時に、セカンドプログラム（予備プログラム）をコーディネーターが事前に備えているかがポイント。臨機応変に現場で対応することを望むコーディネーターでは不甲斐ない。野外の場合、現場のローカルガイドの責任（判断）に任されることが多いが、コーディネーター、ローカルスルーガイド、ローカルガイドが情報を共有し連携していくことが強く求められる。

体調による時間変更や、実際の想定と違って時間が変わることなどはローカルスルーガイドや現場のローカルガイドの判断が大切。文化体験でも、体験場所や実施時間、手配している物品の内容等で予想外の変更もある。事態が変化しても柔軟に対応できる準備をしておくことだ。

また、ツアーの詳細を把握できる書類を適切に準備すること。スケジュール、コンディション、連絡先、担当者名、緊急時の連絡などの管理をする手配書については、今後フォーマット化し、北海道内のアドベンチャートラベル事業全体で共有する必要性も感じている。

本事業のスルーガイド・飛ヶ谷氏の質問①

—— 「全行程スルーガイド」は、どのツアーにも必ず来るのか？

少人数の場合はあまりない。単価が上がるのでエリア対応でいいという発想。15名などグループで来る場合は、全行程つけてくれというオーダーが入りやすいが、外国の業者、その先のクライアントの求める内容や費用によって決まることになる。

本事業のスルーガイド・飛ヶ谷氏の質問②

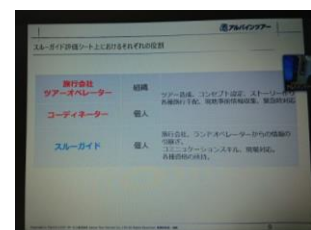
—— グループの大きさ（規模）はどういうイメージをしておけばいいのか？

15名程度のグループから、スポットでやる場合は2、3名の場合もある。その場合は夫婦、カップル、家族連れが対象。

スルーガイドに求められる力とコーディネーターとの関係

アドベンチャートラベルの行程管理は、コーディネーター（旅行会社、ツアーオペレーター）、スルーガイドの連動が重要である。旅行会社も大きな組織、地域の小規模なもの、地域DMOだったり様々なものがあるが、いずれもツアー商品の造成が役割で、そこにはコンテンツ、ストーリーを含めた内容で手配され、あらゆる情報（二次プラン、緊急対応等）が織り込まれた手配書を作成することが求められる。

それを受け継いで、現場で引率業務をするのがスルーガイドの役割。それらの情報を現場で活用して、タイムスケジュール管理、エンターテインメント性を表現してエンジョイしてもらう部分、通訳する部分のほか、文化的要素になると解説力も求められる。個人に委ねられるコミュニケーションスキル、現場対応能力を発揮することになる。



本事業が、情報整理・研修等について連携をしている『令和3年度「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」冬季ATツアー造成にむけた情報整理・研修事業』（P3参照）では、スルーガイドの能力や傾向をチェックするために「スルーガイド評価シート」の作成を進めている。その進捗状況について、北海道宝島旅行社の常井氏より報告があった。

<スルーガイド評価シート>

※シート本体は資料編に掲載

使用要件について（どんなタイミングでどんな目的で使うのか）

ツアーを造成するコーディネーターが、スルーガイドの能力や傾向をチェックすることを主眼にした。造成時や実地踏査を想定し、おおむね10名程度の少人数のグループをアドベンチャートラベルツアーで受け入れる場合のスルーガイドの立ち回りに焦点を当てる。



チェックシートに求められる内容

シートに書かれた項目をチェックすれば、スルーガイドに必要な項目の漏れを予防することができるようになっている。スルーガイドとは何か、スルーガイドの業務とは何かがわかり、その人の傾向を知ることができ、課題の発見もできるものを目指して準備している。また、有識者の意見、過去の事業のこともリサーチして項目を立てている。

最新バージョン（スルーガイドチェックシートver.4.2）の状況

スルーガイドの役割を6つの役割に分解。

①**旅程管理** ②**英語対応** ③**安全管理** ④**コーディネート** ⑤**コミュニケーション** ⑥**サステナビリティへの配慮**

これらを、スルーガイドの構成要素とし評価シートに記載。

チェックは、項目名、評価の観点、評価方法、事前準備か旅中のことを分けている。

①**旅程管理**の項目であれば、「旅程管理に関する資格をもっているか」を項目として入れている。

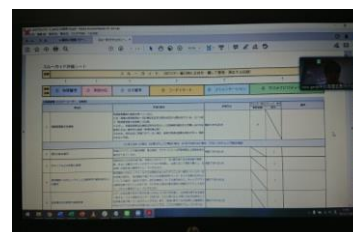
資格を持っていなくても、能力として求められる項目をチェックできるようにしている。

②**英語対応**に関しては、通訳案内士の資格を保有していることが望ましい。英語対応ができるか、専門用語への対応ができるか、地域との連携はとれているか、運営に関する事前準備ができているか、日本の歴史文化への教養を持っているかなど、通訳案内士の意見を聞きながら項目を検討している。

③**安全管理**では、MICの情報共有、各アクティビティの安全に関する免責事項への理解等を盛り込んでいる。その他ファーストエイドの資格や装備を持っているか、何かあったときの行動の把握、訪問先の医療体制の把握、緊急行動計画の把握ができているか、顧客へ伝えることができるかなどを記載している。

④**コーディネート**には、参加者の情報を事前に販売主体との間で得られているか、アクティビティに対する情報を収集できているか、地域資源に関する情報収集はできているかなどを要素として入れている。

これまでの研修を通じて、現場で臨機応変の対応が出てきた時に、スルーガイドもある程度地域関係者とのネットワークや関係構築ができていないと、スムーズな対応が難しいのではないかという点があり、地域の関係者とのネットワークの有無や日頃の密接なコミュニケーションの項目を入れている。

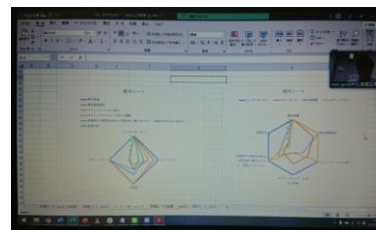


⑤**コミュニケーション**には、リーダーシップ、エンターテインメント、グループマネジメント、インタープリテーション、顧客の期待値への対応、参加メンバーへの観察能力、文化体験への説明、インタラクティブな空気感の醸成などを盛り込んでいる。

インタラクティブな空気感の醸成という点で、アドベンチャートラベルのツアーには余白みたいなこともキーワードとっており、スルーガイドやアクティビティガイド、訪問先で出会う人々からの一方的なコミュニケーションではなく、旅行者に多少余白を与えてガイドと旅行者、旅行者と訪問先で出会う人々やそこで起こることのインタラクティブなやりとりを、黒子的に空気感を作ったり、アシストができるかという点をコミュニケーションに入れている。

⑥**サステナビリティへの配慮**というところでは、地域経済の貢献になっているというニュアンスや自然保護に関すること、関連条例や法案などの知識、文化財や歴史遺産等の保護、使い捨てプラスチック削減の努力なども、一方的に説くのではなく、顧客と双方向のやりとりをして、サステナビリティの行動を旅行者に選択させることができるか、という項目を盛り込んでいる。

以上①～⑥の点数を入れ込み、レーダーチャートにして可視化できるように調整している。



北海道の指標として共有し、スルーガイドの育成へ

「スルーガイド評価シート」は、評価査定としてポイントがついて、総合的に強み、弱み、パーソナリティとしての特徴などが評価シートで出てくる。スルーガイドの評価シートでありながら、旅行会社、ツアーオペレーターの働き具合、関係性、クオリティによってスルーガイドの評価にも影響すると感じる。旅行会社、ツアーオペレーターがしっかりしていないといいスルーガイドが育成できないということ。そういう意味では、関係者全体で作っていく、共同作業になるのではないかと思う。

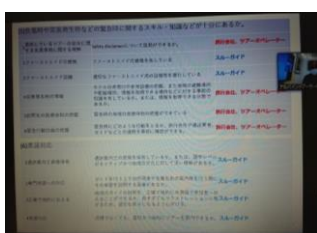
事前準備において、役割の主体がどちらに依存されるかと考えると、事前情報（企画コンセプトから手配内容にいたるまで）は旅行会社、ツアーオペレーターが担う部分なので、ここがしっかりできていないといいスルーガイドの仕事はできないという認識だ。それを理解して、スルーガイドが現場でどのように事前情報を活用するかはスキル次第による。

コミュニケーション能力は、クライアントのコンディション、サイズ、年齢、構成によって引き出しが変わる。スルーガイドの力量に委ねられる。

サステナビリティに対する理解は、環境問題にかかわる点で、アドベンチャートラベルは自然と密接になることや、環境テーマを共有していることが多いので十分な配慮が必要になる。北欧ではプラスチックを使わないようにする動きもあり、ペットボトルはまったく排除され、リサイクル資源で使い捨てできるもので実施している。この「冬のATツアー」の中でどのように体験してもらうか。必要以上に結びつけることはないが、配慮してくださいと注意喚起をしたり、環境保全の活動紹介なども含めて、旅行会社、ツアーオペレーターのほうから事前に提供する。スルーガイドはそこを意識して関わってもらうことだと思う。

災害時の緊急対応は大切となる。旅行会社、ツアーオペレーターが事前に対応方針を定めて、スルーガイドと共有する。緊急時にどこに連絡して、どのような対応ができるかを把握。行程管理、手配内容にそれらの情報を全て落とし込む。手配書の統一モデルがあるとわかりやすい。

英語対応では、専門用語やニュアンスなど英語で伝える難しさも実感している。



評価査定はあくまでスルーガイドだが、旅行会社、ツアーオペレーターがきちんと仕事をして情報を共有し、それを現地で生かすこと。スルーガイドの経験値、現場対応能力、演出能力、個人的なパーソナリティはもちろんだが旅行会社、ツアーオペレーターがしっかりしていないとポイントは上がってこない。高いポイントが備わるスルーガイドを北海道で育成するとなれば、旅行会社、ツアーオペレーターとの共同作業、アクティビティガイドとの連携も含む。行政のバックアップも然り。関係者全体でスルーガイドの育成に結びつけていくことだ。

スルーガイドのスキル

1.ガイドング（案内力）

スルーガイドはガイドをする仕事である以上まず備わっていなければいけないもの。

2.インタプリテーション（解説力）

限られた時間で要領よく説明するという点でテクニックが必要。

3.トランスレーション（通訳力）

ローカルガイドの説明や文化体験の現場での説明を通訳する。初めて会った人の言葉を訳すということは結構時間がかかる。一通り事前に確認しておくことも必要で、そこは旅行会社やツアーオペレーターの役割である。

4.コーディネーション（旅程管理・調整力）

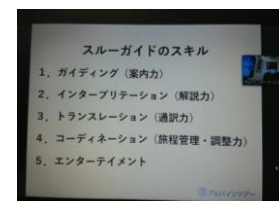
1.～3.をトータルにマネジメントすること。旅程全体では、コーディネーターは旅行会社、ツアーオペレーターがその役割を担うが、現場でのコーディネーション（現場のプロデューサー、予定管理、タイムキーパーとしての調整能力）はスルーガイドが担う。時間配分や内容等、旅行者の立場に立って演出するという意味で、自分が旅行者だったらという目線を持つことも重要。また、アクティビティの場合、往々にして時間がずれるが、予定変更連絡などの役割分担は明確にしなければならない。リスクの判断を含め、いろんな部分で現場での実権を握ることになるが、待ち受ける苦難をクリアにしてこそが、この仕事の醍醐味でもある。

5.エンターテインメント

笑顔で楽しませる要素。笑顔でポジティブに。「あなたの旅が楽しくなるために私がいる」という役割を担う。

スルーガイドは、黒子の仕事に徹すること。地域の登場人物が何を語り、地域の魅力をどのように伝えたいかを引き出すのもスルーガイド。登場人物がいかに輝けるか、旅行者がいかに笑顔でいられるか、総合的にプロデュースできることがスルーガイドの醍醐味と言える。

これからは実地でトレーニングしていく事業も必要。アドベンチャートラベルは体験型の企画である以上、実施するほうも、机上で論じるよりも体験を積み重ねることが大切だ。自分の体験が血となり肉となって完成させていくような仕事だと思う。



モニターツアープラン

「水」をテーマにした6泊7日のツアープランが企画されている。スルーガイドとしてどのような立ち回り、業務対応が出てくるか。豊富なアクティビティに文化体験や食を織り込んで展開するが、時間がずれた時のタイムマネジメント、天気が悪かった時のセカンドプログラムなどいろいろ課題が出てくるかもしれない。12月の実地研修ではいろいろな意見を出しながら課題を掘り起こしていきたいと考えている。



3. スルーガイドの実際

解説するという導入部分を非常に大事にしている。

スルーガイドには、最初にしてもらう話の内容を確認しておく。ここを失敗すると、これから始まる行程内容が的確に伝わらない。

途中の解説も大事。休憩ポイントになる。水分や補助食の補給、身体を休める等、中間のインタープリテーションも大事。旅行者のコンディションを見て、ローカルガイドに対して休憩の提示があってもいい。

解説。教材を用意するケースもありそれぞれ個性がある。解説するときに手元に資料を用意するなど、旅行会社、ツアーオペレーターとの共同作業も出てくる。歴史文化は興味の度合いも違うので、旅行者の顔色を見ながら。察知する能力は大事。地域の人の話をテンポよく翻訳して解説するテクニックが必要。

食事時間の説明。前日に明日の予定を説明する等、予定を伝えるタイミングになる。

アクティビティは端的に通訊。装着等準備の時間、安全運行も含めて。準備の時間はタイムスケジュールに入っていない場合があるので注意が必要。

スルーガイドは、カッコよく。笑顔とスタイリッシュ。

そして、楽しい演出を心掛け、笑顔で終われること。

私たちの魅力を伝えたい、地域のことを知ってもらいたい、そして楽しんでもらいたいという思いを込めた“情熱”を持って取り組んで欲しい。



以上

②スルーガイド研修及び対応手順作成

＜スルーガイド研修・実踏編＞

実施概要

目 的	①モデルコースの現場でスルーガイドの実際の業務内容を理解する ②スルーガイド業務の課題を整理し方向性を確認する
実施日	2021年12月15日（水）～17日（金）
場 所	千歳市～ニセコ町（行程表参照）
感染症対策	本事業の感染症対策基本方針（P6 参照）に基づいた感染症対策を施して実施した。 （利用する施設に協力いただきながら実施した） □ 3密の回避ソーシャルディスタンス確保 関係者同士は最低1メートル以上の距離を確保する。 □ 施設入場時の検温及び消毒液の利用 施設入場時には参加者に検温、消毒の協力をお願いする。 □ 施設内の換気 意見交換会等の会場では定期的に窓やドアを開放（30分間に1回以上、数分程度）する。また、換気設備等による換気を行うとともに、複数の窓やドア等がある場合は二方向開放するなどして、密閉空間を作らないよう徹底させるようにする。 □ マスク着用 すべての関係者がマスクを着用することを原則とする □ 手指消毒 手指消毒を徹底する。 □ 体調管理 発熱ないし普段より体温が高い、あるいは咳・咽頭痛等の症状がある場合、来場を自粛いただく。また、受付時の検温で37.5度以上の場合は、参加をお断りする。 ＜感染リスク回避行動のお願い＞ 感染リスク回避行動への協力を随時アナウンスする。 ○手指消毒のご協力 ○参加時はマスクの着用

参加者 (敬称略・順不同)

氏 名	所 属	役 職
飛ヶ谷 園子	全国通訳案内士（英語・ドイツ語）	
芹澤 健一	アルパインツアーサービス(株)	代表取締役社長
菊池 織絵	北海道運輸局 観光部観光企画課	観光企画係長
藤野 夕貴	北海道運輸局 観光部国際観光課	調査係
越智 綾美	株式会社JTB 北海道事業部 営業第四課	

●オブザーバー（スポット参加）

大宮 裕輔	(一社) 千歳観光連盟	観光課長
小柳 桃	(一社) 千歳観光連盟	観光コンシェルジュ
小野寺 美佳	(株)ニセコリゾート観光協会	旅行グループ マネージャー
川内 俊一郎	(株)ニセコリゾート観光協会	

※視察地協力：千歳観光連盟、ニセコリゾート観光協会

行 程

12月15日 (水)	09:00 10:00 10:50 11:30 12:30 16:00	●札幌発～千歳へ ●千歳神社 ●支笏湖ビジターセンター ●ランチ（しこつ湖 鶴雅リゾートスパ 水の譚） ●支笏湖 クリアサップ体験 ●意見交換会 ＜宿泊／しこつ湖 鶴雅リゾートスパ 水の譚＞
12月16日 (木)	08:00 14:30 15:30 18:30	●イチャンコッペ山 登山 ●入浴 ●ニセコへ移動（車中／意見交換会） ●ニセコール創設者の新谷氏を交えて交流会・地元居酒屋「こびと」にて夕食 ＜宿泊／ニセコ昆布温泉 鶴雅別荘 空の抄＞
12月17日 (金)	09:00 12:00 13:00 15:00 17:00	●スノーシューハーベストツアー（雪中芋ほり） ●バーチツリーカフェにて昼食 ●雪景色ニセコ清流下り ●意見交換会（会場：ニセコ中央倉庫群 創作活動室） ●ニセコ発～札幌へ

行程内容

1日目/12月15日（水）		
時間	内 容	
09:00	●出発 札幌駅に集合後、専用車にて移動開始。車中では本事業受託事業者である、（株）JTB越智より、今回の研修の目的と全体行程を説明。その後AT有識者・芹澤氏より挨拶をいただく。	
10:00	●千歳神社 旅のスタートとして安全祈願を行う、千歳神社に到着。水～雪の循環がコンセプトで、ご神水である幸井の水をいただく予定のため、場所を確認。芹澤氏より、「宗教関係のことを深く話しすぎるのは好まれないため、安全祈願、そして関連する水の神様の話、参拝方の案内で充分」とアドバイスをいただく。飛ヶ谷ガイドは、いつもお客様に絵馬にかかっている内容を2つ程度紹介するが、喜んでいただけると話していた。	 
10:50	●支笏湖ビジターセンター 千歳神社から約30分で、支笏湖ビジターセンターへ到着。レクチャールームにて15分程の映像を見た。6言語より選ぶことができるが、今回は英語を選択。その後ジオラマのブースに移動し、学芸員の方より、支笏洞爺国立公園の説明を受ける。芹澤氏より、映像視聴→館内見学（学芸員の案内）の流れで案内すると良い、そして欧米豪の旅行者には1時間は時間の確保が必要とアドバイスをいただく。	 
12:30	●支笏湖「クリアサップ」 （ガイド会社：オーシャンデイズ） ベースにて参加申込書を記入し、ドライスーツ、ライフジャケット、帽子等のギアを整えてから徒歩で出発。スタート地点では黒岩ガイドより、サップへの上がり方、立ち方、そしてパドルの扱い方のレクチャーを受ける。クリアサップは透明度にフォーカスしたもので、通常の重量の2倍にもなる。ドライスーツとライフジャケットを着用しているため、落下してもかなり体が浮き上がる。最初は川の流れてに沿って穏やかに進むが、後半は来たルートを折り返すため、結構な力を使いパドルを漕いだ。ラストは湖のエリアに入り、出発地点に戻り終了。アクティビティ中のガイディングはほぼ無いため、芹澤氏からは、飛ヶ谷ガイドは同行せず、出発地に残るのが良いとアドバイスをいただく。（水のアクティビティのため携帯等持ち込まない顧客が多いと想定されるため、スルーガイドが代わりに撮影する等）	 

2日目／12月16日（木）	
時間	内 容
09:00	●イチャンコッペ山「登山」（ガイド：工藤嘉高氏） 山岳ガイドの工藤ガイドと駐車場で合流。自己紹介、アクティビティ概要の説明の流れを工藤ガイドと、飛ヶ谷ガイドが練習。日本語⇄英語を1センテンスごとに通訳した。適切な表現や言葉選びを芹澤氏よりアドバイスする場面もあった。想定される質問等も芹澤氏より共有があり、飛ヶ谷ガイドも熱心に聞いていた。準備運動、全員の装備を工藤ガイドが確認、安全面の案内を行い出発。スタート最初は急な坂が続いたが、3合目では右の写真のような支笏湖の雄大な景色を楽しむことができた。 芹澤氏からは、3合目程度でこのような景色を楽しめる山は日本全国探しても稀だと話があった。 3合目から8合目までは、しばらくは緩やかな尾根歩き。途中工藤ガイドが数回、支笏湖の話や森林、野生動物の話などを挟みながら8合目まで到着。8合目にて支笏湖の絶景を楽しみ、ラストスパートの坂道を乗り越え、頂上に到着。 天候に恵まれたため気温も温かく無風で、頂上にて少し休憩する時間があった。芹澤氏からはこういった気候は稀で、たまたま運が良かっただけ、冬のツアーは入念な準備と安全管理が必要だとアドバイスがあった。 
18:30	●ニセコルール創設者の新谷氏を交えて交流会 登山終了後、入浴を済ませニセコへ移動。 ニセコルール創設者である、新谷暁生氏を交えて、地元の居酒屋である「こびと」にて交流会を実施。 

3日目／12月17日（金）	
時間	内 容
09:00	●スノーシューハーベストツアー（ガイド：南 重光 氏） ニセコアウトドアセンターに到着。現在コロナの関係で予約がほぼ無いことから、じゃがいもを雪の下に準備していない。予約が前広にわかる場合は、数週間前に仕込みをしてくださること。 今回はセンター内で写真を使いながら、通常のフローの説明を受け、その後芋ほりを体験する場所を視察（アウトドアセンターのすぐ外）。 そのあと、センターの中でバター&いももち作りを実施。奥様とコミュニケーションをとりながら、楽しい時間を過ごした。 芹澤氏からは、質問をしながらご夫婦のお話も引き出してあげると良いガイディングになるとアドバイスがあった。
12:00	●バーチツリーカフェ（昼食） バーチツリーカフェにてランチ。 地元の新鮮野菜のサラダが好評だった。欧米の旅行者には好まれるメニューとして評価した。
13:00	●雪景色ニセコ清流下り（ガイド：下田 伸一 氏） ベースに到着後、申込書の記入、ライフジャケットを着用し、車にて出発地点へ移動。30分程度の川下り。 川の流に任せて進み、雪景色を楽しんだが、非常に寒い中での体験となった。



意見交換会

12/15

ツアーテーマである「水」との整合性、ユニークなコンテンツであるクリアサップのメリットや商品としての可能性、スルーガイドとしての留意点や立ち位置まで、実踏初日を終えて浮かび上がった疑問や課題について、様々な視点から振り返りを行った。

テーマ・コンセプトとの整合性	「テーマ・コンセプトに沿った内容だったか」 ● 沿っていた。支笏湖エリアには「水」に関連づけられる要素がたくさんあることを再認識できた。 「テーマである『水』とからめた説明はあったか」 ● 千歳川が源流であること、支笏湖と千歳川の関係、水と雪の関係、微生物が少ない水質についてや地域の特徴について紹介があった。
コンテンツの優位性	「サップを体験してみてどのように感じたか」 ● アクティビティの内容としては、体験してみて非常に楽しかったし、思っていたよりも難しくなかった。スムーズにできれば面白いコンテンツになると思う。 ● 透明な水質で湖面の下が見える、水を身近に感じることができる体験だった。 ● 最初のアクティビティはライトなものがいいという面で無難なものだった。 「サップの課題と思われる点はあったか」 ● 商品化されたとき、準備に時間がかかるという点でスムーズに体験できるようにオペレーションの部分の考え方を整理しておくことも必要だと思った。 ● 「ガイドの説明の通訳」を繰り返し、着替えて湖に出るまでに1時間ぐらいかかってしまうかもしれない。 ● 着替えスペースが十分に確保できるか、適切に装着するための段取り等、トラブルにならないような準備が必要だと感じた。 ● 服装の事前準備がきちんとできているかも心配。カヌーのほうがもう少し気軽だと思った。 「サップをアクティビティとして造成する際に改善すべき点はどこか」 ● サイズの大きい人や、ドライスーツが苦しいからやりたくないという人が出てくることも考えられる。外国人は我慢できないタイプの人が多い。 ● サップが怖いとか、スーツが合わないとかという人のために、カヌーが選択できるようにしておくのはどうか。 ● サップ経験者はサップ、敬遠したい人はカヌーとの選択も視野に、旅行者はみんなで一緒に湖に出ることが大事だと思う。 「アクティビティの構成面で感じたことなどはあるか」 ● 支笏湖には雄大な景色があるので、湖畔でのスノーシューハイキングなどもいいのではと感じた。高台にあがれば湖も見下ろせるし、スケールのある魅力を感じた。翌日に登山とは違った趣を感じることができる。 ● 現在カヌーが調整が難しいとのことだが、サップとスノーシューという組み合わせもあるのではないかと考えた。 ● 午後に風が来るという特徴があるならば、午前にサップをやって午後にスノーシューを行う案も考えられる。
ガイドングのポイント	「ガイドスタートからの流れはどうだったか」 ● 導入がとても大事だから、最初のコンテンツ（千歳神社）が空港から距離が近い立地というのがよかった。空港から出発する前に、これから始まるツアーのテーマを説明し、日本の習慣も交えて、水の神に安全祈願をするという流れで考えるとスムーズにスタートできる。 ● 支笏湖ビジターセンターまで30分。日本のこと、北海道のこと、全体の行程、地域の特徴を紹介するという流れで構成できる。 「サップのガイドについて感じたことは」 ● 実際の時にどのような紹介や説明の通訳をしていくか内容を詰めておく必要性を感じたがその点が課題だと思った。

	「スルーガイドはサップ（あるいはカヌー等）と一緒に体験すべきか、待つべきか」 ● 体験しながら（漕ぎながら）通訳する話があるかどうか。旅行者はアクティビティに専念していいのではないかな。また、体験しながら声を飛ばして通訳するのは難しいと思う。 ● 例えばツアーで6人やそれ以上の大勢になったときに、それぞれに距離もあり、得意な人はどんどん進んでいく。スルーガイドが違う場所にいるより、同じサップに乗って一緒にチームとして楽しんでいるほうが旅行者が求めている姿ではないかなと思う。 ● 旅行者5人～6人に対してアクティビティガイドを2人起用もらった方がいいのではないかな。スルーガイドはセットアップのところまでの説明を通訳して、乗らなくてもいいと思う。アクティビティ中はアクティビティガイドに任せる。また体験中のアクシデントの対応を考えても複数体制のほうがいいと思う。 ● 野外プログラムでは、そのときの状況や天候を考えながら判断をすることになる。乗る場合の料金のこともあるので、スルーガイドはオペレーターと事前に確認しておくことが大切だ。 ● オペレーター側も、本当にツアーを楽しむために、現場にいるスルーガイドに判断を委ねる（現場対応）ことではないかな。
スルーガイドのスタンス	「スルーガイドは、食事は旅行者と一緒に摂るのか」 ● 基本的に一緒に食事を摂るようなスタイルがいい。時折、地元の方も交えて食べるいうのを基本にしておくべきだと思う。 ● 日本に古くからある“添乗員ルール”的なスタイルは望まない。一緒に食べることで、旅行者といろいろな話ができるし、親しくなるキッカケになる。 「装備やギアの案内を丁寧にするイメージがあるがアナウンスは頻繁に行うのがいいのか」 ● ATの旅行者は経験値があるので、あまり初歩的なことはいらぬ。むしろ事前情報としてオペレーターとの連携を図って、参加者の経験値等を確認しておくことが大切だ。 ● 明日の天気予報、立地とか標高などアクティビティの現状を伝える。アクティビティの判断についてはある程度のフィジカルレベルのある人たちだから、自分だったらこれが必要だと自主的に用意する。その意味でオペレーターが適切な情報をスルーガイドに提供することが大切だ。 「スルーガイドの大切なポイントは何か」 ● 旅行者のことをしっかりと把握して、きちんと作り込めば、こちらの情報も相手に届くので、来日前にどのような内容で準備をすればいいかというのは理解できる。 ● ガイドはスタイリッシュでなければならない。私たちの魅力を伝えたい、地域のことを知ってもらいたい、そして楽しんでもらいたいという思いを込めた“情熱”を持って取り組んで欲しい。

12/16

イチャンコッペ山の「登山」を終えたあとの振り返りを、次の目的地であるニセコに向かう車中で実施した。ハードなアクティビティのカテゴリーである登山を、安全に進行し、参加者が笑顔で下山するためにはどういう意識であるべきかを中心にディスカッションした。

ガイドングのポイント	「どのタイミングで説明を入れるのが適切だったか、また留意点などはあるか」 ● 足元が気になるアクティビティだから、中途半端なアナウンスはしないこと。その意味で休憩ポイントでの説明が望ましい。今回の実踏で言えば、三合目とか八合目。 ● 要点と時間配分を整理することが大切だ。休憩ポイントは水分補給や発汗による衣服の調整など、いくつか確認することがある。事前にアクティビティガイドと説明する内容について打ち合わせしておくことも必要だ。（最初に地質のこと、次は木々にまつわる話、最後に全体の話など） ● 外国人旅行者はいちいち止まりたくないで、相手の様子を見て説明する内容をアレンジすること。ビジターセンターで説明を受けた後ではあまり細かな説明は不要だと思う。 ● 危ない場面では大きな声でシンプルな表現で。縦列である場合は伝達していくやり方を事前に確認しておくといい。 ● トイレの案内には気配りを忘れないこと。
------------	--

緊急対応	「緊急時にはどう対応をすべきか」 ● アクティビティガイドは対応の仕方を理解している。負傷者（疾病者）の様子を速やかに伝達することが大切だ。 ● 緊急事態や負傷者が出た場合は、オペレーターに必ず連絡する。 ● なにより安全に戻ってくることが一番であることを自覚しておく。
アクティビティガイドとのコミュニケーション	「アクティビティガイドとの向き合い方のポイントは何か」 ● アクティビティガイドに遠慮することはない。言いたいことははっきり言うことが大切だ。 ● アクティビティガイドのキャラクターを的確に把握してプランを練ることも大事。それから事前に打ち合わせすること。アクティビティガイドのキャラクターを引き出す工夫も忘れない。 ● スルーガイドがパフォーマンスを発揮するのはオペレータの能力も関わる。アクティビティガイド、スルーガイド、オペレーターが信頼関係を築いて、チームとして挑む。
その他	「登山というアクティビティで心掛けることは何か」 ● 山岳ガイドという特殊性を踏まえ、専門用語等の語学能力を獲得しておくこと。 ● 日頃から体力づくりを欠かさないこと。

12/17

体験コンテンツの優位性をどのように引き出すか、それぞれの関わり方を議論しながら、発信力、訴求力のあるツアーづくりのための課題を探った。そのうえで、この3日間を通して培った経験を1月のモニターツアーで実証していくことを確認した。

コンテンツの可能性	＜スノーシューハーベストツアー＞ （今回はアウトドアセンター内で写真を使いながら、通常のフローの説明を受け、その後通常芋ほり体験場所を視察しバター&いもち作り体験を行った） 「体験の構成について気づいた点はあるか」 ● シナリオを用意して手順良く説明することが必要だと感じた。 ● 地域の文化紹介という点で、登場人物をクローズアップして紹介することも考えたい。そのことで体験を奥深いものにすることができると思う。 ● バスで向かう途中から、地域の歴史や文化、このあとに登場する人物に触れ、現地につながる流れが良いと思う。 「他のコンテンツとの組み合わせについてどう思うか」 ● 雪のショートコースツアー、戻ってきていも掘りなど、いろいろな構成が考えられる。 ● いもち作り体験の魅力を考えれば、わざわざスノーシューは組み合わせなくてもいいのではないか。 ● おやつとするかランチを持ち込んでテイクアウトすることも考えられるが、体験で食べたあとのランチはきついかもかもしれない。 ● いもを掘ってそこで食すというライブ感、臨場感のあるパフォーマンスをイメージしたい。 ● 掘ったいもをレストランに持ち込むよりも、いもち体験の方が面白い。 ＜バーチツリーカフェ＞（ランチ） 「提供するメニューはどのようにすべきか」 ● リクエストメニューの対応はできるのだろうが、あらかじめ注文しても仕込めない時もある。規模の小さな店なので、店側の負担も考慮することが大切だ。 ● 味が地域で認められているのであれば、店が提供しているメニューでいいのではないか。スムーズに出てきてゆっくり休憩できるほうが旅行者にとってはメリットがある。 ● ATでは軽く済ませるケースも多い。ワンプレート料理も選択肢として考えてもいい。
-----------	--

	＜清流下り＞ 「プログラムの流れに課題はあるか」 ● プログラムの説明、出発前の段取りは手際よくやるのが大切だ。旅行者に何をやるのかイメージづけさせること。 ● 安全面の話、アクシデントの対応も適切に事前伝達する必要がある。世界レベルはもう少し厳しく、丁寧に行っている。 ● 安全面の説明、装備の説明、車に乗るとい、行動の区切りがわかりにくかった。 ● 今日はなんとなく始まってなんとなく終わったという感じが否めない。説明するポイント地点があまりなかった。 ● 事前の情報に行き違いがあったのか、本来のガイドングではなかった。事前の確認が重要であることがわかったので実際の現場で活かしていきたい。 「ATのコンテンツとしての改善点は何か」 ● 使用する車両が古すぎる。エンターテインメント性も意識しなければならない。 ● 乗る前に、こうやるというデモンストレーションがあるといいのではないか。今日は掛け声とかパフォーマンスが何もなかった。 ● インバウンドには作り込みが不可欠。事前の準備が最も大切だ。 ● 川の説明、地理的な特徴の紹介も各説明ポイントで適切に行うことだ。 ● アクティビティガイドは自己紹介をしっかり行うこと。ガイドへの信頼感を感じさせること。情報量と人のチカラをアピールすることが必要だ。 ● この清流下りにSDGsを絡めたストーリーや絶滅危惧種の魚が存在するなど、引き出しがたくさんあるので、しっかりとプレゼンテーション出来る準備を整えること。 ● 欧米で人気のラフティングとの違いを別の視点で差別化が図れるといい。
ニセコルール創設者の 新谷氏の起用について	「今後どういった起用が考えられるか」 ● 当初案は、過去にお酒を酌み交わしながらアドベンチャーについて語るという経緯があり、その雰囲気演出できないかという発想だった。 ● ニセコのレジェンドと言われる人物を、ATの一プログラムに落とし込むのには抵抗がある。 ● ニセコルールを講演会等のプログラムとして学ぶという視点が必要ではないか。 ● フレンドリーな演出でいいのか、もっと重厚なスタンスで臨むべきかもう少し時間をかけて検討すべきだ。 ● モニターツアーでどういった関わりができるか確認することもできる。 ● 今後どういったことが考えられるか引き続き検討していきたい。
3日間全体を通して	「実地研修で実感したことは何か」 ● コンテンツの概要を伝えるというベーシックな部分に加え、あえて体験しない（乗らない）でアクティビティに関わることを確認したサップ、アクシデント時の立ち回り方やトイレのアナウンスの方法がポイントになった登山、文化的な側面から登場人物をクローズアップするハーベストツアー、安全管理をしながら地域の奥深さを語る清流下りなど、様々な角度で研修することができた。 ● 特に山岳ガイドに委ねる部分が大きい登山との向き合い方、文化的体験では積極的にストーリーを引き出す役割としてのシナリオづくりの必要性を実感した。また清流下りでは本来のオペレーションでどう対応していくか、アクティビティガイドとの連携を密にとりながら進めていきたい。 ● スルーガイドはアクティビティガイドとのコンビネーションが大事。事前ヒアリング、コンテンツの魅力の引き出し役、行程を円滑に進行するタイムキーパーと役割は多岐に渡ることが実感できたと思う。 ● 千歳の「水」、ニセコの「雪」をコンセプトに両エリアを組み合わせたダイジェスト版として実施し、スルーガイドがアクティビティガイドと関わる場面を通じて課題を見つけ、方向性を確認するための機会となった。 ● モニターツアーではスルーガイド評価シートを活用する。オペレーター側の準備力も試されることになるので、しっかり対応したい。

以上

②スルーガイド研修及び対応手順作成**＜対応手順作成＞**

スルーガイドのツアーにおけるマニュアルとなる対応手順については、(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会
監修のもと、スルーガイド対応手順書として取りまとめた。
(資料編に掲載)

③AT資料の英語化

<MIC(Minimum Information to Customers)の作成>

本事業で造成した3商品のツアー内容を案内する資料となるMIC(Minimum Information to Customers)を作成した。(資料編に掲載)

ツアー①【千歳・ニセコ合併版ツアー】

Winter Hokkaido Snow & Water Adventure

Winter Hokkaido Snow & Water Adventure



Enjoy everything a Hokkaido winter has to offer at Shikotsu-Toya National Park and Niseko-Shakotan-Otaru Kaigan Quasi-national Park.

In Shikotsu-Toya National Park, known among locals as a "museum of active volcanoes", you'll explore Lake Shikotsu, one of the clearest lakes in Japan. Then you'll experience some of the best powder snow in the world (called JAPOW, short for Japan Powder) on the 1,000m peaks of the Niseko Mountain Range and its surrounding mountains.

This tour takes you face to face with the wonders of water in all its forms, amid a peaceful, silvery-white world that only exists at this time of year. You'll also hear about how people have lived on this snowy land since ancient times. After experiencing Lake Shikotsu from every angle (SUP, mountaineering, hot springs and more!) you'll head to the holy ground of powder snow and see what skiing, snowboarding and snowshoeing is like on some of the best snow in the world. It's an exhilarating encounter with water's circle of life.

1

Highlights:

- Learn about the lives of people who call this area home
- See the clear waters of Lake Shikotsu close up from a clear SUP
- Hike up Mt. Ichankoppe
- Enjoy skiing and snowboarding on JAPOW, powder snow that is the envy of the world
- Relax and recharge the Japanese way at a hot spring

Location:

Lake Shikotsu
Niseko

Main Activity: Hiking and skiing (snowboarding)

Difficulty level: 3/5

Tour Dates: 5 nights 6 days

Pax: Minimum Maximum

Price: JPY

2

Day-by-day Itinerary

Jan. 18 ~ Arrive at New Chitose Airport and travel to Lake Shikotsu

Meet at 12:00pm at arrivals gate 4 on the 1st floor of New Chitose Airport
You will be greeted by the guide who will be with you for the whole tour. If you are unable to get there, please contact ●●●●●●●●.



When everyone has arrived, your guide will tell you more about the tour and then show you to your tour bus. It's a custom in Japan to pray for safe travels, so your first stop will be Chitose Shrine. The deity enshrined here is the deity of food and water. Next to the stars in the main building is Sachi no Miso (Spring of Good Fortune), a holy spring that originates in the forest by the shrine. After experiencing a Shinto prayer ritual, you can collect some in your water bottle. You'll notice that this is a popular spot among locals too.

And then it's off to Lake Shikotsu. This caldera lake was formed by the eruption of Mt. Shikotsu 40,000 years ago, and is Japan's northernmost ice-free lake. The exceptionally high level of purity gives the glittering waters a one-of-a-kind hue known as "Lake Shikotsu blue".

After a good lunch at a local restaurant, you'll head to Lake Shikotsu Visitor Center, where you'll see a video about the lake and find out about the tour from your guide, with dioramas as visual aids. You'll then watch people building ice sculptures for the spectacular Chitose Lake Shikotsu Ice Festival, which is held every January. The stunning sculptures are made with water from Lake Shikotsu.

After that, you'll be taken to Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta, where you'll spend the next few nights. There'll be time before dinner to relax in your room or admire the lake nearby.

Dinner will be a traditional *kaiseki* multi-course meal, made with local seasonal ingredients. Every element, from the color to the size of each helping, is meticulously designed to create a meal as beautiful as it is delicious.

Dinner

Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa
Mizu No Uta
Japanese *kaiseki* meal



3

Day-by-day Itinerary

2 ~ Nanajo Otaki Snowshoe Tour/Lake Shikotsu Clear SUP

After a healthy buffet breakfast at the hotel, you'll set off for the activities you've been waiting for.

The snowshoe tour and clear SUP will give you a close-up view of the clear waters created by the unique natural conditions.

First you'll strap on some snowshoes and head to the Nanajo Otaki waterfall to the south of Lake Shikotsu.

The first 2.5km or so is a straight, flat path. A local guide will tell you all about the nature of Lake Shikotsu along the way. You might even see wildlife such as deer! The deep, dazzling snow and the rows of gigantic trees will make you feel like you've stepped into another world...to say nothing of the icy wonderland you'll be greeted by when you reach the icicle-covered waterfall.

Lunch

Shikotsuko-so

Choose from a variety of great dishes, from Lake Shikotsu's famous kokanee trout to miso ramen and tanteki-nabe made from generations-old recipes.

The miso ramen is a particular favorite that diners keep coming back to.

After lunch, you'll get an up-close view of the glittering "Lake Shikotsu blue" waters of the lake from a clear stand-up paddleboard.

Your drysuit will keep your whole body dry, so you'll stay nice and warm! Your guide will tell you everything you need to know about how to get on the board and paddle.

And then you'll cruise along the coastline of the lake, taking in the mesmerizing view of the crystal-clear waters and the stunning backdrop of the "three mountains of Shikotsu" (Mt. Enniwa, Mt. Ruppashu and Mt. Tarumae).

Whether you stand, sit or lie on your board, this experience will allow you to see this natural wonder from a whole new angle.

Dinner

Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta
Healthy buffet

Activity: Snowshoeing (around 3 hours)
Clear SUP (around 2.5 hours)

Difficulty: 1/5

4

(1)冬季ATツアー造成

Day-by-day Itinerary

Day 3 - Hiking up Mt. Ichankoppe

After fueling up with a breakfast buffet, we'll depart for Mt. Ichankoppe. The name is Ainu for "hole where salmon and trout spawn" (ichan) and "waves" or "river" (koy pet), because salmon and trout apparently spawned here. This mountain stands 829m high, and your hike will cover 480m of it. The first part of the trail is steep, but when you get around 30% of the way up the mountain, you'll be rewarded by a breathtaking view of Lake Shikotsu through the gaps in the trees. Until about 80% of the way up, you'll enjoy a gentle walk along ridges that offer panoramic views of Lake Shikotsu and the surrounding mountains, including Mt. Tarumae. If you're lucky, you might see Ezo deer or black woodpeckers.



We'll have a lot of ground to cover, so lunch will be some backpacking food during a short break. We'll go to buy some on the first day, so make sure you grab something that will keep your energy levels up. (It'll be too cold for origami (rice balls)!) Try some rich mushi-pan (steamed cakes) instead.) After enjoying the view at the summit, we'll head back down the way we came. Please note that we may take a different route (or hike up a different mountain) depending on the weather.

Dinner Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta
Healthy buffet

Activity: Day hike up mountain: 829m high (480m covered),
around 7 hours in total

Difficulty: 3/5

Day-by-day Itinerary

Day 4 - Snowshoeing through Niseko Forest/retrieving potatoes from the snow and making imo-mochi/BBQ in kamakura snow hut

After breakfast, we'll head to Niseko.

You'll see the deep forest around Lake Shikotsu give way to pastoral scenery surrounding a beautiful conical mountain. This is Mt. Yotei, whose natural spring water has nourished the land and allowed local farmers to flourish. Here you'll experience generations-old traditions, including snowshoeing, making imo-mochi (sticky potato cakes) and a barbecue in a snow hut (kamakura).

Your first stop in Niseko will be a local restaurant for lunch. Then you'll spend around two hours walking through Niseko Forest on snowshoes. Look for animal tracks, watch wild birds and enjoy the sights and sounds of the forest in winter. You'll see that although Niseko isn't far from Lake Shikotsu, the snow is totally different. After your walk, you'll keep your snowshoes on and dig for potatoes that are buried in the snow. The ancestors of today's locals figured out that if you store potatoes in the snow, they stay at a constant temperature, and they become sweeter as a result. Once you have enough potatoes, you'll make imo-mochi with your guide's wife and eat them with hand-churned butter and sweet soy sauce—the perfect way to refuel after a busy afternoon.

And then you'll enjoy a barbecue in a kamakura, a dome-shaped snow hut. These have historically been built by populations in Japan's snowiest areas, and have been used in spiritual rituals. You'll enjoy a delicious array of local foods, from venison caught near Mt. Yotei to handmade sausages, Niseko-grown vegetables preserved using the natural winter cold and scallops from Toyoura Bay. You can even try an original juice made by your guide's own family!

Dinner BBQ in kamakura snow hut

Activity: Snowshoeing through Niseko Forest, retrieving potatoes from
the snow and making imo-mochi (3-4 hours)
BBQ in kamakura snow hut (2 hours)

Difficulty: 1/5

Day-by-day Itinerary

Day 5 - Lift access backcountry skiing and piste (slope) skiing

After a good breakfast, it's time for your skiing and snowboarding trip—the highlight of the tour. At Niseko Moirai Ski Resort, you'll enjoy a full-body experience of JAPOW (Japan Powder) snow, some of the best powder snow in the world.

A qualified guide will help you on your backcountry skiing trip.

When we get back to your accommodation, there'll be time to rest and recharge before dinner.

Lunch Individually at ski resort

Dinner Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho
Kaiseki course meal

Activity: Lift access backcountry skiing and piste (slope) skiing
(around 4-6 hours)

Difficulty: 3/5

Day-by-day Itinerary

Day 6 - Return to New Chitose Airport

On your final day, relax until check-out at 11:00am. The hot spring is a great way to recharge after the active few days you've had. We'll meet briefly in the lobby after check-out before traveling two hours to the airport, with a rest stop on the way.

Lunch Local restaurant

Accommodation

Day 1 - Day 4 (4 days/3 nights): Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta

Single Japanese-Western fusion rooms.

• Wi-Fi is available throughout the building.

• Two coin-operated washing machines are available on the 1st floor.

These can be used at any time between check-in (3:00pm on Day 1) and check-out (11:00am on Day 4).

¥300 per wash, ¥100 per use of dryer (30 minutes).
Detergent is available from reception (¥50 for enough for 1 wash)

Day 4 - Day 6 (3 days/2 nights): Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho

Japanese-style single rooms.

• Wi-Fi is available throughout the building.

• No coin-operated washing machines.

What's included

- English-speaking guide for entire tour, guides for each activity
- Activities
- Accommodation (4 days/3 nights)
- Meals (5 breakfasts, 5 lunches, 5 dinners)
- Tour bus from pickup at New Chitose Airport on the first day to dropoff at the airport on the final day

The following charges are not included

- Skiing and snowboarding guides at the resort
- Alcoholic drinks
- Gear rentals (where charges apply)

What we provide

Clear SUP

SUP set, drysuit, neoprene cap, gloves, lifejacket

Nanajo Otaki Snowshoe Tour

Snowshoes, boots

Hiking up Mt. Ichankoppe

Avalanche beacons, probes, shovels, stocks, snowshoes

Snowshoeing in Niseko Forest

Snowshoes, boots, stocks

What to bring

Nanajo Otaki Snowshoe Tour/Clear SUP

Winter clothing (top and bottom, must be warm and easy to move in), ski gear, thermal underwear, fleece jacket, etc.
Winter gloves

Mountaineering equipment

Mountaineering boots, rain gear (suitable for winter), down or synthetic thermal underwear, thick synthetic or wool socks, hat that covers the ears, sunglasses, backpacking food (sweet snack that is easy to eat), backpack (about 30L), water-resistant gloves + change of gloves or linings, spats (gaiters), cold water (500ml), hot water (500ml), sunscreen, standard medication (as well as any medication that you need to take regularly), mask, neck warmer (You will have time to buy backpacking food on the first day of the tour.)

Snowshoeing through Niseko Forest, retrieving potatoes from the snow and making imo-mochi, BBQ in kamakura snow hut

Ski gear, goggles, cap, gloves

Lift access backcountry skiing and piste (slope) skiing

Skiing set (ski boots, stock, skis) (can be rented)
Ski gear, gloves, goggles, hat

Other

Portable toilet/towel

For environmental reasons, please bring a reusable water bottle instead of buying bottled water.
Since water is a key theme of this tour, we'll be drawing water from a spring. Make sure to bring a water bottle!

Cash

(Some small local stores and restaurants may only accept cash. We recommend changing money at an airport in Japan after arrival.)

*If you take medication or use medical equipment such as an inhaler or epi-pen, bring this with you.

Optional

- Camera
- Binoculars
- Sunglasses
- Heating pads
- Sunscreen

Information and Requirements

Dietary Restrictions

If you have dietary restrictions, an allergy to nuts or seafood, or need vegetarian, vegan, or gluten-free meals, please let us know in advance and we will provide you alternatives to the best of our abilities.

Emergency Response Plan

There is mobile phone reception at all accommodation facilities. In the event of an accident, your guide will respond promptly in cooperation with local medical personnel. In the event of problems such as broken gear or minor mechanical problems, please rest assured that we will assist you.

Weather

The Chitose and Niseko areas are located in central Hokkaido, and January is the coldest month of the year. The area averages lows of -7°C and highs of -2°C. You'll be more comfortable in this cold weather if you bring gear such as a down coat or ski gear, thermal underwear, a fleece jacket, a knitted hat, gloves and snow boots.

Reservation & Cancellation Policy

Payment Methods

Trip Price : JPY271,000

Only payments by credit card will be accepted.

The due date for the payment is ●●●●● Please note that payments will not be accepted after this date.

How to pay by credit card

Visa, MasterCard, JCB, AMEX and Diners Club are accepted.

Your credit card statement will show that the payment has been made to JTB Corp., the agent handling registration.

Cancellations

*In the event of a cancellation, your deposit will be refunded after deducting the cancellation fees shown below.

*JTB will refund the remainder of the tour fee within 7 days of the day after cancellation if the refund is requested before the departure of the tour.

*Cancellation fee when notice is given:

21 or more days prior to the departure date of the tour	
8-20 days prior to the departure date of the tour	20% of the tour fee
2-7 days prior to the departure date of the tour	30% of the tour fee
1 days prior to the day of departure	40% of the tour fee
On the day of departure	50% of the tour fee
After the day of departure, or if no notice is given	100% of the tour fee

Disclaimer

Trip Cancellations: JTB reserves the right to cancel or change the itinerary of a tour. In the event that we need to cancel a tour, we will refund 100% of your costs.

Weather conditions are almost never severe enough to warrant canceling a tour; cancellations only occur as a result of truly exceptional events that could not be predicted.

JTB is not responsible for compensating any additional costs such as flights.

Terms and Conditions for Agent-organized Tours

Tour Operator / Contact



JTB Corp. HOKKAIDO Branch
c/o Urban Net Sapporo Bldg. 1-2 Nishi 6-Chome,
Kita 1-jo, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-0001
TEL: +81-11-221-4800
email: jtb-mice@jtb.com

ツアー②【千歳ツアー】

A story told by water Explore Lake Shikotsu and the Chitose area with a local guide!

A story told by water: Explore Lake Shikotsu and the Chitose area with a local guide!



Irankarapte! (That's "hello" in the language of Hokkaido's indigenous Ainu people.)

On this tour, you'll enjoy the nature of Hokkaido by exploring Lake Shikotsu in Shikotsu-Toya National Park.

Japan's northernmost ice-free lake, Lake Shikotsu is so clear that its waters topped the Ministry of the Environment's rankings for best quality lake water for 11 years until 2018. It was formed when water began to accumulate in the depression formed by the eruption of Mt. Shikotsu around 40,000 years ago. Its name reportedly comes from the Ainu phrase *si-kot*, meaning "large sunken area", and the lake has long been a vital water source for people in the Chitose region.

The close connection between Chitose and the waters of Lake Shikotsu sets the scene for this tour, where you'll experience the Chitose-Lake Shikotsu Ice Festival (one of Hokkaido's best winter events) and enjoy activities such as Lake Shikotsu Clear SUP, the Nanajo Otaki Snowshoe Tour and hiking up Mt. Ichankoppe. A local guide will share fascinating facts about the water and nature of Lake Shikotsu and the Chitose area.

You might even see some of the wildlife and birds that live around the lake!

Downtown Chitose is home to Salmon Hometown Chitose Aquarium, which boasts one of Japan's biggest freshwater tanks. Here you can learn about the salmon that live in Lake Shikotsu and the Chitose River, and about the fascinating freshwater ecosystem of northern regions. You can also experience a quintessential part of traditional Japanese culture by taking part in a tea ceremony. Nature is all connected, and you'd be hard-pressed to find a tour that illuminates that connection the way this one does.

1

Tour: A story told by water: Explore Lake Shikotsu and the Chitose area with a local guide!

Highlights:

- Visit Lake Shikotsu Visitor Center and learn about how Lake Shikotsu was formed and the flora and fauna in its ecosystem
- Experience the water (and ice!) of Lake Shikotsu by participating in Lake Shikotsu Clear SUP and the Nanajo Otaki Snowshoe Tour
- Challenge yourself to hike up Mt. Ichankoppe
- Enjoy a glimpse into the ecosystem of freshwater fish in northern waterways like Lake Shikotsu at Salmon Hometown Chitose Aquarium
- Experience an iconic Japanese tradition by participating in a tea ceremony

Locations:

- Lake Shikotsu
- Downtown Chitose

Main Activity: Mountaineering

Difficulty: 2/5

Tour Length: 4 days/3 nights

Pax:

Minimum

Maximum

Price:

JPY

A story told by water: Explore Lake Shikotsu and the Chitose area with a local guide!

Day-by-day Itinerary**Day 1 – Arrive at New Chitose Airport and travel to Lake Shikotsu**

After arriving at New Chitose Airport (CTS), meet your tour guide in the arrival lobby. JAL, ANA, Air Do and Skymark provide direct flights to New Chitose Airport from Haneda Airport in Tokyo.

After everyone has arrived, you'll travel to Lake Shikotsu Visitor Center in your tour bus. At Lake Shikotsu Visitor Center, you'll discover the world inside Lake Shikotsu, learn about the fascinating ecosystem around the lake and find out about the volcanoes in the area that are still active today.

After your tutorial about the nature you're about to see, you'll head to your accommodation at Lake Shikotsu Tsunaga Resort Spa Mizu No Uta. The healing power of water is the central concept of this inn surrounded by nature. Make sure you spend some time in the Welcome Lounge, where you can enjoy the rhythmic sounds of a musical garden device called a *sukinkutsu*, walk along the "path of sound" between the Welcome Lounge and the lounge between the guest rooms and take in the mesmerizing sight of the corridor of water designed after the nearby Chitose River. At every turn, you'll see how water has the power to heal the soul.

After checking in, your tour bus will take you to the spectacular Chitose-Lake Shikotsu Ice Festival. The scene for this legendary Hokkaido festival is set by using sprinklers to create artistic plumes of ice on the banks of Lake Shikotsu. At night, these ice formations are lit up with colorful lights, transforming the area into an otherworldly kingdom of ice. Back at the inn, your guide will tell you about the activities you'll enjoy in the days to come. You'll finish your day with a buffet-style dinner at the inn. The finest ingredients are prepared in a simple yet irresistible style that offers a new take on healthy cuisine. Delectable seafood is prepared in the traditional Japanese *kaiseki* style, consisting of an array of small courses. It's the perfect introduction to Hokkaido's unique food culture. You'll need to rest up after your dinner—you've got a busy few days ahead!

Lake Shikotsu Tsunaga Resort Spa Mizu No Uta (Japanese *kaiseki* meal)

Enjoy delicious Japanese dishes made from local specialties and great seasonal ingredients. The selection of meticulously prepared dishes come together to express the current season in northern Japan, paired with a range of unique Hokkaido liquor including wine, shochu and, of course, local sake.



Activity:

-

Difficulty:

-

Title**Day-by-day Itinerary****Day 2 – Lake Shikotsu Clear SUP and Nanajo Otaki Snowshoe Tour**

Cruise along Lake Shikotsu in Hokkaido's first clear stand-up paddling activity for a full-body experience of the nature you learned about the day before! Your drysuit will keep your whole body dry, so you'll stay nice and warm despite the winter chill! Your clear board will give you an even better view into the depths of one of Japan's clearest lakes, as well as allowing you to admire the stunning scenery from a different angle. You might even see some of the wildlife and birds that live around the lake while you're paddling. And your certified instructor will teach you everything you need to know!

Lunch

After your adventure on the lake, warm up with some piping hot vegan ramen. Those who are familiar with the traditional rich pork bone and slices of roast pork might assume that vegans need to give Japanese ramen a miss, but this ramen is designed to be delicious and flavorful without a single animal product.

After lunch, you'll don some snowshoes and walk straight through fresh snow to the Nanajo Otaki waterfall. Fed by the runoff from Lake Shikotsu and the waters of the Maruyama River (a tributary of the Yufutsu River), Nanajo Otaki is a prime nature spot with breathtaking cefall during the freezing winter months. The walk is about 60 minutes each way, and takes you along the First Longitudinal Forest Trail. The first half of the walk to the waterfall (about 2.5km) is a flat trail through the woods. Look for pawprints left by deer and foxes, listen to the facts your guide will share about the area's nature and immerse yourself in the magical snow-covered scenery. After the tour, your tour bus will take you back to the inn.

Dinner**Lake Shikotsu Tsunaga Resort Spa Mizu No Uta (healthy buffet)**

Simple is best in this healthy buffet made from the finest ingredients. Enjoy a selection of Hokkaido cuisine made from healthy ingredients. The main dishes range from hot and cold seasonal cuisine to chef's choices, with each one designed to draw out the amazing umami taste of the ingredients.



Activity:

Lake Shikotsu Clear SUP (around 2.5 hours)

Nanajo Otaki Snowshoe Tour (around 3 hours)

Difficulty:

1/5

(1)冬季ATツアー造成

Day-by-day Itinerary

Day 3 - Hiking up Mt. Ichankoppe

The third day brings the zenith of the tour—a hike up Mt. Ichankoppe. The name comes from the Ainu for “hole where salmon and trout spawn” (ichan) and “waves” or “river” (kop pe). Standing just 829m high, this mountain is ideal for beginners and intermediate hikers. The first 30 minutes or so is steep, but then the trail levels out into a gentle gradient, passing through the woods with just enough gaps in the trees to catch glimpses of Lake Shikotsu and Mt. Eriwa. When you're about 80% of the way to the top, the view clears, revealing a stunning panorama of Lake Shikotsu, Mt. Eriwa, Mt. Fupushi and Mt. Tarumae. And then you reach the summit, where the view will make you appreciate the vast scale of one of the largest caldera lakes in Japan. The eruption that created Lake Shikotsu took place 32,000 years ago, and Mt. Fupushi, Mt. Eriwa and Mt. Tarumae formed in the millennia that followed, but it's only when you reach a vantage point like this that you can truly see it. The hike takes around 6 hours including breaks. After the tour, your **tour bus** will take you back to the inn, where you'll relax and recharge in the hot spring before heading back to downtown Chitose and checking into ANA Crowne Plaza Chitose.

Once you've checked in, you can enjoy dinner and drinks with your mountaineering guide and the other people in your tour at a local izakaya (Japanese-style pub).

Lunch

Enjoy a hot sandwich and soup while taking in the view from the summit. *It may not be possible to provide this if the weather is poor. Make sure to bring your own packed lunch (sandwiches, onigiri (rice balls), etc.) as a back-up.

Dinner

Sushi/Washokudokoro Hori

Back in downtown Chitose, you'll have dinner at an izakaya in the city. You'll get to make your own hand-rolled sushi, an iconic element of Japanese culture, before enjoying fresh seafood dishes such as sashimi and sushi, along with deep-fried dishes, grilled dishes and a variety of other classic Japanese fare.



Activity: Mountaineering (around 6 hours)
Altitude: 829m

Difficulty: 2/5

Day-by-day Itinerary

Day 4 - Salmon Hometown Chitose Aquarium and Tea Ceremony

On your last day, you'll visit Salmon Hometown Chitose Aquarium, which boasts one of Japan's largest freshwater tanks. The director, who is also the curator, will tell you all about the salmon in the Chitose River and Lake Shikotsu and the ecosystem of freshwater fish in northern regions. With freshwater sea life from around the world, this aquarium has one fascinating sight after another. Your visit will leave you with an in-depth understanding of how Chitose's flora and fauna interact with the waters of Lake Shikotsu.

Lunch

Enjoy a lunch buffet at ANA Crowne Plaza Chitose, made with plenty of seasonal Hokkaido ingredients. The buffet features a mouthwatering selection of meat and fish dishes, complemented by delicious salads and desserts.

After lunch, you'll head to Portom International Hokkaido (a hotel directly connected to the airport) and experience traditional Japanese culture by taking part in a tea ceremony. Tea ceremony is about so much more than the tea itself; it's about enjoying a moment of tranquility while extending hospitality to your guests. As you take part in the ceremony, you'll get a keen sense of the beautiful spirit of hospitality and wabi-sabi (a worldview focused on seeing the beauty in imperfection and accepting the transience of life) behind this ritual.

The tearoom was built under the supervision of the late Masao Nakamura, a leading researcher and former architect and architectural historian of chashitsu and sukiya-zukuri tea rooms, setting the scene for an experience of authentic Japanese hospitality. This is the last item in your itinerary. After the ceremony, you can head across to the airport or explore the area by yourself.



Activity: -

Difficulty: -

Accommodation

Day 1: Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta
Single rooms. Choose between a Japanese or Western room. You can even opt for a room that has a bath with a view or an open-air bath.
- Wi-Fi is available throughout the building.
- Two coin-operated washing machines are available on the 1st floor.
These can be used at any time between check-in and check-out.
¥300 per wash, ¥100 per use of dryer (30 minutes).
Detergent is available from reception (¥50 for enough for 1 wash)

Day 3: ANA Crowne Plaza Chitose
Single rooms.

- Wi-Fi is available throughout the building.
- No coin-operated washing machines.
- Laundry service can be requested at reception (request by 11:00am, finished in the evening).
- Convenience store (FamilyMart) located in the hotel.

What's included

- English-speaking guide for entire tour, guides for each activity (Lake Shikotsu Clear SUP, Nanajo Otaki Snowshoe Tour, hiking up Mt. Ichankoppe)
- Accommodation (4 days/3 nights)
- Meals (4 breakfasts, 3 lunches, 3 dinners)
- Tour bus from pickup at New Chitose Airport on the first day to dropoff at the airport on the final day
- Activities

The following charges are not included

- Lunch on the day of arrival
- Alcoholic drinks
- Travel insurance

What we provide

Clear SUP

SUP set, drysuit, neoprene cap, gloves, lifejacket

Nanajo Otaki Snowshoe Tour

Snowshoes, boots

Hiking up Mt. Ichankoppe

Avalanche beacons, probes, shovels, sticks

Items that can be rented

- Snow gear (tops and bottoms)
- Down jackets
- Gloves
- Snow boots
- Goggles



What to bring

Clear SUP

Winter clothing (must be warm and easy to move in), winter gloves

Nanajo Otaki Snowshoe Tour

Winter clothing (must be warm and easy to move in), winter gloves

Mountaineering

Mountaineering boots, rain gear (suitable for winter), down or synthetic thermal innerwear, thick synthetic or wool socks, hat that covers the ears, sunglasses, backpacking food (sweet snack that is easy to eat), backpack (about 30L), water-resistant gloves + change of gloves or lining, stocks, snowshoes, spats (gaiters), water (500ml-1L), sunscreen, standard medication (as well as any medication that you need to take regularly), mask, neck warmer

Other

Portable toilet/towel

First aid kit

For environmental reasons, please bring a reusable water bottle instead of buying bottled water.

Cash

(Some small local stores and restaurants may only accept cash. We recommend changing money at an airport in Japan after arrival.)

*If you take medication or use medical equipment such as an inhaler or epi-pen, bring this with you.

Optional

- Camera
- Windbreaker
- Binoculars
- Sunglasses
- Heating pads
- Sunscreen

Information and Requirements

Dietary Restrictions

Please let us know in advance if you are allergic to ingredients such as nuts or seafood, or eat a vegetarian, vegan or gluten-free diet.

Emergency Response Plan

Both accommodation facilities have a mobile phone signal. In the event of an accident, your guide will provide assistance immediately, and will contact a local medical facility if necessary. In the event of issues such as broken gear or minor mechanical issues, we will provide support.

Weather

Central Hokkaido is cold with heavy snowfall in January. The average temperature is -4°C with highs of 2°C and lows of -12°C. We recommend wearing warm clothing, including a down coat, thermal innerwear, a sweater, a scarf, gloves, a hat and a neck warmer.

Reservations and Cancellation Charges

Payment Method

Charge for tour: XXX,XXX

Credit card payment only.

Pay by ●●●● Please note that payments cannot be accepted after this date.

Making a payment by credit card

Visa, MasterCard, JCB, AMEX and Diners Club are accepted.

The payment will appear with the name of Chitose Tourist Association, our registered agent, on your credit card statement.

Cancellation Charges

*In the event of a cancellation, the following cancellation charge will be deducted from your refund.

*Chitose Tourist Association will refund the remainder within 7 days from the day after your cancellation if the cancellation was made prior to departure.

*If no notice is given, you will not receive a refund.

21 or more days prior to the departure date of the tour	
8-20 days prior to the departure date of the tour	20% of the tour fee
2-7 days prior to the departure date of the tour	30% of the tour fee
1 days prior to the day of departure	40% of the tour fee
On the day of departure	50% of the tour fee
After the day of departure, or if no notice is given	100% of the tour fee

Disclaimer

Cancellation of tours

Chitose Tourist Association may cancel a tour or change the itinerary in the event of extenuating circumstances.

If your tour is canceled, you will receive a full refund.

It is almost never necessary to cancel a tour due to weather. Cancellations only occur in extraordinary unforeseen situations.

Chitose Tourist Association will not reimburse tour participants for associated charges such as those associated with flight tickets.

Terms and Conditions for Agent-organized Tours

Contact details of Tour Operator

Chitose Tourist Association

3-4-1 Ryusyo, Chitose City, Hokkaido 066-0019

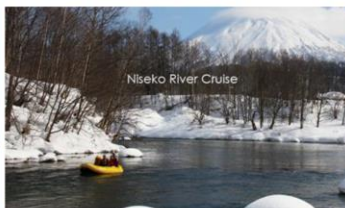
Phone: 0123-24-8818

E-mail:

ツアー③【ニセコツアー】

A story told by water Explore Lake Shikotsu and the Chitose area with a local guide!

Niseko Powder Snow Lifestyle



Itinerary

Day 1:

Arrive at New Chitose Airport → lunch at Meisui Udon Nonosan (subject to change depending on availability. If we are unable to make a reservation there, we will have lunch at Meisui Plaza in Meisui no Sato Kyogoku instead.)

→ Fukidashi Park (bottling spring water) → rafting down Niseko Stream (drink coffee made from the spring water and admire the snowy scenery) → check into Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho → Japanese *kaiseki* dinner at accommodation → spend night at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho

Day 2:

Snowshoeing → lunch at Konayuki TonTon → explanation of Niseko Moiwa Ski Resort at MOIWA834 or the 2nd floor of the lift ticket building → Niseko Distillery (subject to change) → rest at accommodation → dinner at Niseko Loft Club → spend night at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho

Day 3:

Skiing at Niseko Moiwa Ski Resort (If the weather is good, we will go side country (lift access backcountry) skiing. You'll be given Pow Bars, nutrition bars made by a Niseko business.) → lunch in the resort's rest area → rest at accommodation → Japanese *kaiseki* dinner at accommodation → spend night at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho

Day 4:

Niseko Harvest Tour (retrieve potatoes from the snow) → lunch at Niseko Farmer's Kitchen Ponpon (subject to change depending on availability) → New Chitose Airport

1

Niseko Powder Snow Lifestyle

Highlights:

- Skiing (or backcountry skiing if the weather is good) on Niseko's amazing powder snow
- Rafting down stream—enjoy the peaceful winter scenery of Niseko
- Snowshoe tour and a talk about the area's water, snow and rice
- 3-night stay at a secluded hot spring inn with a cozy wood interior and a traditional Japanese style
- Wide range of cuisine featuring local specialties

Locations:

Niseko/Yotei area (Niseko, Kyogoku, Rankoshi)

Main Activities:

Skiing, snowshoeing

Difficulty:

3 or 4/5

Tour Length:

4 days/3 nights

Pax:

Minimum 10

Maximum 15

Price:

10-14pax 380,000JPY/pp 15pax 330,000JPY/pp

2

Niseko Powder Snow Lifestyle

Day-by-day Itinerary

Day 1 – Arrive at New Chitose Airport - Kyogoku - Niseko

After arriving at New Chitose Airport (CTS), meet your tour guide in the arrival lobby. JAL, ANA, Air Do and other airlines provide many direct flights to New Chitose Airport from Haneda Airport in Tokyo. There are also direct flights from airports in Asia and Europe.

Once everyone has arrived, we'll head to Niseko, an area that attracts skiers from around the world with its incredible powder snow. You'll know you're almost there when you see Mt. Yotei, a mountain so beautiful that it was selected as one of the 100 Famous Japanese Mountains. Known as the "Mt. Fuji of Ezo (the old name for what is now Hokkaido)", this stratovolcano stands 1,981m high. You'll get a close-up view when we have lunch at Meisui Udon Nonosan, an udon noodle restaurant at the foot of the mountain. (Travel time from airport to restaurant: Around 1 hour 45 minutes)

Lunch

Meisui Udon Nonosan

Enjoy udon noodles made from 100% Hokkaido-grown wheat and water from the mineral-rich Kyogoku spring, which was selected as one of Japan's 100 Remarkable Waters. Slow-simmered dried skipjack tuna or kelp broth adds the perfect finishing touch. With a traditional Japanese aesthetic and stunning view of Mt. Yotei, this restaurant offers an experience that's about more than just the food.



About udon noodles

One of the most iconic types of noodles in Japan, udon noodles are made by kneading wheat flour with a small amount of salt water. They're eaten in various ways, including *tsuke-udon* (served with broth for dipping) and *kake-udon* (served in broth made with bonito stock and soy sauce).

Backup lunch

Meisui shabu-shabu (Meisui Plaza, Meisui no Sato Kyogoku)
Enjoy shabu-shabu made from Hokkaido pork and lamb. Rice and miso soup is included, and ramen is a great way to finish off the meal.

About shabu-shabu
Shabu-shabu is a Japanese dish featuring thin, bite-sized slices of ingredients cooked by swishing them around in boiling water or soup (the name shabu-shabu describes the swishing motion) and served with a small dish of tare sauce.



Niseko Powder Snow Lifestyle

After lunch, we'll head to Kyogoku Fukidashi Park, around 10 minutes from the restaurant. Here we'll visit a spring formed by decades of snow and rain seeping through the ground of Mt. Yotei, collecting minerals along the way. This is a powerful spring—a staggering 56 tons of water flows from the ground every minute, or 80,000 tons per day. You can bring your own water bottle and fill it from the spring.

And then it's off to Niseko!

The trip will take around 30 minutes, and takes us about halfway around Mt. Yotei. Sit back and admire the view.

Activity:

Rafting down Niseko Stream

Difficulty:

1/5

We'll ease you into your Niseko adventure with a leisurely rafting trip down Niseko Stream, where you can admire the snowy scenery. You'll swap your shoes for some boots, don a life jacket and off you'll go. (Duration: around 1 hour 30 minutes)
After an around 10-minute car trip, you'll arrive at the Shiribetsu River, which received the honor of Japan's clearest stream for seven years running. Away from the hustle and bustle of the world, you can just float in peaceful serenity. There's something so healing about looking at a landscape of snow-covered trees. This isn't an activity where you get wet, so if you wrap up in plenty of warm clothes, you won't even feel the cold! During the activity (either on the boat or at the end), you'll enjoy coffee made with the water we collected from the spring.



What we provide: Boots, life jackets, paddles
What to bring: Winter clothing, hat, gloves, etc.
Not essential but useful: Heating pads

4

(1)冬季ATツアー造成

Niseko Powder Snow Lifestyle

After your rafting experience, you'll be taken to your accommodation.

You'll spend three nights at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho, around 15 minutes from the rafting area. Located at the foot of Mt. Yotei, the Niseko Konbu Onsen hot spring village has been cherished by locals for generations. Your inn has the vibe of a vacation home, with an exquisite traditional Japanese aesthetic and cozy wood interiors with fine grains that tell the story of the trees that were used.



Dinner

Japanese kaiseki meal with seasonal ingredients

Dinner will be a traditional kaiseki multi-course meal. The Niseko area is one of Hokkaido's top rice and dairy farming areas, and a plethora of vegetables are grown here too, and your dinner will showcase the best of the best in an intricately beautiful arrangement. It's an exploration of Japanese culture in the most delicious way. (Please note that this photo is an example only.)



Accommodation

Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho

Japanese-Western fusion room or deluxe twin room (52m²). No smoking in rooms. No coin-operated washing machines. Wi-Fi is available in all rooms, but a signal is not guaranteed in guest rooms. Wi-Fi is available in the lobby and lounge on the first floor. Laptops are also available in the computer area on the first floor, although numbers are limited.

Amenities:

Bath towels, hand towels, samurai (traditional shirt and pants), tabi (traditional socks), TV, fridge, humidifier, tea (black tea, green tea and hui-cha), coffee, fabric deodorizer, stationery, night steamer (nanoCare), cotton pads, hair band, shower cap, hairbrush, washcloth, razor, toothbrush, cotton buds, sewing kit, men and women's lotion, facial milk, cleanser, shaving gel, hair styling product, hair tonic, foaming facial wash, hand soap



Niseko Powder Snow Lifestyle

Day 2 - Niseko Area

After a Japanese-style set meal for breakfast, we'll head out for snowshoeing (20 minutes away).

Activity: Snowshoeing (including a talk about the area's snow, water and delicious rice)

Difficulty: 2/5

When we meet up, we'll confirm everyone's snowshoe and pole sizes and then drive to the Yukichichibu Onsen hot spring village (around 30 minutes). After we arrive, you'll strap on your snowshoes, grab your poles and set off through the snowy forest. The walk is about 1km with a difference of around 30m between the highest and lowest point.

As you make your way through the deep snow of an Erman's birch forest, your guide will tell you about the area's snow and water and the delicious rice that is grown from these water sources.



At the end of the walk, you'll come to Oyunuma, a big hot spring lake. You'll be able to admire it from above before heading down to the lake. What better way to learn about how this area is nurtured by water in its various forms?

What we provide: snowshoes, poles
What to bring: Winter clothing (if possible, wear layers that you can take off when you warm up), hat, gloves, winter footwear (winter boots, snowboarding boots, etc.)
Not essential but useful: Backpack, sunglasses, water bottle, snacks, etc.

Lunch

Konayuki TonTon

This restaurant specializes in tonkatsu (pork cutlets) made from free-range Konayuki TonTon pork from Eco-in Village in the Enwa area of Hokkaido. Crispy on the outside and juicy on the inside, the thick, freshly fried cutlets are a culinary masterpiece.

About tonkatsu

These Japanese-style pork cutlets are coated in layers of flour, beaten egg and breadcrumbs and then deep fried in oil and served with shredded cabbage and sauce.



Niseko Powder Snow Lifestyle

After lunch, we'll head to Niseko Moawa Ski Resort (6 minutes).

Niseko's exceptional powder snow is considered the best snow in Hokkaido, and is famous worldwide. And every skiing and snowboarding enthusiast—and every local—knows that the best place to enjoy it is Niseko Moawa Ski Resort, which receives particularly heavy snowfall. The wide main course is especially popular. The area's unspoiled nature creates a stunning backdrop, and on a clear day you can see Mt. Yotei. (Source: Niseko Moawa Ski Resort website)
Your visit will start with a briefing in Lodge Moawa 834 or the center lodge, where a manager will tell you what you need to know about the resort and its courses.

After an afternoon of skiing, we'll tour Niseko Distillery.

Note: The distillery usually accepts a maximum of 10 people at a time for its tours, although we may be able to ask them to make an exception. If more than 10 people sign up for this tour, we'll divide you into two groups. One group will go to Niseko Moawa Ski Resort and the other will go to Niseko Distillery and then we'll switch. If we're unable to get a tour, we'll visit the distillery's store instead.

Dinner

Niseko Loft Club

Established in 1989, this restaurant specializes in Genghis Khan, a Hokkaido specialty made with grilled lamb. Enjoy fresh lamb and vegetables paired with a range of great wines that perfectly complement the meat. Between the cozy vibe created by the wood interior of the log cabin-style building and the gorgeous view of Niseko's seasonal scenery, you'll want to linger after your meal.



About Genghis Khan

A Hokkaido specialty, Genghis Khan is made by grilling slices of lamb, either plain or in a dani marinade, on a special convex hot plate. Vegetables such as onion, bean sprouts, bell pepper and carrots are also grilled.

Accommodation

Like the previous night, you'll stay at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho.

Niseko Powder Snow Lifestyle

Day 3 - Niseko Area

After a Japanese-style set meal for breakfast, we'll head back to Niseko Moawa Ski Resort (5 minutes).

Activity: Skiing (lift access backcountry skiing)

Difficulty: 4/5

8:30am-2:30pm
At Niseko Moawa Ski Resort, we'll take the lift to the backcountry area for a ski tour. After spending some time in the ski area so that you can get your bearings, we'll head out the gate and explore the powder snow in the backcountry area. We'll choose the course according to the skill level of the people on the tour.



What we provide: Three-piece avalanche kit (beacon, probe and shovel), snacks (Pow Bar, a locally made energy bar that does not contain white sugar, addititives or animal products. Set of 4 flavors.)

What to bring: Skiing equipment (skis, poles and boots), skiing gear, skiing gloves

Other backpacking food, water

Lunch

In the ski resort's rest house

After the activity, you'll have time to rest back at the inn.

The hot spring is a great place to recharge.

Or if you want to do some more skiing, feel free to spend more time at the resort!

Dinner

The last dinner of your tour will be at the inn.

You'll enjoy another kaiseki meal with different dishes, along with delicious local sake.

This relaxed dinner will be the perfect end to the active few days you've had.

(Please note that this photo is an example only.)



Accommodation

Like the previous nights, you'll stay at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho. A relaxing soak in the hot spring, good food and only a short walk to your bed when you're done—that's one of the great things about staying in a hot spring inn.

Niseko Powder Snow Lifestyle

Day 4 - Niseko Area - New Chitose Airport

After a Japanese-style set meal for breakfast, we'll head out for our last activity (10 minutes).

Activity: Niseko Harvest Tour (retrieving potatoes from the snow)

Difficulty: 2/5

9:00-12:00
On this tour, you'll put on some snowshoes, walk through a field (50-100m) and dig for potatoes that are buried in the snow. You'll be digging 30cm-2m in a hole around 2m wide. You'll then take the potatoes back to the facility and make imo-mochi, sticky potato cakes that are a classic Hokkaido dish. First you'll boil and mash the potatoes and then you'll add starch and mold them into balls. After frying them in butter (which you'll churn by hand!), you can eat them with sweet soy sauce.



What we provide: snowshoes, snow boots, shovels, cooking equipment, ingredients
What to bring: Ski gear, warm hat, gloves, goggles or sunglasses

Lunch

Western-style restaurant run by the farmer:

Niseko Farmer's Kitchen Poragon

This restaurant serves inventive dishes made with ingredients from Niseko Omichi Farm and other local sources. Its casual vibe has made it a hit among locals.

Here you'll enjoy great dishes such as salad and pasta made with plenty of Niseko vegetables.



And here's the point where we say goodbye to Niseko. How was your stay? Were there any new discoveries for you? What was the most memorable part? You can chat about all the great things you experienced as we make our way back to New Chitose Airport (2 hours 30 minutes, one restroom stop).

Niseko Powder Snow Lifestyle

What to bring

See the section on each activity in the itinerary.

Other

Towel

First aid kit

For environmental reasons, please bring a reusable water bottle instead of buying bottled water.

Cash

(Some small local stores and restaurants may only accept cash. We recommend changing money at an airport in Japan after arrival.)

*If you take medication or use medical equipment such as an inhaler or epi-pen, bring this with you.

Optional

- Camera
- Sunscreen
- Windbreaker

Niseko Powder Snow Lifestyle

Information and Requirements

Dietary Restrictions

Please let us know in advance if you are allergic to ingredients such as nuts or seafood, or eat a vegetarian, vegan or gluten-free diet.

Emergency Response Plan

Both accommodation facilities have a mobile phone signal. In the event of an accident, your guide will provide assistance immediately, and will contact a local medical facility if necessary.

Weather

Winter in Niseko is very cold with heavy snowfall.
December: Average temperature -3.3°C, average high 0.1°C, average low -7.4°C, 23 days of precipitation (snow)
January: Average temperature -6.3°C, average high -2.5°C, average low -11.3°C, 24 days of precipitation (snow)
February: Average temperature -6.1°C, average high -1.8°C, average low -11.5°C, 20 days of precipitation (snow)
March: Average temperature -2.1°C, average high 2.1°C, average low -7.0°C, 17 days of precipitation (snow)

Be sure to bring snow boots, as the roads will be frozen. We recommend wearing ski gear or other winter clothing such as a down coat. A knit hat, gloves, thick socks, heating pads and similar gear would also be useful.
Also remember that indoor areas will be heated—wear layers so that you can take off your outdoor clothing easily.

Niseko Powder Snow Lifestyle

Reservations and Cancellation Charges

Payment Method

Charge for tour: 10-14 people on tour: ¥380,000 per person

15 people on tour: ¥330,000 per person

Generally, only credit card payments are accepted.

Pay at least 60 days before departure.

Making a payment by credit card
Visa and MasterCard are accepted.

(If you would prefer to pay by bank transfer, please let us know.)

Cancellation Charges

*In the event of a cancellation, the following cancellation charge will be deducted from your refund.

*We will refund the remainder within 10 days from the day after your cancellation if the cancellation was made prior to departure.

*If no notice is given, you will not receive a refund.

61 or more days prior to the departure date of the tour	
60-20 days prior to the departure date of the tour	20% of the tour fee
2-7 days prior to the departure date of the tour	30% of the tour fee
1 day prior to the day of departure	40% of the tour fee
On the day of departure	50% of the tour fee
After the day of departure, or if no notice is given	100% of the tour fee

Niseko Powder Snow Lifestyle

Disclaimer

Cancellation of tours
Niseko Resort Tourist Association may cancel a tour or change the itinerary in the event of extenuating circumstances.

Tour
If your tour is canceled, you will receive a full refund.
It is almost never necessary to cancel a tour due to weather. Cancellations only occur in extraordinary unforeseen situations.
Niseko Resort Tourist Association will not reimburse tour participants for associated charges such as those associated with flight tickets.

[Terms and Conditions for Agent-organized Tours](#)

Contact details of Tour Operator



Niseko Resort Tourist Association (Travel Group)

143-1 Aza Chuo-dori, Niseko Town, Abuta District, Hokkaido
Phone: 0136-44-2468
Fax: 0136-55-5777
Email travel@niseko-ta.jp

34

④海外AT旅行会社へのヒアリング

<第3回アドベンチャートラベル研修会及びワークショップ内で実施>

本事業で実施したワークショップを通じて造成した千歳、ニセコ、両エリア組み合わせの3つの商品案について、以下の3氏にヒアリングを行い、コメントをいただいた。

(内容はP53～53参照)

<商品案についてコメントをいただいた3氏>

モーリン・シーリィ氏はワークショップにオンラインで出席され、直接助言をいただいた。



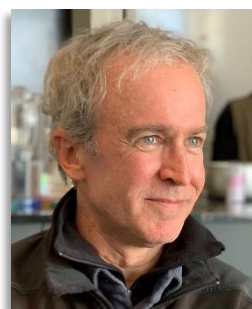
モーリン・シーリィ 氏
【Adventure Travel Trade Association】

アメリカ合衆国、シアトル在住。
元レクリエーショナル・イクイップメント・インコーポレイテッド (Recreational Equipment, Inc.)、略称REI (アール・イー・アイ) アメリカ合衆国のアウトドア (主に登山・キャンプ) 用品店で12年のキャリアを経て、2016年よりATTAのイベントアドベンチャーマネージャーとして勤務。2019年度のATWSスウェーデンにも運営の中核として出席するなど、ATTAが認めるATツアーの基準製作や、ツアーの磨き上げ・アドバイスなどをツアー制作者目線で行える重要なキーパーソンの一人。



ジェイク・フィニフロック博士
【Tru Adventure社】

アメリカ合衆国、アリゾナ州在住。
出身地であるアラスカを主なデスティネーションとするツアーオペレーター経営者であると同時に、心理学・教育学等の学位をカリフォルニアと英国で修了した研究者。現在ATTAのアジアエリア総括部長として、日本を含むアジアにおけるATの潜在的デスティネーションを見出し、世界のアドベンチャー旅行者とアジアをつなぐこと、またアジアと欧米のAT業界関係者間のネットワークを構築・強化し、そのことが世界の環境問題や社会課題等の解決につながることを望んでいる。ATWS2021のPSA制作の際に実際にコースをジャッジしたメイン担当者でもある。



グレン・マリー・プライオア 氏
【Action Culture社】

オーストラリア出身、現在スイス在住。
高校卒業後からすぐに旅行を始め、AJ Hackett Bungyと共同で世界中でバンジージャンプ事業を確立し運営。2004年にスイスに移住し、EF Educational Travelのエグゼクティブとして8年間勤務。2016年には、世界中の目的地への最高のアドベンチャーホリデー、アウトドアコース、エクスペディションの開発と販売を専門とするオンライン旅行代理店としてAction Cultureを設立。北海道でのツアー視察の経験もあり、スイスというウィンターATの本場仕込みの目で、ツアーの評価を行う。

(2) モニターツアーによる検証

①実施内容

実施概要

目的	造成するAT商品の内容について検証する。 外国人有識者を招請し、造成商品で想定する行程内容、アクティビティ等を体験し評価してもらい、造成にむけて課題の整理や方向性の確認を行う。実施にあたっては、スルーガイド起用し英語でのガイディングや行程上での対応内容について評価を行う。
実施日	2022年1月18日（火）～ 23日（日）
場 所	千歳市～ニセコ町（行程表参照）
感染症対策	本事業の感染症対策基本方針（P6 参照）に基づいた感染症対策を施して実施した。 （利用する施設に協力いただきながら実施した） □ 3密の回避ソーシャルディスタンス確保 関係者同士は最低1メートル以上の距離を確保する。 □ 施設入場時の検温及び消毒液の利用 施設入場時には参加者に検温、消毒の協力をお願いする。 □ 施設内の換気 意見交換会等の会場では定期的に窓やドアを開放（30分間に1回以上、数分程度）する。また、換気設備等による換気を行うとともに、複数の窓やドア等がある場合は二方向開放するなどして、密閉空間を作らないよう徹底させるようにする。 □ マスク着用 すべての関係者がマスクを着用することを原則とする。 □ 手指消毒 手指消毒を徹底する。 □ 体調管理 発熱ないし普段より体温が高い、あるいは咳・咽頭痛等の症状がある場合、来場を自粛いただく。また、受付時の検温で37.5度以上の場合は、参加をお断りする。 □ PCR検査 モニターツアー参加者全員（事務局・被招請者）はPCR検査を受けて陰性を確認した上で現地へ赴く。 <感染リスク回避行動のお願い> 感染リスク回避行動への協力を随時アナウンスする。 ○手指消毒のご協力 ○参加時はマスクの着用

被招請者

ロバート トムソン氏 <北星学園大学 文学部英文学科 専任講師>

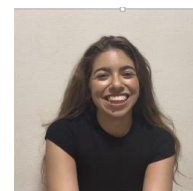
北海道に10年間在住のニュージーランド人で北星学園大学の専任講師（専門：メディア・コミュニケーション）。北海道のアウトドアルート情報を英語で紹介する非営利ウェブサイト「HokkaidoWilds.org」を2018年に立ち上げ、外国人を対象に、積極的に道内の登山ルートなどを取材し発信している。また、スケートボードによる最も長い旅のギネス世界記録（12,159km）を保持しており、日本からスイスまでの12,000kmを自転車で走破したこともある。



ミカエラ ナシメント・ダコスタ氏

< (株)JTBグローバルマーケティング&トラベル 営業・商品造成担当 >

2018年JTBGMT入社。ブラジル人。イペロアメリカ営業部にてスペイン語・ポルトガル語圏市場の旅行会社に対するレジャー団体ツアーの企画造成、販売を行う。スポーツ全般が好きで、トレッキング、ウォーキング、サイクリングに耐えられる体力あり。海外旅行会社に、日本のATツアーの魅力を伝え、販売を拡げていきたいと強い思いを持つ。ポルトガル語、スペイン語、日本語、英語のマルチリンガル。



行程

【ツアーストーリー】

旅の舞台は、北海道の冬を満喫する事ができる支笏洞爺国立公園と、ニセコ積丹小樽海岸国定公園の中に位置するエリア。

「生きた火山の博物館」とも言われる国立公園の一部を担う支笏湖は日本随一の透明度を誇り、ニセコ連峰を中心とした1,000m級の山岳地帯には、世界が羨む極上の雪「JAPOW（Japan Powder）」が存在する。

最高の水質、雪質の中で体験する冬のアクティビティは、夏には決して見ることでできない白銀と静寂の世界で参加者の心身を癒す最高の経験を演出する。また、古来よりこの地に根差してきた人々の雪国の暮らしにも寄り添う。

ツアー前半は、SUPや登山、温泉等から支笏湖の「水」を体感し、後半ではパウダースノーの聖地であるニセコにて、スキー・スノーボードやスノーシューを通じて、世界でも有数の雪質を体感し、水から雪への自然の循環を体感することができる。

1月18日 (火)	●新千歳空港集合 ●千歳神社 ●昼食（支笏荘） ●支笏湖ビジターセンター ●氷濤祭り 氷像制作見学 ●ウエルカムパーティー <宿泊：しこつ湖鶴雅リゾートスパ 水の舘>	1月21日 (金)	●湧水の里 真狩豆腐工房 ●昼食/魚一心 ●スノーシューハーベストツアー ●かまくらBBQ <宿泊：チャトリウムニセコジャパン>
1月19日 (水)	●七条大滝スノーシュー／昼食 ●千歳川クリアSUP <宿泊：しこつ湖鶴雅リゾートスパ 水の舘>	1月22日 (土)	●リフトアクセスバックカントリースキー／スノーボード <宿泊：チャトリウムニセコジャパン>
1月20日 (木)	●イチャンコッペ山 登山 <宿泊：しこつ湖鶴雅リゾートスパ 水の舘>	1月23日 (日)	●昼食/バーチャツリーカフェ ●新千歳空港解散

行程内容

1日目／1月18日（火）	
時間	内 容
12:00	●新千歳空港集合 トムソン氏、ダコスタ氏が新千歳空港に到着。事務局（株JTB）より、今回のモニターツアーの目的を説明。その後スルーガイドの飛ヶ谷ガイドより、本ツアーのストーリー（水から雪のテーマ）を説明し出発。
12:30	●出発 旅の始まりである、千歳神社にむけて出発。 千歳神社に到着するまでの10分程度で、千歳神社と「水」の関わりを飛ヶ谷ガイドからガイディング。
12:40	●千歳神社 旅のスタートとして安全祈願を行う、千歳神社に到着。飛ヶ谷ガイドから日本の神社についての一般知識、参拝方等をガイディングしながら、参拝し、絵馬を見学。合格祈願や恋愛のお願いなど、書いてあるお願いごとを複数紹介。 水～雪の循環がコンセプトのため、最後にご神水である幸井の水をマイボトルに頂いた。トムソン氏、ダコスタ氏ともにとても飲みやすいと話していた。
13:30	●昼食/支笏荘 途中コンビニで登山用の携行食を購入。専用車にて30分移動し支笏荘に到着。 支笏荘は、先代から受け継ぐ自家製の味噌を使った味噌ラーメンが絶品で地元の評判店ということで選定した。トムソン氏、ダコスタ氏ともに、オススメの味噌ラーメンを注文。全体的な味としては満足されていた。欧米の方にとって座敷の席は難しいため（到着してすぐは特に）、必ずテーブル席に案内するようにアドバイスをいただく。
14:30	●支笏湖ビジターセンター 昼食後は徒歩で支笏湖ビジターセンターへ。レクチャールームにて15分程の映像を視聴。6言語より選ぶことができるが、今回は英語を選択。その後ジオラマのブースに移動し、学芸員の方より、支笏洞爺国立公園の説明を受ける。トムソン氏、ダコスタ氏共に熱心に案内を聞いており、周辺の木や生息する鳥などを想像しやすいと話していた。また、トムソン氏は施設にある大きな窓に注目。支笏湖が一望できるこの窓を、もっとアピールするとイメージがオーバーラップしていいのではないかと話した。

時間	内 容	
15:30	●氷濤祭り 氷像制作見学 ビジターセンター見学後は、徒歩で1月末より開催予定の氷濤祭りの会場へ。千歳観光連盟の大宮氏のガイディングの元、ヘルメットを着用し氷像制作中の会場を見学。水しぶきを吹きかけて制作、その水は支笏湖の湖水であること、昨今は美術館をイメージしたお祭りであること等を説明。	
18:30	●ウエルカムパーティー 夕食は宿泊先のしこつ湖鶴雅リゾートスパ水の調にて、懐石料理。本来は旅のはじまりのウエルカムパーティーの予定であったが、コロナ禍での実施のため最小限の関係者で実施。	

1日目/1月19日(水)		
時間	内 容	
09:00	●七条大滝スノーシュー/昼食 各自で朝食後集合し、本日お世話になる体験事業者のオーシャンデイズへ。専用車にてスタートポイントまで移動し、まっすぐに続く道を歩いた。七条大滝付近からはロープにつかまりながら、少し急な斜面を歩き進めた。トムソン氏、ダコスタ氏ともに滝の絶景はとて良かったと話しており、ダコスタ氏は多くの写真を撮影していた。今回は結局スノーシューを使用しなかったため、二人からは「スノーシュー体験」と書いていて、スノーシューを履かない場合はクレームになる可能性もある、また歩く所があらかじめ作られた道だったことも少し残念とアドバイスをいただく。	
11:45	お昼は宿泊している水の調にて千歳バーガーを食べた。千歳バーガーは、北海道で1番の鶏卵生産量を誇る千歳の卵を使って「はさむ、包む、巻く」バーガーで、千歳イチオシのご当地グルメ。まだツアー序盤なので、全てのお料理がチャレンジングであるよりは、こうして欧米人が食べなれているハンバーガー等は喜ばれる、でも男性だと少し足りないのでポテト等も付けると良い、とトムソン氏が話していた。	
12:30	●千歳川クリアSUP 昼食後は、クリアSUPを体験。まずは黒岩ガイドのサポートを受けながら、全員ドライスーツを着用。トムソン氏はドライスーツのクオリティーがかなり良くて嬉しいと話していた。徒歩で移動し、支笏湖を源流とする千歳川へ。出発前にガイドからSUPの乗り方やパドル操作の説明を念入りに行い、アクティビティーがスタート。今回はガイディングの検証のため、オーシャンデイズ板谷代表からの案で、スルーガイドの飛ヶ谷ガイドはクリアカヤックに乗った。(SUPよりクリアカヤックの方がコントロールしやすいため) 片道800mの千歳川を折り返すと、ファイナルの支笏湖へ。トムソン氏は自ら飛び込み支笏湖を満喫していた。また、ダコスタ氏はグループの方で最後になってしまったが、黒岩ガイドが近くに来てくれて安心したと話していた。	 

3日目／1月20日（木）		
時間	内 容	
09:00	●イチャンコッペ山 登山 朝食後専用車で出発、山岳ガイドの石黒ガイドと駐車場で合流。 自己紹介、登山ルート等1日の流れを説明。石黒ガイドが確認しながら、安全のため全員がビーコンを装着。出発場所まで移動し、スノーシューを履き、準備運動をし出発。寒さもあるため、お昼休憩はとらず、休憩を途中挟みながら登り進めたが、今回予定していた時間内に全員で頂上まで行くのは難しく、右の写真のように支笏湖の景色が楽しめるスポットで折り返した。トムソン氏、ダコスタ氏からは、全員の歩幅をしっかりと見ており、プロフェッショナルなガイドであったが、もう少し支笏湖と絡めた話を聞きたかったという声もあった。また頂上まで行かない可能性がある場合は、アイテナリーに明確に書く必要があるとアドバイスをいただく。	 

4日目／1月21日（金）		
時間	内 容	
11:00	●湧水の里 真狩豆腐工房 支笏湖から次の舞台であるニセコへ移動。途中真狩豆腐工房へ立ち寄り、旅の切り替えとして、再度マイボトルに湧き水を頂いた。店舗では夕食のお豆腐を購入。	
11:30	●昼食／魚一心 専用車で移動し、昼食の寿司店へ。魚一心は寿都町から直送された新鮮な海産物が堪能できる。洗練されたデザインと店内の大きな寿司カウンターが特徴で、外国人が気に入るだろうと判断し選定した。トムソン氏はお寿司、ダコスタ氏は煮魚のランチセットを注文。入った瞬間に出迎える大きなカウンターで食べたり、写真が撮れると、欧米人はとても喜ぶとアドバイスをいただく。	
13:00	●スノーシューハーベストツアー 昼食後は、ニセコアウトドアセンターへ。南ガイドからツアーの流れの説明があり、靴を履き替え専用車にて出発。まずはすぐ近くの曽我森林公園にて1時間ほどスノーシュー体験。雪が積もっているからこそ歩けるルートだと聞き、ダコスタ氏は大変楽しんでた。 その後、ニセコアウトドアセンター敷地内にて、トムソン氏、ダコスタ氏は2名とも一生懸命雪の中を掘り、芋ほり体験を行った。今回オペレーションの都合で、自らが掘った芋でいもちを作ることが今回はできなかったが、2名からとても良い流れのアクティビティだとコメントをいただく。一日を通して食べる量が多かったので、いもちの量を調整した方が良いという課題も見つかった。	  

時間	内 容	
17:00	●かまくらBBQ ハーベストツアー後は、専用車にて移動しかまくらBBQへ。ガイドの阿南ご夫婦がアイヌ模様の焚き火台やタープ等準備して、出迎えていただいた。メニューは阿南ガイドが羊蹄山周辺で捕獲した鹿肉、手作りソーセージ、豊浦湾ホタテ等、周辺で取れた食材を満喫できるものだった。特に奥様が手作りしている自家製のシソ、ブラックベリー、ウメ酵素ジュースも大人気で、色々と飲み比べて楽しんだ。阿南ガイドも食材を焼きながら、鹿猟の話や地域の話をしてくださり、交流を深めることができた。トムソン氏、ダコスタ氏からは、かまくらにずっといるのは寒いため、参加者も準備に参加できるとより一層楽しめるとアドバイスをいただく。また、かまくらの前につけるタープももう少しかまくらとマッチしたものだ、写真映えもするのではないかとコメントがあった。	   

5日目／1月22日（土）		
時間	内 容	
08:45	●リフトアクセスバックカントリースキー／スノーボード 世界に冠たるパウダースノーが楽しめるニセコのスキー・スノーボード体験で、極上のウインターアクティビティの機会を演出した。降雪量が多く、水分量の少ない雪質を堪能するために世界中から多くのスキーヤーが訪れる理由を、五感を通して感じてもらうことこそ、このツアーのハイライト中のハイライトと言っても過言ではない。 ホテル出発後、専用車にてニセコモイワスキーリゾートへ。トムソン氏がリフトアクセスバックカントリー、ダコスタ氏がゲレンデでスノーボードを体験。堀江ガイドからトムソン氏へ、スキー場のゲートやルートを地図を使いながら説明し、出発。トムソン氏は普段ガイドなしでバックカントリースキーを楽しんでいるが、「こうしてガイドをつけると、限られた時間でルート等を自分で考えずに安心して楽しむことができた」とコメントをいただいた。 またダコスタ氏もゲレンデではあるが、森林の中の滑走は、圧雪が少なく極上のパウダースノーでフワフワの斜面を滑り降りる感覚が心地よかったことと、自然に雪が積もったままの雪山を滑るバックカントリーをしている気分が味わえたとの感想があった。	 

6日目／1月23日（日）		
時間	内 容	
12:30	●昼食／バーチツリーカフェ 本来のツアーはレイトチェックアウトをし、そのまま新千歳空港に向かう予定。今回は午前に残りのアセスメントや全体の意見交換会を実施。複数回各アクティビティのアセスメントを行っていたが、全体の流れでトムソン氏、ダコスタ氏よりコメントをいただく。 その後、バーチツリーカフェにて昼食。落ち着いた雰囲気の中で新鮮野菜とセンスのいいプレート料理を提供するニセコ地域イチオシのカフェで、最終日の締めくくりとした。 本ツアーに同行した井岸ドライバーと一緒に昼食。井岸氏は安全安心な運転はもちろん、各地の現場において効率よく段取りがとれるようにサポートにも前向きで、本ツアーの“チームの一員”として被招請者とも交流を深めることとした。地域のこと、これまでの経験のことから、観光ガイドの資格の話題まで意見交換をしながら楽しい時間を過ごした。 トムソン氏からは、料理については男性だと少し量が足りないのもう少しバケットが多い方が良いとアドバイスをいただく。	 
17:00	●新千歳空港解散 専用車で新千歳空港へ。飛ヶ谷ガイドからツアーのまとめをし、終了、解散。	

②コンテンツの評価

モニターツアーを通して、被招請者が実際に体験したコンテンツについて評価・深堀りを行った。各コンテンツについては、本事業で定めた指標に基づいてポイント化して整理した。これらは、今後ツアー造成にあたっての基礎資料として活用する。

1 アクティビティの評価を、これまでのAT事業等で得た知見をもとに、以下の11項目の評価点に分類、各10ポイントを上限としポイント化し、その平均値をグラフ化した。

インフラの適切さ	販売準備完了度
楽しさの品質	健康さ
保護・保全	挑戦
ユニークさ	おすすめ度
本物らしさ	安全性
地域への経済貢献	

そのうえで、アドベンチャートラベルにおける各コンテンツの可能性や優位性について、評価ポイントと改善ポイントを記載した。

2 食事と宿泊については、1と同様の観点で、食事10項目、宿泊8項目で評価した。

<食事>

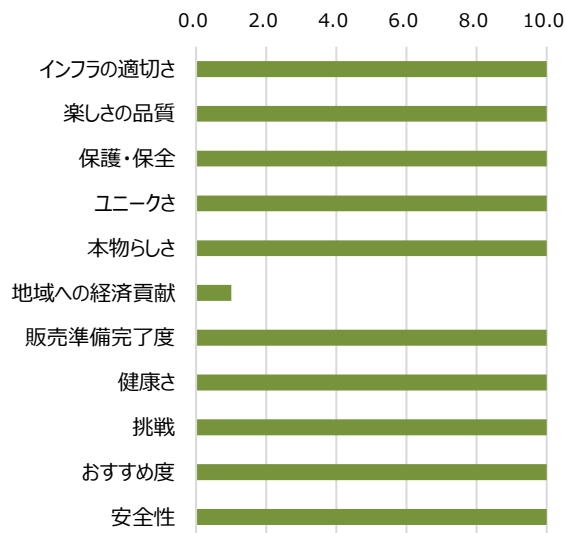
Quality	料理と飲み物の味
Presentation	タイミング、温かさ、お皿、グラス、カトラリーを含む飲食物の盛付・品質
Story / Expranation	レシピや食材などのストーリーの説明
Ambience	レストランの雰囲気
Uniqueness	食事のユニークさ、その地ならではの感じられる度合い
Local ingredients	地元食材の利用
Wellness	味や食材の育てられ方などの話から健康を感じられるか。
Consideration	ヴィーガン、ベジタリアン等などの食事制限への配慮があるかどうか
Acceptance	AT顧客が受け入れることができるものか。（動物福祉、宗教、文化の視点など）
Cost acceptance	コストパフォーマンス

<宿泊>

Room	部屋の設備、清潔さ、広さ等
Location	立地の観点。静かにくつろげるか、体験までのアクセスなど。
Staff & Communication	スタッフの対応や会話やコミュニケーションなどの観点
Atmosphere	ホテル全体の雰囲気など
Local Benefits	地域への経済的貢献が大きいと感じるか
Breakfast	朝食のチョイスの幅やボリューム、味など
Sustainability	ゴミやCO2の観点
Appropriateness for AT customer	全体をとおしてAT顧客むけと感じるか。問題ないか。

アクティビティ 編

千歳神社



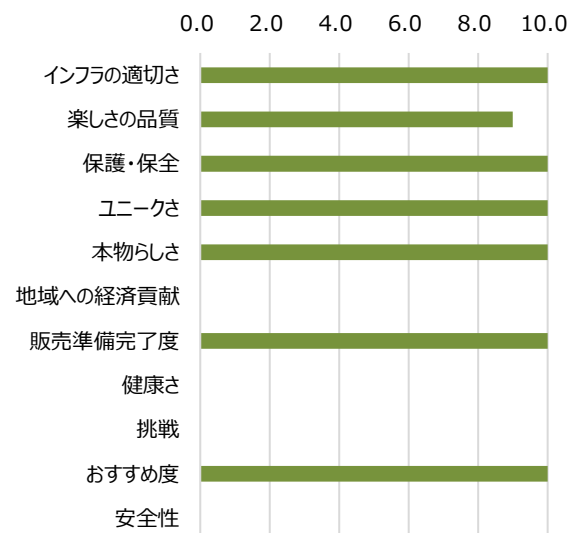
評価ポイント

- 日本の文化が感じられた。
- 旅のスタートの訪問先として良かった。
- 地域の方も利用されていることが理解できた。
- 雪に覆われた神社が幻想的だった。
- 雪や氷の凍てついた感じが良かった
- 興味が沸いて体験しようと思えた。

改善ポイント

- 湧き水に抵抗がある人もいるので説明が必要。
- 無宗教の人には、心を開けないと楽しめないが、楽しむコツを見つけ出すことができるか。

支笏湖ビジターセンター



※空白は評価対象外

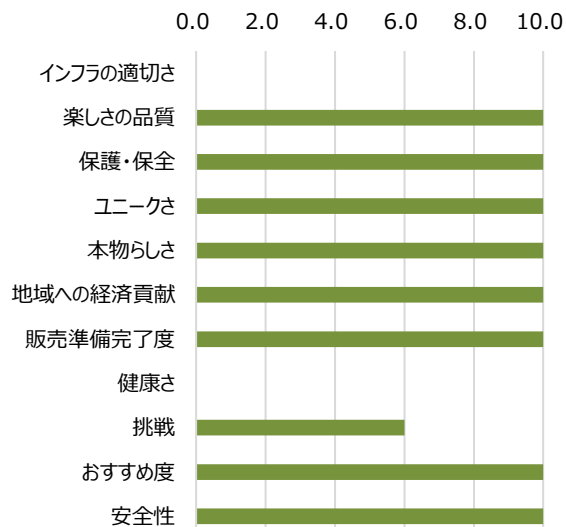
評価ポイント

- ビジターセンターとしては機能がしっかりしている。
- 人を教育していこうという姿勢がある
- ユニーク：噴火の経緯、模型、湖が見えるから大きい窓をもっと紹介してあげたい。
- 木とか鳥とか想像しやすい。
- 身近な人が作っているように感じる。
- 駐車場の一部のゴミ管理などをしている。
- 最初にビジターセンターで学ぶことは良い。

改善ポイント

- 自由に見るだけではつまらない。何か工夫があればいい。

氷濤まつり見学



※空白は評価対象外

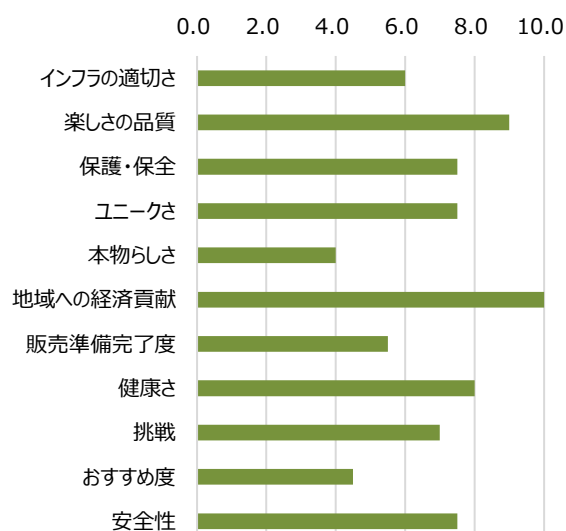
評価ポイント

- 服が凍っていたのに気づいた。凍っているのが驚きであり楽しさでもある。
- 雪まつりとまた違った雰囲気の良い。吹きかけた氷は味があってまた良い。
- 色をつけてないのに青く見える。本物らしさを感じた。
- 時差ぼけの中でのリフレッシュのアクティビティに良い。
- フィンランドとかロシアとか、高緯度な国じゃないと楽しめないユニークさ、本物らしさが良かった。

改善ポイント

- 地元の人たちと水の関わりをもっと知りたい。
- 地元ガイドとの関わりもあると良い。
- 単体で受け入れる場合はバックヤードツアーのような工夫が必要（付加価値）。
- 氷濤の中に入れるなど特典があれば魅力を実感できる。

七条大滝



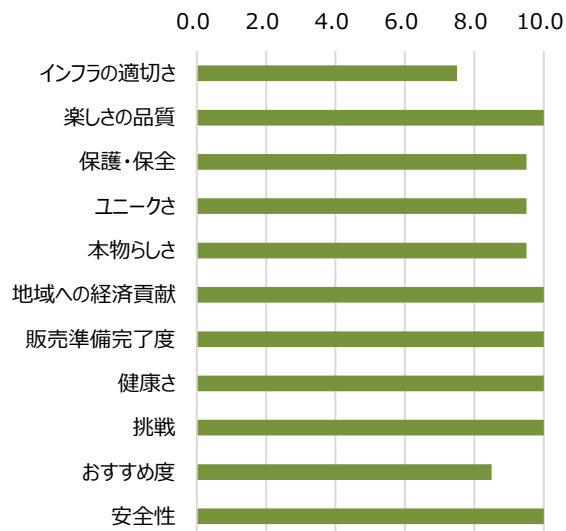
評価ポイント

- 滝は感動した。滝の景色と虹が見えたのが良かった。
- 写真も人気があると思う。
- 崖はチャレンジングだった。
- 雪質を感じられるアクティビティだった。

改善ポイント

- 仮設トイレ等が無く整備が不十分に感じた。
- 雪の中でトイレしたことない人にとっては抵抗がある。
- 道路を歩くのは残念。森の中を歩きたかった。
- なぜ国立公園なのに植林（手を加えている）しているのか説明があったほうがいい
- 行程に「スノーシュー」と記載しているのにやらないのはクレームの対象になる。

クリアSUP



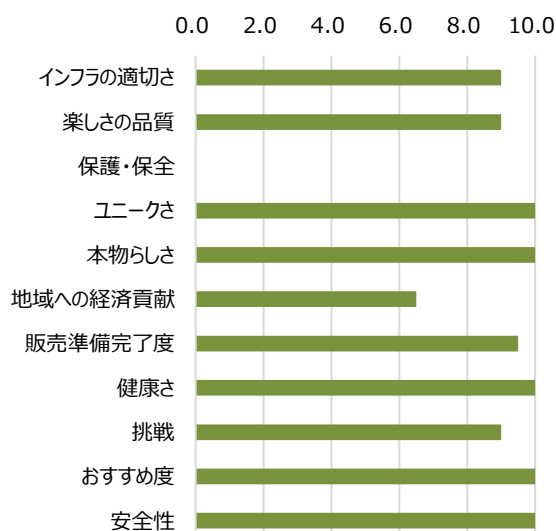
評価ポイント

- ドライスーツのクオリティが良かった。期待していたドライスーツよりはるかに良かった。
- 初めてだったが、湖の水がきれいでした。
- 立つことにプレッシャーはなく楽しかった。
- 湖に出られてよかった。
- 立ち方、漕ぎ方にガイドが適切な対応をしてくれた。

改善ポイント

- ユニークではあるけど、事前情報は大きな印象を感じた。日本国内にはウケると思う。
- ニュージーランドでは関心の対象となるようなセールスポイントが少ないと思う。
- 明確な目標、SUPの乗り方を習う等が必要だ。

イチャンコッペ山登山



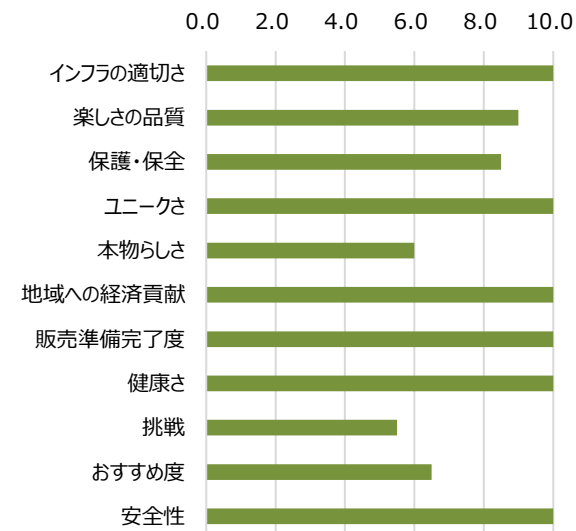
評価ポイント

- 手軽に良い景色が見える、初めてスノーシューをやった人にとっても良い。
- 皆が使っている登山道ではなく、少し裏道をあえて通る「特別感」があった。
- 安全管理の面でプロの良いガイドだった。
- 絶景。周りにこんな景色はなかなか無い。
- 日本海と太平洋が一緒に見えるのがいいと思った。
- 世界的にも通用する
- 手が加わっていないのがいい。(自然)
- 登山のあと温泉に入れる。

改善ポイント

- 理想は登山口にトイレがあること。
- ガイドの説明に支笏湖全体の歴史とかもあってよかった。
- スノーシューや雪山で歩く人間としての体験話をもっと聞きたかった。
- 外国人はウォーミングアップなしのまま、準備体操と称していきなりストレッチはびっくりするので、日本文化としてスルーガイドが紹介すると良い。

スノーシューハーベストツアー



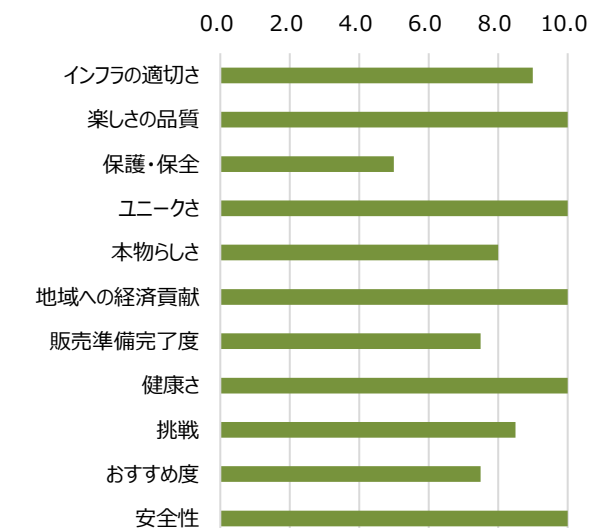
評価ポイント

- スノーシューは豪雪地帯の壮大な雪が感じられ、雪質の違いも実感でき良かった。（支笏湖とニセコの雪質の違い）
- スノーシューの歩き方についての説明がすごくよかった。
- いももちと紅茶との相性が抜群だった。
- 深い雪を掘る体験は特別な経験、楽しかった。

改善ポイント

- スノーシュー経験者には簡単すぎるアクティビティだった。
- 旅全体で考えたときに、スノーシューを2回やるのはどうか。
- 雪の中のいもほりは少しわざとらしさを感じた。
- いももちを食べる際、割り箸を使っていたのが環境配慮の点で残念だった。
- いももちの量が少し多い。（1日の流れを考えた時）
- 自分で取ったじゃがいもで、いももち作りができればよかった。

かまくらBBQ



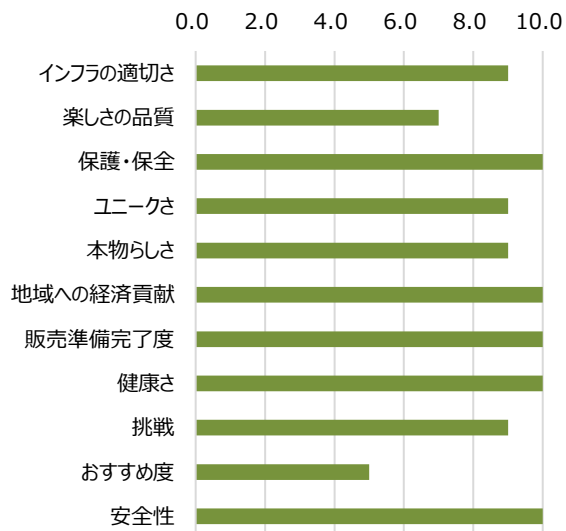
評価ポイント

- 地元の食材を用意していて、良かった。自家製のジュースやガイドがとってきたシカ肉、湯豆腐はとても良かった。タイミングも○、
- 添加物ゼロを感じた。
- イグルーではなく、雪を掘ったかまくらは、欧米人にはユニーク。
- かまくらの中の雰囲気はよかった。

改善ポイント

- 環境配慮の点で、紙皿、紙コップが残念だった。
- もうちょっと雰囲気や特別感があると良い。例えば、かまぐらの入り口がもっと見えるように、タープがキャンパスの素材などの少しおしゃれなものにできると良い。灯油のランプとかもつるのも良い。
- 食材の好みになるが、もう少しユニークな食べ物があると良いと感じた。これで8000円だと少し物足りない印象だ。

バックカントリースキー



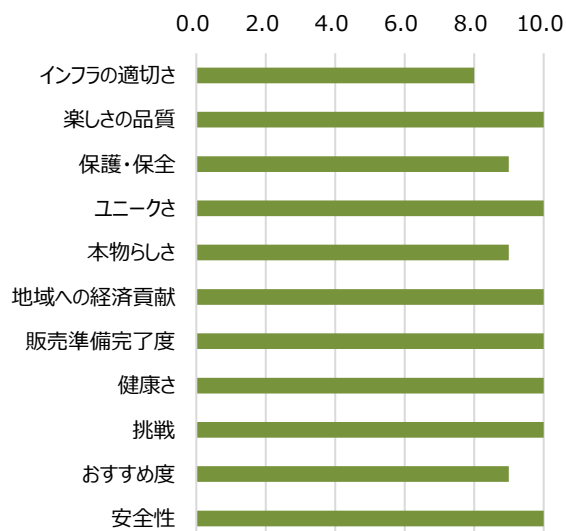
評価ポイント

- ニセコのパウダースノーを体感できた。
- ガイドをつけると、限られた時間でルート等を自分で考えずに安心して楽しむことができた。限られた時間の中で楽しむのであればとても良いと感じた。

改善ポイント

- ニセコのスキー場全体でいえることだが、世界基準というコース、景観にやや物足りない印象もある。

スノーボード



評価ポイント

- 圧雪が少なく極上のパウダースノーでフワフワの斜面を滑り降りる感覚が心地よかった。
- 自然に雪が積もったままの雪山を滑るバックカントリーをしている気分が味わえた

改善ポイント

- 高低差が少ない、もう少しアップダウンできると良い。
- リフトが短い、もっと上まで行きたかった。

食事編

<昼食>

		味噌ラーメン		ハンバーガー		お寿司		バーチツリーカフェ		
Evaluation item	Explanation / Participants	ダコスタ	トムソン	ダコスタ	トムソン	ダコスタ	トムソン	ダコスタ	トムソン	平均
Quality	料理と飲み物の味	9	8	10	10	10	10	10	10	9.6
Presentation	タイミング、温かさ、お皿、グラス、カトラリーを含む飲食物の盛付・品質	8	8	10	10	10	9	8	5	8.5
Story / Expranation	レシピや食材などのストーリーの説明	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Ambience	レストランの雰囲気	8	7	10	10	10	10	8	7	8.8
Uniqueness	食事のユニークさ、その地ならではの感じられる度合い	8	8	—	—	—	—	—	—	8.0
Local ingredients	地元食材の利用	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Wellness	味や食材の育てられ方などの話から健康を感じられるか。	—	—	8	9	10	10	—	—	9.3
Consideration	ヴィーガン、ベジタリアン等などの食事制限への配慮があるかどうか	—	—	—	—	—	—	—	—	—
Acceptance	AT顧客が受け入れることができるものか。(動物福祉、宗教、文化の視点など。フカヒレ、クジラなど)	—	—	10	10	10	10	9	5	9.0
Cost acceptance	コストパフォーマンス	9	8	9	8	10	10	9	9	9.0

<夕食>

		水の調（会食）		水の調（夕食）		平均
Evaluation item	Explanation / Participants	ダコスタ	トムソン	ダコスタ	トムソン	
Quality	料理と飲み物の味	10	10	10	10	10.0
Presentation	タイミング、温かさ、お皿、グラス、カトラリーを含む飲食物の盛付・品質	10	10	10	10	10.0
Story / Expranation	レシピや食材などのストーリーの説明	8	9	—	—	8.5
Ambience	レストランの雰囲気	10	10	10	10	10.0
Uniqueness	食事のユニークさ、その地ならではの感じられる度合い	10	10	10	10	10.0
Local ingredients	地元食材の利用	8	9	—	—	—
Wellness	味や食材の育てられ方などの話から健康を感じられるか。	10	9	10	10	9.8
Consideration	ヴィーガン、ベジタリアン等などの食事制限への配慮があるかどうか	—	—	—	—	—
Acceptance	AT顧客が受け入れることができるものか。(動物福祉、宗教、文化の視点など。フカヒレ、クジラなど)	10	10	10	10	10.0
Cost acceptance	コストパフォーマンス	10	10			10.0

宿泊 編

		水の舘（宿泊）		チャトリウム		
Evaluation item	Explanation / Participants	ダコスタ	トムソン	ダコスタ	トムソン	平均
Room	部屋の設備、清潔さ、広さ等	10	10	8	9	9.3
Location	立地の観点。静かにくつろげるか、体験までのアクセスなど。	9	8	10	10	9.3
Staff & Communication	スタッフの対応や会話やコミュニケーションなどの観点	10	10	10	10	10.0
Atmosphere	ホテル全体の雰囲気など	10	10	10	10	10.0
Local Benefits	地域への経済的貢献が大きいと感じるか	10	10	10	8	9.5
Breakfast	朝食のチョイスの幅やボリューム、味など	－	－	10	10	10.0
Sustainability	ゴミやCO2の観点	10	10	10	10	10.0
Appropriateness for AT customer	全体をとおしてAT顧客むけと感じるか。問題ないか。	10	10	7	7	8.5

③スルーガイドの評価

本事業が、情報整理・研修等について連携をしている『令和3年度「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」冬季ATツアー造成にむけた情報整理・研修事業』（P3参照）で作成したスルーガイド評価シート」を活用して、スルーガイドを評価した。スルーガイドの能力、傾向を把握し、課題を発見することができ、今後に向けた基礎資料とした。

※ツアーオペレーターの準備等に影響される項目は、ツアーオペレーターからスルーガイドへの情報提供の度合いが前提となるため、スルーガイドの評価として判断できないとし採点から除外した。備考欄にその旨を記載している。

①旅程管理					
項目名	評価の観点	評価方法	チェック 採点	チェック 採点	備考
			事前 準備	旅中	
1 旅程管理者主任資格	旅程管理業務の資格を持っているか。 ※現場の旅程管理の一切の責任を日本の旅行会社から委託されている、という点で「旅程管理者主任資格」が必要。 ※旅程管理者主任資格は旅行会社もしくは添乗員派遣会社に所属しなければ取得できない資格（実務経験必要）。 そのため、旅行会社に所属できていない場合、資格の取得が困難な場合が多い。勉強のみなら可能。	確認できれば6点	6		
1に当てはまった場合、8以降のチェック項目に進む。1に当てはまらない場合、下の2～7のチェック項目を確認					
2 旅行の総合案内	旅程のアナウンスや集合時間、集合場所、アクティビティの所要時間など旅程全体の案内ができていないか。	確認できれば1点			
3 チケットなどの手配と管理	移動手段となる飛行機や船、列車などのチケット、また観光地である美術館や博物館、あるいは観光スポットのチケットなどを手配し、必要に応じて現地で購入し、お客様への配布等の業務がスムーズに行えるか。	確認できれば1点			手配はツアーオペレーターの役割のため、管理できるかという点で判断。
4 宿泊施設へのチェックインと注意事項や朝食場所などの案内	宿泊施設へのチェックインなども添乗員がまとめて行うことが一般的。ルームキーをお客様に配布し、宿泊施設で過ごす上での注意事項やインターネット利用の仕方などについての案内、当日の夕食や、翌日の朝食についての案内を行う。チェックアウトは顧客自身で行うことが多いが、その方法と翌日の集合場所と時間のアナウンスを行う。これらの業務がスムーズに行えるか。	確認できれば1点			
5 お客様の安全管理や健康管理	ツアーのお客様が安全に旅行を楽しめるように常に気を遣い、お客様の様子を注意深く見守る。バスで移動するツアーであれば、バスに乗り込んだ際には必ず点呼をしてお客様全員が乗っているかチェックする。また、体調の悪そうなお客様には積極的に声をかけて小さな変化も見逃さないようにする。これらの業務がスムーズに行えるか。	確認できれば1点			
6 トラブル対応	トラブルを未然に防ぐために、常に物事について先回りして考え、かつ様々な状況を想定した上で現在の行動をとることができるかどうか。また、怪我や病気、宿泊施設の部屋での不具合、失くしたもの、事故など、旅行中に起きた様々なトラブルに冷静に対処できる能力があるか。 ※発生しない場合は、想定されることを確認。	確認できれば1点			
7 サービス内容の変更についての対応	旅行に関する計画に定めるサービスの内容の変更を必要とする事由が生じた場合の代替サービスの手配や手続きがスムーズに行えるか。 ※発生しない場合は、想定されることを確認。	確認できれば1点			
8 来日直後の基本案内	日本でのマナー、ルール、コンビニエンスストアの話や、インターネット環境など、身の回りの基本的な事項についての情報を提供する。	確認できれば1点		1	
9 ツアーに関わる日本の基礎説明	ツアーを楽しむ上で把握しておくべき、日本の基本的な自然や歴史・文化的な背景などの説明を行う。その際に、日本人なら誰でも知っている固有名詞も海外の人はわからないため、その辺りも考慮をした単なる翻訳ではない説明を行う必要がある。	確認できれば1点		1	
10 ツアー全体像の提示	来日直後、そして数日おきにツアー全体像を確認し、どのような体験が期待できるのか、また天候などに懸念がある場合にどのような問題・変更可能性があるのかを伝える。	確認できれば1点		1	
11 ツアーに関わるエリア・歴史の基礎説明	ツアーを楽しむ上で把握しておくべき、エリアに関する基本的な情報を説明する。	確認できれば1点		1	
12 翌日の情報共有	前日に、翌日のアクティビティに関する情報共有を行い、天候に関するアナウンスや顧客の持ち物の案内をする。	確認できれば1点		1	
13 持ち物・装備品の確認	前日、およびアクティビティ開始前に顧客の装備の適・不適を確認する。	確認できれば1点		1	
合計			12 / 12		

②英語対応

項目名	評価の観点	評価方法	チェック 採点	チェック 採点	備考
			事前 準備	旅中	
1 通訳案内士資格保有	通訳案内士の資格を保有しているか。または、語学レベルがネイティブかつ地域の文化に対して深い理解があるか。	確認できれば1点	1		
2 英語対応	流暢でなくても、適切かつ端的にツアーを案内できるか。	2.ネイティブレベルの英語で丁寧に案内ができる 1.やや片言であるが英語での案内ができる 0.英語での案内はできない		2	
3 正確で端的に伝える	地域のガイドの説明を、正確で端的に外国語で参加者へ伝えることができるか。長すぎてもフラストレーションに繋がるため、適切な長さになるよう心がける。	確認できれば1点		1	
4 専門用語への対応	ガイドを行う上で自然現象や各種名前の案内等を行う際に、その単語を説明する語彙があるか。	2.万全の準備があり、説明ができる 1.ある程度の備えがあり、ある程度の説明ができる 0.全く備えがない/説明ができない		1	地質等の特殊な単語は念入りに今後準備が必要
5 地域との連携	顧客の情報を地域のガイドに伝えたり、地域のガイドのトークをうまく引き出し、顧客に伝えることができるか。	確認できれば1点		1	
6 表現に関する事前準備	ガイドを行う上で、必要な表現を文献や資料を活用して抜き出し、事前に準備ができているか。	確認できれば1点	1		
7 日本の歴史・文化・時事問題等への教養	日本全体の歴史や文化、現代の時事問題への情報に精通しているか。	確認できれば1点	1		
合計			8 / 9		

③安全管理

項目名	評価の観点	評価方法	チェック 採点	チェック 採点	備考
			事前 準備	旅中	
1 提供しているツアーのMIC（参加者への最小限の情報シート；MIC -Minimum Information to Client）に関する理解	MIC -Minimum Information to Clientについて、販売主体との情報共有及び認識のすりあわせが十分にできているか。	確認できれば1点		1	
2 各アクティビティの安全に関する免責事項に関する理解	Safety disclaimerについて説明ができるか。	確認できれば1点		—	まずオペレーターからスルーガイドへ念入りに説明が必要
3 ファーストエイドの資格	ファーストエイドの資格を有している	2.国際基準のものを有している 1.国内基準のものを有している 0.有していない		0	
4 ファーストエイド設備	適切なファーストエイド用の装備等を携行している	2.万全の備えがある 1.ある程度の備えがある 0.全く備えがない		0	
5 災害発生時の行動の把握	アクティビティ地の災害発生時対策、非常設備の把握、また地域の避難場所や配給場所、情報を取得できる場所などに対する事前の知識を有しているか。	確認できれば1点		—	まずオペレーターからスルーガイドへ念入りに説明が必要
6 訪問先の医療体制の把握	緊急時の地域の医療体制の把握ができています	確認できれば1点		1	
7 緊急行動計画の把握	緊急時にどのような行動をとるか、旅行会社や運送業者、ガイドなどの連携を事前に確認ができる。	確認できれば1点		1	
8 安全管理に関する情報の顧客への情報提供	上記の情報について、顧客に簡潔に伝えることができています。	確認できれば1点		0	
合計			3 / 10		

④コーディネート					
項目名	評価の観点	評価方法	チェック 採点	チェック 採点	備考
			事前 準備	旅中	
1 参加者に対する事前情報収集	事前にどのようなお客様であるか、旅行会社の情報を得て、理解している。	確認できれば1点	1		
2 アクティビティに対する事前情報収集	ツアー内のアクティビティに関する必要な装備品やコース概要、アクティビティの基本情報（提供可能時期、体験可能性など）施設の利用方法や、ガイドの特性などを事前に調査しているか。	確認できれば1点	1		
3 地域資源に対する事前情報収集	その土地の自然や歴史を学び、その体験をすることの意義が感じられる情報提供ができるか。欧米や他地域と比べたユニークな点を案内できるか。	確認できれば1点	1		
4 訪問先のコンディションに対する事前情報収集	毎日の天候や起こりうるリスクに対する情報収集、万が一の悪天候の場合の代替案に関する情報を事前に調査している。場合によって代替案の情報も持っている。	確認できれば1点	—		オペレーターからスルーガイドへ共有が必要
5 行程のストーリー、コンセプト理解	ツアーのテーマについて理解し、テーマを理解できるような情報提供ができるか。全体から部分を見せていくように、適切な情報提供ができているか。	確認できれば1点	1		
6 食事の好みや宗教等への理解	アレルギーはもちろん、食習慣や宗教上の理由で食さない物がある場合や好まない物がある場合などの知識があるかどうか。	確認できれば1点	1		
7 快適さへの配慮	コンテンツ間の移動時に、必要に応じてコンビニやトイレ等に立ち寄りしたり、車に疲れたりしないように適宜配慮した行程・催行を行う。	確認できれば1点	1		
8 地域の関係者とのネットワーク及び日ごろの密接なコミュニケーション	現場での臨機応変な対応等を可能にするための要素の一つである、地域関係者とのネットワーク及び関係構築はできているか。	確認できれば1点	—		オペレーターからスルーガイドへ共有が必要
合計			6 / 8		

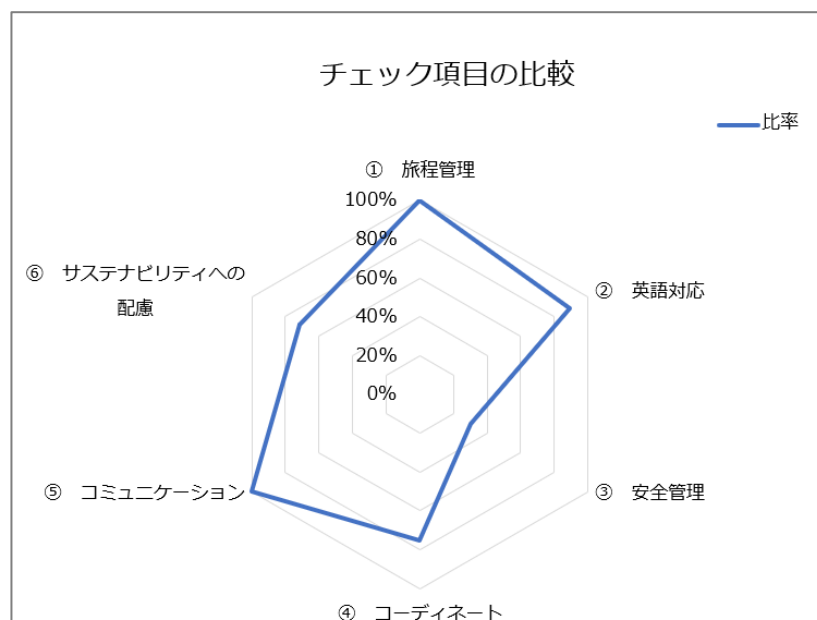
⑤コミュニケーション力					
項目名	評価の観点	評価方法	チェック 採点	チェック 採点	備考
			事前 準備	旅中	
1 リーダーシップ	判断を求められた際に、自身で状況を判断し、選択ができるか。また、それを自信をもって参加者や地域の人々に説明が可能か。	確認できれば1点		1	
2 エンターテインメント	ジョークを織り交ぜたり、サプライズを入れ込むなど、顧客を楽しませる工夫ができる	確認できれば1点		1	
3 グループマネジメント	参加者同士の関係性構築やツアー中の雰囲気や醸成のフォローができています。	確認できれば1点		1	
4 インタプリテーション	相手の理解度やバックグラウンドの違いに合わせて、案内や情報提供を行うことができます。	確認できれば1点		1	
5 エクスペクテーション マネジメント (顧客の期待値への対応)	旅行者の好みを知り、それに合わせたガイディングやガイドとの連携・調整ができるか。顧客が求める難易度に応じたチャレンジをガイドと連携し、提供することができるか。	確認できれば1点		1	
6 参加メンバーの力量や異変への観察能力	参加者の状態をいち早く察知し、調整や声掛けを行うことができます。また、一方的な説明等により、顧客が飽きたりしているのを察知し、フォローを行うことができます。	確認できれば1点		1	
7 自然発生的な文化体験の説明	顧客と同行する中で偶然に出くわす文化体験や地域の特徴等を見逃さず、すかさず説明ができる。	確認できれば1点		1	
8 インタラクティブな空気感の醸成	スルーガイドやアクティビティガイド、訪問先で出会う人々からの一方的なコミュニケーション（説明等）ではなく、お客様に考える余地を与え、ガイドとお客様、お客様と訪問先で出会う人々やモノコトとのインタラクティブなやりとりを促す空気感の醸成、またはそのアシストができていますか。	確認できれば1点		1	
合計			8 / 8		

⑥サステナビリティへの配慮						
項目名		評価の観点	評価方法	チェック 採点	チェック 採点	備考
				事前 準備	旅中	
1	地域経済への貢献	地域の製品の活用や地域の雇用創出等、地域経済へ貢献することを顧客に伝えている。	確認できれば1点		1	
2	入場料・使用料等と自然保護との関係性の説明	自然体験等に際して入場料が必要な場合には、その費用がどの様に自然や動植物保護などに使われるかの説明をしている。	確認できれば1点		—	本ツアーでそういったシーンは無し
3	自然保護に関する説明	ガイドや施設の自然保護に対する取り組みについて案内ができる。	確認できれば1点		1	
4	自然保護などの関連条例や法案などの知識	自然公園法やエコツーリズム推進法、地域の条例などの各種知識を有し、適切な利用を参加者に案内ができる。	確認できれば1点		0	今後の課題として準備が必要
5	文化財や歴史遺産等の保護などの知識	地域の文化財の保護や歴史遺産などの知識や条例の知識を持ち、適切な利用を参加者に案内ができる。	確認できれば1点		1	
6	使い捨てプラスチック削減の努力	ツアー中の飲料水や食事提供時に極力使い捨てプラスチック等の使用削減についての行動を起こしているかどうか（新型コロナウイルス対策の観点等でやむを得ないものは除く。ただし使い捨て品であっても素材をプラスチック以外にするなどの配慮がみられる）	確認できれば1点		1	
7	サステナビリティについての双方向のやり取り	顧客に対し、サステナビリティについて一方的に説くのではなく、顧客と双方にやり取りし、行動を選択させることができる。	確認できれば1点		1	
合計				5 / 7		

●スルーガイドの評価結果

※ツアーオペレーターからスルーガイドへの情報提供が前提となる項目は、スルーガイドの評価として判断できないとし採点から除外したため、以下の「評点」、「チェック項目の比較」とも、該当項目の数値は反映されていない。

	評点	比率
① 旅程管理	12 / 12	100%
② 英語対応	8 / 9	89%
③ 安全管理	3 / 10	30%
④ コーディネート	6 / 8	75%
⑤ コミュニケーション	8 / 8	100%
⑥ サステナビリティへの配慮	5 / 7	71%



④ ツアーの評価

北海道運輸局が2020年に作成したアドベンチャートラベル評価シートに基づいて、本モニターツアーを評価した。

※評価欄／T=トムソン氏、D=ダコスタ氏（以下同様）

項目名	評価の観点	評価方法	評価段階	評価		目標とする段階
				T	D	
ターゲット設定の明確性	ツアーが提供する価値や、期待できる体験などが明確であり、当該ツアーに喜んで申し込む欧米AT顧客層のペルソナが具体的に思い描ける	5段階評価	5.非常に明確になっている 4.明確になっている 3.ある程度明確になっている 2.曖昧さが目立つ 1.不明確	4	3	3
ターゲット設定の適切さ	極端にニッチな旅行ツアーになっておらず、AT顧客層やATマーケットを想定したときに、当該ツアーに興味を持つターゲット層が一定規模存在すると想定できる	5段階評価	5.非常に適切である 4.適切である 3.概ね適切である 2.やや不適切である/規模が小さい 1.AT顧客層には不適切	4	4	3
ツアーコンセプト設定	行程を見て分かるような、ツアーの最初から最後までに一貫したテーマがある。（例：水にまつわるツアー、鮭にまつわるツアー、歴史上の意味のあるトレイルを辿るツアーなど）	5段階評価	5.非常に明快かつ魅力的である 4.明快であり魅力的である 3.概ね理解でき、魅力もある 2.やや不明瞭/魅力に劣る 1.コンセプトが無く、魅力に欠ける →魅力度についてはユニークさや、その土地との親和性などの複合的な観点で評価する	3	3	3
ストーリー設計	設定されたテーマの核心に対し、徐々に近づいていくようなツアー展開となっている。（例：知る体験【資料館等】→受動的体験【アクティビティをしながら対象を見る】→能動的体験【対象とインタラクトする】）	5段階評価	5.非常に魅力的 4.魅力的 3.概ね魅力的 2.やや魅力に劣る 1.魅力に欠ける →評価の観点を参考に魅力について評価を行う	3	4	3
コンテンツの流れや順番	全体から部分を見せていくような、適切に情報提供を行っていく行程設計となっているか（原則として全体像→概論→個別の詳細情報というような順が望ましい。高度なテクニックとしてあえて個別の詳細から入る方法もあるが注意が必要）	5段階評価	5.全行程で適切な流れで設計されている 4.ほとんどの行程で適切な流れで設計されている 3.主要な部分は適切な流れで設計されている 2.適切ではない流れの設計が目立つ 1.流れが適切に設計されていない	4	3	3
その体験をする意義	その土地で、その体験をすることの意義が感じられる設計となっているか	5段階評価	5.全行程で意義が感じられる 4.ほとんどの行程で意義が感じられる 3.主要な部分では意義が感じられる 2.意義が感じられないものが目立つ 1.全く意義が感じられない	4	3	3
ツアー行程全体での緩急（メリハリ）の設計	ツアー行程全体を踏まえて、毎日ソフトあるいは毎日ハードというツアー行程ではなく、全体で心地良い身体の疲れと楽しさを感じられる行程になるように留意して設計する。	5段階評価	5.非常にバランス良く設計されている 4.バランス良く設計されている 3.おおむねバランス良く設計されている 2.バランスの悪い設計が目立つ 1.非常にバランスの悪い設計になっている →ただし、例えばコンセプト上「ハードな自転車ツアー」というものであれば当然ハードな自転車アクティビティが続くことは前提である。その場合には、ルート上の風景や説明やアップダウンなどの観点でのメリハリ設計が重要となる。	4	4	3
自然	人混みを程よく避けた、ATらしい場所での行程となっていること	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	3	3	2
アクティビティ	ツアー行程の中で適度に身体活動を伴う活動が一定以上含まれていること	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点2）	3	3	2
文化体験	ツアー行程の中でその土地らしい文化を味わえる体験が一定以上含まれていること	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	2	2	2

(2)モニターツアーによる検証

項目名	評価の観点	評価方法	評価段階	評価		目標とする段階
				T	D	
WOWファクターの設計	ツアー行程の中で、体験者が友人や家族に話をする際に、この体験が素晴らしかった！と語りたくなるような体験があること	加点方式	5.毎日WOWファクターが設計されている（加点4） 4.毎日ではないが複数のWOWファクターが設計されている（加点3） 3.全行程で1回のWOWファクターがある（加点2） 2.全行程で1回だけやや弱いWOWファクターがある（加点1） 1.全くWOWファクターが設計されていない（加点なし）	4	3	3
ストーリーテリング	その体験の意味、行程を選んだ理由等をその土地のストーリーと絡めて説明できる	5段階評価	5.全行程・体験で適切に説明できる 4.ほとんどの行程・体験で適切に説明できる 3.その日ごとの行程に対して適切に説明できる 2.やや説明が不足している 1.全く説明がない	2	2	3
エンターテインメント	ジョークを織り交ぜたり、顧客を楽しませる工夫ができる	加点方式	3.非常に得意である（加点2） 2.やや得意である（加点1） 1.全く得意ではない（加点なし）	1	2	2
知識	その土地の自然や歴史、欧米と比べたユニークな点などについての知識がある	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（加点なし）	2	2	2
来日直後の疲労への配慮	来日直後は時差ボケの負担も大きく、疲労もあるため、参加者に負担が無く、早めに休めるような配慮を行う。また眠くなりがちな受け身・強度の弱い説明主体・見学的コンテンツを避けるなどの工夫も行う。	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（加点なし）	3	3	2
来日直後の基本案内	日本でのマナー、ルール、コンビニエンスストアの話や、インターネット環境など、身の回りの基本的な事項についての情報を提供する。	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（加点なし）	1	2	2
快適さへの配慮	コンテンツ間の移動時に、必要に応じてコンビニやトイレ等に立ち寄りしたり、車に疲れたたりしないように適宜配慮した行程・催行を行う。	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	3	3	2
ツアー全体像の提示	来日直後、そして数日おきにツアー全体像を確認し、どのような体験が期待できるのか、また天候などに懸念がある場合にどのような問題・変更可能性があるのかを伝える。	加点方式	3.丁寧に実施されている（加点2） 2.概ね実施されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	2	2	2
ツアーに関わる日本の基礎説明	ツアーを楽しむ上で把握しておくべき、日本の基本的な自然や歴史・文化的な背景などの説明を行う。その際に、日本人なら誰でも知っている固有名詞も海外の人はわからないため、その辺りも考慮をした単なる翻訳ではない説明を行う必要がある。	加点方式	3.丁寧に実施されている（加点2） 2.概ね実施されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	2	2	2
ツアーに関わるエリア・歴史の基礎説明	ツアーを楽しむ上で把握しておくべき、エリアに関する基本的な情報を説明する。	加点方式	3.丁寧に実施されている（加点2） 2.概ね実施されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	2	2	2
その土地らしいおもてなし（お茶・お菓子・お酒等）	ツアー行程内に、その土地らしさを感じられるお茶やお菓子、適切な状況であればお酒の提供などをツアー行程に盛り込む。	加点方式	3.丁寧に実施されている（加点2） 2.概ね実施されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	2	2	2
その土地らしい食事の設定	ツアー行程内での食事が、AT顧客に好まれるその土地の食事が適切な頻度で提供されているか（その土地の料理ばかりでは疲れる顧客もいるため、その土地の食材で欧米風の料理を提供するなどの工夫も織り交ぜていくことが望ましい）	加点方式	3.丁寧に実施されている（加点2） 2.概ね実施されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	2	2	2
食事でのインタラクションの設計	食事に際して、提供されたものをただ食べるのではなく、旅行者が料理に参加をして食べる機会がある。	加点方式	4.全行程で1日1回は実施されている（加点3） 3.全行程で毎日ではないが、複数回実施されている（加点2） 2.全行程で1回実施されている（加点1） 1.全く実施されていない（減点1）	1	2	2
その土地らしい宿泊施設	ツアー行程内での宿泊先が、AT顧客に好まれるその土地らしさが感じられる比較的地域ローカルなものであるか	加点方式	3.丁寧に実施されている（加点2） 2.概ね実施されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点1）	3	2	2

(2)モニターツアーによる検証

項目名	評価の観点	評価方法	評価段階	評価		目標とする段階
				T	D	
インフラの適切さ	体験内のコースで選択・使用している施設等が、適切に整備されているものであるかどうか	5段階評価	5.全行程を通じて適切である 4.全行程を通じてほぼ適切である 3.概ね適切である 2.不適切なものが目立つ 1.不適切である	4	4	3
ユニークさ	この行程ならではの体験があること（その土地で行くことの必然性との結びつきの強さも重要である）	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点2）	3	2	2
自己変革	欧米AT顧客の視点に立った際に、（推測とはなるが）今までの考え方・価値観を変えるような要素が考慮されているか	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点2）	3	2	2
心身の健康・健全への貢献	ツアーを通じて、肉体的な面とあわせ、精神的にも健康になったと感ずることができること	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点2）	3	3	2
身体的な挑戦	ツアー行程の中で、ターゲット層に合わせた適切な身体的な挑戦要素があること	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点2）	3	2	2
心理的な挑戦	ツアー行程の中で、ターゲット層に合わせた適切な文化的・心理的な挑戦要素があること（相手の価値観や宗教観を尊重した範囲であることに留意する）	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点2）	3	2	2
環境や社会へ過度な負担をかけていないか、もしくは最小化に努めているか	ストーリーやコンテンツにおいてサステナビリティや環境保護等に関する配慮・要素を組み込んでいるか	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点2）	2	3	2
使い捨てプラスチック削減の努力	行程内での飲料水や食事提供時に極力使い捨てプラスチック等の使用削減をおこなっているかどうか（新型コロナウイルス対策の観点等でやむを得ないものは除く。ただし使い捨て品であっても素材をプラスチック以外にするなどの代替策については検討を行う必要がある）	5段階評価	5.全行程を通じて努力がなされている 4.全行程を通じてほぼ努力がなされている 3.努力がなされている 2.努力が足りないものが目立つ 1.努力が足りない	3	4	3
行程内でのローカル消費の度合い	行程内で関わる事業者等のうち、ローカルな小規模事業者を利用している度合い	加点方式	3.非常に意識されている（加点2） 2.やや意識されている（加点1） 1.全く意識されていない（減点2）	2	2	2
商談等の販売体制	海外市場への商談や販売に向けた活動をしていく準備ができている、もしくは年内に完了見込みであるか	5段階評価	5.万全の準備ができている（加点4） 4.準備ができている（加点3） 3.概ね準備ができている（加点2） 2.やや準備不十分である/不安が残る（加点1） 1.準備ができていない（減点1）	※	※	3
パンフレット・商品情報整備	画像や英語での行程表、説明文、担当者、連絡先等、AT顧客に見せることができるパンフレット、情報もしくは素材が整っている	加点方式	3.万全の準備ができている（加点2） 2.概ね準備ができている（加点1） 1.準備ができていない（加点なし）	※	※	3
販売チャネル確保	自社・自組織のHPもしくは、連携する旅行会社、DMO等に販売に足るレベルでの情報がいつでも閲覧できるように掲載されている、もしくは年内の掲載予定である	加点方式	3.万全の準備ができている（加点2） 2.概ね準備ができている（加点1） 1.準備ができていない（加点なし）	※	※	3
提供可能時期	十分なクオリティで楽しめる季節が一定期間以上ある	加点方式	3.シーズンを通じて楽しめる（加点2） 2.1～1ヶ月半は楽しめる（加点1） 1.1ヶ月未満（加点なし）	※	※	2
体験可能性の観点	中心となる体験ができる確率が一定より高い	加点方式	3.ほぼ確実に体験できる（加点2） 2.50%以上の確率で楽しめる（加点1） 1.50%未満の確率しかない（減点1）	2	2	2

※本モニターツアーの評価項目外

(2)モニターツアーによる検証

項目名	評価の観点	評価方法	評価段階	評価		目標とする段階
				T	D	
内容や強度のオプション設定	体験強度や内容について、顧客の嗜好やスキルに合わせた調整余地がある	加点方式	3.複数段階のオプションがある(加点2) 2.もう一つのオプションがある(加点1) 1.オプションなし(加点なし)	3	2	2
食事の好みや宗教等への対応	アレルギーはもちろん、食習慣や宗教上の理由で食さない物がある場合や好まない物がある場合などに事前の申し出に従った調整やオプション提供ができるか	5段階評価	5.万全の準備ができています 4.準備ができています 3.概ね準備ができています 2.やや準備不十分である/不安が残る 1.準備ができていない	2	3	3
インタラクティブな体験設計	「観るだけ」「聞くだけ」というような体験ではなく、旅行者が主体的に関わるように行程を工夫する。(例：お茶を飲む→お茶を自分で入れる体験に)	5段階評価	5.全行程を通じて工夫がある 4.全行程を通じてほぼ工夫である 3.概ね工夫がある 2.工夫がないものが目立つ 1.一切工夫がない	3	3	3
アクティビティ要素の追加	バス等の乗り物移動を、自転車ツアーとの組み合わせに変えるなど、適切にアクティビティ要素を追加する。	5段階評価	5.全行程を通じて適切である 4.全行程を通じてほぼ適切である 3.概ね適切である 2.不適切なものが目立つ 1.不適切である	3	3	3
その土地らしさ	その土地らしさ、その土地ならではの魅力理解につながるような、歴史・文化的な観点がコンテンツに織り込まれているか。	5段階評価	5.全行程を通じて織り込まれている 4.全行程を通じてほぼ織り込まれている 3.概ね織り込まれている 2.織り込まれていないものが目立つ 1.全く織り込まれていない	4	3	3
自然と文化が融合した体験	よりその土地らしさを感じられるように、文化体験を建物の中だけでおこなうのではなく、自然の中で楽しめるような工夫がある。	加点方式	3.非常に意識されている(加点2) 2.やや意識されている(加点1) 1.全く意識されていない(加点なし)	1	3	2
地元の人との触れ合い	体験の中でガイド事業者や食事場所などを除いて、地元で生活する人と関わり合うような体験が設計されている	加点方式	3.全行程で複数回実施されている(加点2) 2.全行程で1回実施されている(加点1) 1.全く実施されていない(減点1)	1	1	2
体験内容・強度の適切さ	設定したターゲット像に対して適切なアクティビティの体験強度があること	5段階評価	5.全行程を通じて適切である 4.全行程を通じてほぼ適切である 3.概ね適切である 2.不適切なものが目立つ 1.不適切である	4	4	3
レベル設定に合わせた適切なチャレンジ要素設定	ツアーのレベル設定に合わせた適切なチャレンジ要素があること	加点方式	3.非常に意識されている(加点2) 2.やや意識されている(加点1) 1.全く意識されていない(加点なし)	3	2	2
手配書/申込書；Operation Sheetの英語版	手配書/申込書（Operation Sheet）が英語で整備されている	加点方式	3.完璧に整備されている(加点2) 2.ある程度整備されている(加点1) 1.全く整備されていない(減点1)	※	※	2
参加者への最小限の情報シート；MIC－Minimum Information to Clientの整備	MICが整備されている	加点方式	3.完璧に整備されている(加点2) 2.ある程度整備されている(加点1) 1.全く整備されていない(減点1)	2	2	2
安全に関する免責事項の確認書類；Safety disclaimerの整備	Safety disclaimerが英語で整備されている	加点方式	3.完璧に整備されている(加点2) 2.ある程度整備されている(加点1) 1.全く整備されていない(減点1)	2	2	2
ファーストエイドの資格	ファーストエイドの資格を有している	加点方式	3.国際基準のものを有している(加点2) 2.国内基準のものを有している(加点1) 1.有していない(加点なし)	※	※	2
ファーストエイド設備	適切なファーストエイド用の設備等を保有・携行している	加点方式	3.万全の備えがある(加点2) 2.ある程度の備えがある(加点1) 1.全く備えがない(減点2)	※	※	2
体力的な問題への対応	体力的な面でグループについていけない顧客が発生した場合の対応ができる	加点方式	3.具体的なプランがあり、事前説明ができる(加点2) 2.問題があれば対応できる余地はある(加点1) 1.全く対応の余地がない(加点なし)	2	2	2

※本モニターツアーの評価項目外

項目名	評価の観点	評価方法	評価段階	評価		目標とする段階
				T	D	
欧米顧客サイズへの対応	欧米顧客にあわせたサイズのギアを準備できる	5段階評価	5.万全の準備ができている（9～12名分の準備） 4.準備ができていない（6～8名分の準備） 3.概ね準備ができていない（3～5名分の準備） 2.やや準備不十分である/不安が残る（2名未満） 1.準備ができていない	2	2	4
使用ギアの品質・新しさ等	使用するギアのコンディションや品質が一定以上であること	加点方式 当てはまる数に応じて加点	・世界レベルのブランドのギアである ・トップレベルのランクのものである ・定期的なメンテナンスがなされている ・大きなほこりや目立つ汚れなどが少ない ・アクティビティに合致したギアである	3	3	2
プランBの用意（代替策）	悪天候などある程度想定しうる事象に対する代替案の用意があること	加点方式	3.具体的なプランがあり、事前説明ができる（加点2） 2.問題があれば対応できる余地はある（加点1） 1.全く対応の余地がない（減点2）	※	※	2
MIC、Disclaimerの英語整備	英語でMIC、Disclaimerを整備しており、また英語で説明ができる	加点方式	3.万全の準備があり、説明ができる（加点2） 2.ある程度の備えがあり、ある程度の説明ができる（加点1） 1.全く備えがない/説明ができない（減点2）	2	2	2
緊急行動計画；EAP - Emergency Action Planの整備	EAPが英語で整備されている	加点方式	3.完璧に整備されている（加点2） 2.ある程度整備されている（加点1） 1.全く整備されていない（減点1）	※	※	2
英語対応	流暢でなくとも、適切かつ簡潔な英語でツアーを案内できる状態であるか	5段階評価	5.ネイティブレベルの英語で丁寧に案内ができる 4.ESLレベルの英語で丁寧に案内ができる 3.やや片言であるが英語での案内ができる 2.一部を英語で案内ができる 1.全く英語での案内はできない	4	4	3

※本モニターツアーの評価項目外

評価のまとめとして――

千歳の「水」、ニセコの「雪」という、この地域ならではの資源を活用した企画として、コンセプト、ストーリー設計やツアー行程全体のメリハリなど、ツアーの構成については満足度のある内容であるという評価だった。ただ、アクティビティ体験の意味、その土地のストーリーとどのくらいオーバーラップしているか、エンターテインメント性などについては、まだまだ高めていく余地を残しているという印象は否めなかった。

「水」や「雪」とそこで暮らすヒトや地域とのかかわりのエピソードを織り交ぜることで、より奥行きのあるツアーに仕上げることも可能であると実感した。

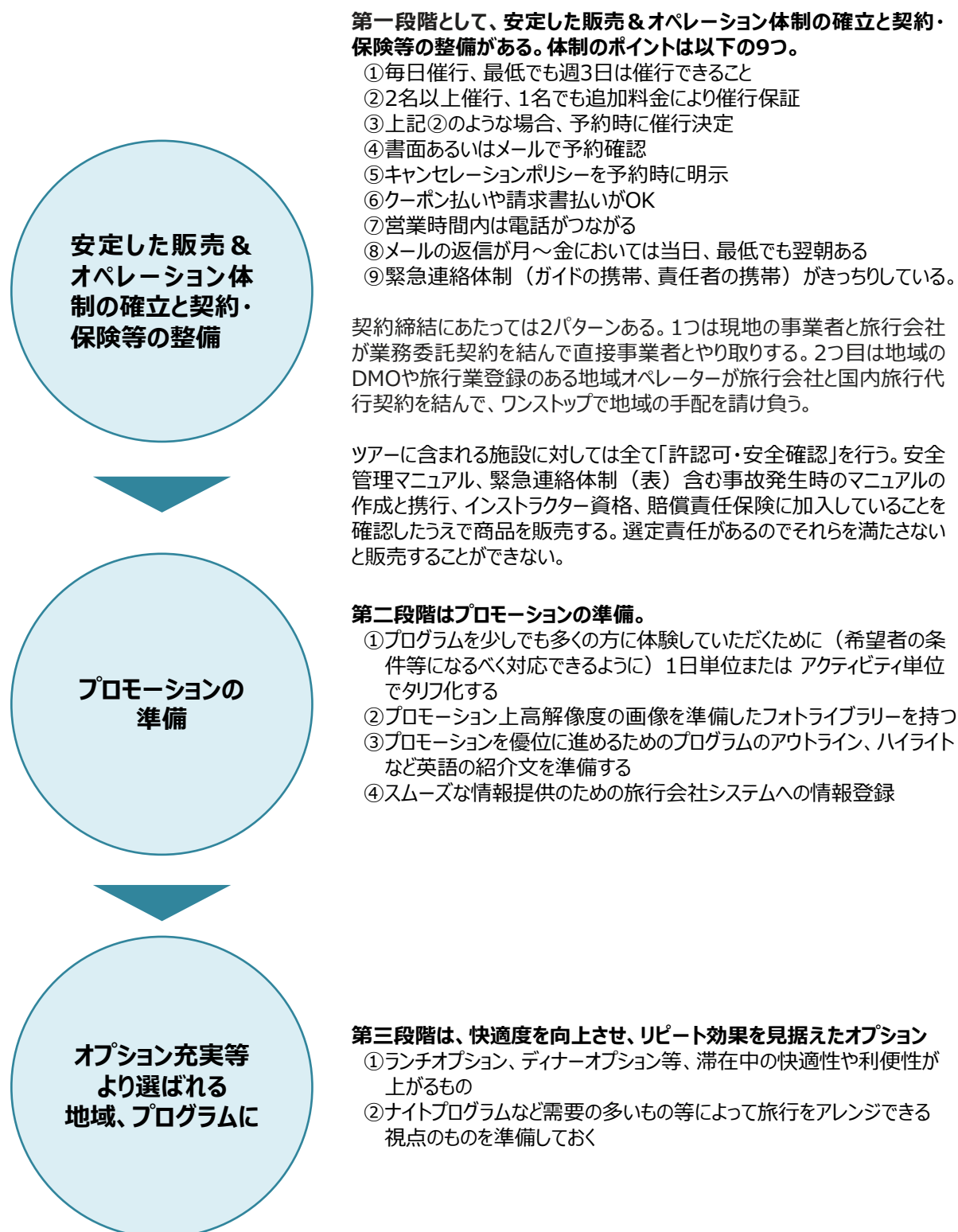
スルーガイドについては適切な英語対応で案内したという高い評価をもらった。

(3) 販売体制の構築

① 当面の販売体制及び今後の目指すべき体制

アプローチの方向性

今後、造成した商品をB2Bビジネスでどのように販売していくべきか、JTBグローバルマーケティング&トラベルの辻村氏より説明があった。(第3回ワークショップで提示／再掲)



3. 資料編

(1) MIC(Minimum Information to Customers)

【千歳版】

A story told by water: Lake Shikotsu & Chitose Winter Multi sports



Irankarapte! (That's "hello" in the language of Hokkaido's indigenous Ainu people.)

On this tour, you'll enjoy the nature of Hokkaido by exploring Lake Shikotsu in Shikotsu-Toya National Park.

Japan's northernmost ice-free lake, Lake Shikotsu is so clear that its waters topped the Ministry of the Environment's rankings for best quality lake water for 11 years until 2018. It was formed when water began to accumulate in the depression formed by the eruption of Mt. Shikotsu around 40,000 years ago. Its name reportedly comes from the Ainu phrase *si-kot*, meaning "large sunken area", and the lake has long been a vital water source for people in the Chitose region.

The close connection between Chitose and the waters of Lake Shikotsu sets the scene for this tour, where you'll experience the Chitose-Lake Shikotsu Ice Festival (one of Hokkaido's best winter events) and enjoy activities such as a clear stand-up paddleboard tour on Lake Shikotsu, the Nanajo Otaki Snowshoe Tour and hiking up Mt. Ichankoppe. A local guide will share fascinating facts about the water and nature of Lake Shikotsu and the Chitose area. You might even see some of the wildlife and birds that live around the lake!

Downtown Chitose is home to Salmon Hometown Chitose Aquarium, which boasts one of Japan's biggest freshwater tanks. Here you can learn about the salmon that live in Lake Shikotsu and the Chitose River, and about the fascinating freshwater ecosystem of northern regions. You can also experience a quintessential part of traditional Japanese culture by taking part in a tea ceremony. Nature is all connected, and you'd be hard-pressed to find a tour that illuminates that connection the way this one does.

Highlights:

- Learn about the Lake Shikotsu ecosystem
- See the clear water of Lake Shikotsu from a clear stand-up paddleboard
- Marvel at ice pillars on the Nanajo Otaki Snowshoe Tour
- Challenge yourself to hike up Mt. Ichankoppe
- Experience a traditional tea ceremony

Locations:

•Lake Shikotsu

Main Activity:	Snowshoeing, stand-up paddleboarding, cultural tour, mountain hiking
-----------------------	--

Difficulty:	2/5
--------------------	-----

Tour Length:	4 days/3 nights
---------------------	-----------------

Pax:	Minimum	Maximum
-------------	---------	---------

Price:	JPY
---------------	-----

Day-by-day Itinerary

Day 1 – Arrive at New Chitose Airport and travel to Lake Shikotsu

After arriving at New Chitose Airport (CTS), meet your tour guide in the arrival lobby. JAL, ANA, Air Do and Skymark provide direct flights to New Chitose Airport from Haneda Airport in Tokyo.

After everyone has arrived, you'll travel to Lake Shikotsu Visitor Center in your tour bus (around a 1-hour drive). At Lake Shikotsu Visitor Center, you'll discover the world inside Lake Shikotsu, learn about the fascinating ecosystem around the lake and find out about the volcanoes in the area that are still active today.

After your tutorial about the nature you're about to see, you'll head a short way down the road to your accommodation at Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta. The healing power of water is the central concept of this inn surrounded by nature. Make sure you spend some time in the Welcome Lounge, where you can enjoy the rhythmic sounds of a musical garden device called a *suikinkutsu*, walk along the "path of sound" between the Welcome Lounge and the lounge between the guest rooms and take in the mesmerizing sight of the corridor of water designed after the nearby Chitose River. At every turn, you'll see how water has the power to heal the soul.

After checking in, your tour bus will take you to the spectacular Chitose-Lake Shikotsu Ice Festival, just a minute's drive away. Or if you prefer, you can walk there in your own time (around a 3-minute walk).

The scene for this legendary Hokkaido festival is set by using sprinklers to create artistic plumes of ice on the banks of Lake Shikotsu. At night, these ice formations are lit up with colorful lights, transforming the area into an otherworldly kingdom of ice.

Back at the inn, your guide will tell you about the activities you'll enjoy in the days to come. You'll finish your day with a buffet-style dinner at the inn. The finest ingredients are prepared in a simple yet irresistible style that offers a new take on healthy cuisine.

Delectable seafood is prepared in the traditional Japanese kaiseki style, consisting of an array of small courses. It's the perfect introduction to Hokkaido's unique food culture.

You'll need to rest up after your dinner—you've got a busy few days ahead!

Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta (Japanese kaiseki meal)

Enjoy delicious Japanese dishes made from local specialties and great seasonal ingredients. The selection of meticulously prepared dishes come together to express the current season in northern Japan, paired with a range of unique Hokkaido liquor including wine, shochu and, of course, local sake.



Day-by-day Itinerary

Day 2 – Lake Shikotsu Clear Stand-up Paddleboard Tour and Nanajo Otaki Snowshoe Tour

Cruise along Lake Shikotsu in Hokkaido's first clear stand-up paddleboarding activity for a full-body experience of the nature you learned about the day before! Your drysuit will keep your whole body dry, so you'll stay nice and warm despite the winter chill! And your certified instructor will teach you everything you need to know!

Lie down on your clear board and admire the unique hue (known as Shikotsu Blue) of one of Japan's clearest lakes, or stand up and enjoy a unique vantage point for the stunning sights you'll see along the way. You might even see some of the wildlife and wild birds that live in or around the lake.

You can choose between two overlapping courses, both around 800m. Paddle around the edge of the lake, or take on the Chitose River if you're feeling adventurous.

Breakfast

Enjoy a healthy and colorful breakfast buffet in the sunshine. There's an open kitchen where you can watch the chef cooking eggs in every way you could imagine. Crispy croissants and soft, fluffy bread are brought to your table, along with rice fresh out of the restaurant's Dutch oven.

Lunch

After your adventure on the lake, warm up with some piping hot vegan ramen. Those who are familiar with the traditional rich pork bone and slices of roast pork might assume that vegans need to give Japanese ramen a miss, but this ramen is designed to be delicious and flavorful without a single animal product.

After lunch, you'll don some snowshoes and walk straight through fresh snow to the Nanajo Otaki waterfall. Fed by the runoff from Lake Shikotsu and the waters of the Maruyama River (a tributary of the Yufutsu River), Nanajo Otaki is a prime nature spot with breathtaking icefall during the freezing winter months. The walk is about 60 minutes each way, and takes you along the First Longitudinal Forest Trail. The first half of the walk to the waterfall (about 2.5km) is a flat trail through the woods, then you'll make your way down to the waterfall, a descent of around 30m. Look for pawprints left by deer and foxes, listen to the facts your guide will share about the area's nature and immerse yourself in the magical snow-covered scenery. After the tour, your tour bus will take you back to the inn.

Dinner

Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta (healthy buffet)

Simple is best in this healthy buffet made from the finest ingredients. Each dish is carefully designed to draw out the amazing umami taste of the ingredients.

The mouthwatering array includes grilled vegetables, seafood soup, beef stew, salads and more. The open kitchen serves favorites such as doria (a dish similar to gratin but with rice), hot pots and roast beef. In addition to the buffet, you can order main dishes full of seasonal delights (fish and meat dishes are available).

Finish with a seasonal dessert plate with a plethora of exquisite sweets made by the restaurant's pastry chef.



Activity:

Lake Shikotsu Clear Stand-up Paddleboard Tour
(around 2.5 hours)
Nanajo Otaki Snowshoe Tour (around 3 hours)

Difficulty:

2/5

Day-by-day Itinerary

Day 3 - Hiking up Mt. Ichankoppe

The third day brings the zenith of the tour—a hike up Mt. Ichankoppe.

The name of this mountain comes from the language of Hokkaido's indigenous Ainu people and means "hole where salmon and trout spawn" (*ichan*) and "waves" or "river" (*koy pet*), because salmon and trout apparently spawned here.

Located around a 10-minute drive from the inn and standing just 829m high, this mountain is ideal for beginners and intermediate hikers. The first 30 minutes or so is steep, but then the trail levels out into a gentle gradient, passing through the woods with just enough gaps in the trees to catch glimpses of Lake Shikotsu and Mt. Eniwa. When you're about 80% of the way to the top, the view clears, revealing a stunning panorama of Lake Shikotsu, Mt. Eniwa, Mt. Fuppushi and Mt. Tarumae. And then you reach the summit, where the view will make you appreciate the vast scale of one of the largest caldera lakes in Japan. The eruption that created Lake Shikotsu took place 32,000 years ago, and Mt. Fuppushi, Mt. Eniwa and Mt. Tarumae formed in the millennia that followed, but it's only when you reach a vantage point like this that you can truly see it. The hike takes around 6 hours including breaks. After the tour, your tour bus will take you back to the inn, where you'll relax and recharge in the hot spring before heading back to downtown Chitose and checking into ANA Crowne Plaza Hotel Chitose (around a 40-minute drive from the inn).

Once you've checked in, you'll be taken to a local *izakaya* (Japanese-style pub) around a 5-minute drive or 10-minute walk from the hotel, where you can enjoy dinner and drinks with your mountain guide and the other people in your tour.

Breakfast

Like Day 2, you'll enjoy a healthy breakfast buffet at the inn.

Lunch

Your guide will bring ideal food for lunch on the go, such as pastries and backpacking snacks.

Dinner

Sushi/Washokudokoro Horin

Back in downtown Chitose, you'll have dinner at an *izakaya* in the city. You'll get to make your own hand-rolled sushi, an iconic element of Japanese culture, before enjoying fresh seafood dishes such as sashimi and sushi, along with deep-fried dishes, grilled dishes and a variety of other classic Japanese fare.



Activity:

Hiking (around 6 hours) Altitude: 829m

Difficulty:

3/5

Day-by-day Itinerary

Day 4 – Salmon Hometown Chitose Aquarium and Tea Ceremony

On your last day, you'll visit Salmon Hometown Chitose Aquarium (around a 5-minute drive or 15-minute walk from the hotel), which boasts one of Japan's largest freshwater tanks. The director, who is also the curator, will tell you all about the salmon in the Chitose River and Lake Shikotsu and the ecosystem of freshwater fish in northern regions. With freshwater sea life from around the world, this aquarium has one fascinating sight after another. Your visit will leave you with an in-depth understanding of how Chitose's flora and fauna interact with the waters of Lake Shikotsu.

Breakfast

With both Japanese and Western dishes and an open kitchen, this buffet has something for everyone. Local ingredients are used wherever possible, from the fish to the vegetables and rice.

Lunch

Enjoy a lunch buffet back at ANA Crowne Plaza Chitose, made with plenty of seasonal Hokkaido ingredients.

The buffet features a mouthwatering selection of meat and fish dishes, complemented by delicious salads and desserts.

After lunch, you'll head to Portom International Hokkaido (a hotel directly connected to the airport, around a 15-minute drive from ANA Crowne Plaza Hotel Chitose) and experience traditional Japanese culture by taking part in a tea ceremony.

Tea ceremony is about so much more than the tea itself; it's about enjoying a moment of tranquility while extending hospitality to your guests. As you take part in the ceremony, you'll get a keen sense of the beautiful spirit of hospitality and *wabi-sabi* (a worldview focused on seeing the beauty in imperfection and accepting the transience of life) behind this ritual.

The tearoom was built under the supervision of the late Masao Nakamura, a leading researcher and former architect and architectural historian of *chashitsu* and *sukiya-zukuri* tearooms, setting the scene for an experience of authentic Japanese hospitality.

This is the last item in your itinerary. After the ceremony, which will end at around 2:00pm, you can head across to the airport or explore the area by yourself.



Accommodation

Day 1- Day2 : Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta

Japanese-Western fusion single room with two semi-double beds.

You can even opt for a room that has a bath with a view or an open-air bath.

- Wi-Fi is available throughout the building.
- Two coin-operated washing machines are available on the 1st floor.

These can be used at any time between check-in and check-out.

¥300 per wash, ¥100 per use of dryer (30 minutes).

Detergent is available from reception (¥50 for enough for 1 wash)

URL: <https://www.mizunouta.com/en/>

Day 3: ANA Crowne Plaza Chitose

Western-style single room with two single beds.

- Wi-Fi is available throughout the building.
- No coin-operated washing machines.
- Laundry service can be requested at reception (request by 11:00am, finished in the evening).
- Convenience store (FamilyMart) located in the hotel.

URL: https://www.ihg.com/crowneplaza/hotels/us/en/hokkaido/ctsja/hoteldetail?qRef=sr&qDest=%E6%97%A5%E6%9C%AC%2C+%E5%8C%97%E6%B5%B7%E9%81%93%E5%8D%83%E6%AD%B3%E5%B8%82&qRpn=1&qChId=1&qSrt=sDD&qSHp=1&qSmP=3&qGRM=0&qLng=141.6509&qRdU=0&qRms=1&srb_u=1&qAdlt=1&qPSt=0&qRtP=6CBARC&qLat=42.821&qRRSrt=rt&qRad=50&qRpp=20&qBrs=ic.ki.cp.in.vn.hi.ex.rs.cv.sb.cw.ul&qWch=0#

What's included

- English-speaking guide for entire tour, guides for each activity
(Lake Shikotsu Clear Stand-up Paddleboard Tour, Nanajo Otaki Snowshoe Tour, hiking up Mt. Ichankoppe)
- Accommodation (4 days/3 nights)
- Meals (4 breakfasts, 3 lunches, 3 dinners)
- Tour bus from pickup at New Chitose Airport on the first day to dropoff at the airport on the final day
- Activities

The following charges are not included

- Lunch on the day of arrival
- Alcoholic drinks
- Travel insurance

What we provide

Clear Stand-up Paddleboard Tour

Stand-up paddleboarding set, drysuit, neoprene cap, gloves, lifejacket

Nanajo Otaki Snowshoe Tour

Snowshoes, boots

Hiking up Mt. Ichankoppe

Avalanche beacons, probes, shovels, walking poles

Items that can be rented

- Snow gear (tops and bottoms)
- Down jackets
- Gloves
- Snow boots
- Goggles



Montbell
Storm Parka &
Drytech
Insulated Pants



Montbell
Alpine
Down Parka



SOREL
Winter Carnival



Montbell
Powder Gloves



Montbell
Alpine Goggles

What to bring

Winter clothing (must be warm and easy to move in), windproof jacket, winter gloves, hiking boots, rain gear (suitable for winter), down or synthetic thermal innerwear, thick synthetic or wool socks,

hat that covers the ears, sunglasses, backpacking food (sweet snack that is easy to eat), backpack (about 30L), water-resistant gloves + change of gloves or lining, walking poles, spats (gaiters),

sunscreen, standard medication (as well as any medication that you need to take regularly), mask, neck warmer, portable toilet/towel, water bottle (please bring a reusable water bottle for environmental reasons), cash.

If you take medication or use medical equipment such as an inhaler or epi-pen, bring this with you.

Optional

- Camera
- Binoculars
- Heating pads

Information and Requirements

Dietary Restrictions

Please let us know in advance if you are allergic to ingredients such as nuts or seafood, or eat a vegetarian, vegan or gluten-free diet.

Emergency Response Plan

Both accommodation facilities have a mobile phone signal. In the event of an accident, your guide will provide assistance immediately, and will contact a local medical facility if necessary.

In the event of issues such as broken gear or minor mechanical issues, we will provide support.

Weather

Central Hokkaido is cold with heavy snowfall in January. The average temperature is -6°C with highs of 2°C and lows of -12°C. We recommend wearing warm clothing, including a down coat, thermal innerwear, a sweater, a scarf, gloves, a hat and a neck warmer.

Reservations and Cancellation Charges

Payment Method

Charge for tour: ¥XX,XXX

Credit card payment only.

Pay by August 1, 2022. Please note that payments cannot be accepted after this date.

Making a payment by credit card

Visa, MasterCard, JCB, AMEX and Diners Club are accepted.

The payment will appear with the name of Chitose Tourist Association, our registered agent, on your credit card statement.

Cancellation Charges

*In the event of a cancellation, the following cancellation charge will be deducted from your refund.

*Chitose Tourist Association will refund the remainder within 7 days from the day after your cancellation if the cancellation was made prior to departure.

*If no notice is given, you will not receive a refund.

21 or more days prior to the departure date of the tour	No cancellation charge
8-20 days prior to the departure date of the tour	20% of the tour fee
2-7 days prior to the departure date of the tour	30% of the tour fee
1 day prior to the day of departure	40% of the tour fee
On the day of departure	50% of the tour fee
After the day of departure, or if no notice is given	100% of the tour fee

Disclaimer

Cancellation of tours

Chitose Tourist Association may cancel a tour or change the itinerary in the event of extenuating circumstances.

If your tour is canceled, you will receive a full refund.

It is almost never necessary to cancel a tour due to weather. Cancellations only occur in extraordinary unforeseen situations.

Chitose Tourist Association will not reimburse tour participants for associated charges such as those associated with flight tickets.

Terms and Conditions for Agent-organized Tours

Contact details of Tour Operator

Chitose Tourist Association

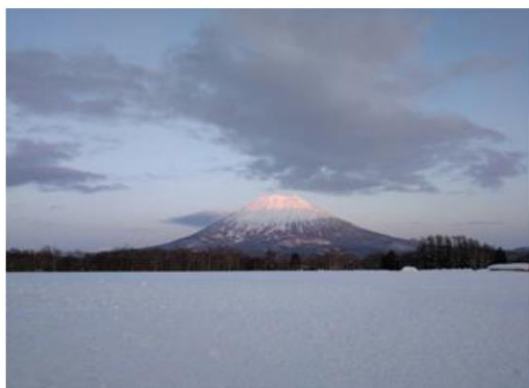
3-4-1 Ryutsu, Chitose City, Hokkaido 066-0019

Phone: 0123-24-8818

E-mail:

【ニセコ版】

Niseko #JAPOW - Ski, Snowshoe, Scenic Float, Niseko Harvest Tour



Niseko is a natural wonderland, from Mt. Yotei and the Niseko mountains to the Shiribetsu River and, of course, the incredible powder snow (known as JAPOW) created by the unique topographic and climatic conditions of this area. This is a place you can't help but be enthralled by, and Niseko locals have immense respect for the nature that provides their food and the livelihoods of much of their community.

With local guides showing you the way, you'll experience Niseko's powder snow through an exciting range of activities, including lift access backcountry skiing (or skiing on the slopes) and scenic floating. Along the way you'll get to know Niseko in all its glory and find out what draws so many people to this stunning location.

Highlights:

- Skiing (or backcountry skiing if the weather is good) on Niseko's amazing powder snow
- Scenic floating down Niseko Stream and the Shiribetsu River
- Snowshoe tour and a talk about the area's water, snow and rice
- 3-night stay at a secluded hot spring inn with a cozy wood interior and a traditional Japanese style
- Wide range of cuisine featuring local specialties such as kaiseki cuisine, Genghis Khan, udon noodles, tonkatsu, a local farmer's lunch and imo-mochi

Locations:

Niseko/Yotei area (Niseko, Kyogoku, Rankoshi)

Main Activities:

Skiing (lift access backcountry skiing or skiing on slopes), snowshoeing, scenic floating, Niseko Harvest Tour (retrieving potatoes from the snow)

Difficulty:

3 or 4 /5

Tour Length:

4 days/3 nights

Pax:

Minimum 10

Maximum 15

Price:

10-14pax 380,000JPY/pp 15pax 330,000JPY/pp

Day-by-day Itinerary

Day 1 – Arrive at New Chitose Airport - Kyogoku - Niseko

Arrival information

After arriving at New Chitose Airport (CTS), meet your tour guide in the arrival lobby. JAL, ANA, Air Do and other airlines provide many direct flights to New Chitose Airport from Haneda Airport in Tokyo. There are also direct flights from airports in Asia and Europe.

Once everyone has arrived, we'll board the tour bus and head to Niseko, an area that attracts skiers from around the world with its incredible powder snow. You'll know you're almost there when you see Mt. Yotei, a mountain so beautiful that it was selected as one of the 100 Famous Japanese Mountains. Known as the "Mt. Fuji of Ezo (the old name for what is now Hokkaido)", this stratovolcano stands 1,898m high. You'll get a close-up view when we have lunch at Meisui Udon Nonosan, an udon noodle restaurant at the foot of the mountain.
(Distance and travel time from airport to restaurant: Around 90km/1 hour 45 minutes)

Lunch

Meisui Udon Nonosan

Enjoy udon noodles made from 100% Hokkaido-grown wheat and water from the mineral-rich Kyogoku spring, which was selected as one of Japan's 100 Remarkable Waters. Slow-simmered dried skipjack tuna or kelp broth adds the perfect finishing touch. With a traditional Japanese aesthetic and stunning view of Mt. Yotei, this restaurant offers an experience that's about more than just the food.



About udon noodles

One of the most iconic types of noodles in Japan, udon noodles are made by kneading wheat flour with a small amount of salt water. They're eaten in various ways, including *tsuke-udon* (served with broth for dipping) and *kake-udon* (served in broth made with bonito stock and soy sauce).

After lunch, we'll head to Kyogoku Fukidashi Park, around 10 minutes from the restaurant.

Here we'll visit a spring formed by decades of snow and rain seeping through the ground of Mt. Yotei, collecting minerals along the way. This is a powerful spring—a staggering 56 tons of water flows from the ground every minute, or 80,000 tons per day.

You can bring your own water bottle and fill it from the spring.

And then it's off to Niseko!

The trip will take around 30 minutes, and takes us about halfway around Mt. Yotei. Sit back and admire the view.

We'll ease you into your Niseko adventure with a leisurely float down Niseko Stream, where you can admire the snowy scenery. You'll swap your shoes for some boots, don a life jacket and off you'll go.

(Duration: around 1 hour 30 minutes)

After an around 10-minute car trip, you'll arrive at the Shiribetsu River, which received the honor of Japan's clearest stream for seven years running.

Away from the hustle and bustle of the world, you can just float in peaceful serenity. There's something so healing about looking at a landscape of snow-covered trees.



This isn't an activity where you get wet, so if you wrap up in plenty of warm clothes, you won't even feel the cold!

During the activity (either on the boat or at the end), you'll enjoy coffee made with the water we collected from the spring.

What we provide: Boots, life jackets, paddles

What to bring: Winter clothing, hat, gloves, hand warmers, toe warmers, etc.

Not essential but useful: Heating pads

Activity:

Scenic Floating down Niseko Stream and the Shiribetsu River

Difficulty:

1/5

After your experience on the water, you'll be taken to your accommodation.

You'll spend three nights at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho, around 15 minutes from the river.

Located at the foot of Mt. Yotei, the Niseko Konbu Onsen hot spring village has been cherished by locals for generations. Your inn has the vibe of a vacation home, with an exquisite traditional Japanese aesthetic and cozy wood interiors with fine grains that tell the story of the trees that were used.



Dinner

Japanese *kaiseki* meal with seasonal ingredients

Dinner will be a traditional *kaiseki* multi-course meal. The Niseko area is one of Hokkaido's top rice and dairy farming areas, and a plethora of vegetables are grown here too, and your dinner will showcase the best of the best in an intricately beautiful arrangement. It's an exploration of Japanese culture in the most delicious way. (Please note that this photo is an example only.)



Accommodation

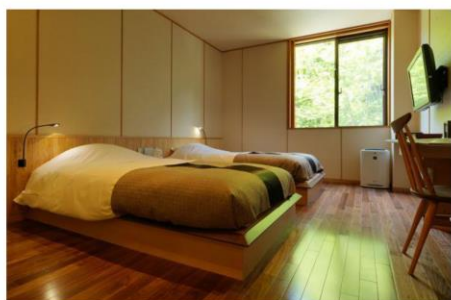
Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho

Japanese-Western fusion room or deluxe twin room (52m²). No smoking in rooms. No coin-operated washing machines.

Wi-Fi is available in all rooms, but a signal is not guaranteed in guest rooms. Wi-Fi is available in the lobby and lounge on the first floor. Laptops are also available in the computer area on the first floor, although numbers are limited.

Amenities:

Bath towels, hand towels, *samue* (traditional shirt and pants), *tabi* (traditional socks), TV, fridge, humidifier, tea (black tea, green tea and *hoji-cha*), coffee, fabric deodorizer, stationery, night steamer (nanoCare), cotton pads, hair band, shower cap, hairbrush, washcloth, razor, toothbrush, cotton buds, sewing kit, men and women's lotion, facial milk, cleanser, shaving gel, hair styling product, hair tonic, foaming facial wash, hand soap



Day 2 – Niseko Area

After a Japanese-style set meal for breakfast, we'll head out for snowshoeing (20 minutes away).

When we meet up, we'll confirm everyone's snowshoe and pole sizes and then drive to the Yukichichibu Onsen hot spring village (around 30 minutes).

After we arrive, you'll strap on your snowshoes, grab your poles and set off through the snowy forest. The walk is about 1km with a difference of around 30m between the highest and lowest point.

As you make your way through the deep snow of an Erman's birch forest, your guide will tell you about the area's snow and water and the delicious rice that is grown from these water sources.

At the end of the walk, you'll come to Oyunuma, a big hot spring lake. You'll be able to admire it from above before heading down to the lake.

What better way to learn about how this area is nurtured by water in its various forms?



What we provide: snowshoes, poles

What to bring: Winter clothing (if possible, wear layers that you can take off when you warm up), hat, gloves, winter footwear (winter boots, snowboarding boots, etc.)

Not essential but useful: Backpack, sunglasses, water bottle, snacks, etc.

Lunch

Konayuki TonTon

This restaurant specializes in tonkatsu (pork cutlets) made from free-range Konayuki TonTon pork from Eco-rin Village in the Eniwa area of Hokkaido. Crispy on the outside and juicy on the inside, the thick, freshly fried cutlets are a culinary masterpiece.

About tonkatsu

These Japanese-style pork cutlets are coated in layers of flour, beaten egg and breadcrumbs and then deep fried in oil and served with shredded cabbage and sauce.



After lunch, we'll head to Niseko Moiwa Ski Resort (2 minutes by car/ 10 minutes by walk).

Niseko's exceptional powder snow is considered the best snow in Hokkaido, and is famous worldwide. And every skiing and snowboarding enthusiast—and every local—knows that the best place to enjoy it is Niseko Moiwa Ski Resort, which receives particularly heavy snowfall. The wide main course is especially popular. The area's unspoiled nature creates a stunning backdrop, and on a clear day you can see Mt. Yotei. (Source: Niseko Moiwa Ski Resort website)

Your visit will start with a briefing in Lodge Moiwa 834 or the center lodge, where a manager will tell you what you need to know about the resort and its courses.

After an afternoon of skiing, we'll tour Niseko Distillery.

This distillery is a recent addition to the town, opened in October 2021 after Hakkaisan Brewery in Niigata, a prefecture on the Japanese mainland, set its sights on the high-quality water from Mt. Niseko-Annupuri.

During the tour, you'll be shown around the distillery, see where the whiskey is stored and try some of the great drinks that are made here, including Ohoro Gin (an original craft gin made from melted snow from Mt. Niseko-Annupuri) and gin cocktails. You can even enjoy local beer and mocktails.

The brewery's aged whiskey will be ready in 2024, three years after brewing started—why not come back and try it?

Note: The distillery usually accepts a maximum of 10 people at a time for its tours, although we may be able to ask them to make an exception. If more than 10 people sign up for this tour, we'll divide you into two groups, with each group traveling in a jumbo taxi. One group will go to Niseko Moiwa Ski Resort and the other will go to Niseko Distillery and then we'll switch. If we're unable to get a tour, we'll visit the distillery's store instead.

Dinner

Niseko Loft Club

Established in 1989, this restaurant specializes in Genghis Khan, a Hokkaido specialty made with grilled lamb. Enjoy fresh lamb and vegetables paired with a range of great wines that perfectly complement the meat. Between the cozy vibe created by the wood interior of the log cabin style building and the gorgeous view of Niseko's seasonal scenery, you'll want to linger after your meal.



About Genghis Khan

A Hokkaido specialty, Genghis Khan is made by grilling slices of lamb, either plain or in a *tare* marinade, on a special convex hot plate. Vegetables such as onion, bean sprouts, bell pepper and carrots are also grilled.

Activity:

Snowshoeing
(including a talk about the area's snow, water and delicious rice)

Difficulty: 2/5

Accommodation

Like the previous night, you'll stay at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho.

Day 3 – Niseko Area

After a Japanese-style set meal for breakfast, we'll head back to Niseko Moiwa Ski Resort (5 minutes).

8:30am-2:30pm

At Niseko Moiwa Ski Resort, we'll take the lift to the backcountry area for a ski tour. After spending some time in the ski area so that you can get your bearings, we'll head out the gate and explore the powder snow in the backcountry area. We'll choose the course according to the skill level of the people on the tour.



What we provide: Three-piece avalanche kit (beacon, probe and shovel), snacks (Pow Bar, a locally made energy bar that does not contain white sugar, additives or animal products. Set of 4 flavors.)

What to bring: Skiing equipment (skis, poles and boots), skiing gear, skiing gloves
Other backpacking food, water

Lunch

Enjoy a skier's lunch in the ski resort's rest house. The menu features a range of beloved dishes, from Japanese curry to pasta.

After the activity, you'll have time to rest back at the inn.

The hot spring is a great place to recharge.

Or if you want to do some more skiing, feel free to spend more time at the resort!

Dinner

The last dinner of your tour will be at the inn. You'll enjoy another *kaiseki* meal with different dishes, along with delicious local sake.

This relaxed dinner will be the perfect end to the active few days you've had.

(Please note that this photo is an example only.)



Activity:	Skiing (lift access backcountry skiing)
------------------	---

Difficulty:	4/5
--------------------	-----

Accommodation

Like the previous nights, you'll stay at Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho. A relaxing soak in the hot spring, good food and only a short walk to your bed when you're done—that's one of the great things about staying in a hot spring inn.

Day 4 – Niseko Area – New Chitose Airport

After a Japanese-style set meal for breakfast, we'll head out for our last activity (10 minutes).

9:00-12:00

On this tour, you'll put on some snowshoes, walk through a field (50-100m) and dig for potatoes that are buried in the snow. You'll be digging 30cm-2m in a hole around 2m wide.

You'll then take the potatoes back to the facility and make imo-mochi, sticky potato cakes that are a classic Hokkaido dish.

First you'll boil and mash the potatoes and then you'll add starch and mold them into balls. After frying them in butter (which you'll churn by hand!), you can eat them with sweet soy sauce.



What we provide: snowshoes, snow boots, shovels, cooking equipment, ingredients
What to bring: Ski gear, warm hat, gloves, goggles or sunglasses

Lunch

Western-style restaurant run by the farmer:

Niseko Farmer's Kitchen Ponpon

This restaurant serves inventive dishes made with ingredients from Niseko Omichi Farm and other local sources. Its casual vibe has made it a hit among locals. Here you'll enjoy great dishes such as salad and pasta made with plenty of Niseko vegetables.



And here's the point where we say goodbye to Niseko. How was your stay? Were there any new discoveries for you? What was the most memorable part? You can chat about all the great things you experienced as we make our way back to New Chitose Airport. The trip will take 2 hours 30 minutes (with one restroom stop) so make sure your flight departs after 6:00pm if you're taking a domestic flight or after 7:00pm if you're taking an international flight.

Activity: Niseko Harvest Tour (retrieving potatoes from the snow)

Difficulty: 2/5

Departure information

The trip to New Chitose Airport will take 2 hours 30 minutes (with one restroom stop) so make sure your flight departs after 6:00pm if you're taking a domestic flight or after 7:00pm if you're taking an international flight

What's included

- English-speaking guide for entire tour, guides for each activity
- Accommodation (3 nights)
- Meals (3 breakfasts, 4 lunches, 3 dinners (2 at accommodation facility, 1 at other restaurant))
- Tour bus from pickup at New Chitose Airport on the first day to dropoff at the airport on the final day
- Activities

The following charges are not included

- Lunch on the day of arrival and on the final day
- Alcoholic drinks
- Travel insurance

What to bring

Winter clothing (if possible, wear layers that you can take off when you warm up), windproof jacket, winter footwear (winter boots, snowboarding boots, etc.), winter hat, gloves, skiing equipment (skis, poles and boots), skiing gear, skiing gloves, goggles, backpack, backpacking food, sunglasses, sunscreen, (hand/foot) warmer

For environmental reasons, please bring a reusable water bottle instead of buying bottled water.

Other

Towel

First aid kit

Cash (some small local stores and restaurants may only accept cash. We recommend changing money at an airport in Japan after arrival.)

If you take medication or use medical equipment such as an inhaler or epi-pen, bring this with you.

Optional

- Camera

Information and Requirements

Dietary Restrictions

Please let us know in advance if you are allergic to ingredients such as nuts or seafood, or eat a vegetarian, vegan or gluten-free diet.

Emergency Response Plan

Both accommodation facilities have a mobile phone signal. In the event of an accident, your guide will provide assistance immediately, and will contact a local medical facility if necessary.

Weather

Winter in Niseko is very cold with heavy snowfall.

December: Average temperature -3.3°C,
average high 0.1°C, average low -7.4°C, 23 days of precipitation (snow)

January: Average temperature -6.3°C, average high -2.5°C,
average low -11.3°C, 24 days of precipitation (snow)

February: Average temperature -6.1°C, average high -1.8°C,
average low -11.5°C, 20 days of precipitation (snow)

March: Average temperature -2.1°C, average high 2.1°C,
average low -7.0°C, 17 days of precipitation (snow)

Be sure to bring snow boots, as the roads will be frozen. We recommend wearing ski gear or other winter clothing such as a down coat. A knit hat, gloves, thick socks, heating pads and similar gear would also be useful. Also remember that indoor areas will be heated—wear layers so that you can take off your outdoor clothing easily.

Reservations and Cancellation Charges

Payment Method

Charge for tour: 10-14 people on tour: ¥380,000 per person

15 people on tour: ¥330,000 per person

Generally, only credit card payments are accepted.

Pay at least 60 days before departure.

Making a payment by credit card

Visa and MasterCard are accepted.

(If you would prefer to pay by bank transfer, please let us know.)

Cancellation Charges

*In the event of a cancellation, the following cancellation charge will be deducted from your refund.

*We will refund the remainder within 10 days from the day after your cancellation if the cancellation was made prior to departure.

*If no notice is given, you will not receive a refund.

61 or more days prior to the departure date of the tour	No cancellation charge
60-20 days prior to the departure date of the tour	20% of the tour fee
2-7 days prior to the departure date of the tour	30% of the tour fee
1 day prior to the day of departure	40% of the tour fee
On the day of departure	50% of the tour fee
After the day of departure, or if no notice is given	100% of the tour fee

Disclaimer

Cancellation of tours

Niseko Resort Tourist Association may cancel a tour or change the itinerary in the event of extenuating circumstances.

If your tour is canceled, you will receive a full refund.

It is almost never necessary to cancel a tour due to weather. Cancellations only occur in extraordinary unforeseen situations.

Niseko Resort Tourist Association will not reimburse tour participants for associated charges such as those associated with flight tickets.

Terms and Conditions for Agent-organized Tours

Contact details of Tour Operator



Niseko Resort Tourist Association (Travel Group)

142-1 Aza Chuo-dori, Niseko Town, Abuta District, Hokkaido

Phone: 0136-44-2468

Fax: 0136-55-5777

Email travel@niseko-ta.jp

【千歳・ニセコ組み合わせ版】

Winter Hokkaido: Snow & Water Multisport in Lake Shikotsu and Niseko (Hiking/Skiing)



Enjoy everything a Hokkaido winter has to offer at Shikotsu-Toya National Park and Niseko-Shakotan-Otaru Kaigan Quasi-national Park. In Shikotsu-Toya National Park, known among locals as a "museum of active volcanoes", you'll explore Lake Shikotsu, one of the clearest lakes in Japan. Then you'll experience some of the best powder snow in the world (called JAPOW, short for Japan Powder) on the 1,000m peaks of the Niseko Mountain Range and its surrounding mountains.

This tour takes you face to face with the wonders of water in all its forms, amid a peaceful, silvery-white world that only exists at this time of year. You'll also hear about how people have lived on this snowy land since ancient times. After experiencing Lake Shikotsu from every angle (stand-up paddleboarding, winter hiking, hot springs and more!) you'll head to the holy ground of powder snow and see what skiing, snowboarding and snowshoeing is like on some of the best snow in the world. It's an exhilarating encounter with water's circle of life.

Highlights:

- Hear about the lives of people who call this area home
- See the clear waters of Lake Shikotsu from a clear stand-up paddleboard
- Hike up Mt. Ichankoppe
- Enjoy skiing and snowboarding on JAPOW, powder snow that is the envy of the world
- Relax and recharge the Japanese way at a hot spring

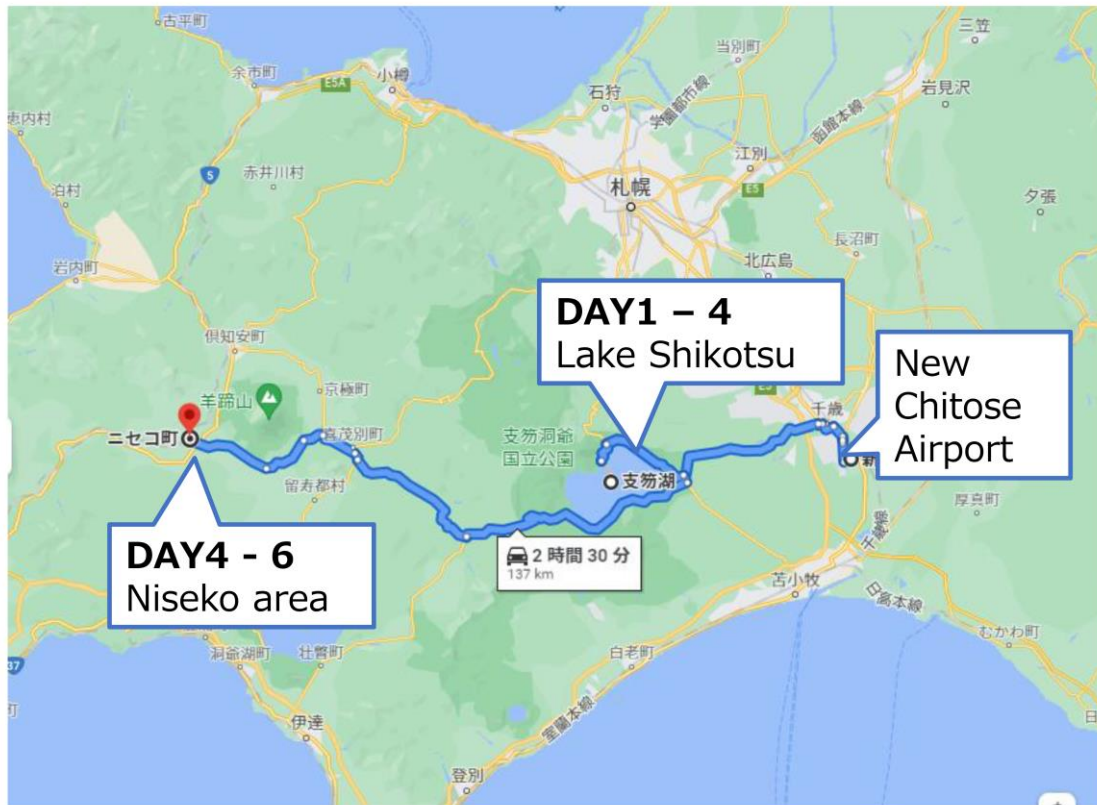
Location:

Lake Shikotsu

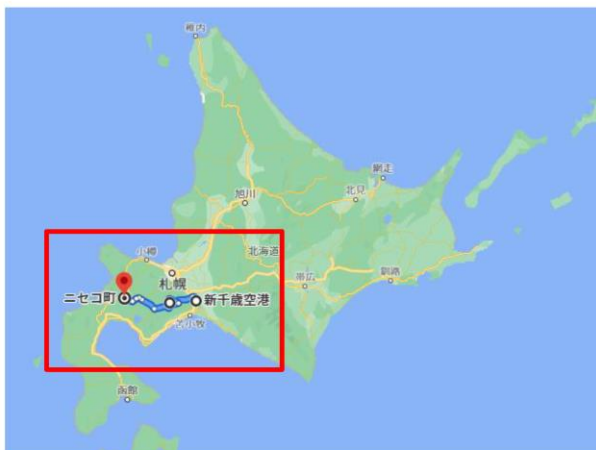
Niseko

Main Activity:	Stand-up paddleboarding, hiking and skiing (snowboarding)	
Difficulty level:	3/5 Good physical fitness required; ~4-6 hours activity/day	
Tour Dates:	5 nights 6 days	
Group Size:	Minimum 4	Maximum 8
Price:	JPY 390,000 ~ 475,000	

Route map



地図データ ©2020 Google 利用規約 10 km



Day-by-day Itinerary

Day1 – Arrive at New Chitose Airport and travel to Lake Shikotsu

Meet at 12:00pm at arrivals gate 4 on the 1st floor

of New Chitose Airport (CTS)

You will be greeted by the guide who will be with you for the whole tour. If you are unable to get there, please contact ●●●●●●●●.



When everyone has arrived, your guide will tell you more about the tour and then show you to your tour bus. It's a custom in Japan to pray for safe travels, so your first stop will be Chitose Shrine (around a 15-minute drive). The deity enshrined here is the deity of food and water. Next to the stairs in the main building is *Sachii no Mizu* (Spring of Good Fortune), a holy spring that originates in the forest by the shrine. After experiencing a Shinto prayer ritual, you can collect some in your water bottle. You'll notice that this is a popular spot among locals too.

And then it's off to Lake Shikotsu (around a 40-minute drive). This caldera lake was formed by the eruption of Mt. Shikotsu 40,000 years ago, and is Japan's northernmost ice-free lake. The exceptionally high level of purity gives the glittering waters a one-of-a-kind hue known as "Lake Shikotsu blue".

After a good lunch at a local restaurant, you'll head to Lake Shikotsu Visitor Center, where you'll see a video about the lake and find out about the tour from your guide, with dioramas as visual aids. You'll then watch people building ice sculptures for the spectacular Chitose-Lake Shikotsu Ice Festival, which is held every January. The stunning sculptures are made with water from Lake Shikotsu.

After that, you'll be taken to Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta, where you'll spend the next few nights. There'll be time before dinner to relax in your room or admire the lake nearby.

Dinner will be a traditional kaiseki multi-course meal, made with local seasonal ingredients. Every element, from the colors to the size of each helping, is meticulously designed to create a meal as beautiful as it is delicious.

Dinner Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta Japanese *kaiseki* meal

What is kaiseki?

Kaiseki-ryori is a traditional type of Japanese multi-course cuisine.

Note: The photo is a sample image.



Day-by-day Itinerary

Day2 – Nanajo Otaki Fat BikeTour /Lake Shikotsu Clear Stand-up Paddleboard Tour

After a healthy buffet breakfast at the hotel, you'll set off for the activities you've been waiting for. The snowshoe and clear stand-up paddleboard tours will give you a close-up view of the clear waters created by the unique natural conditions.

First, we'll get on fat bikes and head to the Nanajo Otaki waterfall to the south of Lake Shikotsu. It's about 14 kilometers each way on a straight road. Depending on the snow conditions, you might also get to challenge yourself on a hilly gravel road. A local guide will tell you all about the nature of Lake Shikotsu along the way. You might even see wildlife such as deer! The deep, dazzling snow and the rows of gigantic trees will make you feel like you've stepped into another world...to say nothing of the icy wonderland you'll be greeted by when you reach the icicle-covered waterfall.

Lunch

Shikotsu-so

Choose from a variety of great dishes, from Lake Shikotsu's famous kokanee trout to miso ramen and tanteki-nabe made from generations-old recipes.

The miso ramen is a particular favorite that diners keep coming back to.



After lunch, you'll get an up-close view of the glittering "Lake Shikotsu blue" waters of the lake from a clear stand-up paddleboard.

Your drysuit will keep your whole body dry, so you'll stay nice and warm! Your guide will tell you everything you need to know about how to get on the board and paddle. And then you'll cruise along the coastline of the lake, taking in the mesmerizing view of the crystal-clear waters and the stunning backdrop of the "three mountains of Shikotsu" (Mt. Eniwa, Mt. Fuppushi and Mt. Tarumae).

Whether you stand, sit or lie on your board, this experience will allow you to see this natural wonder from a whole new angle.

Day-by-day Itinerary

Dinner

Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta
Healthy buffet

Simple is best in this healthy buffet made from the finest ingredients. Each dish is carefully designed to draw out the amazing umami taste of the ingredients.

The mouthwatering array includes grilled vegetables, seafood soup, beef stew, salads and more. The open kitchen serves favorites such as doria (a dish similar to gratin but with rice), hot pots and roast beef. In addition to the buffet, you can order main dishes full of seasonal delights (fish and meat dishes are available).

Finish with a seasonal dessert plate with a plethora of exquisite sweets made by the restaurant's pastry chef.



Activity:	Cycling (around 3 hours) 28km round trip Clear stand-up paddleboarding (around 2.5 hours)
Difficulty:	2/5

Day-by-day Itinerary

Day 3 - Hiking up Mt. Ichankoppe

After fueling up with a breakfast buffet, we'll depart for Mt. Ichankoppe. The name of this mountain comes from the language of Hokkaido's indigenous Ainu people and means "hole where salmon and trout spawn" (*ichan*) and "waves" or "river" (*koy pet*), because salmon and trout apparently spawned here. This mountain stands 829m high, and your hike will cover 480m of it. The first part of the trail is steep, but when you get around 30% of the way up the mountain, you'll be rewarded by a breathtaking view of Lake Shikotsu through the gaps in the trees. Until about 80% of the way up, you'll enjoy a gentle walk along ridges that offer panoramic views of Lake Shikotsu and the surrounding mountains, including Mt. Tarumae. If you're lucky, you might see Ezo deer or black woodpeckers.



We'll have a lot of ground to cover, so lunch will be some backpacking food during a short break. We'll go to buy some on the first day (this is included in the price of the tour), so make sure you grab something that will keep your energy levels up. (It'll be too cold for onigiri (rice balls)! Try some rich mushi-pan (steamed cakes) instead.)

After enjoying the view at the summit, we'll head back down the way we came. Please note that we may take a different route (or hike up a different mountain) depending on the weather.

Dinner

Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta
Healthy buffet

Activity:

Day hike up mountain: 829m high (480 m elevation gain and loss), total distance 7.5km, around 7 hours in total

Difficulty:

3/5

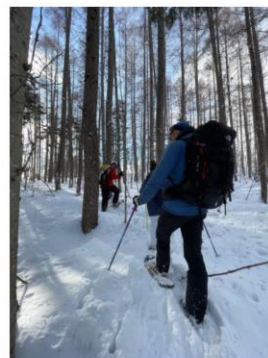
Day-by-day Itinerary

Day 4 - Snowshoeing through Niseko Forest/retrieving potatoes from the snow and making imo-mochi/BBQ in kamakura snow hut

After breakfast, we'll head to Niseko.

You'll see the deep forest around Lake Shikotsu give way to pastoral scenery surrounding a beautiful conical mountain. This is Mt. Yotei, whose natural spring water has nourished the land and allowed local farmers to flourish. Here you'll experience generations-old traditions, including snowshoeing, making imo-mochi (sticky potato cakes) and a barbecue in a snow hut (kamakura).

Your first stop in Niseko will be a local restaurant for lunch.



Lunch

Local sushi restaurant

At this restaurant, you can enjoy a fascinating glimpse into one of Japan's most iconic dishes by watching the chef prepare your sushi at the counter. If you're not a fan of sushi, there are various other dishes such as set meals (teishoku) with simmered fish.

Then you'll spend around two hours walking through Niseko Forest on snowshoes. Look for animal tracks, watch wild birds and enjoy the sights and sounds of the forest in winter. You'll see that although Niseko isn't far from Lake Shikotsu, the snow is totally different. After your walk, you'll keep your snowshoes on and dig for potatoes that are buried in the snow. The ancestors of today's locals figured out that if you store potatoes in the snow, they stay at a constant temperature, and they become sweeter as a result. Once you have enough potatoes, you'll make imo-mochi with your guide's wife and eat them with hand-churned butter and sweet soy sauce—the perfect way to refuel after a busy afternoon.



Day-by-day Itinerary

And then you'll enjoy a barbecue in a *kamakura*, a dome-shaped snow hut. These have historically been built by populations in Japan's snowiest areas, and have been used in spiritual rituals. You'll enjoy a delicious array of local foods, from venison caught near Mt. Yotei to handmade sausages, Niseko-grown vegetables preserved using the natural winter cold and scallops from Toyoura Bay.

You can even try an original juice made by your guide's own family!

Dinner

BBQ in *kamakura* snow hut

Activity:

Snowshoeing through Niseko Forest, retrieving potatoes from the snow and making *imo-mochi* (3-4 hours)
BBQ in *kamakura* snow hut (2 hours)

Difficulty:

2/5

Day-by-day Itinerary

Day 5 – Lift access backcountry skiing and piste (slope) skiing

After a good breakfast, it's time for your skiing and snowboarding trip—the highlight of the tour.

When people talk about Hokkaido's world-famous powder snow, it's Niseko's snow they're talking about. And the largest volumes of this exceptional snow can be found at Niseko Moiwa Ski Resort. A big name on the global skiing and snowboarding scene and among locals, this resort has a wide main trail and gorgeous views of unspoiled nature. On a clear day, you can see Mt. Yotei.

A qualified guide will help you on your backcountry skiing trip. (Our guides can also take you skiing or snowboarding on the slopes for an additional charge.)

When we get back to your accommodation, there'll be time to rest and recharge in the hot spring before dinner. Konbu Onsen means "kelp hot spring", and there are several theories from Hokkaido's history about why that is, a number of which are rooted in Ainu culture. The mineral-rich waters will soothe your tired muscles and leave your skin soft and smooth.

Lunch

Individually at ski resort

Dinner

Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho

Kaiseki course meal

Activity:

Lift access backcountry skiing and piste (slope) skiing
(around 4-6 hours)

Difficulty:

3/5

Day-by-day Itinerary

Day 6 – Return to New Chitose Airport

On your final day, relax until check-out at 11:00am.
The hot spring is a great way to recharge after the active few days you've had.

We'll meet briefly in the lobby after check-out before traveling two hours to the airport, with a rest stop on the way.

We will arrive at New Chitose Airport by around 3:00pm.

Lunch

Local restaurant

Accommodation

Day 1 - Day 4 (4 days/3 nights): Lake Shikotsu Tsuruga Resort Spa Mizu No Uta

Standard room with two single beds

- Wi-Fi is available throughout the building.
- Two coin-operated washing machines are available on the 1st floor.

These can be used at any time between check-in (3:00pm on Day 1) and check-out (11:00am on Day 4).

¥300 per wash, ¥100 per use of dryer (30 minutes).

Detergent is available from reception (¥50 for enough for 1 wash)

Website: <https://www.mizunouta.com/en/>

Day 4 - Day 6 (3 days/2 nights): Niseko Konbu Onsen Tsuruga Besso Moku no Sho

Standard room with two single beds

- Wi-Fi is available throughout the building.
- No laundry service.

Website: <https://www.mokunosho.com/en/>

What's included

- English-speaking guide for entire tour, guides for each activity
- Activities
- Accommodation (6 days/5 nights)
- Meals (5 breakfasts, 5 lunches, 5 dinners)
- Tour bus from pickup at New Chitose Airport on the first day to dropoff at the airport on the final day

The following charges are not included

- Skiing and snowboarding guides on the slopes
- Gear rentals for skiing and snowboarding
- Alcoholic drinks

What we provide

Clear Stand-up Paddleboard Tour

Stand-up paddleboarding set, drysuit, neoprene cap, gloves, lifejacket

Nanajo Otaki Snowshoe Tour

Snowshoes, boots, walking poles

Hiking up Mt. Ichankoppe

Avalanche beacons, probes, shovels, snowshoes, walking poles

Snowshoeing in Niseko Forest

Snowshoes, boots, walking poles

What to bring

Upper and lower body

Winter clothing (top and bottom, must be warm and easy to move in), rain gear (suitable for winter), ski gear, fleece jacket, down or synthetic thermal underwear

Hands, feet and head

Hiking boots, thick synthetic or wool socks, hat that covers the ears, water-resistant gloves + change of gloves or lining, spats (gaiters), neck warmer, goggles.

Other

Backpack (about 30L), sunglasses, backpacking food (sweet snack that is easy to eat), cold water (500ml-1L), hot water (500ml), sunscreen, standard medication (as well as any medication that you need to take regularly), mask, portable toilet/towel, sunscreen

For environmental reasons, please bring a reusable water bottle instead of buying bottled water.

Since water is a key theme of this tour, we'll be drawing water from a spring.

Make sure to bring a water bottle!

You will have time to buy backpacking food (included in the price of the tour) on the first day.

Cash

(Some small local stores and restaurants may only accept cash. We recommend changing money at an airport in Japan after arrival.)

*If you take medication or use medical equipment such as an inhaler or epi-pen, bring this with you.

Optional

- Camera
- Binoculars

About Japanese culture

Japanese-style inns (ryokan)

No other country has accommodation quite like ryokan, which reflect Japan's unique style of hospitality. Stylistic elements of traditional Japanese culture can be seen in every element, including the architecture, garden design, cuisine, hot springs (onsen) and rooms.

Hot springs (onsen)

When you stay in a Japanese-style inn, choose one with a hot spring if you can. Each hot spring has different minerals depending on the source of hot water from underground, which have a variety of health benefits. In fact, hot springs were once used as a medical treatment because of their efficacy. Hot springs are usually communal, and 99% are gender segregated.

Traditional Japanese cuisine (washoku)

Traditional Japanese cuisine, known as *washoku*, was registered as a UNESCO Intangible Cultural Heritage in 2013.

Washoku is known for its healthy dishes, subtle seasonings that draw out the flavor of the ingredients and beautiful presentation. Each cooking method—grilling, cooking in broth, deep-frying, sashimi, fermenting and stir-fry—is its own work of art. The food culture varies from one area to another, with many different local specialties made with each region's seasonal ingredients.

Information and Requirements

Dietary Restrictions

If you have dietary restrictions, an allergy to nuts or seafood, or need vegetarian, vegan, or gluten-free meals, please let us know in advance and we will provide you alternatives to the best of our abilities.

Emergency Response Plan

There is mobile phone reception at all accommodation facilities. In the event of an accident, your guide will respond promptly in cooperation with local medical personnel.

In the event of problems such as broken gear or minor mechanical problems, please rest assured that we will assist you.

Weather

The Chitose and Niseko areas are located in central Hokkaido, and January is the coldest month of the year. The area averages lows of -7°C and highs of -2°C. You'll be more comfortable in this cold weather if you bring gear such as a down coat or ski gear, thermal innerwear, a fleece jacket, a knitted hat, gloves and snow boots.

Reservation & Cancellation Policy

Payment Methods

Trip Price: JPY 390,000 ~ 475,000

Only payments by credit card will be accepted.

The due date for the payment is ●●●●● Please note that payments will not be accepted after this date.

How to pay by credit card

Visa, MasterCard, JCB, AMEX and Diners Club are accepted.

Your credit card statement will show that the payment has been made to JTB Corp., the agent handling registration.

Cancellations

*In the event of a cancellation, your deposit will be refunded after deducting the cancellation fees shown below.

*JTB will refund the remainder of the tour fee within 7 days of the day after cancellation if the refund is requested before the departure of the tour.

*Cancellation fee when notice is given:

21 or more days prior to the departure date of the tour	No cancellation charge
8-20 days prior to the departure date of the tour	20% of the tour fee
2-7 days prior to the departure date of the tour	30% of the tour fee
1 day prior to the day of departure	40% of the tour fee
On the day of departure	50% of the tour fee
After the day of departure, or if no notice is given	100% of the tour fee

Disclaimer

Trip Cancellations: JTB reserves the right to cancel or change the itinerary of a tour. In the event that we need to cancel a tour, we will refund 100% of your costs.

Weather conditions are almost never severe enough to warrant canceling a tour; cancellations only occur as a result of truly exceptional events that could not be predicted.

JTB is not responsible for compensating any additional costs such as flights.

Terms and Conditions for Agent-organized Tours

Tour Operator / Contact



JTB Corp. HOKKAIDO Branch
c/o Urban Net Sapporo Bldg, 1-2 Nishi 6-Chome,
Kita 1-jo, Chuo-ku, Sapporo, Hokkaido, Japan 060-0001
[TEL: +81-11-221-4800](tel:+81-11-221-4800)
email:jtb-mice@jtb.com

(2) スルーガイド対応手順

スルーガイド資料

スルーガイド対応手順

＜監修：(一社)日本アドベンチャーツーリズム協議会＞

1. スルーガイドの役割

(1) スルーガイドの役割

スルーガイドは、ATツアー催行時に全体を一貫して管理、演出する役割を持つ。旅行商品の条件として、ゲストに約束している旅行内容を計画通り円滑に終了させるように努めるだけでなく、ゲストを徹底的に楽しませる演出家の役目も果たすなど、旅行商品におけるスルーガイドに期待されている役割は大きい。

令和3年度「地域の観光コンテンツを活用したアドベンチャーツーリズムのモデルツアー造成等事業」冬季ATツアー造成にむけた情報整理・研修事業において作成された「スルーガイドチェックシート」に、その役割が示されているが、下記の項目については、重要なポイントとなるため、補完資料として説明を加えている。

① 旅程管理者としての役割	国内では旅行業法との関係から「契約内容に盛り込まれた旅行サービスを確実に受領できるよう」また「円滑な旅行の実施を確保するために」必要な業務を行うことがスルーガイドに求められる。 旅行の総合案内、チケットなどの手配・管理、宿泊施設へのチェックインと注意事項や食事場所等の案内、ゲストの安全・健康管理、トラブル対応、サービス内容の変更に伴う対応といった従来の役割にとどまらず、ATのゲストに向けては、来日直後の基本案内（日本の習慣、ルールなど）、ツアーに関わる日本の基礎説明（ツアーを楽しむ上で把握しておくべき、日本の基本的な自然や歴史・文化的な背景など）、ツアー全体像の提示、ツアーに関わるエリアに関する基本情報、翌日の情報提供、持ち物・装備品のチェックなども含まれる。
② 英語対応者としての役割	英語は流暢で、かつ地域文化に造詣が深く、また、ゲストの国の文化にも理解があった上で適切な言葉でツアー中に、端的に案内出来るかが重要なポイントとなる。また、地域のガイドの説明を、正確に地域の自然、動植物やその生態、文化などを表現する語彙力でゲストに伝えることも求められる。そのためには、地域のガイドのトークをうまく引き出したり、ゲストの情報を地域のガイドに伝えておくなどして、ゲストが欲しい情報を伝えてもらったりすることなどが大事である。 ツアーを催行する上で必要な表現を事前に用意することも必要であるが、日ごろから地域にとどまらず日本全体の歴史、文化、時事問題等に関し幅広い視点からの勉強は欠かせない。ゲストに対して持論を押し付けるのではなく、あくまでも客観的な説明をして、私的見解を求められればお答えするような姿勢が必要である。
③ 安全管理者としての役割	一般的な観光ツアーと異なり、ATツアーは都市型の救急体制が及ばない、もしくは救急隊到着まで時間がかかる場所で行われることが多く、ガイドだけでなく、様々なアクティビティにおいて何らかの形で応急処置をしなくてはならない可能性がある。ゲスト向け日程表だけでなく、現地の旅行会社や国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）が作成するMIC（Minimum Information to Client）や安全に関する免責事項（Safety disclaimer）を熟読して、アクティビティの強度や内容をゲストへ事前に説明し、ゲストが安全にツアーを楽しめるようにアクティビティガイドと調整に務めることが極めて重要である。 詳しくは「4.の安全・危機管理」（P43）を参照のこと。
④ コーディネートする役割	スルーガイドは行程中でもゲストと英語で緊密なコミュニケーションをとりながら、要望・特性・健康や食関連の必要なケアなどを汲み取り、ガイドを含む体験・宿泊・食事箇所等複数の事業者と相談しつつ、バランスを考慮し、WOWファクターの設定、ハイライトでの盛り上げ、自己変革の機会などを「ツアー全体」で実現するといった、より高度なスキルを求められる。

④コーディネーターする役割 (続き)	その対応の為には、事前に国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）からゲストについてアレルギーはもちろん、食習慣や宗教上の理由で食さない物がある場合や好まない物がある場合などの情報を得ておくことは極めて重要である。 また、ツアー内のアクティビティに関しても基本情報（提供可能時期、体験内容など）、必要な装備品やコース概要、アクティビティ施設に関すること（トイレや更衣できる場所の有無）、ガイドの特性などを事前に把握しておくことも必要である。 その土地の自然や歴史を知り、その体験をすることの意義が感じられるように情報提供ができるか、欧米や他地域と比べたユニークな点を案内できるか、ツアーのテーマについて理解し、そのテーマが伝わるような情報提供ができるかがカギである。全体から細かい部分に焦点を当てるような案内の仕方をするとうい。 コンテンツ間の移動時に、必要に応じてコンビニやトイレ等に立ち寄りしたり、休憩をはさみ車で移動中も疲れさせないような配慮も行う。 ゲストの体調や反応に合わせて、可能な範囲で体験時間を長めにとる・または少し早めに切り上げるなどの対応も考える。現地関係者とのネットワーク及び関係構築は、現場で臨機応変な対応等をスムーズかつ気持ちよく行ってもらえるための重要な要素の一つである。
⑤コミュニケーション力	ゲストに寄り添い、ツアーのストーリーを伝え、高い体験価値としてツアーを提供していくための工夫を行いながらガイドングを行っていくことが求められる。 そのためにはリーダシップを基本に、ジョークを織り交ぜたり、サプライズを入れ込むなどゲストを楽しませたり、ゲスト同士の関係性を構築するためのエンターテインメント性も必要である。ツアー中の雰囲気や醸成、相手の理解度やバックグラウンドの違いに合わせた案内や情報提供、エクスペクションマネジメント（ゲストの期待値への対応）も行っていく。また、ゲストの状態をいち早く察知し、調整や声掛けを行ったり、一方的な説明等により、ゲストが飽きたりしているのを察知したら、フォローを行う。ゲストと同行する中で偶然に出くわす文化や地域の特徴等を見逃さず、すぐに察知し説明することも問われる。スルーガイドやアクティビティガイド、訪問先で出会う人々からの一方的なコミュニケーション（説明等）ではなく、ゲストに考える余白を与えられるようにする。そのためには、ガイドとゲスト、ゲストと訪問先で出会う人々やモノコトとのインタラクティブなやりとりがしやすくなる様な雰囲気を醸成したり、またはその手助けをさりげなく行ったりする。 ガイドとゲスト間のみならず、ゲスト同士が互いを知り体験を共有することは体験そのものの価値を高め、有意義な時間の提供に繋がる。
⑥サステナビリティへの配慮	アクティビティを行う地域全体のサステナブルな取り組みや仕組みなどを説明することで、その後に体験するアクティビティの意義がより高まることがある。地域の生活の中で、現代風にアレンジされながらも古くからその地方で行われてきた独特の工夫（雪室、笹の葉で食品を包むこと等）など、その場所ならではの紹介も欠かせない。また、地産品の活用や地域の雇用創出等、地域経済への貢献や、自然体験等に際して入場料が必要な場合、その費用がどの様に自然や動植物保護などに使われるのかなどの関心が高い。 ATアクティビティの行われる地域は対象であることが多いため、自然公園法やエコツーリズム推進法、地域の条例、地域の文化財の保護や歴史遺産などや条例の知識を持ち、適宜話に織り込み適切な説明ができるようにしておくとい。 事前に国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）を通じて海外事業者、ゲストに向けてペットボトルでなく、シングルユースではない水筒の持参を促してもらう。また、ツアー中は給水機を準備するなど、その土地やツアーで出来る範囲での行動を意識する。ゲストに対し、サステナビリティについて一方的に説くのではなく、ゲストと双方にやり取りし、行動を選択してもらうようにすることが大事である。

(2) スルーガイドの基本的条件

スルーガイドがATツアーに添乗するには、豊富な知識、冷静な判断力、豊かな人間性など、多様な能力が必要である。スルーガイドは長期間にわたり、ゲストと「寝食を共にしながら」業務を遂行する。新人であっても一生懸命に努めることで、知識不足をカバーして、ゲストから高い評価を受けることがある。一方、ベテランと言われる経験豊富なスルーガイドでも、ゲストから良い評価を得られないケースもある。

スルーガイドの業務は「ここまでやれば・・・」といったマニュアルもなければ、ある時に喜ばれたサービスが、常に他のゲストからは喜ばれないなど、同じ評価をされるとは限らない。

以下の点を基本として、スルーガイドとしての経験を積んでいく必要がある。

①心身の健康	最高のサービスを提供するためには、まずは自身の健康が第一である。ツアーの現場がスルーガイドの職場であり、体調を損なっている状態では、良い仕事が出来ず、ゲストに迷惑をかけることになる。 ATツアーは体力的にハードなスケジュールになる場合が少なくない。常に睡眠をしっかりとって、万全のコンディションでゲストを迎えるようにする。
②豊かな人間性	明るく、親切で、頼り甲斐があるスルーガイドは、ゲストから信頼され、好まれる。どんなに経験豊富なスルーガイドでも、近寄りがたい、頼みにくいといった印象を与えれば、ゲストはツアーを楽しむことが出来ない。 ゲストの要望を叶えることがツアーの成功に繋がることを意識して、相手の身になり、個々のゲストに寄り添った思いやりのあるスルーガイドを目指すことが重要である。
③強い責任感	スルーガイドはゲストをまとめ、安全で円滑にATツアーを実施しなければならない。ツアー全体の安全を担保するとともに、荷物・携行金の管理をしっかりと行うこともスルーガイドの業務である。ゲストはもちろん、海外の旅行会社に対しても責任を負っていることを意識する。
④判断、対応、処理能力	特にATツアーは天候の影響などにより、毎回、予定通りに順調に進むとは限らない。不測の事態に遭遇した場合、冷静に状況を判断し、的確な対応、処理にあたるのがスルーガイドに求められる。原因の所在が関係機関であれば、海外旅行会社または国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）を代表して、毅然とした態度で臨むべきであり、不可抗力であれば、ゲストの理解を得られるように、ゲストの感情に配慮した説明が必要になる。いずれも優柔不断な態度ではゲストの統率はできない。 重大な事故が発生した際は、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）へ速やかに報告して、指示、支援を仰ぐ必要がある。自分で何がどこまでできるかを判断し即座に対応する「判断力」と「対応力」が求められる。
⑤豊富な業務知識	ゲストは、「スルーガイドはツアーのことは何でも知っている」と思っていることがある。ツアー中に慌てることがないように、日ごろから様々なことを想定してツアーの準備を行っておく。出来る限り事前に下見を行い、ゲストに安心してガイドングできるようにする。 知ったかぶりは厳禁である。その場で答えられなくても、誠意ある対応を行うことは信頼に繋がっていく。
⑥接客マナー、身だしなみ、言葉づかい	人を判断する際、第一印象が大きく左右する。サービス業では「接客対応マナー」が広く研修項目に含まれており、ゲストに良い印象を持って頂くための接客マナーや身だしなみ、言葉づかいは基本である。 一度与えた第一印象はなかなか覆らない。ゲストに対して清潔感を与えることに留意し、第一印象で信頼を得られるよう心がける。 また、言葉づかいでは、敬称を正しく使うことが重要である。欧米豪では、博士号を有するゲストには「ドクター」と呼ぶことが一般的であり、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）を通じて、海外旅行会社から、ゲストの敬称について確認する必要がある。

2. 出発前の準備とツアーの流れ（ATスルーガイドとして知っておくべき概要）

(1) 出発前の準備フロー

1

旅行条件と内容の理解

はじめにスルーガイドとして務めるツアーのパンフレット、日程表、MICに従って、以下の内容を十分に理解する。訪問場所の特産品や特有の自然、持続可能性に配慮した取り組みなどを中心に国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）の過去の資料（同じツアーの前任スルーガイドによる報告書）を閲覧したり、ガイドブックや観光協会などのホームページを活用したりして、ツアーの理解と知識を深める。

- ツアーの特徴：ハイライト(WOWファクター)、アクティビティ強度
- 宿泊箇所：立地環境、特徴、部屋タイプ、ベッドのタイプ及びサイズ、客室内のトイレや風呂/シャワーの有無、Wi-Fi、ファシリティなど
- 食事条件：料理内容、場所、座席タイプ、営業時間、可能なアレルギー対応
- 訪問箇所：ツアーにおける訪問理由、休館日、営業時間
- アクティビティ：内容、ツアーにおける体験理由、強度、催行不可の場合の代案
- 注意事項：ゲストに準備頂くもの、ツアーで準備するもの
- オプションツアーの販売有無
- 乳幼児の対応
- 特別な配慮が必要なゲストの情報と手配内容
- 旅行代金に含まれている費用と含まれてない費用、スルーガイドとして判断が任されているツアーの予備費用の有無

2

国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）からの引継ぎ

ツアー出発前に国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）から最終日程表や手配書、ゲストリストや携行金やバウチャー類、必要な書類などを受け取り、電話による事業者への最終確認を行う。手配内容がパンフレットやMICと相違が無い、確認が必要である。手配内容とパンフレット及びMICに相違がある場合は国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）へ報告する。販売されたツアー内容と、実際の行程の間には、諸事情により変更が生じている可能性がある（自然災害等による訪問地の閉鎖・臨時休業・各種規制等）ので、その理由と代替訪問場所・代替アクティビティについて、把握しておき、ゲストに何か聞かれた場合に答えられるようにしておく。また、ゲストの構成・性別・年齢・興味関心・食事制限などの特別配慮についてはよく理解しておく必要がある。

ツアー中にレンタル品など各人の身長・足のサイズの情報が必要なアクティビティがある場合には、事前に国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）を通じて把握し、アクティビティ業者に伝わっているかの確認を行う。

疑問点や不明点は、必ず出発前に明らかにして、出来る限り解決しておく。

3 手配内容の最終事前確認

- 交通機関のチケット（団体旅行券、バウチャー）など
- 宿泊券（クーポンやバウチャー）または予約記録など
- 飲食店の予約記録やバウチャー、クーポンなど
- 観光箇所の予約記録やバウチャー、クーポンなど
- アクティビティ、レンタル品の予約記録やバウチャー、クーポンなど
- 緊急連絡先
- その他、ツアーで使用する備品や資料など

4 ゲストへの確認電話

すでにお客様が来日している場合、可能であれば、ゲストの連絡先にツアーが始まる前日までに連絡を入れて、当日の集合時間や集合場所、ゲストに準備頂くものを改めてお伝えする。ゲストが不在であれば、メッセージを残すといった配慮があると良い。出発前までにツアーに対する不安を取り除いたり要望を事前に把握することで、ゲストの満足度を高めたり、期待度を調整したりすることができる。

(2) ツアーの流れと基本行動

1 受付から出発まで (フリーフィングで話す内容など)

空港での出迎えの場合、ゲストの集合時間の60分前を目安に受付場所に到着する。ファーストクラスやビジネスクラス利用の場合、飛行機が着陸してから30分以内で到着口に現れる。また、早朝到着便は定刻より早めに到着すること多いため、余裕を持って空港でスタンバイする必要がある。

集合場所での受付時にはフレンドリーに一人一人に挨拶と声かけを行う。新型コロナウイルス対策上、必要であれば体温チェックを行ったり体調についてお伺いする。全体への案内として、始めにツアーストーリーを話し、当日のスケジュールの確認と説明を行う。ゲストの不安を払しょくし、疑問に答えることがツアーの成功には重要であることからツアーをしっかりと理解しておく必要がある。リスクやネガティブな話についても最後に短めで端的に伝えておく。

2 1日の始まり、1日の終わりに何を話すか

1日の始まりに、その日の流れ(行程、コンセプト、アクティビティ)や天候をお話する。ツアー中は適宜、ツアー全体の雰囲気やガイドが把握した上で、全体の行程表を見ながらコンセプトに沿ったサービスを提供する。

1日の終わりには、今日までの体験・アクティビティについてコーディネーターとゲストにどんな体験だったかを伺い、今日の体験やアクティビティは、ツアー全体の中でどんな位置づけであったか、ゲストにどんな体験をしてほしくて用意したもののかなど、行程の意図の説明をするなど振り返りを行う。振り返りを行うタイミングか、行程の終了前にゲストに対し翌日の集合場所、集合時間、大まかなスケジュールを伝える。

次の宿泊施設へゲストの荷物を別送する場合は、必ず前日に必要な荷造りと別送する荷物の置き場所について伝える必要がある。バゲージダウンがある場合も時間と場所を伝える。

ゲストに対して、情報は常に正確で明確であるように意識する。

3 他のゲストへの配慮

乗り物の座席や部屋割り・部屋条件・食事の席などゲスト全員に対するサービスは、出来る限り公平にすることが原則である。食事の席がトイレや出入口に近いと意識されることも多く、車窓観光で目に見えるものに対してもツアー全体を通して公平になるように気を配る。

個々のゲストからの要望には、常に全体のことを意識した上で判断し、対応する。

特定のゲストと親しくすると、妬みや誤解を招きやすいので、他のゲストに不公平感を抱かせないように注意が必要である。

4 トイレ休憩、昼食箇所、訪問箇所等

トイレ休憩は、概ね2時間ごとに取りのが一般的である。休憩時間の目安としては15分程度であるが、ゲストの状況を見つつ、コミュニケーションを取りながら設定する。

高速道路上のサービスエリアでは十分にスピードを緩めずに進入する車もあり、走ってトイレに向かうゲストと車が衝突するケースが少なくない。日本の車は左側通行であることを再度注意喚起し、車を降りる際は左右の確認を促すとともにスルーガイドも安全確保に努める。また、貸切バスを利用する場合、ドライバーの運転時間や拘束時間、休憩時間のルールは遵守しなくてはならないためドライバーとコミュニケーションを取る必要がある。

昼食箇所では、お店に入る前に予約席なのか、自由席であるかをゲストに伝える。ドリンクの注文のサポートやメニューの紹介などゲストが食べ始めるまでは対応が必要である。ATの場合は、スルーガイドも食事をゲストと一緒にとることから、場の盛り上げや料理に関してなどのご案内を行うことが多い。

訪問箇所では、全員が車から降りるまで待ってから移動する。歩くペースもゲストに合わせることで迷子のリスクを減らし、一体感と安心感も与える。

5 アクティビティ：言葉の概要（強度感、内容）

ATではハイキング・ウォーキングなどの言葉の定義を明確に分けている。ゲストの期待度やチャレンジ度合いを判断する上で重要な区別となるので、言葉の使い方を間違えないよう注意が必要である。

また、当日のゲストの体調や体力、天候等により、アクティビティの強度の変更や代替の案内を行うことが必要な場合もある。アクティビティガイドと話し合い、ゲストに事情を丁寧に説明し、理解頂くことが重要である。

アクティビティの内容やツアーにおける体験価値や意味を丁寧に伝えられるよう、事前にアクティビティガイドと入念な打ち合わせを行い、ゲストへの案内方法やツールを確認し、どのように案内するか決めておく。

●旅程の難易度について（1～5段階）（出典：ATTA）

アクティビティ、地形（登山道の表面、急峻さなど）、海拔高度、予想気温、アクティビティに従事した時間などを考慮して設けている。

レベル1 リラックス・ソーシャルアクティビティ	文化ツアー(博物館・美術館)、平坦なエリアのウォーキングなどの簡単なアクティビティ、車で巡るアニマルウォッチングなども含まれる。
レベル2 イージーアクティブ	初心者でも簡単にできるアクティビティ。運動強度もそれほど高くない簡単なウォーキングやサイクリングなど。所要時間が2～4時間程度の物が望ましい。
レベル3 モデレート(中難易度)	ゲストは健康である事、適度な運動能力が求められる。簡単な登山など、日本のアクティビティの多くはこのレベルに入る、所要時間は4～6時間程度。
レベル4 活発なアクティビティ	ゲストは健康であり、高い運動強度を求められる。提供されるアクティビティの経験があると尚良い(または求められる。) 所要時間は5～8時間程度。
レベル5 チャレンジング	ゲストは運動能力が高い事が必須。アクティビティ経験が無いゲストは参加できない場合などがあり、注意が必要。 想定所要時間は8時間以上。

●海外ゲストがイメージするウォーキングツアーの名称と定義（出典：ATTA）

Walking：

通常の靴で楽しむ、基本的に短距離および運動強度の弱い徒歩。

市内を巡るシティウォークや博物館内を回るウォークなど。ハイキングやトレッキングと混同されがちだが、例えば屋外であっても、オリンピック村の中をウォーキングはしても、ハイキングやトレッキングをするとは言わない。

Hiking：

運動強度が高い可能性もあるコンテンツ。基本的にはスタート地点とゴール地点が一緒だが、例外もある。明確な違いはないが、平坦な道や距離が短い場合には「イージーハイク（ハイキング）」という名称も利用される。行程に合ったハイキングシューズなどのフットウェアを用意することが重要。

Trekking：

運動強度の高いハイキングで、目的地を設定した旅そのものをこう呼ぶ場合が多い。しかしハイキングと同義的に名称が使われることも多い。3kmのハイキングと3kmのトレッキングにはあまり大きな違いはないが、行程が長期（3日間）になるとトレッキングという名称が推奨される。行程に合ったトレッキングシューズなどのフットウェアを用意することが重要。

【注意事項】ロープ、ハーネス等専門道具が必要となる登山はMountaineeringと訳されているが、冬の積雪時はSnowshoeing、hike up 等と訳するのが適切である。

6 宿泊施設（滞在時における注意事項）

旅館など日本独特の宿泊施設に海外からのゲストが宿泊する場合、様々なルールや様式を理解できないことがある。そのために、事前の案内が極めて重要である。

ゲストの居住国のホテルと比べて、異なる部分に力点を置いて説明をする。特に共同浴場のマナーや客室内の備品の説明（有料のものや無料で利用できるものも含め）、畳の室内ではクツを脱ぐ・スーツケースで畳を傷めないといったような説明は必須である。

7 サステナビリティ（参考資料『Adventure Travel Guide Standard』）

サステナビリティは（1）スルーガイドの役割⑥でも触れている点ではあるが、ATの世界的組織Adventure Travel Trade Association発行の『Adventure Travel Guide Standard』でも重大な項目として取り上げられているため、繰り返して記載する。

観光業が「持続可能性」に取り組むことは、もはや世界的な観点からも必須であり、スルーガイドは、アクティビティが実施されるコミュニティの環境・社会・経済の持続可能性と、生態系を保護する上で重要な役割を果たしていることを念頭に置いて、ゲストに説明する必要がある。

ツアー上のサステナビリティに関する説明だけでなく、訪問地域や日本の取組みの現状を世界の動向と照らし合わせて説明することが求められることをスルーガイドは意識しておく。

8 スナック、水の用意など

Adventure Travel Trade Associationが提唱するツアーでは、スナック（間食）と水がアクティビティの休憩時間に提供されている。また、スナックについては、果物など健康的な地元のを強調するように指示されている。水を提供する際は、出来る限りペットボトルやプラスチックを避け、ボットや再利用が可能な水筒を用意するように推奨されている。

このことから、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）やアクティビティ事業者と、スナックと水の提供方法について事前に打ち合わせをして準備するとよい。例として、交通機関や車での移動中などに、新鮮な果物や健康的なスナックと水を提供するといった手配をする。

3. ツアー全体像／着目するポイント及び留意事項

本事業で得られた知見等により、各ツアーにおける着目するポイント及び留意事項をまとめた。ツアーストーリーやその場でそのアクティビティを行う意義を常に意識することが重要。

ツアー①【千歳・ニセコ】

(1) ストーリー及びハイライト

Winter Hokkaido: Snow & Water Multisport in Lake Shikotsu and Niseko (Hiking/Skiing)



【ツアーストーリー】

支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽海岸準国立公園で、北海道の冬を満喫しましょう！

「生きた火山の博物館」とも言われる国立公園の一部を担う支笏湖は日本随一の透明度を誇り、ニセコ連峰を中心とした1,000m級の山岳地帯には世界が羨む極上の雪「JAPOW（Japan Powder）」が存在します。

最高の水質、雪質の中で体験する冬のアクティビティは夏には決して見ることでしかない白銀と静寂の世界で参加者の心身を癒す最高の経験になるでしょう。また、古来よりこの地に根差してきた人々の雪国の暮らしにも寄り添います。

このツアーでは、水から雪への自然の循環を体感することができます。旅の前半では、SUPや登山、温泉等から支笏湖の「水」を体感し、後半ではパウダースノーの聖地であるニセコにて、スキー・スノーボードやスノーシューを通じて世界でも有数の雪質を体感します。

【ハイライト】

- 地域に根差してきた、人々の暮らしについて知る
- 支笏湖の高い透明度を体感できるクリアSUP
- イチャンコッペ山登山
- 世界が羨む極上の雪、JAPOWをスキー、スノーボードで体感
- 日本文化の温泉で疲れを癒す

Main Activity	Snowshoeing, SUP boarding and skiing (snowboarding)
Difficulty level	3/5
Tour Dates	5 nights 6 days

(2) 関係箇所の連絡先一覧

関係各所の連絡先は、アクティビティガイドやその連絡先等その度に異なることが想定されるため、エクセルファイルにて作成した。ツアー中にコロナ感染が疑われる場合の対応についても、各地域の連絡先及びクリニックについて記載している。

※詳細は別添エクセル参照

◆◆手配資料◆◆

ツアータイトル	参加人数	集合時間	集合場所
Winter Hokkaido: Snow & Water Multiport in Lake Shikotsu and Niseko (Hiking/Skiing)	●名	12:00	千歳空港 到着口4番付近

★A社

利用日	便名	FROM	TO	利用日	便名	FROM	TO
往路				復路			
往路				復路			

★バス会社

利用日	種別	支払方法	内容	事業所名	備考
1	バス	クーポン	車検 ドライバー名前	TEL	FAX

★ホテル

1 ・ 3 日 目	ホテル	1× 2×	名	しこつ湖鶴賀リゾートスパの湯	夕食：(1日目)和餐石 (2,3日目)ビュッフェ 朝食：ビュッフェ
4 ・ 5 日 目	ホテル	1× 2×	名	ニセコ見布温泉 鶴賀別荘 雲の抄	夕食：和餐石 朝食：和定食

★観光・食事

利用日	種別	支払方法	内容	事業所/ガイド事業所名	備考
1日目	昼食	現地払	アラカルト 13:30頃	地元レストラン TEL	FAX
	見学	-	本物湖温泉 14:30	本物湖ビジターセンター TEL	0123-25-2404
	体験	-	本物湖温泉の湯 15:30	(一社) 千歳観光バス TEL	0123-24-8818 FAX 0123-24-8819
2日目	体験	後払	ファットバイク/SURF 9:00/13:00	オーシャンダイズ TEL	0123-25-4133 FAX
	昼食	現地払	アラカルト 12:00	支那街 TEL	0123-25-2718 FAX
3日目	登山	後払	イチャンコッペ山 9:00駐車場	TEL	FAX
	昼食	現地払	湯き水温泉/豆腐屋 10:00	食料豆腐工務 湯水の里 TEL	0136-48-2637
4日目	昼食	現地払	アラカルト 11:30頃	熊一心 TEL	0136-44-1208
	体験	後払	ニセコアウトドアセンター 13:00	ニセコアウトドアセンター(NOC) TEL	0136(44)1133 FAX
	体験	後払	かまくらBBQ 13:00	熊鷹家 TEL	0136-22-3758 FAX
5日目	スキー	後払	バックカントリースキ 8:45	TEL	FAX

★警察・消防

【千歳エリア】 北海道札幌方面千歳警察署 0123-42-0110 千歳市消防本部 0123-23-5312
千歳警察署 支那湖温泉在所 0123-25-2144 千歳市消防本部 千歳市消防署支那湖温泉出張所 0123-25-2050

【ニセコエリア】 ※どこにかけていしか迷う時は、119番にかけるとよい（然るべき場所からの支援を得られる）。

(美瑛峠から国道453上) 伊達警察署 大池駐在所 0142-68-6352 西尾坂行政事務組合伊達消防署大池出張所 0142-68-6119
(国道276上～道道97) 倶知安警察署 喜茂別駐在所 0136-33-2002 羊蹄山ろく消防組合消防署喜茂別支署 0136-33-2141
(道道78、支那豆腐工務付近) 倶知安警察署 支那駐在所 0136-45-2110 羊蹄山ろく消防組合消防署支那支署 0136-45-2319
(道道66、道の駅～NOC) 倶知安警察署 ニセコ駐在所 0136-44-2251 羊蹄山ろく消防組合消防署ニセコ支署 0136-44-2354
(買収家取) 札幌方面 倶知安警察署 0136-22-0110 羊蹄山ろく消防組合 0136-22-2822
(ニセコ見布温泉、モイワスキー) 倶知安警察署 ニセコ駐在所 0136-44-2251 羊蹄山ろく消防組合消防署ニセコ支署 0136-44-2354

★コロナ対応

感染が疑われる場合の相談：北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター 0120-501-507/24時間（土日祝含む）

症状及び受診に関する一般相談：厚生労働省 電話相談窓口（フリーダイヤル）0120-565-653/9～21時（土日祝含む）

少なくとも以下のいずれかに該当する場合には、すぐにご相談すること。

※高熱（38度以上）、強いだるさ（倦怠感）、高熱等の強い症状のいずれかがある場合

基礎疾患がある方など重症化しやすい方で、発熱や咳などの比較的軽い風邪の症状がある場合

上記以外の方で、発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合（症状が4日以上続く場合は必ず相談）

【千歳エリア】 上記 北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター

【ニセコエリア】 ニセコインターナショナルクリニック 0136-21-5454 / 木・日・祝日休 / 9-12、14-17 ※電話相談の上、タクシー利用で受診

(3) 着目するポイント及び留意事項

【ガイドング内容凡例】

- ：行動
- ※：押さえておくポイント
- ・：ポイントの参考内容

【1日目】

時間 (目安)	場所	ガイドング内容	備考
12:00	千歳空港	● 早めに集まった方々に、自己紹介しつつ、参加者の体調・体温チェック ● 全体案内 ※ スルーガイドの自己紹介 ※ ツアー全体行程・ツアーストーリーについて ・ 支笏湖：クリアな湖での水のアクティビティ ・ ニセコ：パウダースノーで雪のアクティビティ ・ それぞれの地域のLife Styleを感じる ● トイレ対応の間にて、集合時間間際の参加で終わっていない参加者の体温チェック	初日はリラックスの日なので、ゆっくりめの行程となっている。 始まりに、どんなツアーなのかを認識してもらう。
	車内 (移動時間約10分)	● ドライバーの紹介 ● スルーガイドの自己紹介（追加で少し続き） ● 次の目的地に関する情報提供 ※ 何故千歳神社に行くのか。 ・ 今回の旅の安全の為に祈りと水汲みである ・ 神社というのは、何かの始まり等で訪れる場所 ・ 千歳神社の二つの神様（食と水）はテーマに ・ 地元の人たちも汲みにくる信仰の場 ※ 千歳エリアの歴史、など ※ ボトル持参、先にお参り	日本文化、日本的感覚の部分を補足。 また、旅の始まり、導入であることを意識付けつつ、現在の人々の暮らしとも繋がりのある場所であることをインプットする。
12:30	千歳神社	● 上記車内での項目の補足しながらの神社案内 ※ ツアーの始まりとこれからの行程を繋げる ・ 支笏湖の伏流水である湧き水を汲む ・ 近くに支笏湖を始まりとする千歳川が流れている ・ 土地の名前（千歳、支笏）の由来と絵馬の関係	
	車内 (移動時間約5分)	● 次の目的地に関する情報提供 ※ 支笏湖エリアにはコンビニがないので、2日後の登山の昼食・行動食（飲み物）を購入 ・ おにぎりは凍ってしまうので、蒸しパン、エナジーバー等がよい ※ 日本の水道は引用可 ※ ホテルの部屋に湯沸かし器と紅茶ティーバッグの用意はある ※ 購入費はツアーに含まれている ※ エコバッグがあれば持参	
	コンビニエンスストア	● 購入補助 ※ エコバッグ持参の顧客には、各自選んだ食品を入れたレジカゴに入れておいてもらう	スルーガイドが支払

【通訳、ガイドングにあたって】

・アドベンチャートラベラーは、「学ぶ=Learn」という言葉に若干ネガティブなイメージを持つ人が多いので、learnをなるべく使わない様に意識し、状況によりListenやExperienceという言葉におき変えてお伝えする様にするとよりよい。

・アクティビティガイドまたは説明してくれる方の通訳を行う場面では、自分が知っていることであっても、内容を忠実に通訳する。また、ガイドとお客さんのコミュニケーションに繋がるように、橋渡し役であることに徹する。日本の固有名詞や年代については、適宜相手国の歴史背景に照らし合わせられるとよい。また、その時にもガイドを巻き込んだコミュニケーションを心掛ける。

時間 (目安)	場所	ガイディング内容	備考
	車内 (移動時間約30分)	● 次の目的地に関する情報提供 ※ 空港から30分という短距離ながらも自然濃い国立公園エリア ※ 支笏湖エリアの水（水道）は支笏湖の水 ※ 支笏湖エリアは、色々近いところにあり、昼食後は歩いてビジターセンターへ行く ※ 支笏湖エリアの電力は、支笏湖の水が利用された100パーセント水力発電（丸駒温泉は自家発電） ※ 昼食箇所について ※ 昼食後ビジターセンター（室内）と氷濤まつり（屋外）へは徒歩移動。ツアー専用車輛は駐車場。 ※ 氷濤まつり制作中は通常見学できないので、よりスペシャルなツアーとなる ※ まつり見学は、手袋必須	
13:30	地元レストラン (昼食)	● 注文補助	スルーガイドが支払 ※ この時期は閉まっていることがあるので、その時期に空いているところをご案内する。
14:30	支笏湖ビジターセンター	● 学芸員紹介の後、ビデオ鑑賞/不在時は、すぐにビデオ鑑賞 ● 鑑賞後の館内案内（学芸員さんの説明orスルーガイド案内） ※ 支笏洞爺国立公園、日本の国立公園の特徴 ※ 現在地と行程で訪れる場所の紹介 ※ 地域の代表的な動植物 ● スノーシュー/ストックのレンタルがビジターセンターの場合は、ビデオ映像の時間に、スノーシュー/ストックをレンタルし、車輛に積み込む（降雪が少ない場合は、スパイクのみのレンタル）	導入部としての訪問。あまり掘り下げすぎなくて大丈夫。ジオラマでの説明が分かりやすい。一方的な説明ではなく、お客様とキャッチボールを行いながら行う。
	氷濤まつり	● ガイド紹介 (ガイドは、制作スタッフもしくは千歳観光連盟の方となる予定)	制作中は当日のコンディションにより、ヘルメット着用の可能性あり
16:00	ホテルチェックイン	● ホテルスタッフからの説明 + α ※ 日本の水道は飲用できる。また、水道水は支笏湖の水 ・ 汲んできた水と飲み比べ ● ホテルスタッフから翌日昼食メニュー受取	
		● 翌日の荒天予想時は、翌日のアクティビティ業者との打合せ ● 翌日の昼食希望をきいておく(20時までにFIX)	
18:30	夕食	● 改めてツアー紹介 ※ テーマ、コンセプト ・ このツアー始まりだよ、楽しもうね！ ・ ホテルのコンセプトは「水」 ● 食事説明 ※ 懐石は日本のスペシャルディナー、北海道の旬の食材を使用 ● 自己紹介（お客様） ・ 居住地、名前、楽しみにしていることetc.	人数、状況によっては、地元の関係者や翌日以降のガイド達との交流もあり得る。
	夕食解散前	● 翌日行程等の案内 ※ コンセプト、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物（長靴はレンタル）、集合時間・場所 ※ 昼食でホテル（レストラン会場）には戻るが、部屋に行く時間はない ※ アクティビティ事業者事務所に鍵付きロッカー有 ※ アクティビティ中の携帯電話用防水袋の貸出無	アクティビティに馴染みのある方々の場合には、お客様の確認したいことを中心に案内する。

【1日目ポイント】

【千歳神社】

千歳市を流れる千歳川沿いの高台に位置する古社。本殿の千歳川寄りにはアイヌのチャシ（砦）跡も確認されている。『松前藩資料福山秘府』によると、1658（万治元）年、弁財天小社（後の釜加神社）が祀られたのが始まり。千歳神社となったのは大正6年のこと。

御祭神は、「食」と「水」を司る神の2柱。本殿へと上る階段の横では「幸井の水」という千歳神社の森から湧き出る霊水をいただくことができる。安全祈願後、この御神水をマイボトル汲む。地元の方も日々訪れるスポット。

北海道の地名はアイヌ語の発音を基に当て字をして日本語の発音にしたもの、そのままカタカナ読みしているもの、まったく原型を留めずに変えたもの、入植者の出身地の地名を充てたものなどが存在する。一帯の地名はもともと大きな凹地を意味するアイヌ語のシコツ（si-kot = 大きい・くぼみ）だったが、死骨を連想することから1805（文化2）年、箱館奉行支配調役・山田鯉兵衛嘉充が箱館奉行・羽太正養に改名を申請。鶴が多く飛来する土地ということで縁起のいい千歳に改称している。そこから、千歳神社の絵馬のモチーフはタンチョウ（丹頂）となった。

千歳市一帯は日本海と太平洋を隔てる中央分水界に位置する。しかし、海拔は50mの日本で一番低い中央分水界。世界に例のない場所。「シコツ越」（勇払越）と呼ばれる日本海と太平洋を結ぶ交通の要所であり、千歳川は大量の鮭が遡上・産卵する川であった。

（参考・引用文献）西田秀子.“シコツと千歳の地名解”.『新千歳市史機関誌』志古津9号.2009-03-27.
https://www.city.chitose.lg.jp/_resources/content/69293/20160721-150808.pdf, (2022-02-14)

【支笏洞爺国立公園】 生きている火山と静まる蒼い湖 ―火山活動の博物館―

支笏洞爺国立公園は北海道の南西部に位置し、支笏湖、洞爺湖の二大カルデラ湖に加え、羊蹄山、有珠山、樽前山など様々な形式の火山や火山地形を見ることができる。また多種多様な温泉や硫黄の吹き出す地獄現象などの火山活動が多く見られ、まさに『生きた火山の博物館』といえる公園。火山活動の恩恵として、登別、洞爺湖、定山溪などの北海道を代表する温泉観光地が賑わいを見せ、湖と森と火山の織りなす景観美が人の心を和ませている。また、支笏湖は北限の不凍湖としても有名で、独特な濃紺の水面は訪れる人々を魅了している。

支笏湖エリア：約3万2千年前に始まった支笏火山の活動によりカルデラが形成され、その後、風不死岳、恵庭岳、樽前山が形成され、現在の支笏湖ができ上がった。風不死岳は既に火山活動を終えているが、恵庭岳は山頂下の火口に小規模な噴気が認められ、樽前山は現在も活動が続いている。支笏湖は、最大水深360m、日本で2番目に深い湖。寒冷な気候に加え土砂の流入などが少ないため、我が国有数の透明度を誇っている。

（参考・引用文献）
 環境省.“支笏洞爺国立公園”.日本の国立公園. <https://www.env.go.jp/park/shikotsu/index.html>, (2022-03-17)
 フジクリーン工業株式会社“水の話”.FUJI CLEAN NEWS2018No.181.2018-10-01.
https://www.fujiclean.co.jp/water/backnumber/pdf/181/181_10.pdf (2022-02-14)

【千歳バーガー】

千歳バーガーは、北海道で1番の鶏卵生産量を誇る千歳の卵のPRと、地産地消による地域貢献を目指し、2014年に誕生したご当地グルメ。千歳市内の飲食店が各店オリジナルの千歳バーガー開発を行い、年により販売店舗数は異なる（2020年は21店舗）。千歳バーガーの認定条件は「千歳産の卵を使って はさむ、包む、巻くこと」。ヒメマスやチーズ、小麦やそば粉など、千歳の特産食材を生かしたバーガーが増えている。正当派のハンバーガーだけでなく、ジェラートやフルーツなどを使ったスイーツバーガーや、意外な食材を使用したバーガー、見た目も楽しめるバーガーなど、各店が個性豊かな「千歳バーガー」を展開している。（引用：「千歳バーガーサイト」.<https://burger.welcome-to-chitose.jp/> 2022-02-14)

【氷濤まつり】

1978に始まった支笏湖氷濤まつりは、元々地元の有志集まり、冬の支笏湖は寒さが厳しく、訪問客が少なかったことから、観光客を呼び込むために考えられた。支笏湖（千歳川）の水をゆっくりと凍らせるため、不純物が少なく青い光を通しやすいので氷は青く輝く。

【しこつ湖 鶴雅リゾートスパ 水の調】 <https://www.mizunouta.com/>

コンセプトは水の力に癒やされる森と湖のリゾート&スパ。「水の調」は、あらためて命の源である水に着目し、温浴、エステ、フィットネス、ウォーキング、食事、睡眠、情報など、あらゆる面から健康と美容をトータルプロデュース。癒やしと健康をテーマに新しいスタイルのリゾートシーンを提供している。

【2日目】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
8:45	ホテル	●体調・体温チェック ●簡単に今日の流れ（行程、コンセプト、アクティビティ、天候） ※支笏湖の水を体感する ※昼食でホテル（レストラン会場）には戻るが、部屋に行く時間はない ※アクティビティ事業者事務所に鍵付きロッカー有 ※アクティビティ中の携帯電話用防水袋の貸出無	オーシャンデイズまでは徒歩移動
9:00	オーシャンデイズ (ファットバイク)	●担当ガイド紹介 ※相澤浩一氏 ●同意書記入、長靴レンタル補助 ●ガイドング通訳 ※スノーシューの場合、初めての人がいる時は仕組み、はき方、歩き方についてガイドから詳しく説明してもらう様お願いする ●お客様の体力、行動の様子などに気に留めておく	オーシャンデイズからファットバイクで七条大滝まで行くツアー。積雪により、スノーシューになる可能性もある。
	オーシャンデイズ	●長靴返却 ●昼食場所案内	ツアー専用車はこの日はここまでの利用
12:00	支笏荘 (昼食)	●注文補助 ※オーナーが氷濤まつり実行委員会の委員長（ふくし様） ・地域ラーメン：札幌-味噌、旭川-醤油、函館-塩	スルーガイドが支払
13:00	オーシャンデイズ (SUP)	●担当ガイド紹介 ※黒岩夕湖氏 ●ドライスーツレンタル補助（着用は説明の元皆で揃って行う） ●ガイドング通訳	オーシャンデイズ事務所にて着替えた後、SUP乗場までは徒歩移動
15:30	ホテル戻り		
		●翌日の山岳ガイドと最終打合せ ※集合場所、ルートの最終確認（変更の有無） ※天候・気温・風 ※これまでに気づいたお客様の動きや興味などの共有 ※お客様のアクティビティ経験の共有	
18:00	夕食	●簡単なながらもコンセプトをおさえた今日の振り返り ●バイキング案内	
	夕食解散前	●翌日行程等の案内 ※コンセプト、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物（行動食忘れないように）、集合時間・場所 ※悪天orルート変更等が予想される場合は、その旨伝えておく（あくまでもその判断はガイドだが、それでもガイドとおきの場所を案内してくれるのだよ、と安心感を持たせるように	

【2日目ポイント】

【七条大滝スノーシュー】

支笏湖の南側にある七条大滝まで。前半は約2.5キロのまっすぐで平坦な道。積雪状態によっては、スノーシューを着けずに徒歩の可能性有。

初心者がいる場合は、スノーシューの説明（つけ方、歩き方：つめがあること、後ろに下がると転ぶので、常に前に歩く）を詳しくして頂く。

ガイドによるガイディング内容（参考）：

- ・アクティビティ中に見られる植物（エゾマツ、トドマツ、ツルアジサイ、ノリウツギ、イワガラミ）
- ・動物の足跡（エゾシカ、エゾユキウサギ、エゾリス、キタキツネ）※エゾヒグマは冬眠中
- ・台風等の自然災害による復興のための植林地
- ・支笏湖の伏流水によって流れ出ている丸山川の滝

ガイド：相澤 浩一氏 (AI-CHAN) / オーシャンデイズ所属

自然の楽しさや素晴らしさ、ある時は厳しさを子供達に伝えたくて北海道へ移住。自衛官を定年退官後現職

【CLEAR SUP】

透明度の高い素材を使用したクリアサップで、千歳川、支笏湖を体感する。

自然ガイドを行うというよりは、SUPを乗り方やパドル操作の案内がメイン。スルーガイドは、カヤックにてお客様の写真撮影や地域の自然についての解説補助を行う。

ガイドによるガイディング内容（参考）：

- ・支笏湖の透明度について
- ・オオワシ、オジロワシ（支笏湖ではシベリア方面から越冬のため飛来する渡り鳥。オジロワシは道東・道北沿岸や内陸湖沼では繁殖している個体もいる。国の天然記念物）
- ・カラスの水浴び（冬季に見ることが何故も多い）
- ・山線鉄橋（千歳川にかかる赤い橋。明治末、王子製紙の発電所建設と木材搬出のための軽便鉄道の名残）
- ・支笏湖からみられる山々（樽前山、風不死岳、恵庭岳、紋別岳）

ガイド：黒岩夕湖氏/オーシャンデイズ所属

北海道生まれ。学生時代よりボディボードにハマり、石垣島・西表島へ波乗り移住。そこで海そのものの美しさ、自然の素晴らしさを知りネイチャーガイドとなる。

【支笏荘】

地元民もよく訪れる庶民的なお店。支笏湖名物の「ヒメマス」料理や、先代から引き継いだ「味噌ラーメン」、「タンテキ鍋」などのメニューが味わえる。中でも一番の自慢は「味噌ラーメン」で、この味に魅了されたリピーターも多い。ヒメマスは2021年不漁（原因不明。その前年は豊漁）。おすすめはヒメマス料理and味噌ラーメン。オーナーが氷濤まつり実行委員会の委員長（ふくし様）。地域のラーメンとしては、札幌-味噌、旭川-醤油、函館-塩が一般的。

【地域の気象・自然災害について】

・スルーガイドは、アクティビティそのものの催行判断を行うものではないが、ツアーをスムーズに催行するためにも、地域の気象の特徴や過去の自然災害についても、把握しておくとうい。

（参考）

- ・**気象警報、注意報**：気象庁ホーム>防災情報>気象警報・注意報>地図の見た場所をクリック>市町村選択
- ・**積雪深**：気象庁ホーム>防災情報>現在の雪（解析積雪深・解析降雪量）
- ・**2週間気温予報（最高・最低気温のみ）**：1週間以上先の気温のおおまかな傾向（平年比の高低、極端な寒さ）気象庁ホーム>防災情報>2週間気温予報
- ・**週間天気予報**：気象庁ホーム>天気>地域選択
- ・**1時間ごとの雨雪・風予報（1日半先まで/10日先まで）**：GPV気象予報（weather-gpvで検索）
- ・**風、雲、雨雪、気温、波高など**：windy（windy.comで検索）
- ・樽前山：活火山。山頂溶岩ドーム周辺の高温（1999年～）
- ・有珠山：活火山。20世紀は1910,1943,1977,2000年に噴火）
- ・雪崩被害：ニセコ春の滝（立ち入り禁止区域）など
- ・北海道の災害年表：札幌市
https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/yukigakushu/package/documents/saigai_nenpyo.pdf

【3日目】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
8:45	ホテル	●体調・体温チェック ●簡単に今日の流れ（行程、コンセプト、アクティビティ、天候） ※昨日までみてきた支笏湖、火山カルデラの暮らしを俯瞰的に見る ※最終トイレはホテル（駐車場にはない）アクティビティ中は森林帯なので適当に。	
	車内 (移動約15分)	●ワクワク感の醸成 ・ジオラマや低地からでは決して見ることができない雄大な支笏ブルーの姿、景観を楽しもう！	
9:00	登山口	●ガイドと打合せ（今日のコンディションなど） ●担当ガイド紹介 ●ガイドから、今日の流れの説明 ※ルート、積雪状況、トイレ、下山時間 ※ビーコンの説明 ※スノーシューは前日体験済みの場合もあるので、必要に応じて説明 ※ガイドによる準備体操 ・参加者によっては、日本式準備体操に激しさを感じる方もいる。日本式ハイクアップ/ストレッチ（ハイクアップ：ゆっくり歩き始め、身体をならすことをストレッチ代わりにすることもある）です、と一言添えるとハードルが下がるかもしれない。	左記ガイドが最初に行うべき案内事項に不足があれば、その場でフォローする。
	登山中	●ガイドング通訳 ※ガイドングのタイミングは各ガイドそれぞれその日により異なる。先回りした案内をスルーガイドからしないように気を付けつつ、地域を俯瞰した視点で、ビジターセンターで見聞きした内容や、これまでのガイドングで見聞きした内容を踏まえ、アクティビティガイドから引き出したりするなどして適宜補完する。 ※風景・自然の体感、その場所がどのような保護価値を持っているのか、植物や動物、そしてその場所が国立公園保護の対象となった特徴を理解する機会とする	
16:00	下山	●レンタル品返却補助	
16:30	ホテル		
	夕食	●簡単なながらもコンセプトをおさえた今日の振り返り ※千歳エリアの最終日	
	夕食解散前	●翌日行程等の案内 ※コンセプト、行程、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物、集合時間・場所	

【3日目ポイント】

【イチャンコッペ山】

イチャンコッペは、アイヌ語でサケマスの産卵穴の川、産卵場を持つ川、イワナの川、など諸説存在する。

イチャンコッペ山は標高828mの、支笏湖北側に位置する。山頂では、3万2千年前の支笏湖火山により支笏カルデラが生まれ、その後、風不死岳、恵庭岳、樽前山が誕生した日本を代表するカルデラ湖の壮大なスケールを感じることができる。

夏道を冬のコースとして辿る場合もあるが、登り始めが急斜面となるため、積雪状態によっては登山口より少し西に位置する駐車場から緩やかな斜面を登り、稜線上を歩くルートとなる場合もある。

【登山ガイド】※催行日によりガイドのアサインは異なる

ガイドによるガイディング内容（参考）：

- ・雪質の違い（千歳エリア、ニセコエリア）
- ・地域の動植物
- ・カルデラ湖、火山（樽前山、風不死岳、恵庭岳など）
- ・札幌オリンピックの会場となった恵庭岳
- ・イチャンコッペ山の名前の由来
- ・アイヌの人々のこのエリアでの暮らし
- ・現在の地域の人々の暮らし
- ・支笏湖の透明度、不凍湖であること

【ビーコン】※何のための物なのか。どのような際に使用するのか。どのように使用するのか、ガイドより説明して頂く

ビーコンとは、『自分が雪崩に埋没してしまった場合に探してもらうため』また『埋没してしまった人を探すため』の装備。特別な操作の必要はなく、電源を入れてアウターの内側に着けるだけである。ビーコンを携帯しているだけでも雪崩からの生還率は大幅に上がる。

【恵庭岳】

恵庭岳（標高1320m）は、活火山。最後のマグマ噴火は約2000年前であるが、現在も東向き火口の噴気孔から煙が立ち昇っている。円錐形の山容が特徴的。名前の由来はアイヌ語の「エエンイワ」（頭がとがっている山）。

1972（S47）年のアジア初の冬季オリンピック大会時には、滑降競技規定に定められたコースの標高差と斜度を満たす場所が札幌市にはなかったため、滑降競技のみ当時支笏洞爺国立公園の特別地域に指定されていた恵庭岳で開催された。

恵庭岳滑走競技場の建設が決定するまでには、競技場の建設と自然保護を巡って議論がなされ、移転することにも検討された。滑降コースは男子用2636メートル、女子用2108メートルの2本。合わせて総面積約20ヘクタールが伐採された。大会閉幕後には競技施設の撤去および跡地への植林が講じられた。大会翌年からコース跡にアカエゾマツなどの針葉樹と、イタヤカエデなどの広葉樹を植林。自然林と同じ密度にするため、2004年に針葉樹の間引くなどしているが、冬季にはその跡がまだ鮮明にわかる。傾斜が急なので、自然状態では雪がなく、雪を型枠にはめて一晩かけて凍らせたブロックを積み、運んだ雪を足で圧雪で固める、という作業でコースを造成したとのこと。

（参考図書）

『第11回オリンピック冬季大会公式報告書 札幌 1972』札幌オリンピック冬季大会組織委員会.S47

治憲屋守.“千歳 恵庭岳におけるオリンピックの記憶”.『新千歳市史機関誌』志古津19号.H26-03.

先田次雄.“恵庭岳滑走コース緑化復元から四〇年”『新千歳市史機関誌』志古津19号.H26-03.

https://www.city.chitose.lg.jp/_resources/content/69293/20140326-112240.pdf, (2022-02-14)

【4日目】

(2) スルーガイド対応手順

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
8:45	ホテル	●体調・体温チェック ●簡単に今日の流れ（行程、天候）	
9:00	乗車 (移動時間約1時間)	●今日の流れと共に、コンセプト説明 ●次の目的地に関する情報提供 ※支笏湖エリアの振り返り ※ニセコエリアの話（コンセプト雪から水へ） ・JAPOW（支笏湖エリアとの雪質の違い） ・50年を経て羊蹄山の伏流水として湧き水となっている ・昔からの人々の暮らし（芋もち、水の神とかまくらの関係） ※豆腐工房への立寄り理由 ・水の良し悪しが豆腐の味に反映される。豊富なおいしい水故の豆腐 ※昼食箇所の説明 ※アクティビティガイドの簡単な紹介（事業者2か所）	支笏湖エリアの振り返りを重ねて行い、ついでニセコエリアの情報提供をすることで、顧客によりツアーストーリーとの繋がりをより強く持ってもらおう。
10:00	水汲み・湧き豆腐工房	●湧水を再度汲むことによって旅のリセット及び再イメージ付けを狙う。 ●水の恵みによる地域の特産品に触れ、地域の暮らし文化を知る。 ※羊蹄山の湧き水、山麓地形ゆえの農業、産業発達について ●夕食用に豆腐購入	お豆腐購入 (スルーガイド支払)
	(道の駅ニセコビュープラザ)	(立寄った場合) ●道の駅の説明 ※特産品販売と観光案内、農産物直売所やテイクアウトショップ	トイレ休憩、および時間調整を兼ねて立寄る可能性あり
11:30	魚一心 (昼食)	●注文補助。 ●お寿司の説明 ※言わずと知れた、日本食の代表格「寿司」 ※日本海ルーツの海産物の取扱が多い ・ニセコは山のイメージが強いが、車で30分ほどで日本海	寿都本店
	乗車 (移動約10分)	●次の目的地に関する情報提供 ※アクティビティ内容、持ち物	
13:00	ニセコアウトドアセンター（NOC）事務所 スノーシュー、芋ほり＆芋もちづくり	●担当ガイド紹介 ●長靴レンタル補助 ●ガイドング通訳 ※双眼鏡の使い方 ※スノーシューが初めての人がいる場合は、仕組み、はき方、歩き方についてガイドから詳しく説明してもらう様お願いする ※昔から続く雪国の人々の暮らしを追体験 ※移住者であるガイドへの質問（地元で生きる人との対話） ・どうしてこの地にいらしたのか？	催行時期によりアクティビティ体験エリアが異なる。ツアー専用車ではなく、NOCの車両使用の場合もあり得る
	乗車 (移動約10分)	●次の目的地に関する情報提供 ※どの程度の強度か、持ち物	
17:30	冒険家族 かまくらBBQ	●担当ガイド紹介 ●かまくらと水の関係について ※現在は行事やお祭りのよそが滅り、中で甘酒やお餅など食べたりするようになっているが、元々の雪と人々の暮らしのエピソードをお話する ※移住者であるガイドへの質問（地元で生きる人との対話）	ガイド自身と、その地域の繋がりがやエピソードを織り交ぜるとツアー自体の価値に繋がる
		●翌日のバックカントリースキーのガイドと最終打合せ ※購入しておくリフト券の確認 ※天候・気温、装備について ※これまでに気づいたお客様の動きや興味などの共有 ●翌日スノーボード参加者に軸足が右なのか左なのか確認（レンタルがスムーズに行える）	天候、これまでの積雪により行先等が異なるので、確認が必要
19:30	移動、ホテル チェックイン	●ホテルスタッフからの説明 + α ●翌日行程等の案内 ※コンセプト、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物、集合時間・場所	

【4日目ポイント-1】

【豆腐・大豆】

北海道は豆腐の原材料となる大豆の一大産地。作付面積国内ナンバーワン。日本の調味料である醤油・味噌や、納豆、煮豆等日本の食材や調味料に欠かせないこれらは、大豆から作られる。豆腐は元々は中国発祥ながらも、日本文化に根付いた。

(参考URL)

農林水産省.“大豆のホームページ/大豆のまめ知識”.
<https://www.maff.go.jp/j/seisan/ryutu/daizu/index.html>.(22-02-14)

農林水産省.“特集2新・日本の郷土食 (1) ”
https://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1301/spe2_01.html (同上)

【JAPOW】

JAPOWとは、Japan + Powder snowから生まれた造語。

冬季、シベリア方面からの非常に冷たい北西季節風が日本海を渡るときに大量の湿気を抱え、これが羊蹄山やニセコ連峰にぶつかるように吹くため降雪量が多く、ニセコ町内の積雪量は多い年で2メートルに達し、また、スキー場では5メートルを超えることもある。人々が暮らす地域にこれだけのパウダースノーの積雪があるエリアは世界では多くない。

【寿司】

一般的にはシャリ（酢飯）とネタ（主に魚介類）を組み合わせた和食のことを、寿司という。日本では千年以上の歴史がある。

握り寿司の食べ方：昔のにぎりずしは今よりもずっと大きく、箸ではくずれてしまうので、手で食べていた。のにぎりずしに添えられるつけ醤油は、魚の生臭みを消すのに非常に大きな役割を果たしている。

(参考URL)

全国すし商生活衛生同業組合連合会.“すし検定”. https://sushi-all-japan.com/index_b1.html
(2022-02-14)

【ニセコ町】

持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）に力を入れており、持続可能な観光の国際機関「グリーン・デスティネーションズ」（オランダ）による、世界の持続可能（サステナブル）な観光地のTOP100選を2年連続で受賞していたり、町内では持続可能な観光について考え、どう実践できるかを学ぶGSTC公式トレーニングの実施していたりと、先進した取り組みを行っている。

国連世界観光機関（UNWTO）総会において加盟国75か国・174地域の中から44の「ベスト・ツーリズム・ビレッジ（BTW）」に選定、また、観光における気候変動対策に関するグラスゴー宣言に日本の自治体としては唯一の初代署名者ともなっている。環境意識の高いAT顧客とは、会話の中でこういった取り組みについての話題をお伝えすることも大事。

(参考URL)

ニセコ町.“持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）”.
https://www.town.niseko.lg.jp/sightseeing/sustainable_tourism/, (2022-02-14)

【4日目ポイント-2】

【スノーシュー】

動物たちの足跡や野鳥の観察などを積雪状態等その日のベストな場所をガイドが選定。

ガイドによるガイディング内容（参考）：

- ・地域の動植物、自然について
- ・豪雪地帯であること（H13年以降ではH17に1277cmもの累積降雪量あり）

【芋ほり&芋もちづくり】

いものでんぷんを利用してお餅のような食感のおやつを作る。雪を利用して保存しているので、保存している場所から掘り出し、ゆでてこねあげたジャガイモをバターでいためて完成。地元特産の男爵いもを使用する。

ガイドによるガイディング内容（参考）：

- ・雪での貯蔵は昔からの保存方法。温度変化を少なく保てる
- ・芋もちは、昔からの子供たちのおやつであった。また、大事な食料でもあった。開拓時代からのじゃがいも料理。

ガイド（上記共通）：南重光氏/ニセコアウトドアセンター代表

1994年にアウトドア専門のツアー会社として設立。主な活動として、カナディアンカヌーによる湖・川でのツーリング、ニセコ周辺でのえさ釣り・フライフィッシング、ニセコ連峰での登山、縦走ガイド、自然解説ハイキング、自然のものを素材とした手作り体験を行っている。

【かまくらBBQ】

冒険家族の敷地内にある「かまくら」の中での夕食。地域の食材を使ったBBQ。BBQ自体はかまくらの外（タープの下）で行う。冒険家族が拠点としている建物は、1936年築の「旧比羅夫小学校」。

ガイドによるガイディング内容（参考）：

- ・食材について（羊蹄山の鹿肉・手造りソーセージ・地鶏・ニセコ産 越冬野菜・豊浦湾ホタテや魚介類）
- ・自家製ジュースについて（シソ・ブラックベリー・ウメ・野草・白樺ジュースなど。季節により変更あり）
- ・狩猟について（ご自身がハンター）

ガイド：阿南敬三氏/宿・自然生活体験センター冒険家族代表

大分生まれ。お店のない、80軒ほどしかなかった集落が故郷。ご実家は農家でほぼ自給自足の生活。電気はあったものの、夜の外出時は提灯、水汲み・山菜取り・五右衛門風呂の火起こしなど、冒険家族の体験そのものの少年時代。1993年に宿泊と自然体験の「自然体験場 冒険家族」をオープンしました。廃校を利用して「自然体験活動」を始め今に至る。

【かまくら（雪室）】

本来「かまくら」とは、雪をくりぬいて作る家だけのことを指すのではなく、生活に密着した神様を祀る行事。かまくらの中に祭壇を設けて自然の恵みである水を運んでくださる水神様をお祭りする行事のこと。現在では、東北地方で水神様をお祀りする行事として、主に小正月（1月15日～20日頃）に行われている。かまくらは農耕につながる火や水に対し感謝を捧げる正月行事の1つとして、東北地方で発達。しかし、その起源や由来ははっきりわかっていない。一説では、雪の箱を作ってその中で神様の寄り代である松飾りやしめ縄を焼く行事と、米を食い荒らす鳥を追いはらい豊作を願う鳥追いの行事、そして水神様を祭る行事などが融合し発展した結果「かまくら」となったといわれている。

（引用文献）

川口謙二、『年中行事・儀礼事典』1997-12-1、東京美術。（2022-2-14）

【5日目】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
8:00	ホテル	●体調・体温チェック ●緊急時連絡先（スルーガイドの連絡先）を改めて各人に渡す ●今日の流れと共に、コンセプト、天候説明 ※この旅のハイライト ※世界が羨む極上の雪、JAPOW(Japan + Powder)と呼ばれているパウダースノーを、全身で体感	
	乗車	5分程度	
~15:30	ニセコモイワスキー場	●レンタル対応 ●チケット購入 ●ガイド紹介（催行日によりガイドのアサインは異なる） ●ガイドから、今日の流れの説明 ・行程、積雪状況など ・ビーコンの説明（ツアー行程中での使用が初めての場合） ●再集合場所、時間を再確認 ●スルーガイドは2Fレストランにて待機している旨お伝えしておく ●「雪」の違いを楽しんでね！と送り出し。 ※レンタル返却対応	常にツアー専用車は駐車場付近待機
	乗車	5分程度	
16:00	ホテル戻り		
18:00	夕食	●ラストディナー。今日とツアー全体の振り返り ※テーマ、コンセプト ※ツアーの振り返りが共有できるような時間とする ・個人的なハイライトは何であったか？ ・チャレンジングだった食べ物は何？など ・カルデラ内部の深い森から円錐形の山（羊蹄山）の麓に広がる畑作地域へと移動してきた本ツアー。雪・水を巡る旅は、本エリアでは羊蹄山から湧き出る天然水やその裾野の地形が地域産業として農業を盛んにさせた面など、より人々の暮らしに寄り添った形で行ってきた。そして今日はツアー的にはハイライトのバックカントリー。人々の日常に近い場所での自然体験は、壮大な地球の営みを感じることができたに違いない。 ●適宜食事説明	人数、状況によっては、地元の関係者やニセコエリアのガイドとの交流もあり得る。 振り返りを共有することで、各人が受け取ったツアーストーリーに深みと一体感が増す。
	夕食解散前	●翌日行程等の案内 ※行程、天気予報、服装、持ち物、集合時間・場所	

【6日目】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
9:30	ホテル	●体調・体温チェック ●簡単に今日の流れ（行程、天候）	
	乗車 (移動時間約2時間)	●様子を見ながら、各要所となった場所で振り返りコメント	盛り上がるファイナルディナーとは異なり、余韻に浸れるように。
11:30	空港	●解散	

【5日目ポイント】

【ニセコルール】

本ツアーではスキースキーのガイドをつけるが、地域の取組みとして紹介する。

スキー場外の事故防止のために設けられているルールが存在する。ニセコ雪崩情報は地域の公式情報でありニセコ雪崩調査所が独自の手法で12月から3月までのシーズン中ほぼ毎日、当日の危険を予測している。

1. スキー場外へは必ずゲートから出なければならない。
2. ロープをぐぐってスキー場外を滑ってはならない。
3. スキー場外では、安全に滑走するために、ヘルメットと雪崩ビーコンの装着が最低限必要と考える。
4. ゲートが閉じられている時はスキー場外に出てはならない。
5. 立入禁止区域には絶対に入ってはならない。なお、捜索救助と調査活動は除外される。
6. 小学生のみのスキー場外滑走を禁止する。

<補足>

- ・スキー場外での救助捜索には費用（最低10万円）が請求される。
- ・上記ルール違反者はリフト券の没収、販売停止などでスキー場利用を拒否される場合がある。
- ・事故は吹雪など悪天候時に多く起こる。知識や技術、道具を過信しないこと。常に用心すること。パトロールの指示に従うこと。亀裂転落、立木衝突に注意。雪山に100パーセントの安全はない。
- ・ニセコ雪崩情報は地域の公式情報でありニセコ雪崩調査所が独自の手法で当日の危険を予測している。
- ・雪崩ビーコン、プローブ、ショベルの携行を強く勧める。これらの道具は万一の時にあなただけではなく仲間の命も救えるかもしれない。

ニセコ町.“ニセコルール(2021-2022)” <https://www.town.niseko.lg.jp/sightseeing/rules/> (2022-2-14)

ニセコ雪崩調査所“ニセコなだれ情報 Niseko Avalanche Information”. (2022-2-14)

【バックカントリースキーガイド】※催行日によりガイドのアサインは異なる

- ・有資格者
- ・日本山岳ガイド協会が「バックカントリーを案内する為に必要な資格」とし発行しているスキーガイド資格が業界スタンダードであり、実技検定試験は延べ日数約20日にもわたるが、国家資格ではない。フランスはガイド資格が国家資格。アメリカ、カナダでは国家資格とはしていないが、ガイドの歴史が深く、ガイド協会が社会に認知されており、無資格のガイドを利用しない。良いガイドと山に行くことで、安全により楽しく山に行けることを知っている人が多い。

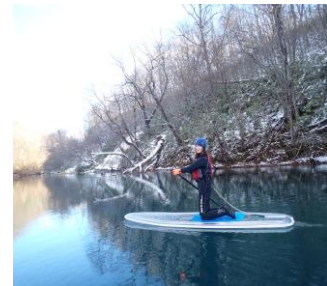
(参考URL)

公益社団法人日本山岳ガイド協会.“職能別資格検定試験詳細規定” 2022-04-01.
http://www.jfmgga.com/pdf/2022shosaikitei_ski.pdf. (2022-02-14)

ツアー②【千歳ツアー】

(1) ストーリー及びハイライト

A story told by water: Lake Shikotsu & Chitose Winter Multi sports



【ツアーストーリー】

「イランカラブテ」、ようこそ千歳へ！！

(「イランカラブテ」とは、北海道の先住民族であるアイヌの言葉で「こんにちは」を意味します。)

この旅では、支笏洞爺国立公園に属した支笏湖で北海道の自然を満喫することができます。

支笏湖は、日本最北の不凍湖、環境省の湖沼水質ランキングで2018年まで11年連続水質日本1位を獲得するほどの透明度を誇る湖です。およそ4万年前に支笏火山の噴火でできた陥没地に水が溜まって形成されました。

名前の由来はアイヌ語で“大きな窪地”を意味する「シ・コッ」が語源と言われ、古くから千歳の貴重な水源とされてきた湖です。

水と密接に関わる千歳・支笏湖を舞台に、この旅では、北海道を代表する冬のイベント「千歳・支笏湖氷濤まつり」や支笏湖クリアSUP、七条大滝スノーシュートレッキング、イチャンコッペ山登山などのアクティビティが楽しむことができ、地元のガイドと共に千歳・支笏湖の水、自然について学ぶことができます。

アクティビティの道中では、支笏湖周辺に生息している野生動物や野鳥に出会うことができるかもしれません！

また、市内中心部では、日本最大級の淡水の水槽を保有するサケのふるさと水族館で、千歳川や支笏湖に住むサケや北方圏の淡水生物の生態について学んだり、茶道体験を通して日本の伝統文化について触れ、知識を深めることができます。

この旅を通して、皆様を千歳の大自然が育む清らかな水と氷の世界へご案内いたします。

【ハイライト】

- 支笏湖ビジターセンターで支笏湖の成り立ちや動植物の生態などについて知る
- 支笏湖クリアSUP、七条大滝スノーシューで支笏湖の水や氷を感じる
- イチャンコッペ山登山に挑戦する
- サケのふるさと千歳水族館で千歳・支笏湖など北方圏の淡水魚の生態を学ぶ
- 茶道体験で日本の伝統文化について学ぶ

Main Activity	Snowshoeing, stand-up paddleboarding, cultural tour, mountain hiking
Difficulty level	2/5
Tour Dates	4 days / 3 nights

(2) 関係箇所の連絡先一覧

関係各所の連絡先は、アクティビティガイドやその連絡先等その度に異なることが想定されるため、エクセルファイルにて作成した。ツアー中にコロナ感染が疑われる場合の対応についても、各地域の連絡先及びクリニックについて記載している。

※詳細は別添エクセル参照

◆◆手配資料◆◆											
ツアータイトル						参加人数		集合時間		集合場所	
A story told by water: Lake Shikotsu & Chitose Winter Multi sports						●名		12:00		千歳空港 羽田口4番付近	
★AIR											
	利用日	便名	FROM		TO			利用日	便名	TO	
往路			:	:	:	:	復路			:	:
往路			:	:	:	:	復路			:	:
★バス会社											
	利用日	種別	支払方法	内容		事業所名			備考		
1		バス	クーポン	車庫 ドライバー名前		TEL	FAX				
★ホテル											
1・2 日		ホテル		1×	名	しこつ湖鴨緑リゾートスノボの国			夕食：(1日目) 和食会席 夕食：(2日目) ビュッフェ 朝食：(共通) ビュッフェ		
				2×		TEL	0123-25-2212 FAX				
3日 日		ホテル		1×	名	ANAクラウンプラザホテル千歳			夕食：(市西居満席) 朝食：ビュッフェ 昼食：ビュッフェ		
				2×		TEL	0123-22-2311 FAX 0123-27-5500				
★観光・食事											
	利用日	種別	支払方法	内容		事業所/ガイド事業所名			備考		
1日目		見学	-	支笏湖概要		支笏湖ビジターセンター			火曜定休 9:30~16:30		
			-	14:30		TEL	0123-25-2404 FAX				
		体験	後日	支笏湖と支笏湖温泉観光バス		(一社) 千歳観光バス					
				15:30		TEL	0123-24-8818 FAX 0123-24-8819				
2日目		食事	後日	SUP/昼食/スノーシュー		オーシャンデイズ			電話は、通話料の080-3325-9507に転送される		
				9:00/13:00		TEL	0123-25-4135 FAX				
3日目		登山	後日	イチャコッペ山							
				9:00駐車場		TEL	FAX				
		夕食	現地払	アヲカルト		寿し・和食処 ぼろりん			日曜定休		
						TEL	0123-22-4711 FAX				
4日目		見学	現地払	千歳川概要		ササのふもと千歳水族館			年末年始/メンテナンス休 10:00~16:00		
						TEL	0123-42-3001 FAX				
		体験	後日	茶室体験		ポルトムインダーナショナル北海道					
						TEL	0123-45-6012 (代表) FAX 0123-45-6017				
★警察・消防											
北海道札幌方面千歳警察署 0123-42-0110						千歳市消防本部 0123-23-5312					
千歳警察署 支笏湖駐在所 0123-25-2144						千歳市消防本部 千歳市消防署支笏湖温泉出張所 0123-25-2050					
★コロナ対応											
感染が疑われる場合の相談：北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター 0120-561-507/24時間(土日祝含む)											
症状及び受診に関する相談：厚生労働省電話相談窓口(フリーダイヤル) 0120-565-653/9~21時(土日祝含む)											
少なくとも以下のいずれかに該当する場合には、すぐにご相談すること。											
息苦しさ(呼吸困難)、強いだるさ(倦怠感)、高熱等の強い症状のいずれかがある場合											
発熱や咳など比較的軽い風邪の症状がある場合											
発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が2日以上続く場合(症状が4日以上続く場合は必ず相談)											
上記以外の方で、発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合(症状が4日以上続く場合は必ず相談)											
【千歳エリア】 上記 北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター											

(3) 着目するポイント及び留意事項

【ガイドング内容凡例】

- ：行動
- ※：押さえておくポイント
- ・：ポイントの参考内容

【1日目】

時間 (目安)	場所	ガイドング内容	備考
12:00	千歳空港	● 早めに集まった方々に、自己紹介しつつ、参加者の体調・体温チェック ● 全体案内 ※ スルーガイドの自己紹介 ※ ツアー全体行程・ツアーストーリーについて ● トイレ対応の間にて、集合時間間際の参加で終わっていない参加者の体温チェック	初日はリラックスの日なので、ゆっくりめの行程となっている。 始まりに、どんなツアーなのかを認識してもらう。
	車内 (移動時間約15分)	● ドライバーの紹介 ● スルーガイドの自己紹介（追加で少し続き） ● 次の目的地に関する情報提供 ※ 支笏湖エリアにはコンビニがないので、2日後の登山の昼食・行動食（飲み物）を購入 ※ 日本の水道は引用可 ※ ホテルの部屋に湯沸かし器と紅茶ティーバッグの用意はある ※ 購入費はツアーに含まれている ※ エコバッグがあれば持参	
	コンビニエンスストア	● 購入補助 ※ エコバッグ持参の顧客には、各自選んだ食品を入れたレジカゴに入れておいてもらう	スルーガイドが支払
	車内	● 次の目的地に関する情報提供 ※ 空港から30分という短距離ながらも自然濃い国立公園エリア ※ 支笏湖エリアの水（水道）は支笏湖の水 ※ 土地の名前（千歳、支笏）の由来 ※ 支笏湖エリアは、色々近いところにあり、昼食後は歩いてビジターセンターへ行く ※ 支笏湖エリアの電力は、支笏湖の水が利用された100パーセント水力発電（丸駒温泉は自家発電） ※ 氷濤まつり制作中は通常見学できないので、よりスペシャルなツアーとなる ※ まつり見学は、手袋必須	
	ビジターセンター	● 学芸員紹介の後、ビデオ鑑賞/不在時は、すぐにビデオ鑑賞 ● 鑑賞後の館内案内（学芸員さんの説明orスルーガイド案内） ※ 支笏洞爺国立公園、日本の国立公園の特徴 ※ 現在地と行程で訪れる場所の紹介 ※ 地域の代表的な動植物 ● スノーシュー/ストックのレンタルがビジターセンターの場合は、ビデオ映像の時間に、スノーシュー/ストックをレンタルし、車輦に積み込む（降雪が少ない場合は、スパイクのみのレンタル）	導入部としての訪問。あまり掘り下げすぎなくて大丈夫。ジオラマでの説明が分かりやすい。一方的な説明ではなく、お客様とキャッチボールを行いながら行う。
	ホテルチェックイン	● ホテルスタッフからの説明 + α ※ 日本の水道は飲用できる。また、水道水は支笏湖の水	

【1日目-2】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
	氷濤まつり (ホテルより徒歩3分)	●ガイド紹介 (ガイドは、制作スタッフもしくは千歳観光連盟の方となる予定)	制作中は当日のコンディションにより、ヘルメット着用の可能性あり
		●翌日の荒天予想時は、翌日のアクティビティ業者との打合せ	
	夕食	●改めてツアー紹介 ※テーマ、コンセプト ・このツアー始まりだよ、楽しもうね！ ・ホテルのコンセプトは「水」 ●食事説明 ※懐石は日本のスペシャルディナー、北海道の旬の食材を使用 ●自己紹介（お客様） ・居住地、名前、楽しみにしていることetc.	人数、状況によっては、地元の関係者や翌日以降のガイド達との交流もあり得る。
	夕食解散前	●翌日行程等の案内 ※コンセプト、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物（長靴はレンタル）、集合時間・場所 ※昼食でホテル（レストラン会場）には戻るが、部屋に行く時間はない ※アクティビティ事業者事務所に鍵付きロッカー有 ※アクティビティ中の携帯電話用防水袋の貸出無	アクティビティに馴染みのある方々の場合には、お客様の確認したいことを中心に案内する。

【通訳、ガイドングにあたって】

・アドベンチャートラベラーは、「学ぶ=Learn」という言葉に若干ネガティブなイメージを持つ人が多いので、learnをなるべく使わない様に意識し、状況によりListenやExperienceという言葉におき変えてお伝えする様にするとよりよい。

・アクティビティガイドまたは説明してくれる方の通訳を行う場面では、自分が知っていることであっても、内容を忠実に通訳する。また、ガイドとお客さんのコミュニケーションに繋がるように、橋渡し役であることに徹する。日本の固有名詞や年代については、適宜相手国の歴史背景に照らし合わせられるとよい。また、その時にもガイドを巻き込んだコミュニケーションを心掛ける。

【1日目ポイント】

【支笏洞爺国立公園】 生きている火山と静まる蒼い湖 ―火山活動の博物館―

支笏洞爺国立公園は北海道の南西部に位置し、支笏湖、洞爺湖の二大カルデラ湖に加え、羊蹄山、有珠山、樽前山など様々な形式の火山や火山地形を見ることができる。また多種多様な温泉や硫気吹き出す地獄現象などの火山活動が多く見られ、まさに『生きた火山の博物館』といえる公園。火山活動の恩恵として、登別、洞爺湖、定山溪などの北海道を代表する温泉観光地が賑わいを見せ、湖と森と火山の織りなす景観美が人の心を和ませている。また、支笏湖は北限の不凍湖としても有名で、独特な濃紺の水面は訪れる人々を魅了している。

支笏湖エリア：約3万2千年前に始まった支笏火山の活動によりカルデラが形成され、その後、風不死岳、恵庭岳、樽前山が形成され、現在の支笏湖ができ上がった。風不死岳は既に火山活動を終えているが、恵庭岳は山頂下の火口に小規模な噴気が認められ、樽前山は現在も活動が続いている。支笏湖は、最大水深360m、日本で2番目に深い湖。寒冷な気候に加え土砂の流入などが少ないため、我が国有数の透明度を誇っている。

(参考・引用文献)

環境省. “支笏洞爺国立公園”. 日本の国立公園. <https://www.env.go.jp/park/shikotsu/index.html>, (2022-03-17)

フジクリーン工業株式会社 “水の話”. FUJI CLEAN NEWS2018No.181. 2018-10-01.

https://www.fujiclean.co.jp/water/backnumber/pdf/181/181_10.pdf (2022-02-14)

【北海道の地名】

北海道の地名はアイヌ語の発音を基に当て字をして日本語の発音にしたもの、そのままカタカナ読みしているもの、まったく原型を留めずに変えたもの、入植者の出身地の地名を充てたものなどが存在する。一帯の地名はもともと大きな凹地を意味するアイヌ語のシコツ (si-kot = 大きい・くぼみ) だったが、死骨を連想することから1805 (文化2) 年、箱館奉行支配調役・山田鯉兵衛嘉充が箱館奉行・羽太正養に改名を申請。鶴が多く飛来する土地ということで縁起のいい千歳に改称している。

【氷濤まつり】

1978年に始まった支笏湖氷濤まつりは、寒さが厳しく、訪問客が少なかった冬の支笏湖に観光客を呼び込むため、地元の有志により考えられた。支笏湖 (千歳川) の水をゆっくりと凍らせるため、不純物が少なく青い光を通しやすいので氷は青く輝く。

【しこつ湖 鶴雅リゾートスパ 水の調】 <https://www.mizunouta.com/>

コンセプトは水の力に癒やされる森と湖のリゾート&スパ。「水の調」は、あらためて命の源である水に着目し、温浴、エステ、フィットネス、ウォーキング、食事、睡眠、情報など、あらゆる面から健康と美容をトータルプロデュース。癒やしと健康をテーマに新しいスタイルのリゾートシーンを提供している。

【2日目】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
8:45	ホテル	● 体調・体温チェック ● 簡単に今日の流れ（行程、コンセプト、アクティビティ、天候） ※ 支笏湖の水を体感する ※ 昼食でホテル（レストラン会場）には戻るが、部屋に行く時間はない ※ アクティビティ事業者事務所に鍵付きロッカー有 ※ アクティビティ中の携帯電話用防水袋の貸出無	オーシャンデイズまでは徒歩移動
9:00	オーシャンデイズ (SUP)	● 担当ガイド紹介 ※ 黒岩夕湖氏 ● 同意書記入、ドライスーツレンタル補助（着用は説明の元皆で揃って行く） ● ガイディング通訳	オーシャンデイズ事務所にて着替えた後、SUP乗場までは徒歩移動
12:00	オーシャンデイズ	● ヴィーガンラーメンの理由 ● 午後のアクティビティについて ※ 午前中は支笏湖の水。午後は支笏湖の伏流水ととりまく森を体感する	ヴィーガンラーメン
13:00	オーシャンデイズ (スノーシュー)	● 担当ガイド紹介 ※ 相澤浩一氏 ● 長靴レンタル補助 ● ガイディング通訳 ※ スノーシューが初めての人がいる場合は、仕組み、はき方、歩き方についてガイドから詳しく説明してもらう様お願いする ● お客様の体力、行動の様子などに気をつけておく	事務所からスノーシュー開始・終了地点までは本ツアー専用車で移動（事業者は別車輛）
	オーシャンデイズ	● 長靴返却 ● 昼食場所案内	
16:00	ホテル戻り		
		● 翌日の山岳ガイドと最終打合せ ※ 集合場所、ルートの最終確認（変更の有無） ※ 天候・気温・風 ※ これまでに気づいたお客様の動きや興味などの共有 ※ お客様のアクティビティ経験の共有（スノーシューの様子など）	
	夕食	● 簡単なながらもコンセプトをおさえた今日の振り返り ● バイキング案内	
	夕食解散前	● 翌日行程等の案内 ※ コンセプト、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物（行動食忘れないように）、パッキング、集合時間・場所 ※ 悪天orルート変更等が予想される場合は、その旨伝えておく（あくまでもその判断はガイドだが、それでもガイドとっておきの場所を案内してくれるのだよ、と安心感を持たせるように） ※ 荷物について ・下山後の温泉道具、着替えは別にして、車においておく	

【2日目ポイント】

【CLEAR SUP】

透明度の高い素材を使用したクリアサップで、千歳川、支笏湖を体感する。

自然ガイドを行うというよりは、SUPを乗り方やパドル操作の案内がメイン。スルーガイドは、カヤックにてお客様の写真撮影や地域の自然についての解説補助を行う。

ガイドによるガイド内容（参考）：

- ・支笏湖の透明度について
- ・オオワシ、オジロワシ（支笏湖ではシベリア方面から越冬のため飛来する渡り鳥。オジロワシは道東・道北沿岸や内陸湖沼では繁殖している個体もいる。国の天然記念物）
- ・カラスの水浴び（冬季に見ることが何故が多い）
- ・山線鉄橋（千歳川にかかる赤い橋。明治末、王子製紙の発電所建設と木材搬出のための軽便鉄道の名残）
- ・支笏湖からみられる山々（樽前山、風不死岳、恵庭岳、紋別岳）

ガイド：黒岩夕湖氏/オーシャンデイズ所属

北海道生まれ。学生時代よりボディボードにハマり、石垣島・西表島へ波乗り移住。そこで海そのものの美しさ、自然の素晴らしさを知りネイチャーガイドとなる。

【七条大滝スノーシュー】

支笏湖の南側にある七条大滝まで。前半は約2.5キロのまっすぐで平坦な道。積雪状態によっては、スノーシューを着けずに徒歩の可能性有。

初心者がいる場合は、スノーシューの説明（つけ方、歩き方：つめがあること、後ろに下がると転ぶので、常に前に歩く）を詳しく頂く。

ガイドによるガイド内容（参考）：

- ・アクティビティ中に見られる植物（エゾマツ、トドマツ、ツルアジサイ、ノリウツギ、イワガラミ）
- ・動物の足跡（エゾシカ、エゾキウサギ、エゾリス、キタキツネ）※エゾヒグマは冬眠中
- ・台風等の自然災害による復興のための植林地
- ・支笏湖の伏流水によって流れ出ている丸山川の滝

ガイド：相澤 浩一氏 (AI-CHAN) /オーシャンデイズ所属

自然の楽しさや素晴らしさ、ある時は厳しさを子供達に伝えたくて北海道へ移住。自衛官を定年退官後現職

【地域の気象・自然災害について】

・スルーガイドは、アクティビティそのものの催行判断を行うものではないが、ツアーをスムーズに催行するためにも、地域の気象の特徴や過去の自然災害についても、把握しておくとい。

（参考）

- ・**気象警報、注意報**：気象庁ホーム>防災情報>気象警報・注意報>地図の见たい場所をクリック>市町村選択
- ・**積雪深**：気象庁ホーム>防災情報>現在の雪（解析積雪深・解析降雪量）
- ・**2週間気温予報（最高・最低気温のみ）**：1週間以上先の気温のおおまかな傾向（平年比の高低、極端な寒さ）気象庁ホーム>防災情報>2週間気温予報
- ・**週間天気予報**：気象庁ホーム>天気>地域選択
- ・**1時間ごとの雨雪・風予報（1日半先まで/10日先まで）**：GPV気象予報（weather-gpvで検索）
- ・**風、雲、雨雪、気温、波高など**：windy（windy.comで検索）
- ・樽前山：活火山。山頂溶岩ドーム周辺の高温（1999年～）
- ・有珠山：活火山（20世紀は1910,1943,1977,2000年に噴火）
- ・雪崩被害：ニセコ春の滝（立ち入り禁止区域）など
- ・北海道の災害年表：札幌市

https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/yukigakushu/package/documents/saigai_nenpyo.pdf

【3日目】

(2) スルーガイド対応手順

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
8:45	ホテル	●体調・体温チェック ●簡単に今日の流れ（行程、コンセプト、アクティビティ、天候） ※昨日までみてきた支笏湖、火山カルデラの暮らしを俯瞰的に見る ※最終トイレはホテル（駐車場にはない）アクティビティ中は森林帯なので適当に。 ※荷物について（下山後の温泉道具、着替えは別にして、車においておく）	
	車内 (移動約15分)	●ワクワク感の醸成 ・ジオラマや低地からでは決して見ることができない雄大な支笏ブルーの姿、景観を楽しもう！	
9:00	登山口	●ガイドと打合せ（今日のコンディションなど） ●担当ガイド紹介 ●ガイドから、今日の流れの説明 ※ルート、積雪状況、トイレ、下山時間 ※ビーコンの説明 ※スノーシューは前日体験済みなので必要に応じて説明 ※ガイドによる準備体操 ・参加者によっては、日本式準備体操に激しさを感じる方もいる。 - 日本式ハイクアップ/ストレッチ（ハイクアップ：ゆっくり歩き始め、身体をならすことをストレッチ代わりにすることもある）です、と一言添えるとハードルが下がるかもしれない。	左記ガイドが最初に行うべき案内事項に不足があれば、その場でフォローする。
	登山中	●ガイドング通訳 ※ガイドングのタイミングは各ガイドそれぞれその日により異なる。 - 先回りした案内をスルーガイドからしないように気を付けつつ、地域を俯瞰した視点で、ビジターセンターで見聞きした内容や、これまでのガイドングで見聞きした内容を踏まえ、アクティビティガイドから引き出したりするなどして適宜補完する。 ※風景・自然の体感、その場所がどのような保護価値を持っているのか、植物や動物、そしてその場所が国立公園保護の対象となった特徴を理解する機会とする	
15:30	下山	●レンタル品返却補助	
16:00	鶴雅水の譚	●温泉（外来用入口を利用）案内	
	車内 (移動約45分)	●次の目的地に関する情報提供 ※ここから、舞台は湖から川へ。支笏湖から流れ出す千歳川沿いに街に向かう。 ※千歳の入植の歴史、アイヌの人々の暮らしについて ・人々のサケ（鮭）利用 ※夕食の居酒屋案内	ここでアイヌの人々にとつてのサケの重要性を一度伝えておき、翌日の千歳水族館訪問に意味を持たせる（通常、水族館や動物園などAT顧客は訪問地として選択しないことが多い）。
18:00	ANAクラウンプラザ	●ホテルスタッフからの説明 + α	
18:30	寿司・和食処 ほうりん (ホテルより車で5分/徒歩10分)	●ラストディナー。今日とツアー全体の振り返り ※テーマ、コンセプト ※ツアーの振り返りが共有できるような時間とする ・個人的なハイライトは何であったか？ ・チャレンジだった食べ物？ など ●適宜食事説明	人数、状況によっては、地元の関係者や登山ガイドとの交流もあり得る。
	ホテルにて解散前	●翌日行程等の案内 ※コンセプト、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物、集合時間・場所	

【3日目ポイント】

【イチャンコッペ山】

イチャンコッペは、アイヌ語でサケマスの産卵穴の川、産卵場を持つ川、イワナの川、など諸説存在する。

イチャンコッペ山は標高828mの、支笏湖北側に位置する。山頂では、3万2千年前の支笏湖火山により支笏カルデラが生まれ、その後、風不死岳、恵庭岳、樽前山が誕生した日本を代表するカルデラ湖の壮大なスケールを感じることができる。

夏道を冬のコースとして辿る場合もあるが、登り始めが急斜面となるため、積雪状態によっては登山口より少し西に位置する駐車場から緩やかな斜面を登り、稜線上を歩くルートとなる場合もある。

【登山ガイド】※催行日によりガイドのアサインは異なる

ガイドによるガイディング内容（参考）：

- ・雪質の違い（千歳エリア、ニセコエリア）
- ・地域の動植物
- ・カルデラ湖、火山（樽前山、風不死岳、恵庭岳など）
- ・札幌オリンピックの会場となった恵庭岳
- ・イチャンコッペ山の名前の由来
- ・アイヌの人々のこのエリアでの暮らし
- ・現在の地域の人々の暮らし
- ・支笏湖の透明度、不凍湖であること

【ビーコン】※何のための物なのか。どのような際に使用するのか。どのように使用するのか、ガイドより説明して頂く

ビーコンとは、『自分が雪崩に埋没してしまった場合に探してもらうため』また『埋没してしまった人を探するため』の装備。特別な操作の必要はなく、電源を入れてアウターの内側に着けるだけである。ビーコンを携帯しているだけでも雪崩からの生還率は大幅に上がる。

【恵庭岳】

恵庭岳（標高1320m）は、活火山。最後のマグマ噴火は約2000年前であるが、現在も東向き火口の噴気孔から煙が立ち昇っている。円錐形の山容が特徴的。名前の由来はアイヌ語の「エエンイワ」（頭がとがっている山）。1972（S47）年のアジア初の冬季オリンピック大会時には、滑降競技規定に定められたコースの標高差と斜度を満たす場所が札幌市にはなかったため、滑降競技のみ当時支笏洞爺国立公園の特別地域に指定されていた恵庭岳で開催された。

恵庭岳滑走競技場の建設が決定するまでには、競技場の建設と自然保護を巡って議論がなされ、移転することも検討された。滑降コースは男子用2636メートル、女子用2108メートルの2本。合わせて総面積約20ヘクタールが伐採された。大会閉幕後には競技施設の撤去および跡地への植林が講じられた。大会翌年からコース跡にアカエゾマツなどの針葉樹と、イタヤカエデなどの広葉樹を植林。自然林と同じ密度にするため、2004年に針葉樹を間引くなどしているが、冬季にはその跡がまだ鮮明にわかる。傾斜が急なので、自然状態では雪がなく、雪を型枠にはめて一晩かけて凍らせたブロックを積み、運んだ雪を足で圧雪で固める、という作業でコースを造成したとのこと。

（参考図書）

『第11回オリンピック冬季大会公式報告書 札幌 1972』札幌オリンピック冬季大会組織委員会.S47

治憲屋守.“千歳 恵庭岳におけるオリンピックの記憶”.『新千歳市史機関誌』志古津19号.H26-03.

先田次雄.“恵庭岳滑走コース緑化復元から四〇年”『新千歳市史機関誌』志古津19号.H26-03.

https://www.city.chitose.lg.jp/_resources/content/69293/20140326-112240.pdf, (2022-02-14)

【4日目】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
	ホテル集合	●体調・体温チェック ●簡単に今日の流れ（行程、天候）	
	車内 (ホテルより5分/ 徒歩15分)	●次の目的地に関する情報提供 ※何故サケのふるさと千歳水族館へいくのか。 ・この地域の人々にとっての千歳川の重要性について ・生きものと人のかかわりなども体感できる水族館を目指している ※ガイド紹介	昨日お伝えした内容を簡単に繰り返すことで、千歳水族館訪問に意味を持たせる。
	サケのふるさと千歳水族館	●ガイド紹介 ※菊池基弘氏（学芸員であり、館長でもある） ●館内案内通訳	
	昼食	ANAクラウンプラザホテル千歳でランチビュッフェ	
	車内 (ホテルより15分)	●次の体験に関する情報提供 ※茶道について	
	ポルトム インターナショナル 北海道 (空港直結ホテル)	●ガイド紹介 ●ガイド内容通訳 ※改めて、支笏湖からの水を意識しつつ、余韻に浸れるように。	
	空港	●解散	

【4日目ポイント】

【サケのふるさと千歳水族館】

淡水では日本最大級の水槽を有する水族館で、館内ではサケの仲間や北海道の淡水魚を中心に、世界各地の様々な淡水生物を観察することができる。千歳川の中を直接見ることのできる日本初の施設「水中観察ゾーン」では、四季折々の千歳川の生き物たちの営みを間近に観察することができる。

ガイド：菊池基弘氏/サケのふるさと千歳水族館館長

静岡県出身。北海道大学水産学部卒。千歳水族館の前身、千歳サケのふるさと館が開館した1994年9月より学芸員として勤務。リニューアルオープンの2015年7月より館長を務める。水族館のイベントでは、自ら水槽に潜り、魚たちに餌を与えることも。趣味は水辺を散策しながらの動植物の観察と写真撮影。冬は雪像作りにもチャレンジする。

【千歳の歴史、千歳アイヌ】

千歳は古来から太平洋側と日本海側をつなぐ交通の要路であった。千歳地方一帯は、1600年代より「シコツ」（アイヌ語で大きな凹地）と呼ばれており、史記にも「志古津」や「シコツ」と記載され、千歳川もかつてはシコツ川と呼ばれていた。しかし、その音の響きが悪いという理由から、1805年、当時は多くの鶴が生息していたことから「鶴は千年、亀は万年」の故事にちなんで千歳川に改名、これが「千歳」の地名の原点。語源からもわかるように、アイヌの人々も多く住んでいた。明治に入ると札幌本道（現在の国道36号）が開通し、千歳は街道の宿場町として栄えるようになった。その後、入植者による開拓が進み、現在の街の基盤ができた。

（参考・引用URL）

千歳市.“ちとせの歴史と文化”.1977. <https://www.welcome-to-chitose.jp/history.html> (2022-02-14)

サケのふるさと千歳水族館,“千歳アイヌのサケ文化”. <https://chitose-aq.jp/ainu.html> (2022-02-14)

ツアー③【ニセコツアー】

(1) ストーリー及びハイライト

Niseko #JAPOW - Ski, Snowshoe, Scenic Float, Niseko Harvest Tour



【ツアーストーリー】

支笏洞爺国立公園とニセコ積丹小樽海岸準国立公園で、北海道の冬を満喫しましょう！

「生きた火山の博物館」とも言われる国立公園の一部を担う支笏湖は日本随一の透明度を誇り、ニセコ連峰を中心とした1,000m級の山岳地帯には世界が羨む極上の雪「JPOW（Japan Powder）」が存在します。

最高の水質、雪質の中で体験する冬のアクティビティは夏には決して見ることでできない白銀と静寂の世界で参加者の心身を癒す最高の経験になるでしょう。また、古来よりこの地に根差してきた人々の雪国の暮らしにも寄り添います。

このツアーでは、水から雪への自然の循環を体感することができます。旅の前半では、SUPや登山、温泉等から支笏湖の「水」を体感し、後半ではパウダースノーの聖地であるニセコにて、スキー・スノーボードやスノーシューを通じて世界でも有数の雪質を体感します。

【ハイライト】

- スキー（天候が整えばバックカントリー）にてニセコのパウダースノーを体感
- 清流下り（ラフティング）でニセコの冬景色と静けさを楽しむ
- スノーシューツアーと地域の水・雪・そして米のお話
- 和と空のぬくもりが感じられる、隠れ家のような温泉旅館に3連泊
- 地物を取入れた多様な食事内容（懐石、ジンギスカン、うどん、トンカツ、芋もちなど）

Main Activity	Skiing, snowshoeing
Difficulty level	3 or 4/5
Tour Dates	4 days / 3 nights

(2) 関係箇所の連絡先一覧

関係各所の連絡先は、アクティビティガイドやその連絡先等その度に異なることが想定されるため、エクセルファイルにて作成した。ツアー中にコロナ感染が疑われる場合の対応についても、各地域の連絡先及びクリニックについて記載している。

※詳細は別添エクセル参照

◆◆手配資料◆◆

ツアータイトル	参加人数	集合時間	集合場所
Niseko #1APOW - Ski, Snowshoe, Scenic Float, Niseko Harvest Tour	●名		千歳空港 羽田口4番付近

★JR

利用日	駅名	FROM	TO	利用日	駅名	FROM	TO
往路				復路			
往路				復路			

★バス会社

利用日	種別	支払方法	内容	事業者名	備考
1	バス	クーポン	車庫 ドライバースタッフ	TEL: FAX:	

★ホテル

1 ~ 3日 目	ホテル	1× 2×	名	ニセコ見沼温泉 鶴賀別荘の抄	夕食：(1・3日目) 和食 焼石 朝食：和定食
	ホテル	1× 2×	名	TEL: 0136-59-2323 FAX:	

★観光・食事

利用日	種別	支払方法	内容	事業者/ガイド事業者名	備考
1日目	昼食	現地払	アツカルト 13:30	乳水うどん 野々菜 TEL: 0136-42-2382 FAX:	月曜定休 11-14:30
	休憩	後払	清流下り 14:30	Hokkaido Lion Adventure TEL: 0136-43-2622 FAX: 0136-43-2883	
	休憩	後払	スノーシュー 9:00	TEL: FAX:	
2日目	昼食	現地払	アツカルト 12:00	「こま雪とんとんお昼のニセコ」 TEL: 0136-58-2500 FAX:	ニセコアンネン温泉 湯内半のレストラン
	ー	後払	朝飯	ニセコ・モイワ・スキーリゾート TEL: 0136-59-2511 FAX:	担当：支配人 (またはマネージャー) お名前
	見学	後払	見学	ニセコ温泉所 TEL: 0136-59-7477 FAX:	担当： 10:00~17:00 無休
	夕食		ジンギスカン専門店 18:00	ニセコof倶楽部 TEL: 0136-44-2885 FAX:	17:00~23:00
3日目	休憩		ニセコアンネン温泉 湯内半のレストラン 10:00~15:00	TEL: FAX:	
	昼食	現地払	アツカルト モイワ温泉 TEL: 0136-59-2511 FAX:	センターロジレストラン 10:00~15:00	
4日目	休憩	後払	ホリミヤ車椅子タクシー 9:00	ニセコアウトドアセンター(NOC) TEL: 0136-44-1133 FAX:	代表：南重光様
	昼食	現地払	アツカルト Farmer's Kitchen ポンポン TEL: 0136-55-5707 FAX:	月曜定休 11:30-14:30	

★警察・消防

【千歳エリア】 北海道札幌方面千歳警察署 0123-42-0110	千歳市消防本部 0123-23-5312
千歳警察署 支所消防在所 0123-25-2144	千歳市消防本部 千歳市消防署支所湯田山出張所 0123-25-2050

【ニセコエリア】 ※どこにかけたいか迷う時は、119番にかけるとよい (熱心な場所からの支援を得られる)。

(美瑛から国道4号上)	伊達警察署 大池駐在所 0142-68-6052	道庁行政事務組合伊達消防署大池出張所 0142-68-6119
(国道276上ー道道97)	伊達警察署 吉成別荘駐在所 0136-33-2002	半路山ろく消防組合消防署吉成支所 0136-33-2141
(道道78 支所工務所付)	伊達警察署 支所駐在所 0136-45-2110	半路山ろく消防組合消防署支所 0136-45-2319
(道道66 道の駅-NOC)	伊達警察署 ニセコ駐在所 0136-44-2251	半路山ろく消防組合消防署ニセコ支所 0136-44-2354
(倶知安駅前)	札幌方面伊達警察署 0136-22-0210	半路山ろく消防組合 0136-22-2822
(ニセコ見沼温泉、セイウスキー 伊達警察署 ニセコ駐在所 0136-44-2251)		半路山ろく消防組合消防署ニセコ支所 0136-44-2354

★コロナ対応

感染が疑われる場合の相談：北海道新型コロナウイルス感染症 健康相談センター 0120-501-507/24時間 (土日祝含む)
症状及び受診に関する一般相談：厚生労働省電話相談窓口 (フリーダイヤル) 0120-565-653/9-23時 (土日祝含む)

少なくとも以下いずれかに該当する場合には、すぐにご報告すること。

- 発熱 (38.5℃以上) 、強いだるさ (倦怠感) 、呼吸等の強い症状のいずれかがある場合
- 基礎疾患がある方など重症化しやすい方で、高齢者などの比較的脆弱な状態にある場合
- 上記以外の方で、発熱や咳など比較的軽い風邪の症状が続く場合 (症状が4日以上続く場合は必ず報告)

【千歳エリア】 上記 北海道新型コロナウイルス感染症健康相談センター

【ニセコエリア】 ニセコインターナショナルクリニック 0136-21-5454 / 木・日 9:12-14:12 ※電話相談の上、タクシー利用で受診

(3) 着目するポイント及び留意事項

【ガイドング内容凡例】

- ：行動
- ※：押さえておくポイント
- ・：ポイントの参考内容

【1日目】

時間 (目安)	場所	ガイドング内容	備考
11:30	千歳空港	● 早めに集まった方々に、自己紹介しつつ、参加者の体調・体温チェック ● 全体案内 ※ スルーガイドの自己紹介 ● トイレ対応の間にて、集合時間間際の参加で終わっていない参加者の体温チェック	初日はリラックスの日なので、ゆっくりめの行程となっている。
	車内 (移動時間約2時間)	● ドライバーの紹介 ● スルーガイドの自己紹介（追加で少し続き） ● ツアー紹介 ※ ツアー全体行程・ツアーストーリーについて ● 次の目的地に関する情報提供 ※ コンセプト ・ 数十年経て羊蹄山の伏流水として湧き水となっている ・ JAPOW（支笏湖エリアとの雪質の違い） ・ 昔からの人々の暮らし ※ 昼食箇所の説明 ※ アクティビティ、アクティビティガイドの簡単な紹介	始まりに、どんなツアーなのかを認識してもらう。
13:30	名水うどん野々傘（ののさん）	● 注文補助 ● うどんの説明 ※ 北海道産の小麦 ※ 日本の出汁文化について	名水うどん
	車内（移動時間約10分）	● 次の目的地に関する情報提供 ※ ツアーの始まりとこれからの行程を繋げる ※ ボトル持っていく	
	京極ふきだし公園	● 湧水を汲むことによって旅のストーリーのイメージ付けを行う。 ● 水の恵みによる地域の特産品に触れ、地域の暮らし文化を知る。 ※ 羊蹄山の湧き水、山麓地形ゆえの農業、産業発達について	
	車内（移動時間約30分）	● 次の目的地に関する情報提供	
14:30	雪景色ニセコ清流下り	● ガイド紹介 ● ライフジャケットと長靴レンタル補助 ● ガイドディング内容通訳 ※ ガイドからの引き出し項目 ・ 川の流れはどこから？ ・ 冬に体験する意味は？ ・ 川と地域の暮らし人々との関係	
	車内（移動時間約15分）		
16:30	ホテルチェックイン	● ホテルスタッフからの説明 + α ※ 日本の水道は飲用できる。	

【1日目-2】

時間 (目安)	場所	ガイドング内容	備考
18:00	夕食	●改めてツアー紹介 ※テーマ、コンセプト ・このツアー始まりだよ、楽しもうね！ ●食事説明 ※懐石は日本のスペシャルディナー、北海道の旬の食材を使用 ●自己紹介（お客様） ・居住地、名前、楽しみにしていることetc.	人数、状況によっては、地元の関係者やガイド達との交流もあり得る
20:00	夕食解散前	●翌日行程等の案内 ※コンセプト、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物、集合時間・場所	アクティビティに馴染みのある方々の場合には、お客様の確認したいことを中心に案内する。

【通訳、ガイドングにあたって】

・アドベンチャートラベラーは、「学ぶ=Learn」という言葉に若干ネガティブなイメージを持つ人が多いので、learnをなるべく使わない様に意識し、状況によりListenやExperienceという言葉におき変えてお伝えする様にするとよりよい。

・アクティビティガイドまたは説明してくれる方の通訳を行う場面では、自分が知っていることであっても、内容を忠実に通訳する。また、ガイドとお客さんのコミュニケーションに繋がるように、橋渡し役であることに徹する。日本の固有名詞や年代については、適宜相手国の歴史背景に照らし合わせられるとよい。また、その時にもガイドを巻き込んだコミュニケーションを心掛ける。

【1日目ポイント】

【支笏洞爺国立公園】 生きている火山と静まる蒼い湖 ―火山活動の博物館―

支笏洞爺国立公園は北海道の南西部に位置し、支笏湖、洞爺湖の二大カルデラ湖に加え、羊蹄山、有珠山、樽前山など様々な形式の火山や火山地形を見ることができる。また多種多様な温泉や硫気の吹き出す地獄現象などの火山活動が多く見られ、まさに『生きた火山の博物館』といえる公園。火山活動の恩恵として、登別、洞爺湖、定山溪などの北海道を代表する温泉観光地が賑わいを見せ、湖と森と火山の織りなす景観美が人の心を和ませている。また、支笏湖は北限の不凍湖としても有名で、独特な濃紺の水面は訪れる人々を魅了している。

【北海道の地名】

北海道の地名はアイヌ語の発音を基に当て字をして日本語の発音にしたもの、そのままカタカナ読みしているもの、まったく原型を留めずに変えたもの、入植者の出身地の地名を充てたものなどが存在する。「ニセコ（ニセコアン）」という地名は、アイヌ語からつけられたもので「切り立った崖（の下を流れる川）」を意味します。

また「ヌプリ」はアイヌ語で「山」という意味があり、スキー場がある「ニセコアンヌプリ」という山は、アイヌ語で「切り立った崖（とその下に川）がある山」という意味になります。ちなみに「ニセコアンヌプリ」は、一般的な表記にある「山」や「岳」は付きません。

北海道では、アイヌ語を語源とする地名が多く存在しますが、その多くは漢字で表記されています。明治以降、ニセコ町への入植者がアイヌ語の地名を文字化しましたが、当時から「ニセコ」については漢字をあてても定着せず、カタカナが定着したといわれています。

【出汁文化、北海道と日本各地との繋がり】

だしは決して日本固有の調理ではなく、世界には野菜、肉、魚、骨、ハーブなどを用いた出汁が数多く存在する。日本の出汁が他の出汁と異なるのは、良質な材料を長時間煮込むのではなく、乾燥や発酵させた材料を水に浸す、または、短時間火にかけて抽出するという点。

昆布の由来は、アイヌ民族が「コンブ」と呼び、これが中国に渡り、再び外来語として日本に逆輸入されたと言われる説が有力。昆布の交易船が北海道の松前と本州の間を、盛んに行きかうようになったのは鎌倉時代中期以降。室町時代に入ると、蝦夷地（北海道）から越前国（福井県）の敦賀まで船で運ばれ、京都・大阪まで送られた。江戸時代になると、北前船を使って下関から瀬戸内海を通る西まわり航路で敦賀・小浜を経由せず直接天下の台所・大阪へ。その後は、江戸～九州～琉球王国（沖縄県）～清（中国）へと広がった。この昆布が運ばれた道筋が「昆布ロード」。昆布がもたらされた土地では、独自の料理や食べ方が生まれ、その地に根付いた食材となった。アイヌの食文化としても昆布料理は存在する。

（参考・引用URL）

北海道漁業共同組合連合会.“昆布の歴史”. <https://www.gyoren.or.jp/konbu/rekishi.html>.(2022-02-13)

藤村久和他『聞き書 アイヌの食事』農山漁村文化協会 1992-11-1.(2022-02-13)

【ニセコ町】

持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）に力を入れており、持続可能な観光の国際機関「グリーン・デスティネーションズ」（オランダ）による、世界の持続可能（サステナブル）な観光地のTOP100選を2年連続で受賞していたり、町内では持続可能な観光について考え、どう実践できるかを学ぶGSTC公式トレーニングの実施していたりと、先進した取り組みを行っている。国連世界観光機関（UNWTO）総会において加盟国75か国・174地域の中から44の「ベスト・ツーリズム・ビレッジ（BTV）」に選定、また、観光における気候変動対策に関するグラスゴー宣言に日本の自治体としては唯一の初代署名者ともなっている。

環境意識の高いAT顧客とは、会話の中でこういった取り組みについての話題をお伝えすることも大事。

（参考URL:ニセコ町.“持続可能な観光（サステナブル・ツーリズム）”。

https://www.town.niseko.lg.jp/sightseeing/sustainable_tourism/, (2022-02-14)

【雪景色ニセコ清流下り】※催行日によりガイドのアサインは異なる

羊蹄山を眺めながらのゆっくりな川下り。

・アクティビティ提供業者：北海道ライオンアドベンチャー

代表ガイド 下田伸一氏

2006年4月、「セゾンクラブ」からアウトドア部門及び団体取扱部門が独立し、長野県にある株式会社ポップ／ニセコ支店として「北海道ライオンアドベンチャー」がオープン。2017年4月に、「株式会社 北海道ライオンアドベンチャー」として完全独立。スタッフの多くはニセコ以外からニセコに惹かれていらした方々。

【2日目】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
8:30	ホテル	● 体調・体温チェック ● 簡単に今日の流れ（行程、天候）	
	乗車 (移動約20分)		
	集合場所 スノーシュー準備	● 担当ガイド紹介 ● レンタル補助	ガイド自身と、その地域の繋がりやエピソードを織り交ぜるとツアー自体の価値に繋がる
	車移動 (30分)		
	雪秩父温泉	● ガイディング通訳 ※スノーシューが初めての人がいる場合は、仕組み、はき方、歩き方についてガイドから詳しく説明してもらう様お願いする ※ガイドから引き出す項目 ・何故雪深くなるのか、温泉地となる理由など ・積雪から得られる水が、地域の農産業を支えている。 ・体感するパウダースノーと地域の人々の暮らしとを繋げる話にもっていく	
12:00	こな雪とんとん お昼のニセコ店 (昼食)	● 注文補助 ※トンカツが有名	
	ニセコ・モイワ・スキーリゾート	● 担当ガイド紹介 ※スキーリゾートの支配人（またはマネージャー）の紹介 ※明日のスキーの際には、このスキー場でも足慣らしを行い、その後バックカントリースキーへ向かう	
	(ニセコ蒸溜所)	(● 見学補助) ※ニセコアンヌプリの良質な伏流水（軟水）使用 ・水は、ウイスキーにとって命と言われるほど大切な存在。その水の性質が最終的なウイスキーの香味に大きな影響を及ぼす	※現状10名まで見学可
		● 翌日のバックカントリースキーのガイドと最終打合せ ※購入しておくリフト券の種類の確認 ※天候・気温、装備について ※これまでに気づいたお客様の動きや興味などの共有 ● 翌日スノーボード参加者に軸足が右なのか左なのか確認（レンタルがスムーズに行える）	天候、これまでの積雪により行先等が異なるので、確認が必要
18:00	ニセコLoft倶楽部	● ジンギスカン専門店紹介 ※なぜ羊肉を北海道で食べる様になったかなどの歴史 ※ジンギスカンのいわれのいくつかの説など ● 簡単なながらもコンセプトをおさえた今日の振り返り	
20:00	解散前	● 翌日行程等の案内 ※コンセプト、アクティビティ、ガイド紹介、天気予報、服装、持ち物、集合時間・場所	

【2日目ポイント】

【JAPOW】

JAPOWとは、Japan + Powder snowから生まれた造語。

冬季、シベリア方面からの非常に冷たい北西季節風が日本海を渡るときに大量の湿気を抱え、これが羊蹄山やニセコ連峰にぶつかるように吹くため降雪量が多く、ニセコ町内の積雪量は多い年で2メートルに達し、また、スキー場では5メートルを超えることもある。人々が暮らす地域にこれだけのパウダースノーの積雪があるエリアは世界では多くない。

【羊、ジンギスカン】

昔、北海道はおろか日本に羊はいないが、日本人皆が知っている動物であった。干支に含まれている動物であるため、概念としては知っていた。また、珍獣として数頭が贈り物とされたり、奈良時代の正倉院宝物にもヒツジの意匠が取り入れられていた。在来羊は存在しておらず、また、北海道開拓となるまで、放牧地が十分に確保できなかったり、高温多湿に合わなかったり、仏教による殺生・肉食禁忌の教えなどが重なったことから家畜としても定着しなかったと思われる。

1850年代に箱館奉公所で10頭飼育したことが北海道における牧畜の始まりであるが、開拓当初は飼育に成果があらなかったが、1914年の第一次世界大戦の始まりにより、軍需品としての羊毛の国内生産に力をいれた。そのころより、羊毛だけでなく、羊肉の活用方法についての研究も始まることとなった。しかしジンギスカンの発祥については諸説あり、昭和初期に滝川の畜産試験場で羊の焼き肉をしたのが始まりという説、満州式の焼羊肉（カオヤンロウ）にジンギスカンの名前を付けて食べたのが始まりという説など存在している。

（参考・引用URL）

北海道立図書館.“北方資料室展示「羊と北海道の140年」目録”.(H25-07)

<https://www.library.pref.hokkaido.jp/web/reference/qulnh0000000006zl-att/qulnh0000000035lo.pdf> (2022-02-10)

廣岡孝信.“奈良時代のヒツジの造形と日本史上の羊”.奈良県立橿原考古学研究所紀要.考古学論攷. 2018.

http://www.kashikoken.jp/under_construction/wp-content/uploads/2018/08/kiyo41-hirooka.pdf

(2022-02-10)

【3日目】

時間 (目安)	場所	ガイド内容	備考
8:00	ホテル	●体調・体温チェック ●緊急時連絡先（スルーガイドの連絡先）を改めて各人に渡す ●今日の流れと共に、コンセプト、天候説明 ※この旅のハイライト ※世界が羨む極上の雪、JAPOW(Japan + Powder)と呼ばれているパウダースノーを、全身で体感	
	乗車	5分程度	
8:30～ 14:30	ニセコモイワ スキー場	●レンタル対応 ●チケット購入 ●ガイド紹介（催行日によりガイドのアサインは異なる） ●ガイドから、今日の流れの説明 ・行程、積雪状況など ・ビーコンの説明（ツアー行程中での使用が初めての場合） ●再集合場所、時間を再確認 ●スルーガイドは2Fレストランにて待機している旨お伝えしておく ●「雪」の違いを楽しんでね！と送り出し。 ※レンタル返却対応	昼食はスキー場センターロジレストラン
	乗車	5分程度	
16:00	ホテル戻り		
	夕食	●ラストディナー。今日とツアー全体の振り返り ※テーマ、コンセプト ※ツアーの振り返りが共有できるような時間とする ・個人的なハイライトは何であったか？ ・チャレンジングだった食べ物は何？など ●適宜食事説明	人数、状況によっては、地元の関係者やニセコエリアのガイドとの交流もあり得る。 振り返りを共有することで、各人が受け取ったツアーストーリーに深みと一体感が増す。
	夕食解散前	●翌日行程等の案内 ※行程、天気予報、服装、持ち物、集合時間・場所	

【3日目ポイント】

【ニセコルール】

本ツアーではスキーのガイドをつけるが、地域の取組みとして紹介する。

スキー場外の事故防止のために設けられているルールが存在する。ニセコ雪崩情報は地域の公式情報でありニセコ雪崩調査所が独自の手法で12月から3月までのシーズン中ほぼ毎日、当日の危険を予測している。

1. スキー場外へは必ずゲートから出なければならない。
2. ロープをくぐってスキー場外を滑ってはならない。
3. スキー場外では、安全に滑走するために、ヘルメットと雪崩ビーコンの装着が最低限必要と考える。
4. ゲートが閉じられている時はスキー場外に出てはならない。
5. 立入禁止区域には絶対に入ってはならない。なお、捜索救助と調査活動は除外される。
6. 小学生のみのスキー場外滑走を禁止する。

＜補足＞

- ・スキー場外での救助捜索には費用（最低10万円）が請求される。
- ・上記ルール違反者はリフト券の没収、販売停止などでスキー場利用を拒否される場合がある。
- ・事故は吹雪など悪天候時に多く起こる。知識や技術、道具を過信しないこと。常に用心すること。パトロールの指示に従うこと。亀裂転落、立木衝突に注意。雪山に100パーセントの安全はない。
- ・ニセコ雪崩情報は地域の公式情報でありニセコ雪崩調査所が独自の手法で当日の危険を予測している。
- ・雪崩ビーコン、プローブ、ショベルの携行を強く勧める。これらの道具は万一の時にあなただけではなく仲間の命も救えるかもしれない。

ニセコ町.“ニセコルール(2021-2022)” <https://www.town.niseko.lg.jp/sightseeing/rules/> (2022-2-14)

ニセコ雪崩調査所“ニセコなだれ情報 Niseko Avalanche Information”. (2022-2-14)

【バックカントリースキーガイド】※催行日によりガイドのアサインは異なる

- ・有資格者
- ・日本山岳ガイド協会が「バックカントリーを案内する為に必要な資格」とし発行しているスキーガイド資格が業界スタンダードであり、実技検定試験は延べ日数約20日にもわたるが、国家資格ではない。フランスはガイド資格が国家資格。アメリカ、カナダでは国家資格とはしていないが、ガイドの歴史が深く、ガイド協会が社会に認知されており、無資格のガイドを利用しない。良いガイドと山に行くことで、安全により楽しく山に行けることを知っている人が多い。

(参考URL)

公益社団法人日本山岳ガイド協会.“職能別資格検定試験詳細規定” 2022-04-01.
http://www.jfmga.com/pdf/2022shosaikitei_ski.pdf. (2022-02-14)

【4日目】

時間	場所	ガイド内容	備考
	ホテル集合	●体調・体温チェック ●簡単に今日の流れ（行程、コンセプト、アクティビティ、天候）	
9:00～ 12:00	ニセコアウトドアセンター事務所 ニセコハーヴェストツアー（雪中芋ほり体験）	●担当ガイド紹介 ●長靴レンタル補助 ●ガイドング通訳 ※昔から続く雪国の人々の暮らしを追体験 ※移住者であるガイドへの質問 ・どうしてこの地にいらしたのか？ ・移住者からみたニセコ地域の暮らしについて	
	乗車 （移動約5分）		
12:30	ニセコFarmer's Kitchenポンポン	●注文補助 ※地域農家のレストラン部門	芋もちで食欲がないようであれば、テイクアウトし車中での昼食としても。
13:30	車内 （移動約2時間）	●様子を見ながら、各要所となった場所で振り返りコメント	盛り上がるファイナルディナーとは異なり、余韻に浸れるように。
	空港	●解散	

【4日目ポイント】

【スノーシュー、芋ほり&芋もちづくり】

動物たちの足跡や野鳥の観察などを積雪状態等その日のベストな場所をガイドが選定。いものでんぷんを利用してお餅のような食感のおやつを作る。雪を利用して保存しているので、保存している場所から掘り出し、ゆでてこねあげたジャガイモをバターでいためて完成。地元特産の男爵いもを使用する。

ガイドによるガイド内容（参考）：

- ・地域の動植物、自然について
- ・豪雪地帯であること（H13年以降ではH17に1277cmもの累積降雪量あり）
- ・雪での貯蔵は昔からの保存方法。温度変化を少なく保てる
- ・芋もちは、昔からの子供たちのおやつであった。また、大事な食料でもあった。開拓時代からのじゃがいも料理。

ガイド：南重光氏/ニセコアウトドアセンター代表

1994年にアウトドア専門のツアー会社として設立。主な活動として、カナディアンカヌーによる湖・川でのツーリング、ニセコ周辺でのえさ釣り・フライフィッシング、ニセコ連峰での登山、縦走ガイド、自然解説ハイキング、自然のものを素材とした手作り体験を行っている

【ニセコFarmer's Kitchenポンポン】

ニセコおみち農園のイタリアンレストランで、生パスタ、ピザ、リゾット、サラダやから揚げなどの一品料理を提供している。自家製野菜を使用したり、自家製ベーコン、自家製生パスタ、ニセコ産の米を利用したリゾットなど。また、季節ごとの料理もあり。収穫期の平日には、ニンジン掘りのため臨時休業！ということもある、家族経営のお店。

4. 安全・危機管理

(1) 緊急対応の連絡フロー

緊急対応に備えて、緊急時の連絡フローが確立されているかツアーの出発前に国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）と確認することが必要である。

緊急対応では、スルーガイド1人では対処が困難なケースがほとんどである。警察への通報や消防への連絡をアクティビティガイドと連携して行った後、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）に支援を要請し、指示を仰ぐことが必須である。スルーガイドからの連絡を受けて、国内ツアーオペレーターは海外の旅行会社へ連絡を行う。海外の旅行会社などの意向やゲストの居住国の慣習に従った緊急対応を求められることがあるため、密に国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）と連絡を取る必要がある。

万一、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）と連絡が取れない場合は、宿泊施設などに支援を要請するの一つの方法である。多くの宿泊施設では宿泊者がケガや病気になった場合、スムーズに案内できるような地元で提携している病院を持っているため、宿泊施設の連絡先を控えておくといい。

(2) ファーストエイド

アクティビティガイドに任せきりにせず、ファーストエイドに関する最低限の知識を有している必要がある。救急講習としては消防本部によって行われている「応急処置技能講習」、日本赤十字社の「赤十字救急法基礎講習」「赤十字救急法救急員養成講習」を受講しておくことが望ましい。

また、ATにおいては都市部の救急システムが使えない状況下である可能性が高いため、野外救急講習として、以下の資格制度があることを参考にするとよい。

- 一般社団法人ウィルダネスメディカルアソシエイツジャパン（WMAJ）

<https://www.wmajapan.com/>

- 山岳医療救助機構 <https://sangakui.jp/>

受講できない場合でも、リスクマネジメントとして過去のアクティビティ事故報告書や野外救急の動画サイト閲覧、WMAJのウェブサイトからダウンロードできる「誰でも使える緊急判断シート」の携行などを勧める。また、訪問地の過去の自然災害の状況など地域の特徴を知っておくことも大切である。

(3) 事業者の保険内容

国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）が各アクティビティ事業者の保険内容を事前に確認しているので、その内容をスルーガイドも知っておく必要がある。

万一の事故の際、アクティビティ事業者などの保険でカバーできるのか、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）の保険対象になるか、ゲストの旅行保険でカバーされるのか、保険会社に連絡をして指示を仰ぐなど、初動での対応がその後の処理などで極めて重要な動きとなる。

(4) 事故トラブル防止のための基本事項

事故トラブルを防止するため、前述した2. 出発前の準備とツアーの流れ（ATスルーガイドとして知っておくべき概要）にしたがってツアーの準備やゲスト対応が重要である。以下の基本動作を意識して行うことで、事故トラブルを未然に防いだり、トラブルを最小化することができる。

①商品内容を理解する

どのようなサービスが旅行商品に含まれるか、特に食事代や入場料がツアー代金に含まれているか、ゲストを出迎える前に理解しておく必要がある。

②予約を事前に確認する

予約を事前に確認することで、ツアー出発前に万一の予約漏れを回避することが出来る。予約漏れが発覚した場合は、速やかに国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）に報告して、指示を仰ぐ。

③情報収集する

訪問先やアクティビティに関する情報を入手しておく。可能であれば、事前下見を行う。交通情報や天気予報などを確認して、必要に応じてアクティビティガイドへ連絡を入れ、当日催行可能な行程に調整する。

④ゲストへ適切なタイミングで案内を入れる

食事箇所ではゲストが食事を終える直前に次の訪問地までの移動時間を説明してトイレ利用を促したり、忘れ物の確認など、タイミング良く案内したり注意喚起をすることがツアーを円滑に進める上で重要である。ただし、言い過ぎも子ども扱いととられてしまうので、注意すること。

(5) 事故対応にあたっての基本姿勢

①冷静さを保つ

ゲストを不安にさせないために、まずは自分が冷静になること。

②状況を把握する

情報を収集して、状況を正しく把握する。事実確認を取ることで、的確な対処方法を見つける。

③解決策を考える

どこに何を報告すべきか、最善の策を考える。素人判断を避けて、アクティビティガイドや国内ツアーオペレーターに事故対応の判断を仰ぐ必要がある。特にケガや病気については、素人判断は禁物で、アクティビティガイドに相談してゲストを病院へお連れするなどの対応が求められる。

(6) 事故事例と対応

① ゲストが集合時間に集合場所へ現れない

集合場所が宿泊先であれば、フロントで客室に内線を繋いでもらったり、ホテル館内の朝食レストランなどでゲストを探したりする。

他のゲストがいる場合は、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）にいつまで集合場所で待つか判断を仰ぎ、時間までにゲストが現れなかった場合は、国内ツアーオペレーターに連絡をするとともに、ホテルの担当者に次の集合場所と時間、スルーガイドまたはアクティビティ事業者の連絡先を記載したメモを渡しゲストが現れたら渡してもらうなどの対処を行う。

② 公共交通機関の遅延

遅延の理由をゲストに説明をして、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）に対応について指示を仰ぐ。空港や駅で代替便を直接交渉できない場合があるため、現場対応に固執せず、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）にも代替案の手配協力を要請する。

③ 道路渋滞・悪天候等による遅延

行程に予定されているアクティビティの催行が難しいと判断した場合は、ゲストに状況を説明し意向を汲み取り、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）に代替案等の判断を仰ぐ必要がある。

具体的には、遅延の状況を説明し、この後の行程が予定通りにいかない旨説明する。専用車がバスの場合、行程通りに進めないと業務違反となってしまうことがあるため、立ち寄り地変更の場合は必ずバス会社に承認を得る必要が出てくる。ゲストがどのような変更であれば満足できそうかを汲み取り、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）へ連絡し変更が可能か、手配ができるかの確認を行う。旅程変更によるコスト増や変更運転手の時間拘束などの問題もあるため、ゲストのリクエスト等について安易に期待をもたせるような回答をしてはいけない。

(7) 苦情対応

① 誠意をもってゲストに傾聴する

ゲストの話しをよく聞き、申し出内容と要望を理解して、具体的な解決策についてすり合わせを行っていく。現場で収められない場合は、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）に判断を仰ぐ。

② 感情的にならない

ゲストが感情的に話している時は、途中で言い訳をするなど話を折らずに、最後まで話を聞く。誠意をもって話を聞くことで解決に至る場合もある。ガイドが感情的になることは厳禁。

(8) 旅行傷害保険

ATツアーではリスクを伴うアクティビティが含まれることがある為、ゲストが海外旅行保険に加入していることは必須であり、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）が現地の旅行会社を通じて保険に加入しているか確認することは通例であるものの、事前にその加入について確認がとれない場合もある。その場合は、ゲストの来日した初日または翌日に国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）を通してゲストが旅行保険に入っているか確認することが望ましい。

ゲストが旅行保険に入っている場合は、トラブル時の連絡先をゲストが把握しているか確認を行う。万一の事故の際、アクティビティ事業者の保険でカバーされるのか、国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）の保険対象か、ゲストの旅行保険でカバーされるのか、迅速に対応する必要がある為である。初動が遅れないように予め準備することが二次災害を防ぐ上で極めて重要である。なお、クレジットカードの保険サービスを利用する場合は、その内容についてゲストに確認頂くことも必要である。ゲストが旅行保険に加入していない場合は、日本に来日した後にも加入できる旅行保険への加入を国内ツアーオペレーター（ATコーディネーター）やスルーガイドから案内し、リスクヘッジをしておくことも重要である。

5. 参考資料

スルーガイドとしてスキルアップを図るために、以下の資料を参照すること。

【Adventure Travel Guide Standard】

<https://learn.adventuretravel.biz/guide-standard>

【ISO21101 Adventure tourism – Safety Management Systems】

<https://www.iso.org/publication/PUB100405.html>

【ISO21102:2020 Adventure tourism – Leaders – Personnel competence】

<https://www.iso.org/standard/76475.html>

【ISO21103:2014 Adventure tourism – Information for participants 】

<https://www.iso.org/standard/54861.html>

【ISO20611:2018 Adventure tourism – Good practices for Sustainability – Requirements and recommendations】

<https://www.iso.org/standard/68548.html>

【LEAVE NO TRACE】

<https://lnt.org/>

【Global Sustainable Tourism Council】

<https://www.gstcouncil.org/>

【日本版持続可能な観光ガイドライン】

<https://www.mlit.go.jp/kankocho/content/001350848.pdf>

4. 総 括

総括

本事業は、通年でのAT顧客の誘客を計るため、これまで造成が集中していた「グリーン期」ではなく、「冬」に焦点を当て、（一社）千歳観光連盟、（株）ニセコリゾート観光協会、（一社）ニセコプロモーションボードと連携し、地域のコンセプト・ストーリーを構築し、冬季のATツアーの造成と、造成商品を的確に販売に繋げるための販売体制を確立することを目的として実施した。

事業の最も大きな成果として、地域の資源の棚卸しや旅の展開に沿ったアクティビティの選定を通して、千歳、ニセコの両DMOが、ATツアーで最も重要となるコンセプト・ストーリーを構築したツアーを造成したことが挙げられる。

販売に向けては、AT顧客にツアー内容を的確に提供する情報シートであるMIC（Minimum information to customers）の作成まで一連のフローで取り組み、そのノウハウを獲得することができた。

本事業では、ATツアーをガイドングできる「スルーガイド」の育成も行った。ワークショップや実踏研修を通して、今回のテーマである「水」や「雪」のアクティビティに対する理解を深め、登山、文化体験等で求められるスルーガイドとしての役割を確認し、それらを実践できる能力を備えた適切な人材を確保することができた。

さらに、各アクティビティや訪問箇所でも最低限案内すべきアウトラインを、手順書としてまとめた。この手順書によって、今後、他のスルーガイドが起用された場合でも一定程度同じクオリティでツアーをオペレーションすることが可能になることから、受入体制のさらなる強化が期待される。

本事業実施時において、インバウンド需要の回復がすぐに見込める状況ではないが、コロナ収束後のツアー販売を見据え、地域事業者とDMOの連携はもとより、事業で生まれた地域間のつながりをさらに強化し、造成したツアーの磨き上げや、人材育成等をDMOが中心となって取り組んでいくことが不可欠である。

以上

本事業を振り返って、各関係者からのコメント

- 千歳としてATに取り組むのは初めてのことで、ゼロから学ぶことができた。これを形にして地域の経済効果に結びつく仕組みづくりを進めていきたい。（千歳・大宮氏）
- 地域のコンテンツの深掘りやターゲットの絞り込みができたことなどが勉強になった。商品化してスムーズにオペレーションしていけるかが課題だ。（ニセコ・小野寺氏）
- スルーガイドの役割は、実踏研修やモニターツアーを通じて、ファシリテーションの重要性を実感した。一方的なガイドングでもない通訳だけでもない、アクティビティガイドの良さを引き出すためにどう対応していけばいいかを課題として受け止めている。またATの現場に携わっている方々と接することができ、商品ができるまでの様々なプロセスを知ることができて大きな経験となった。これらの経験を実際の場で活かしていきたい。（スルーガイド・飛ヶ谷氏）
- 地域DMO、スルーガイド、ATの有識者、販売のプロの方々と情報を共有して議論したワークショップで築き上げた企画は、プレミアムなツアーとして今後磨き上げていきたい。（事務局）